文学部教育学科

講義概要・授業計画

令和６年度
（２０２４）

高野山大学

本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、令和６年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

総　目　次

文学部教育学科 ･･1
シラバスを活用しよう！･･2
履修登録と見方･･3
◆目次について
◆講義コードについて
◆受講登録について
◆出席票について
◆ＧＰＡについて
◆科目ナンバリングについて
◆シラバス「他」欄について
入学から卒業までの履修について（教育学科）･･8
◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）
◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）
◆必修科目
◆選択科目
◆自由科目
カリキュラムマップ
文学部教育学科科目目次･･15
講義概要・授業計画･･22

文　学　部

教　育　学　科

シラバスを活用しよう！

副学長（教育）

大学教育と高校までの教育との違いの一つに、学習の自己管理があります。高校までは、基本的に学校が作った時間割で学習しますが、大学ではいつどの科目をとるのかは、自分で決めます。だから、皆さんがどの科目を選択するのか決める際に、その科目の学習内容など、授業についての詳しい情報がなければ困ります。こうした情報を、教員が示したものが、シラバスというものです。

シラバスには、授業の目的や概要、到達目標、授業計画、テキスト、評価方法などが記されています。今年度の授業は、これに沿って進められますので、シラバスを大切にして学修を進めてください。

また、本学はＧＰＡ制度を導入しています。ＧＰＡは後の頁に説明がありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員に何度でも尋ねてください。シラバスについても、ＧＰＡについても、大事なことですから、十分に理解してください。

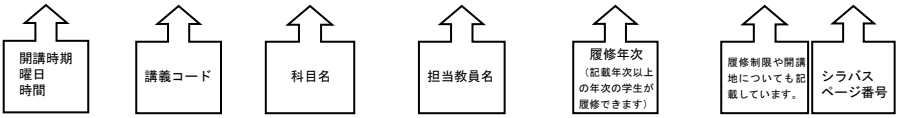
これからの１年間、意義ある学びをしていただくように期待しています。

履修登録と見方

◆目次について

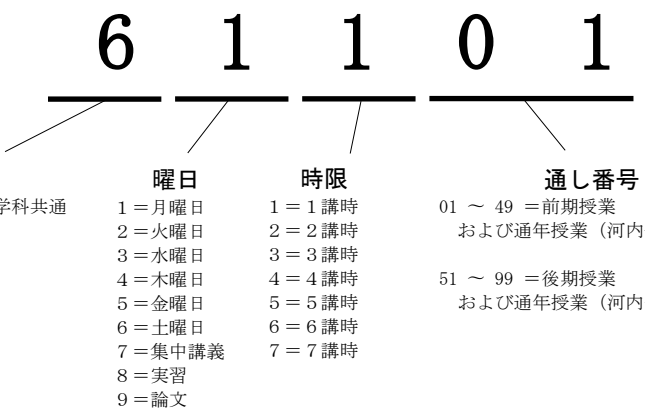
この『令和５年度文学部教育学科講義概要・授業計画』では、まず目次で開講科目を確認し、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

ターム	曜日	時限	講義コード	科　目　名	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	月	1・2	61101	空海の思想入門	添田　隆昭	2	1年次	－		20



◆講義コードについて

講義コードは５ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。



◆受講登録について

1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、**4月8日（月）から4月12日（金）午後5時まで**に河内長野キャンパス事務室へ提出してください。

2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

① 学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。

② 履修登録欄には、今年度に受講するすべての授業科目を、『令和5年度文学部教育学科講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

※1年間に履修登録できるのは、必修科目・選択科目を合わせて 50 単位までです。（自由科目は除く。）
但し、基礎ゼミ科目・課題探求科目・教育実習科目・体験実習科目は含まれません。

3 履修登録票を河内長野キャンパス事務室へ提出した学生は、**4月 22 日（火）から4月 26 日（金）午後5時まで**に、河内長野キャンパス事務室で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、河内長野キャンパス事務室へ提出してください。

4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。

5 履修を取り消したい科目がある場合は、**前期は5月 31 日（金）まで、後期は 10 月 31 日（木）まで**受け付けますので河内長野キャンパス事務室に申し出てください。（※ただし、1～2年次配当の必修科目は履修取り消しができません。）

6 後期（9月 23 日開講）授業科目の追加及び登録変更は、**9月 23 日（月）から9月 30 日（月）午後5時まで**の後期履修登録変更期間に、河内長野キャンパス事務室へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第4回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」(999) になりますので留意してください。

◆ＧＰＡについて

１　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

２　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

３　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合否	評点	評語	ＧＰ	判定基準
合　格	90 点以上	S	4	授業の到達目標を達成し特に優れた成績である
	89 点～80 点	A	3	授業の到達目標を達成し優れた成績である
	79 点～70 点	B	2	授業の到達目標を概ね達成している
	69 点～60 点	C	1	授業の到達目標を最低限達成している
不合格	59 点以下	D	0	授業の到達目標を達成していない
失　格	999	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した科目のＧＰ×その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

４　ＧＰＡに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

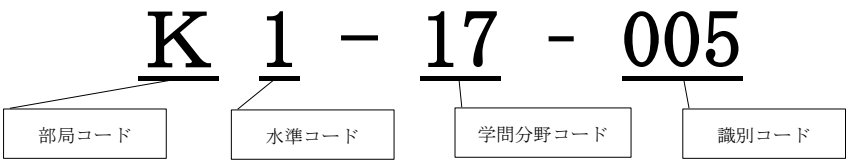
５　履修取り消し

前期は５月 31 日（金）まで、後期は 10 月 31 日（木）までと履修辞退期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

＜高野山大学科目ナンバリングの形式＞



＜各コードの定義について＞

1　部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するための項目です。

＜部局コード分類表＞

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2　水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学 1 年生を対象とした授業（大学 1 年次レベル）
2	主に大学 2 年生を対象とした授業（大学 2 年次レベル）
3	主に大学 3 年生を対象とした授業（大学 3 年次レベル）
4	主に大学 4 年生を対象とした授業（大学 4 年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

３　学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字２ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

４　識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字３ケタで表記しています。

◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「Ａ」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「Ｉ」については、ＩＣＴを用いて実施する科目を表しています。

入学から卒業までの履修について(教育学科)

◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）

文学部教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士（教育学）の学位を授与する。

１．教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力

（1）授業構成力、教材開発力を身につけ、学習活動を適切に運営できる力を有する。(DP1)

（2）子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。(DP2)

（3）子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。(DP3)

２．地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

（1）地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。(DP4)

（2）地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）

文学部教育学科では、卒業するためには 124 単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条)。

教育学科の科目は、大きく必修科目と選択科目にわかれています。必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の内、中・高教諭（英語）関係科目、小学校教諭関係科目、幼稚園教諭関係科目、体験サポート科目は、その中から履修科目を選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計 94 単位以上を取得してください。また、必修科目以外に、選択科目の中から 30 単位を取得する必要があります。ただし、１年間に履修できるのは 50 単位までです。(自由科目を除く。ただし、前年度の GPA が 3.0 以上の人は 58 単位まで履修可能です。）教育学科の学生は、必修科目 94 単位と選択科目 30 単位の合計 124 単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	教養科目	12 単位	体験実習科目	８単位
基礎ゼミ科目	８単位	教職専門科目	14 単位	課題探求科目	16 単位
外国語コミュニケーション科目	４単位	中・高教諭（英語）/小学校教諭/幼稚園教諭関係科目	20 単位 選択必修	必修科目合計	94 単位
キャリア科目	４単位	体験サポート科目	６単位 選択必修	選択科目合計	30 単位
				合計	124 単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が 2 回生以上と指定されている科目は、1 回生は履修できません。以下では、教育学科の学生が卒業に必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかを考えてください。

河内長野キャンパスで学んでいる学生は、高野山キャンパス、難波サテライト教室で開講されている科目を履修することができます（１部科目を除く)。ただし、難波サテライト教室や学外で行う科目を 60 単位までしか認定されません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず 94 単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、中・高教諭（英語）関係科目/小学校教諭関係科目/幼稚園教諭関係科目は 20 単位以上となっていますが、開講科目は 92 単位分開講されており、その中から 20 単位以上を履修することができます。

科目区分／科目名	学年配当	開講時期	履修単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	授業内容
【建学の精神科目】２単位必修									
空海の思想入門	1	半期	2		○	○	○	○	仏教思想の基礎と建学の精神である空海の思想を学ぶ。
【基礎ゼミ科目】８単位　必修									
基礎ゼミⅠ	1	半期	2	○	○	○			教育学科生として、教育の意義と役割を考え、自分が何を学びたいか考える。
基礎ゼミⅡ	1	半期	2	○	○	○			教育の意義と役割を再確認し、自分が何に興味・関心があるのか考える。
基礎ゼミⅢ	2	半期	2	○	○	○			グループワークを含めた授業で、相互批判を通して認識を深める。
基礎ゼミⅣ	2	半期	2	○	○	○			教育に関わるキーワードに基づき、これらの知識やスキルの理解に努める。
【外国語コミュニケーション科目】４単位　必修									
English Communication Ⅰ	1	通年	2	○	○				英語で聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの言語活動を通して実践的コミュニケーション能力を高める。
English Communication Ⅱ	2	通年	2	○	○				English Communication Ⅰで学んだ知識や技能をより高いレベルの英語活用能力に押し上げることを目指す。
【キャリア科目】４単位　必修									
キャリアデザインⅠ	1	半期	2	○	○				職業観・倫理観、キャリアデザインについて概要を講義し、現代社会における仕事、日本社会の現状について授業を行う。
キャリアデザインⅡ	2	半期	2	○	○				社会における職業の種類や、労働問題等を理解する。自らの自己分析を行い、人生設計を立てキャリアデザインを考える。
【教養科目】12 単位　必修									
ほとけの世界	1	半期	2				○	○	「ほとけ」について分かりやすく紹介し、仏教と人間や社会との関わり、その役割などについて理解することを目的とする。
日本国憲法	1	半期	2		○	○	○	○	憲法の全体像を意識しながら、個々の条文の意義について、その歴史的背景(特に日本国憲法の制定過程)や判例などを通して考察する。
情報と教育	1	半期	2	○					情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。
生涯学習論	3	半期	2	○	○	○	○	○	生涯学習の過去・現在・未来（歴史・現状・展望・課題）、社会教育と学校教育の連携、生涯発達に即した学習・教育の内容や方法を、アクティブ・ラーニングと組み合わせて講義する。
平和教育	3	半期	2	○	○	○	○	○	平和教育の実践や課題を解説する。いのちの尊さ、他者を大切にすること、異なる文化を理解することへと導く教育実践の方法や内容の基礎を修得するために、様々な教科に関連づけ総合的学習としてカリキュラム化する。
人権と社会	3	半期	2	○	○	○	○	○	「多様性」を生かしつつ差別を克服してきた歴史や動きを知るとともに、そのことから個々がどのように他者や社会に働きかけるのか、解決に向けての具体的な方法を身に付けられるようにする。

【教職専門科目】14 単位　必修

教育原理	1	半期	2	○					教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出すことを目的とする。教育の基本的理念及び思想を我が国の歴史と世界の動向を視野に入れて学び身につける。
教職入門	1	半期	2	○					講義をとおして現実の教育行政、特に学校教育の現場の様子を知り、教員としての基礎的知識やスキルを習得することをめざす。
教育と社会	2	半期	2	○	○	○	○	○	教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、及び社会の教育への影響や作用を基軸に、学校や教師の役割、現状、課題を講義する。
教育心理学	2	半期	2	○	○	○			教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。
特別支援教育	2	半期	2	○	○	○			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性・心身の発達について理解する。
教育相談	2	半期	2	○	○	○			学校教育相談の主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校教育相談の意義や方法について具体的に考察する。
教育方法論・ICT 活用論	3	半期	2	○					教育方法は、教育目的、目標、内容、評価に関わる実践プロセス全体のひとつの単位である。講義では、教科と教科外を問わず、子どもの指導に関わる具体的な VTR 事例等を提示しつつ、歴史的経緯をふまえて、現代に必要な知識やスキルを扱う。

【中・高教諭（英語）関係科目/小学校教諭関係科目/幼稚園教諭関係科目】20 単位　選択必修

中・高教諭（英語）関係科目	第二言語習得概論	2	半期	2	○	○				第二言語習得に関する基本的な理論を理解し、実践的な授業案を作成する。
	Phonetics in Education	1	半期	2	○					英語音声システムを理解し、発音を向上させ指導方法を理解する。
	Intensive Reading	2	半期	2	○					語彙、文法知識を活用し、英文を正確に読み理解する。
	British Literature	1	半期	2	○					イギリス文学の背景および具体的作品を概観する。
	American Literature	1	半期	2	○					アメリカ文学の背景および具体的作品を概観する。
	Critical Thinking and Creative Writing	4	半期	2	○					学術的かつ論理的に思考を組み立て、英文をまとめる技術を学ぶ。
	異文化理解Ⅰ	2	半期	2	○					諸外国の独自の文化や考え方に対して理解を深め、特定の文化に対し偏見を持たないものの見方を育む。
	異文化理解Ⅱ	2	半期	2	○					特定の文化に対し、偏見を持たないものの見方を育み、自分の考えを主張する技術を身につける。
	英語科指導法Ⅰ	2	半期	2	○					中学校段階における外国語（英語）を指導する基本的技術を身につける。
	英語科指導法Ⅱ	2	半期	2	○					技術のみでなく、評価・テスト・教授法・教師理論を学ぶ。
	英語科指導法Ⅲ	3	半期	2	○					高等学校段階における、外国語（英語）を指導する基本的技術を身につける。
	英語科指導法Ⅳ	3	半期	2	○					高等学校段階における外国語（英語）の授業実践力の基本を身に着け、模擬授業を実施し、その分析を行う。
小学校教諭関係科目	国語科内容論	1	半期	2	○	○				学習指導要領国語科における目標や内容について学習し、国語科教育についての理解を深める。
	社会科内容論	1	半期	2	○	○				社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。
	理科内容論	1	半期	2	○	○				小学校理科で学習する内容を理解させると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の内容的な授業構成ができるように学習する。
	音楽科内容論	1	半期	2	○	○				「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学ぶ。
	家庭科内容論	1	半期	2	○	○				小学校家庭科のねらいの趣旨を生かした授業をするためには、その背景となる専門的な知識や技術が必要である。

	初等英語科内容論	1	半期	2	○	○				新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について指導要領に則して講義する。
	音楽Ⅰ(表現技法)	1	半期	2	○	○				音楽Ⅰ(表現技法)は音楽初学者を対象とし、音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
	算数科内容論	2	半期	2	○	○				小学校学習指導要領における算数科の目標、領域、各学年の内容とその系統性を実践的・協働的な学びを通して理解する。
	生活科内容論	2	半期	2	○	○				新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して講義する。
	図画工作科内容論	2	半期	2	○	○				小学校学習指導要領図画工作編に記述されている教科の目標と内容を正しく理解し、授業における評価と指導の実践力を身につける。
	体育科内容論	2	半期	2	○	○				小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。
	国語科指導法	2	半期	2	○	○				学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力の育成をはかる。
	社会科指導法	2	半期	2	○	○				小学校の社会科における授業において、発問や教材などをどのように考えつくるのかを検討し、さらに、模擬授業を行うことにより、実践的な力量を習得すること目的とする。
	理科指導法	2	半期	2	○	○				小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。
	音楽科指導法	2	半期	2	○	○				小学校学習指導要領（音楽）の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。
	家庭科指導法	2	半期	2	○	○				家庭科で学ぶ子どもの姿と教師のかかわり方をイメージした上で、小学校家庭科が目指す学習内容や、指導計画、指導法や評価などの基本事項を習得する。
	初等英語科指導法	2	半期	2	○	○				英語教育に関する様々な理論を踏まえた講義を行う。
	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）	2	半期	2	○	○				小学校の授業とその教材について、(1)典型的な事例の模擬授業の観察と教材分析を行う(2)典型的な授業の授業記録の分析を行う(3)受講者が用意された授業案とその教材を用いた模擬授業を互いに行う(4)受講者が自分たち自身で授業とその教材の試案を作る。
	授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）	2	半期	2	○	○				実験・観察の目的・方法、および理科実験を授業にどう位置付けるかを解説した上で、理科授業にある実験や観察を実際に体験し基礎的な技能を習得する。
	音楽Ⅱ(表現技法)	2	半期	1	○	○				音楽Ⅱ(表現技法)は音楽経験者を対象とする。音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎から応用を学ぶ。
	算数科指導法	3	半期	2	○	○				算数科の目標、指導内容について理解し、授業づくり及び学習評価について学ぶ。
	生活科指導法	3	半期	2	○	○				生活科の特徴について、内容論を踏まえた講義のみならず、まちたんけんや野菜の栽培など実践的な体験を伴う講義を行う。
	図画工作科指導法	3	半期	2	○	○				図画工作科の学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を反映した資質・能力の育成を目指す指導の方法や評価のあり方を互いの模擬授業をもとに交流・検討しながら学修する。
	体育科指導法	3	半期	2	○	○				小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。
幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	1	半期	2	○	○				幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。
	幼児と人間関係	1	半期	2	○	○	○			幼児期の人間関係の意味や発達に関する諸理論を理解する。具体的には、領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱いについて学ぶ。
	幼児と環境	2	半期	2	○	○				領域（環境）のねらいと内容の理解を深め、保育実践の構成力を身に付けると共に、「環境」を目的にした自然保育への知識理解をすることを目的とする。
	幼児と言葉	2	半期	2	○	○				『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストにして、「言葉」に関する教育・保育の内容を理解する。
	幼児と表現	2	半期	2	○	○				乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景とな

										る専門領域と関連させて理解を深める。
	保育内容の指導法（健康）	3	半期	2	○	○				幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。
	保育内容の指導法（人間関係）	3	半期	2	○	○	○			「なぜ、人とかかわることが大切なのか」の問いを自分自身の体験の振り返りを通した自己理解からから考え、子どもを取り巻く人的環境を配慮する必要性も学んでいく。
	保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（言葉）	3 3	半期 半期	2 2	○ ○	○ ○				幼稚園教育要領「環境」で示している内容を理解し、幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導だけではなく、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』におけるねらいを踏まえて、言葉の指導法を学ぶ。
	保育内容の指導法（造形表現）	3	半期	2	○	○				幼稚園教育要領領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方、知識、表現力を学ぶ。
	保育内容の指導法（音楽表現）	3	半期	2	○	○				領域「表現」の指導に関する、乳幼児の音楽表現の姿やその発達および、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

【体験サポート科目】２単位必修(地域体験基礎) ４単位　選択必修

地域体験基礎	1	半期	2	○	○	○	○	○	地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な観点を学習する。
科学技術と社会	1	半期	2	○	○			○	AI の登場が及ぼす人間世界への影響やそのあり方、エネルギーと環境との関連など、具体的なテーマに沿って、課題学習的に学ぶ。
植物栽培の基本	1	半期	2	○				○	地域体験で、植物栽培に関わる体験がたくさん用意されている。この体験を有意義にするため、植物栽培の基本的な知識・技能について講義する。
自然と人間	1	半期	2	○	○			○	自然と人間との歴史的経緯・問題点・これからの展望について解説する。理解が深まるよう、グループディスカッションを多く組み入れた講義を行う。
日本文化	1	半期	2	○	○				日本文化について、テーマを設けて学ぶ。本講義では、仏画について、その意味や教典との関係なども踏まえた講義を行い、仏画を通して仏教や日本文化について理解することを目指す。
文学	1	半期	2	○	○				小学校の教科書に掲載されている文学作品、さらに詩、児童文学作品、絵本などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の人間観・世界観を広げ、深めていくことを目的とする。
創作研究	1	半期	2	○	○				認知能力の向上に演劇や絵本は貢献する。その理論を学び、教師となる学生自身の表現力も養う。
茶道	1	半期	2		○		○	○	日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めるため、初風炉、開炉、初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。
書学入門(書道)	1	半期	2	○	○		○		小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。
地域体験特論	2	半期	2	○	○	○	○	○	地域で農業・栽培などの体験活動をすることの目的・意義をしっかりと理解させたうえで、個別の体験活動についての説明を行う。

【体験実習科目】８単位　必修

学校・保育現場体験Ⅰ	1	通年	2	○	○	○	○	○	1 年次に学校現場での体験活動に参加し、学校についての理解に努める。こうした実際の教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員としての資質・能力を育成する。
学校・保育現場体験Ⅱ	2	通年	2	○	○	○	○	○	2 年次における学校現場体験である。目的や活動内容はⅠと同様に、教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す。

地域体験Ⅰ	1	通年	1		○	○	○	○	大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰは、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅱ	1	通年	1		○	○	○	○	地域体験Ⅰと同じく、連携先の団体で体験的に学ぶ。街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅲ	2	通年	1		○	○	○	○	2年次における地域体験活動である。連携先および目的は地域体験Ⅰ、Ⅱと同様であり、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験	2	通年	1		○	○	○	○	2年次における地域体験活動である。内容は、街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。

【課題探求科目】16単位　必修

専門基礎演習Ⅰ	3	半期	2	○	○	○	○	○	卒業研究に繋がる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する理解、特にさまざまな学習理論や方法についての理解を深めることを中心としてすすめる。
専門基礎演習Ⅱ	3	半期	2	○	○	○	○	○	卒業研究につながる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する深い理解と、論文を作成するための必要な情報と文献整理・収集などの技能、ＩＣＴを利用した発表方法、ディスカッションする力、教育・保育に関する課題を自ら探究する力を身につける。
専門演習Ⅰ	4	半期	2	○	○	○	○	○	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。
専門演習Ⅱ	4	半期	2	○	○	○	○	○	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。
卒業研究	4	通年	8	○	○	○	○	○	卒業にあたって、すべての学生が、卒業論文を作成しなければならない。4年次の1年間を通じて、ゼミ担当教員の指導のもとで卒業研究を行い、卒業論文にまとめて提出し、審査をうけなければならない。

◆選択科目

教育学科の必修科目を94単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの30単位は、選択科目から履修することができます。また、余分に履修した選択必修科目を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、卒業単位にはなりませんので注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部教育学科目次で確認してください。

文 学 部 教 育 学 科 科 目　目 次

「備考・履修条件」欄について
選択必修科目・・・
卒業要件として一定の単位数を要する。
履修規程を確認すること。
日　付　・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

1　必修科目(選択必修含)

［基礎科目］

1）「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	61101	空海の思想入門	添田隆昭	2	1年次	－		22

2）基礎ゼミ科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	63201	基礎ゼミⅠ	山田正行／本山司	2	1年次	－		23
後期	水	2	63251	基礎ゼミⅡ	村尾聡	2	1年次	－		24
前期	水	1	63101	基礎ゼミⅢ	今西幸蔵／奥田修一郎	2	2年次	－		25
後期	水	1	63151	基礎ゼミⅣ	柳原高文／溝渕淳	2	2年次	－		27

3）外国語コミュニケーション科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	1	63105	English Communication Ⅰ	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎/保育士必修		28
通年	水	2	63204	English Communication Ⅱ	森本敦子	2	2年次	教職基礎/保育士必修		30

4）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	4	65452	キャリアデザインⅠ	帯野久美子	2	1年次	－		32
前期	集中	集中	67109	キャリアデザインⅡ	帯野久美子	2	2年次	－		33

5）教養科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	水	4	63451	ほとけの世界	髙橋成明	2	1年次	保育士必修		34
前期	木	1	64101	日本国憲法	森征樹	2	1年次	教職基礎/保育士必修		35
前期	木	3	61301	情報と教育	森大樹	2	1年次	教職基礎/保育士必修		36
前期	火	3	62305	生涯学習論	山田正行	2	3年次	保育士必修		38
前期	木	4	64403	平和教育	山田正行	2	3年次	保育士必修		39
後期	木	4	64453	人権と社会	奥田修一郎	2	3年次	保育士必修		40

［専門科目］

1）教職専門科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	4	64401	教育原理	岡部美香／髙木万由葉	2	1年次	小幼免・保育士必修/社福主事		42
前期	金	4	65401	教職入門	今西幸蔵	2	1年次	小幼免必修		43
後期	木	1	64152	教育と社会	山田正行	2	2年次	小幼免必修		45
後期	金	3	65353	教育心理学	米澤好文	2	2年次	小幼免必修		46
後期	集中	集中	67122	特別支援教育	宮本直美	2	2年次	小幼免必修/保育士選択		47
前期・後期	月・水	4・4	61404	教育方法論・ICT活用論	八木・下倉	2	3年次	小幼免必修		49
後期	月	4	61454	教育相談	上野和久	2	2年次	小幼免必修		51

2）小学校教諭関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	61401	国語科内容論	村尾聡	2	1年次	小免必修	選択必修科目	60
後期	水	3	63352	社会科内容論	奥田修一郎	2	1年次	小免必修	選択必修科目	62
後期	金	1	65151	算数科内容論	東尾晃世	2	2年次	小免必修	選択必修科目	64
後期	月	1	61151	理科内容論	児島昌雄／柳原高文	2	1年次	小免必修	選択必修科目	65
後期	木	2	64252	生活科内容論	柳原高文	2	2年次	小免必修	選択必修科目	67
後期	月	4	61452	音楽科内容論	植田恵理子	2	1年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	69
後期	金	4	65252	図画工作科内容論	吉垣隆雄	2	2年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	70
前期	集中	集中	67115	家庭科内容論	井出康子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	72
前期	金	3	65302	体育科内容論	本山司	2	2年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	73
後期	月	2	61251	初等英語科内容論	森本敦子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	74
前期	月	3	61302	国語科指導法	村尾聡	2	2年次	小免必修	選択必修科目	75
前期	金	2	65203	社会科指導法	奥田修一郎	2	2年次	小免必修	選択必修科目	76
後期	金	2	65253	算数科指導法	東尾晃世	2	3年次	小免必修	選択必修科目	78
前期	木	2	64204	理科指導法	児島昌雄／柳原高文	2	2年次	小免必修	選択必修科目	79
前期	月	3	61303	生活科指導法	柳原高文	2	3年次	小免必修	選択必修科目	80
後期	月	3	61352	音楽科指導法	植田恵理子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	81
前期	水	4	63402	図画工作科指導法	吉垣隆雄	2	3年次	小免必修	選択必修科目	83
後期	集中	集中	61456	家庭科指導法	井出康子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	85
前期	火	4	62405	体育科指導法	本山司	2	3年次	小免必修	選択必修科目	86
前期	月	2	61203	初等英語科指導法	森本敦子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	88
前期	集中	集中	67103	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）	笠潤平	2	2年次	小免選択	選択必修科目	90
前期	集中	集中	67104	授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）	児島昌雄／柳原高文	2	2年次	小免選択	選択必修科目	92
後期	木	4	64451	音楽Ⅰ(表現技法)	岡本文音	1	1年次	小幼免選択/保育士選択	選択必修科目	94
後期	木	3	64351	音楽Ⅱ(表現技法)	岡本文音	1	2年次	小幼免選択/保育士選択	選択必修科目	95

3）幼稚園教諭関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	2	65251	幼児と健康	本山司	2	1年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	96
前期	集中	集中	67101	幼児と人間関係	幸田瑞穂	2	1年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	97
後期	月	2	61253	幼児と環境	児島昌雄／柳原高文	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	99
前期	木	1	64102	幼児と言葉	香田健治	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	100
後期	木	4	64452	幼児と表現	植田恵理子	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	102
後期	木	1	64153	保育内容の指導法（健康）	本山司	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	104
後期	集中	集中	67123	保育内容の指導法（人間関係）	幸田瑞穂	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	105
前期	水	1	63103	保育内容の指導法（環境）	柳原高文	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	107
前期	集中	集中	67113	保育内容の指導法（言葉）	香田健治	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	108
後期	水	2	63252	保育内容の指導法（造形表現）	原田昌幸	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	110
前期	木	2	64205	保育内容の指導法（音楽表現）	植田恵理子	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	111

4）体験サポート科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	62101	地域体験基礎	奥田修一郎	2	1年次	－	－	112
前期	月	2	61202	科学技術と社会	岡本正志	2	1年次	－	選択必修科目	114
－	－	－	－	植物栽培の基本	不開講	2	1年次	－	選択必修科目	－
後期	水	3	63351	自然と人間	那須義次	2	1年次	－	選択必修科目	115
後期	金	3	65351	日本文化	浅井雅宏	2	1年次	－	選択必修科目	117
後期	月	4	61451	文学	村尾聡	2	1年次	－	選択必修科目	118
後期	月	4	61453	創作研究	伊藤佳世子	2	1年次	－	選択必修科目	119
前期	木	3	64301	茶道	岡本文音	2	1年次	－	選択必修科目	120
後期	木	1	64151	書学入門(書道)	野田悟	2	1年次	小免必修	選択必修科目	121
前期	月	1	61102	地域体験特論	岡本(正)／柳原／和井田	2	2年次	－	選択必修科目	123

5）体験実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1・2・3・4	62151	学校・保育現場体験Ⅰ	今西幸蔵	2	1年次	小幼免選択		124
後期	火	1・2・3・4	62152	学校・保育現場体験Ⅱ	今西幸蔵	2	2年次	小幼免選択		126
前期	火	2・3・4	62201	地域体験Ⅰ	柳原高文	1	1年次	－		128
前期	火	2・3・4	62202	地域体験Ⅱ	本山司	1	1年次	－		129
前期	火	2・3・4	62203	地域体験Ⅲ	村尾聡	1	2年次	－		130
前期	火	2・3・4	62204	地域体験Ⅳ	奥田修一郎	1	2年次	－		132

6）課題探求科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
－	－	－	別紙参照	専門基礎演習Ⅰ	各担当	2	3年次	－		－
－	－	－	別紙参照	専門基礎演習Ⅱ	各担当	2	3年次	－		－
－	－	－	別紙参照	専門演習Ⅰ	各担当	2	4年次	－		－
－	－	－	別紙参照	専門演習Ⅱ	各担当	2	4年次	－		－
後期	月	2	61254	教職実践演習（幼・小）	今西幸蔵	2	4年次	－		223
－	－	－	別紙参照	保育実践演習	不開講	2	4年次	－		－
－	－	－	69833	卒業研究	各担当	8	4年次	－		－

2　選択科目

1）外国語コミュニケーション科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	67110	English CommunicationⅢ	帯野久美子	1	3年次	中・高免（英）必修		133
前期	集中	集中	67114	高野山国際ガイド体験	伊藤佳世子	1	2年次	中・高免（英）選必		135
－	－	－	－	中国語	不開講	2	2年次	－		

2）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	67112	キャリアデザインⅢ	帯野久美子	1	3年次	－		136

3）教養科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	65201	体育の理論と実技	本山司	2	1年次	教職基礎/保育士必修		138
前期	金	3	65304	数学の世界	吉田明史	2	1年次	－		139
後期	月	2	61252	AIと世界	広瀬勝則	2	1年次	－		142
後期	集中	集中	67117	世界遺産と観光	宗田好史	2	1年次	－		140
前期	集中	集中	67111	死生観	森崎雅好	2	3年次	－		144
前期	金	1	65101	身体技法(ダンス)	範衍麗	1	1年次	保育士選択		145
前期	木	2	64202	現代社会と医療	早川和生	2	1年次	－		146
後期	木	2	64251	世界の医療課題	早川和生	2	1年次	－		147
通年	月	2	61207	常用経典	添田隆昭	2	3年次	僧侶資格		148
通年	月	3	61306	声明	添田隆昭	2	3年次	僧侶資格		149
後期・集中	月・集中	1・集中	61154	法式	山口文章	2	3年次	僧侶資格		150
後期・集中	月・集中	4・集中	61455	布教	山口文章	2	3年次	僧侶資格		151

4）教職専門科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	4	63401	教育課程論	八木英二	2	2年次	小免必修/保育士必修		152
前期	水	2	63303	保育教育課程論	八木英二	2	3年次	幼免必修/保育士必修		153
後期	集中	集中	67120	道徳教育の理論と方法	小林将太	2	2年次	小免必修		154
前期	金	1	65103	総合的な学習の時間	奥田修一郎	2	3年次	小免必修		156
前期	金	3	65303	特別活動の指導法	松田忠喜	2	3年次	小免必修		158
前期	金	1	65102	生徒指導論	今西幸蔵	2	2年次	小免必修		160
後期	月	3	61351	幼児理解方法論	溝渕淳	2	1年次	幼免必修/保育士必修		162
前期	金	4	65402	進路指導・キャリア教育	松田忠喜	2	2年次	小免必修		163
前期	木	3	64303	教師力養成特講Ⅰ（HRマネジメント）	大西誠子	2	3年次	－		165
前期	水	1	63102	教師力養成特講Ⅱ（学校理解）	木村泰子	2	3年次	－		166
前期	月	2	61205	教職とICT	広瀬勝則	2	3年次	－		168

5）保育士関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	61204	保育原理	石上浩美	2	2年次	保育士必修/社福主事		170
前期	金	4	65403	子ども家庭福祉	溝渕淳	2	2年次	保育士必修/社福主事		171
後期	月	1	61152	社会福祉論	溝渕淳	2	1年次	保育士必修/社福主事		173
後期	火	3	62353	子ども家庭支援論	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		175
前期	火	2	62205	社会的養護Ⅰ	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		176
前期	木	2	64201	保育者論	板倉史郎	2	1年次	保育士必修		178
前期	集中	集中	67107	保育の心理学	佐々木聡	2	2年次	保育士必修		179
後期	集中	集中	67118	子ども家庭支援の心理学	渋谷郁子	2	2年次	保育士必修		181
前期	金	3	65301	子どもの保健	釜島美智代	2	1年次	保育士必修		183
後期	月	3	61353	子どもの食と栄養	井出康子	2	3年次	保育士必修		184
前期	木	2	64203	保育内容総論	明神規子	2	2年次	保育士必修		185
前期	木	3	64302	乳児保育Ⅰ	明神規子	2	2年次	保育士必修		186
前期	木	4	64402	乳児保育Ⅱ	明神規子	2	2年次	保育士必修		187
後期	金	1	65152	子どもの健康と安全	本山司	2	2年次	保育士必修		188
後期	金	3	65352	障害児保育	南亜紀子	2	1年次	保育士必修		189
後期	火	2	62253	社会的養護Ⅱ	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		191
後期	金	4	65453	子育て支援	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		192
前期	月	4	61402	表現技術（ピアノ）	植田恵理子	2	2年次	保育士選択		194
後期	水	3	63353	表現技術（造形）	原田昌幸	2	2年次	保育士選択		196

6）心理関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	67106	発達心理学	渋谷郁子	2	2年次	－		197
前期	集中	集中	67105	カウンセリング論	上野和久	2	2年次	－		199
後期	集中	集中	67119	学校臨床心理学	森崎雅好	2	2年次	－		201
前期	月	4	61403	心理身体論Ⅰ	上野和久	2	3年次	－		202
後期	水	1	63152	心理身体論Ⅱ	中野弘治	2	3年次	－		203

7）教育実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年			68104	教育実習Ⅰ（小）	村尾聡	4	3年次	小免必修		205
通年			68105	教育実習Ⅱ（幼1）	植田恵理子	2	3年次	幼免必修		207
通年			68106	保育実習Ⅰ（保育所）	本山司	2	3年次	保育士必修		208
通年			68107	保育実習Ⅰ（福祉施設）	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		210
通年	木	2	68108	教育実習の研究Ⅰ（小・事前事後指導）	村尾聡／森本敦子	1	3年次	小免必修		212
通年	木	3	68109	教育実習の研究Ⅱ（幼1・事前事後指導）	植田恵理子	1	3年次	幼免必修		213
通年	火	1	68110	保育実習指導Ⅰ（保育所）	本山司	1	3年次	保育士必修		215
通年	火	4	68111	保育実習指導Ⅰ（福祉施設）	溝渕淳	1	3年次	保育士必修		217

8）体験実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	通年		68102	学校・保育現場ボランティア	村尾聡	1	3年次	小幼免選択		219
通年	通年		68103	地域体験ボランティア	本山司	1	3年次	－		220
集中	集中	集中	68101	海外留学体験	伊藤佳世子	4	2年次	中・高免（英）選必		221

9）中・高教諭（英語）関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	3	63302	第二言語習得概論	森本・染谷	2	2年次	中・高免（英）必修		59
前期	月	2	61201	Phonetics in Education	伊藤佳世子	2	1年次	中・高免（英）必修		52
後期	水	3	63354	Intensive Reading	伊藤佳世子	2	2年次	中・高免（英）必修		53
前期	水	3	63301	Critical Thinking and Creative Writing	伊藤佳世子	2	1年次	中・高免（英）必修		58
前期	集中	前期	67102	British Literature	松田正貴	2	1年次	中・高免（英）必修		54
後期	集中	集中	67116	American Literature	松田正貴	2	1年次	中・高免（英）必修		56
前期	月	1	61103	異文化理解Ⅰ	帯野・佐藤	2	2年次	中・高免（英）必修		225
後期	月	1	61153	異文化理解Ⅱ	帯野・佐藤	2	2年次	中・高免（英）選必		226
集中	集中	前期	67108	英語科指導法Ⅰ	尾上利美	2	2年次	中・高免（英）必修		227
集中	集中	後期	67121	英語科指導法Ⅱ	尾上利美	2	2年次	中・高免（英）必修		228

講　義　概　要
・
授　業　計　画

科目名	空海の思想入門							学 期	前期
副 題	弘法大師の生涯とその密教思想				授業方法	講義	担当者	添田隆昭	
ナンバリング	K1-01-001	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
高野山大学は弘法大師空海の伝えられた密教の教えを建学の精神としている。では密教はインドでどのように発達し　日本に伝えられたのか。弘法大師はどのように密教を理解したのか。現在の大師信仰の根拠となっている「入定留身」とはどういうものかについて考察したうえで理解する。

授業の到達目標
弘法大師の生涯及び密教思想の全体像を理解できる。

授業計画
1.インド　ヨーロッパ語族の広がり
2.ブッダの誕生
3.部派仏教の成立
4.大乗仏教の興起
5.大乗経典　（維摩経　般若経　法華経　華厳経　涅槃経）
6.密教経典の深化
7.大日経　金剛頂経の成立
8.弘法大師の生涯　1　前半
9.弘法大師の生涯　2　後半
10.弘法大師の著作　1　前半
11.弘法大師の著作　2　後半
12.入定留身
13.入定留身以後
14.大師信仰の現在　1　高野山内における
15.大師信仰の現在　2　日本と世界における

準備学習（予習・復習）・時間
授業内容について関心のあった部分について参考図書・関連図書を参照した上で調べておくこと（予習および復習各 90 分）

テキスト
必要に応じて　プリントを配布する。

参考書・参考資料等
添田隆昭「大師はいまだおわしますか」（高野山出版社）

学生に対する評価
期末の筆記試験（80%）と授業への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を理解した上で自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容とともに専門用語を理解し　自分の文章の中で駆使できる。
（S）講義の内容はもちろん、興味のある部分について自分で探求し文章化できる

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見には授業中に対応する。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。
②授業内容の理解を深めるため、映像教材を視聴することがある。
③状況に応じて、ICT を活用した遠隔授業を実施することがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職でもある学長が、本学の建学の精神について、弘法大師の教え及び密教思想の重要性を通して認識させる。

科目名	基礎ゼミⅠ							学 期	前期
副 題	大学生としてのスタート・ダッシュのために				授業方法	演習	担当者	山田正行／本山司	
ナンバリング	K1-17-002	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
（授業のテーマ） 大学の教育理念である「いのち・文化・創造」を理解することを目的に、多様な研究の成果を学ぶことによって「いのちを活かす」人材となることをめざす。（授業の概要） 教育学科生として教育の意義と役割を考える初年次教育の機会となる。専門領域の内容を学ぶために、レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼン等の技法、学問修得に向けた動機付け、そして自分が何を学びたいのかを考える機会を得る。授業は講義をふまえて演習を行い、スタディスキルを高めることにより教育目標の達成を図る。

授業の到達目標
1. 教育の意義と役割について理解できる。
2. 多様な研究があることを知り、学修に関わる基礎的な知識やスキルを習得することができる。
3. さまざまな演習の機会をとおして、学んだ成果を自分の問題として捉えることができる。

授業計画
1. 本授業全体に関するオリエンテーション(山田・本山)
2. 自分の学部・学科の理解(山田)
3. 大学生活のデザイン化(本山)
4. 卒業研究に至る演習の理解(山田)
5. シラバスの活用と予習・復習(本山)
6. 講義の受け方と演習への参加と進め方(山田・本山)
7. 教育学の学びと演習(山田)
8. 教育社会学の学びと演習(山田)
9. 教育心理学の学びと演習(本山)
10. 心理ケアの学びと演習(本山)
11. 体育学の学びと演習 (本山)
12. 社会学の学びと演習(山田)
13. 家政学の学びと演習(本山)
14. 自然科学の学びと演習(山田)
15. 本授業全体のまとめと助言(山田・本山)

準備学習(予習・復習)・時間
事前にシラバスを読んでおく。前回学修した内容やワーク等を踏まえて、ポイントを各自で整理して、次の授業に備える。60 分以上取り組むこと。

テキスト
各回ごとに資料を配布する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する。

学生に対する評価
授業内課題(20%)、課題リポート(80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）指示されたことが理解できる。
（B）授業内容を理解して、主体的に行動できる。
（A）大学の講義や演習について理解している。
（S）授業内容を理解して、大学生活で自分が何を学びたいかを具現化できるようになる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他
毎回の参加と学修の積み重ねが重要である。テーマに基づいたグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を用いることがある。今後の大学生活に大いに関係する授業なので、主体的に受講してほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
中学校保健体育教員の経験をいかして、体育学の初歩的な内容や授業実践の基礎的な方法等を講義する(本山)。

科目名	基礎ゼミⅡ							学 期	後期
副 題	文章表現力の向上と教育諸問題の考察				授業方法	演習	担当者	村尾聡	
ナンバリング	K1-17-003	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
（授業のテーマ）基礎ゼミⅡの目的は、基礎ゼミⅠの学修を受けて、「文章表現力の向上」と「教育の諸問題についての関心を深める」ことをめざす。（授業の概要）基礎ゼミⅠで学修したことをふまえ、「論文」とはどのようなものか、そのための方法を学び、その演習を行う。また、教育の諸問題についての評論や論文を読み、自らの意見を出し合い、討論する。

授業の到達目標
1. 教育の意義と役割について理解できている。
2. 科学的な視点で対象を理解する態度を身につけている。
3. 論文や小論文の書き方を知り、自らのレポートや小論文に生かすことができる。

授業計画
1.本授業に全体に関するオリエンテーション
2.学級づくりについて
3.文字の書き方
4.レポート・小論文の書き方①（論文とは何か、「序論・本論・結論」について）
5.レポート・小論文の書き方②（文章の書き方、一文一義、常体、段落について）
6.レポート・小論文の書き方③（小論文演習）
7.教育問題の検討・討論①（学級開きの会演習）
8.教育問題の検討・討論②（文章の要約練習）
9.教育問題の検討・討論③（学級づくり、学習集団について）
10.教育問題の検討・討論④（いじめ問題について）
11.教育問題の検討・討論⑤（GIGA スクール構想について）
12.教育問題の検討・討論⑥（授業スタンダードについて）
13.教育問題の検討・討論⑦（道徳教育について）
14.まとめの発表会①（関心のある教育問題についての発表）
15.まとめの発表会②（関心のある教育問題についての発表）

準備学習（予習・復習）・時間
学習内容を振り返り、ノートにまとめる（60 分）

テキスト
各回ごとに、資料を配布する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する。

学生に対する評価
授業担当教員による授業内課題（40%）、発表レポート(50%)、授業への参加態度（10%）等で総合的に評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で説明したことを理解し、レポートが作成できる。
（B）授業で説明したことを理解し、科学的な視点でレポートが作成できる。
（A）授業で説明したことを生かして、科学的な視点と広い視野をもってレポートが作成できる。
（S）授業で説明したことを生かして、科学的な視点と広い視野をもってレポートが作成でき、授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回のレポートにコメントを付し、返却する。

その他
授業に積極的に参加すること。グループワークやディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を用いる。使用教材は学修進度により変更になる可能性がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務した経験を生かし、教員として学級をどう運営し、児童にどのように接していくのか、また現在の教育の問題状況についても考える機会を提供していきたい。

科目名	基礎ゼミⅢ							学期	前期
副題	教育と教職について考える				授業方法	演習	担当者	今西幸蔵／奥田修一郎	
ナンバリング	K2-17-004	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ）教育の現状と課題について理解し、現代の学校の諸問題を考察するために、テキストを読んだり、新聞や雑誌を丹念に見たり、学生相互の真摯な討論によって読解力やコミュニケーション能力を高める。　（授業の概要）　グループワークを含めながら授業を進行する。学生が事前にレジュメや資料を用意し、プレゼンテーションを行い、相互批判をとおして認識を深めることができる。事前の周到な準備と授業への積極的な参加・参画が重要である。

授業の到達目標
1. 教育・人間形成に関わる基礎的・概説的な面からの学術的理解を形成し、他人に説明できる。
2. テキスト、新聞や雑誌の中から教育の問題だと思われる課題を見つけることができる。
3. 他人の発表を聞き、それに対する共感や批判を適切に表現できる。
4. 現代の教育事情についての理解を深め、自分の意見を表明できる。

授業計画
1.オリエンテーション
2.文献検索、教育研究とは何かの理解
3.テキストにある教育学の文献を読み込み、討論により内容を深める。
4.前時の内容を深めるとともに、テキストにある新しい教育学の文献を読み込み、討論する。
5.引き続き前時の内容を深める。内容の要約と感想や意見の叙述に努める。
6.引き続き前時の内容を深める。感想や意見をそれぞれが発表・報告する。
7.引き続き前時の内容を深める。感想や意見を出していない学生が発表・報告する。
8.教育施設や学校を訪問、見学することによって教育についての理解の深化を図る。
9.受講学生が希望する追加文献を読み込み、討論により内容を深める。
10.前時の内容を深めるとともに、追加文献の内容の要約と感想や意見の叙述に努める。
11.引き続き前時の内容を深める。感想や意見をそれぞれが発表・報告する。
12.引き続き前時の内容を深める。感想や意見を出していない学生が発表・報告する。
13.グループごとに研究・学修したことをまとめ、パワーポイントを作成し、報告する。
14.前時の活動を受けて、全体で討論し、内容を深めるように努める。
15.全体のまとめと振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
・授業前に与えられた課題について各種資料や文献にあたって学修し、その学修成果を授業において発表する。発表にあたっては、通常の研究発表だけでなく、各種パフォーマンスによって内容の理解が図られるように工夫する。授業後には、授業中における助言や指導をふまえ、学修成果の定着を図ること（各 90 分）。

テキスト
予定していない

参考書・参考資料等
適宜紹介する。資料等については担当教員が配付する。

学生に対する評価
毎回授業でレポート課題を提示する。評価は各レポートの評価を総合して行う(100%)。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教育に関わる現状と課題を知っている。
（B）教育に関わる現状と課題について考え、問題のありかを問うことができる。
（A）教育に関わる現状と課題を理解、考察し、問題解決に向かって考えることができる。
（S）教育に関わる現状と課題を理解、考察し、問題解決に向かっての意見や論理を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
各種の課題や学生から出された疑問や質問については、授業中にその都度指導・助言を与えて学生の理解を助ける。

その他
授業実施においては毎回必ず課題が示され、各自の予習成果が問われるので、しっかりと学修して授業に臨むことを求める。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。授業内容の理解を深めるため、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。授業時には主体的に参加し、自己表現することが望ましい。学修成果は、将来の教職に役立つものであるので、復習によって内容の定着化を図ってほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
今西幸蔵は高等学校教員、中学校教員や大阪府教育委員会職員を務めた実務経験がある。奥田修一郎は中学校教員としての豊かな実績を有している。

科目名	基礎ゼミⅣ							学期	後期
副題	現代の教育を取り巻く問題に向き合う				授業方法	演習	担当者	柳原高文／溝渕淳	
ナンバリング	K2-17-005	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ） 基礎ゼミⅢの学修成果をふまえて、今日の教育で発生するさまざまな問題や課題について多面的に分析する力を身につけ、多様なプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を習得すること。 （授業の概要） 教育に関わるいくつかのキーワードに基づき、これらの知識やスキルの理解に努め、その学び得た事項をプレゼンテーションできることをめざし、そのためのコミュニケーション・ツールの活用について実践的に学修する。その際、グループ化して少人数で討議する。

授業の到達目標
1. 今日の教育で発生するさまざまな問題を知り、キーワードを学ぶことをとおして、どのような課題があるのかが理解できる。
2. 問題を多面的に分析し、課題として何が必要であり、どのような道筋で取り組むべきか検討できる。
3. 自分の感想や意見を、エビデンスに基づいて述べることができる。
4. コミュニケーション・ツールを活用し、適切なプレゼンテーションを可能とする。

授業計画
1. オリエンテーション
2. グループによる発表と相互討議① スクール・カウンセリング、発達障害など
3. グループによる発表と相互討議② いじめ、体罰など
4. グループによる発表と相互討議③ 不登校、オールタナティブ・スクールなど
5. グループによる発表と相互討議④ 学習指導要領、活用できる能力の育成など
6. グループによる発表と相互討議⑤ 学校教育制度の統合化、総合的な学習の時間など
7. グループによる発表と相互討議⑥ 地域学校協働本部、コミュニティ・スクールなど
8. グループによる発表と相互討議⑦ 学校評価、学校の広報など
9. グループによる発表と相互討議⑧ OECD の教育政策、リカレント教育など
10. グループによる発表と相互討議⑨ PISA の実施、フィンランドの教育など
11. グループによる発表と相互討議⑩ 部活動、働き方改革など
12. グループによる発表と相互討議⑪ 学習評価、パフォーマンス評価など
13. グループによる発表と相互討議⑫ キャリア・サポート、体験学習など
14. 受講生のプレゼンテーションによる授業のまとめと感想文の作成
15. 授業の総括と感想

準備学習（予習・復習）・時間
日常的に教育を取り巻く諸問題に関して情報収集し、その背景等についても考えた上で自らの意見や思いを書き出しておく（60 分）。授業後に、参加者の意見を振り返った上で自らの意見や考えに変化が生じたかなどを考えた上で、今後の展望についての意見をまとめておく（90 分）。

テキスト
適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する。

学生に対する評価
授業への参加の度合い（40%）、最終レポート（30%）、発表の内容およびプレゼンテーション技術(30%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持つことができる。
（B）教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持ち、その背景について思いをめぐらせることができる。
（A）教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持ち、その背景について思いをめぐらせた上で自らの立場や意見を述べることができる。
（S）教育を取り巻く諸課題について、日常的に興味を持ち、その背景について思いをめぐらせた上で自らの立場や意見を述べ、具体的な対策や行動を展望することができる。

課題に対するフィードバックの方法
発表内容に対してコメントした上で適宜修正し、再度発表する機会を用意するなど、フィードバック後のさらなる学びの深まりをフォローすることを視野に入れた授業をおこなう。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、教育課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を多用する。また、メディア教材や ICT 教材を用いることもある。
②担当者２名がそれぞれ役割分担をおこないながら授業を実施する。

科目名	English Communication Ⅰ							学期	通年
副 題	ニュースを使って英語4技能5領域を伸ばす。				授業方法	演習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K1-07-006	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義では、英語の語彙力・文法力、リスニング力を総合的に伸ばしていく。またトピックの内容から多文化を理解しそれらと共存する社会について考え、グループによるディスカッションをした後、その要旨を英語で述べたり書いたりすることによって、アウトプット力を養う。

授業の到達目標
英語で表現し伝え合うために、英語による聞く事、読む事、話す事、書く事の言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて情報を整理しながら考えを形成し、再構築できるようになる。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション （講義の進め方、評価の仕方）
2. バーバル・ノンバーバルコミュニケーション
3. 小テストと基礎文法解説(1)ロールプレイ(自己紹介)Topic[Anti-Asian Hate Crimes Rising]
4. 小テスト/ロールプレイ(家族構成及び紹介) Topic[Anti-Asian Hate Crimes Rising]
5. 小テストと基礎文法解説(2)ロールプレイ(キャンパスの紹介) Topic [Courthouse Facility Dogs]
6. 小テスト/ロールプレイ (道案内) Topic [Courthouse Facility Dogs]
7. 小テストと基礎文法解説(3)ロールプレイ(電話対応) Topic [Japan Works to Make Paternity Leave More Flexible]
8. 小テスト/ロールプレイ(買い物等、ショッピング) Topic [Students Cooperate with Police in Cyber Patrol]
9. 小テスト/基礎文法解説(4)ロールプレイ(ホテル等様々な予約) Topic [Emergency Number “118”]
10. 小テスト/ロールプレイ(入国審査と搭乗手続き) Topic [Emergency Number “118”]
11. 小テスト/基礎文法解説(5)ロールプレイ(幼稚園等) Topic [Shibusawa Eiichi]
12. 小テスト/ロールプレイ(小学校等) Topic [Hawker Culture in Singapore]
13. 小テスト/基礎文法解説(6)ロールプレイ(病院) Topic [Debate Sparked over Same Surname for Married Couples]
14. 前期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 前期の授業内容についての解説

【後期】
1. 小テスト/基礎文法解説(7)ロールプレイ(日本文化の紹介①概要) Topic [Video Translation]
2. 小テスト/ロールプレイ(日本文化の紹介②仏教等) Topic [Opinions Divided on Vaccine Passports]
3. 小テス/基礎文法解説(8)ロールプレイ(日本文化の紹介③茶道) Topic [Opinions Divided on Vaccine Passports]
4. 小テスト/ロールプレイ(日本文化の紹介④華道) Topic [Problems with Japan’s Technical Intern Training Program]
5. 小テスト/基礎文法解説(9)ロールプレイ(日本文化の紹介⑤書道) Topic [Problems with Japan’s Technical Intern Training Program]
6. 小テスト/ロールプレイ(面接での自己紹介) Topic [Young Carers]
7. 小テスト/基礎文法解説(10)ロールプレイ(面接での自己PRと志望動機) Topic [Young Carers]
8. 小テスト/ロールプレイ(面接官からの質問等) Topic [Genetically Modified Mosquito Project Given Green Light in Florida]
9. 小テスト/基礎文法解説(11)ロールプレイ(面接官とのやりとり) Topic [Genetically Modified Mosquito Project Given Green Light in Florida]
10. 小テスト/ロールプレイ(プレゼンテーションの司会)
11. プレゼンテーションの仕方 講義
12. プレゼンテーションの為のグループワーク （プレゼンテーションの構成等）
13. プレゼンテーションの為のグループワーク （パワーポイント作成等）
14. プレゼンテーション及び解説
15. 全体のまとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として毎回こちらで担当を指名するので、その担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと。60 分以上取り組むこと。

テキスト
「Practical Practice」開文社（初回講義で販売する）

参考書・参考資料等
『小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語』文部科学省(平成 29 年) 授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価
定期試験は実施しない。ポスターセッション(40%)　プレゼンテーション(40%)　復習小テスト(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）トピックの英文を読むことができる
（B）ロール・プレイを完遂することができる
（A）自分の意見を英語で表現することができる
（S）課題の英文を理解し、グループワークでリーダー的な立場で行動することができる

課題に対するフィードバックの方法
リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他
担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキスト（配布したプリント）とノート、辞書を持参すること。授業内容に関するグループディスカッションや、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることもある。

科目名	English CommunicationⅡ							学期	通年
副 題	基本文法を用い、日常英会話力を習得する実践型講義				授業方法	演習	担当者	森本敦子	
ナンバリング	K2-07-007	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
英会話で頻繁に使用する英文法を学びながら、簡単な日常会話が出来るようにトレーニングをする。音声付きのデジタル英語教材やオンライン英会話教材も利用しながら、英語のアウトプットであるスピーキング力（やり取り、発表、発音等）とライティング力を主に高める。講義の使用言語は基本的に英語で、学生は英語での発表やプレゼンテーションも行う講義である。

授業の到達目標
英会話を楽しめるようになるための英文法を学びながら、4 技能（Speaking, Listening, Reading, Writing）を高め、自信を持って英語でやり取りができるようになる。 オンライン教材や英語ジャーナルを書くことで、英語のアウトプット能力が高まる。

授業計画
【前期】
1.予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2.Lesson 1① (Assessment Test)、英語ジャーナルの書き方
3.Lesson 1② (To Be:Introduction)
4.Lesson 2① (To Be+Location)、
5.Lesson 2② (Classroom Obejects, Rooms in the Home)
6.Lesson 3① (Present Continuous 1)
7.Lesson 3② (Present Continuous 2)
8.英語プレゼンテーション①、
9.Lesson 4①(To Be:Short Answers)、Book Flix①
10.Lesson 4②(Posessive Adjectives)
11.Lesson 5①(To Be:Yes/No Questions)、Book Flix②
12.Lesson 5②(Adjectives, Possessives Nouns)
13.前期のまとめ、Book Flix③
14.前期テスト
15.前期テストの解答と解説、フィードバック

【後期】
1.Lesson 6① (Present Continuous Tense)、Book Flix④
2.Lesson 6② (Prepositions of Location)
3.Lesson 7① (There Is/ There are) オンライン英会話1
4.Lesson 7② (Singular/Plural)、オンライン英会話2、Book Flix⑤
5.Lesson 8① (Adjectives 1)、オンライン英会話3
6.Lesson 8② (Adjectives 2)、オンライン英会話4、Book Flix⑥
7.英語プレゼンテーション②
8.Lesson 9① (Simple Present Tense 1)、オンライン英会話 5
9.Lesson 9② (Simple Present Tense 2)、オンライン英会話 6
10.Lesson 10① (Yes/No Questions)、オンライン英会話 7
11.Lesson 10② (Negatives, Short Answers)、オンライン英会話 8
12.Lesson 11① (Object Pronouns)、
13.Lesson 11② (Have/ Has, Adverbs)、後期のまとめ
14.後期テスト
15.後期テストのフィードバック、年間の学習のフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間
予習として、テキストの学習範囲の問題を解いておく。デジタル絵本を視聴しておくこと（90 分）。 講義後は英語ジャーナルや Book Report を書き、学習した内容の復習もしておくこと（90 分）。

テキスト
Side by Side Level 1 Extra Edition: Student Book and eText with CD、 SCHOLASTIC Book Flix（オンライン教材）、Hodoo English(オンライン教材)、

参考書・参考資料等
Side by Side Level 1 Activity Workbook (Third Edition)、

学生に対する評価
講義中の積極性（30%）、前期・後期試験（30%）、講義後の英語ジャーナル（20%）、 プレゼンテーションの評価(20%) 、

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話をすることができる。
（A）読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りをすることができる。
（S）豊かな語彙や英文法を使い、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法
講義についての質問は授業内、ジャーナルや Book Report のフィードバックは Classroom で、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他
・３０分以上の遅刻は欠席とみなす。また、本授業では遅刻３回で欠席１回とみなす。
・学生による模擬授業や ICT を取り入れた科目である。
・テキスト教材を用いて英会話の授業を行うが、オンライン教材も併用するため、講義内でタブレットを使用する予定である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
元英会話スクール講師、元私立小学校英語専科教員として長年勤務していた経験を活かし、基礎的な英語

力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での wr ライティングや発表指導も行う予定である。

科目名	キャリアデザインⅠ							学 期	後期
副 題	多様なキャリアを知る				授業方法	演習	担当者	帯野久美子	
ナンバリング	K1-16-008	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
キャリアデザイン科目では、自らの人生と労働との関係、働く意味や社会との関わり等を理解し、仕事を通じて自己の能力や個性を発揮し、社会貢献につながる人生をどう築くのかを深く考えること、また、自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性やグランドデザインを描くことが目指される。 本科目では、職業観・倫理観、キャリアデザインについての概要を講義し、現代社会における仕事、日本社会の現状について、ゲストスピーカーの体験談を交えながら学びを深める。受講生が自分の人生を「創る」きっかけを得る。

授業の到達目標
多様な職業や価値観に触れることで、将来のキャリアを考えることができる。

授業計画
1.オリエンテーション、ガイダンス
2.大阪スクールオブミュージック高等専修学校学校長　喜多静一郎
3.振り返り　前回の授業で提起された問題について考えをまとめ、発表する。
4.元花園近鉄ライナーズ国際コーディネーター/通訳　カルロス樋口日向
5.振り返り　前回の授業で提起された問題について考えをまとめ、発表する。
6.田辺市立新庄第二小学校非常勤講師　　古久保功
7.振り返り　前回の授業で提起された問題について考えをまとめ、発表する。
8.アートチャイルドケア株式会社代表取締役社長　村田省三
9.振り返り　前回の授業で提起された問題について考えをまとめ、発表する。
10.千房株式会社代表取締役会長　中井政嗣
11.振り返り　前回の授業で提起された問題について考えをまとめ、発表する。
12.前半の授業のまとめ
13.社会貢献ミュージカル　スクールオブミュージック「明日への扉」オンデマンド学習
14.社会貢献ミュージカル　スクールオブミュージック「明日への扉」オンデマンド学習
15.まとめ、講評

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として与えられたテーマに関する情報を収集し理解しておくこと。 事後学習として与えられた課題に関してレポートを提出すること。※いずれも60分以上取り組むこと

テキスト
適宜資料を指定する。

参考書・参考資料等
適宜資料を指定する。

学生に対する評価
授業への参加の度合い30%　レポート30%　最終プレゼン40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）キャリアデザインに関する語彙を理解できる。
（B）キャリアデザインとは何かについて理解できている。
（A）日本社会の現状と課題を理解し、職業を自身のこととして考えることができる。
（S）変化する時代の中で生きる力を持って、自身のキャリアデザインを描くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回、質疑応答の時間をとり、授業内でフィードバックを行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることもある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
担当者は自ら企業を運営している。その経験とネットワークを活かし、学生自身にキャリアデザインの設計や社会人基礎力を身につけてもらうような授業を行う。

科目名	キャリアデザインⅡ							学 期	集中
副 題	教育の未来 ICT と心の融合				授業方法	演習	担当者	帯野久美子	
ナンバリング	K2-16-009	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
急激なデジタル化の中で変化する日本の教育について考える。前半はエディテックの第一人者であるデジタルハリウッド大学の佐藤教授を招き、デジタルテクノロジーの進化で教育がどう変わるのかを学ぶ。後半は本学の山口事務局長の指導で「テクノロジーの発達の中で子供を幸せにするために何が必要なのか」について考える。

授業の到達目標
これからの教育現場の変化を予測、理解し、新しい教育のあり方を自ら考えることができる。

授業計画

【前期】

1.オリエンテーション、ガイダンス
2.デジタルテクノロジーと教育
3.EdTech の現状と未来
4.デジタルテクノロジーを活用した授業を考える 1　理論編
5.デジタルテクノロジーを活用した授業を考える 2　応用編
6.人（こころ）とテクノロジー　～STEAM 教育とは～
7.未来を生きる子供たちにできること
8.SDGｓの先にあるもの
9.Society5.0 とムーンショット型研究開発プロジェクトの目指すもの
10.AI が持ち得ない人間の力は何かを探す旅
11.西洋文明と東洋文明の変遷（文明法則史学）
12.「こころ」と「道」
13.人間が生きる目的とは
14.デジタルとこころの融合
15.講評

【後期】

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として与えられたテーマに関する情報を収集し理解しておくこと。
事後学習として与えられた課題に関してレポートを提出すること。※いずれも 60 分以上取り組むこと

テキスト
適宜資料を指定する。

参考書・参考資料等
適宜資料を指定する。

学生に対する評価
授業への参加の度合い 30%　レポート 30%　最終プレゼン 40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）キャリアデザインに関する語彙を深く理解できる。
（B）キャリアデザインとは何かについて深く理解できている。
（A）日本社会の現状と課題を理解し、職業を自身のこととして深く考えることができる。
（S）変化する時代の中で生きる力を持って、自身のキャリアデザインを具体的に描くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回、質疑応答の時間をとり、授業内でフィードバックを行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることもある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
担当者は自ら企業を運営してきた。その経験とネットワークを活かし、学生自身にキャリアデザインの設計や社会人基礎力を身につけてもらうような授業を行う。

科目名	ほとけの世界							学 期	後期
副 題	ほとけさまの心「慈愛(じあい)」に基づく教育とは				授業方法	講義	担当者	髙橋成明	
ナンバリング	K1-02-010	実務経験の有無	有	関連DP	4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
21 世紀は「心の時代」といわれている。物質的な進歩が見られた反面、自然環境の変化・感染症等による世界的な国難ともいえる状況が発生した。私たちを取り巻く社会状況が変化していく中で日々の生活をどう生きていくのか、を「豊かな心を育む」ともいわれる仏教の教えを中心に、なるべく平易な言葉・表現を用いながら皆さんと共に考える。

授業の到達目標
父・母をご縁としてこの世に生まれた私たちが、楽しく心地よく生きていくためのヒントを見い出すことができる。また、ほとけさまの説く自然観や真理に触れ、子供たちに「生命尊重・思いやりの心・感謝の心・正しい道徳性の芽生え」を育てていく「教育」はどうあるべきか、について考えることができる。

授業計画
1.お釈迦さまと仏教思想 1
2.お釈迦さまと仏教思想 2
3.仏さまの説く死生観(ししょうかん) 1 ー私たちはこの世に生まれ何処に向かうのかー
4.仏さまの説く死生観(ししょうかん) 2 ー子供は親を選んで生まれてくるー
5.仏教から学ぶ１ー生命尊重ー
6.仏教から学ぶ２ー共同自立、自主的精神の芽生えー
7.仏教から学ぶ３ー正しい言葉遣いと努力する心ー
8.仏教から学ぶ４ーよき社会人をつくるー
9.仏教から学ぶ５ー仏教に学ぶ教育の原点ー
10.生かせ　いのちーすべての＜いのち＞はつながっているー
11.ほとけさまの慈悲(じひ)・慈愛(じあい) について
12.ありがとうー恩に報い、感謝の心でー
13.ありがとうー自利・利他を生きるー
14.光り輝く心を持つ人は、その笑顔で人々を和ませ自らも幸せの道を歩む
15.楽しく幸せに生きるー我々の目指すべき理想像ー

準備学習(予習・復習)・時間
配布プリントを再読し、レポート提出に向けて自身の考えや意見をまとめておくこと (90 分程度)。

テキスト
配布プリント

参考書・参考資料等
「子どもは親を選んで生まれてくる」池川　明　日本文教社 「いのちの木(ポプラせかいの絵本)」ポプラ社

学生に対する評価
レポート提出 (100%)　　授業で取り上げた課題について自分の意見を述べるレポートを 1 回実施する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 仏教に関する基礎的な語彙を理解している。
(B) 仏教の基本的な考えを理解している。
(A) 仏教の思想ついて基礎的な理解を有し、説明できる。
(S) 仏教の思想を理解し自らの生活・人生に活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポート提出後に生徒一人一人に対してコメントを返す。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることもある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶である教員がその経験を踏まえ、仏教と自然・人・社会との関わりについて考え、「人を育てる」ということについて講じる。

科目名	日本国憲法							学 期	前期
副 題	現代社会と憲法				授業方法	講義	担当者	森征樹	
ナンバリング	K1-09-011	実務経験の有無	無	関連DP	2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
われわれの社会では、憲法の内容を分からなければ理解できない様々な問題が日々起こっている。本講義では、時事問題や過去の裁判例などの具体的な事例を取り上げ、現代社会における「憲法問題」をど のように読み解けばよいのかを考察する。 さらに日本国憲法の基本的な構造と原理を学ぶことによって、現代社会の問題点について、自己の意見を論理的に主張する力を身につける。

授業の到達目標
講義で扱う「憲法問題」、「人権問題」を考えるにあたって、最低限必要な知識を身につける。また、それらの問題に対して自分の意見を持って解決策を探り、自分の主張を的確に表現できる。 すなわち、最低限の暗記は必要だが、自身の主張を論理的に形成して（説得力のある）文章に記すことができる。

授業計画
1. ガイダンス／憲法とは何か
2. 人権とは何か／子どもの人権・外国人の人権
3. 新しい人権／プライバシー権・自己決定権
4. 法の下の平等／性差別とは
5. 表現の自由／なぜポルノは規制されるのか
6. 職業選択の自由（営業の自由）
7. 生存権／人間らしく生きるということ
8. 教育を受ける権利／誰が教育内容を決めるのか
9. 平和主義／戦争が起きないために何をする
10. 立法権／国会は何をするところか
11. 内閣／政府がしなければならないこと
12. 裁判所①／裁判の種類・内容
13. 裁判所②／司法審査制とは何か
14. 地方自治／住民投票で決着を！
15. 憲法改正／憲法は改正すべきなのか

準備学習（予習・復習）・時間
・事前にテキストの該当ページを毎回読み、理解できないところを洗い出しておくこと。（予習：60 分）
・授業後に、理解できていないところを必ず復習し、自分のノートを作成すること。（復習：60 分）
・毎回、新聞やニュースで憲法に関することを探して内容を調べておくこと。（60 分）

テキスト
森英樹『大事なことは憲法が教えてくれる：日本国憲法の底力』新日本出版社、2015 年。

参考書・参考資料等
南野森（監修）、開発社（編集）『10 歳から読める・わかるいちばんやさしい日本国憲法』東京書店、2017 年。 曽我部真裕、横山 真紀（編集）『スタディ憲法〔第２版〕』法律文化社、2023 年。

学生に対する評価
定期試験（70%）、授業への積極的参加・小テスト（30%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）・ 現代日本社会において憲法がどのように機能しているかを理解している。 ・各種の人権規定の内容が把握できている。
（B）（C）に加えて、 ・人権が侵害された場合や、平和が脅かされる場合の解決策について自身の考えを提示できる。
（A）（B）の内容を、自分の言葉でわかりやすく説明できる。
（S）（A）に加えて、 ・他者の意見に耳を傾けながら、自身の主張を止揚して新たな知見を形成できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問等に関しては、コメントペーパーに記してもらい、翌週の授業においてフィードバックを行う。

その他
テーマによっては、ディスカッションやグループワークを行う。 資料・レジュメは ICT を活用して配布する。

科目名	情報と教育							学 期	前期
副 題	学校現場で必要となる情報リテラシーの習得				授業方法	演習	担当者	森大樹	
ナンバリング	K1-13-012	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT 環境の運用能力も必要とされるようになった。[目的]本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。ワードやグーグルクラスルーム、表計算を使って具体的な課題の演習をおこない、情報リテラシーを自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。[概要]次の授業計画に示したように、グーグルクラスルームやワード等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然に身につくように構成してある。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。

授業の到達目標

各自持参するノート PC の使用方法、グーグルクラスルームやワード等のソフトウエアの操作方法を学び、基本的な文書や簡単な表の作成がスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫して文書や表の作成ができるようになること、情報リテラシーを身に付けることを目標としている。

授業計画

1.オリエンテーション、情報モラル
2.ノート PC 環境、メール、ブラウザの設定
3.グーグルクラスルームの使い方
4.グーグルミート、グーグルドライブの使い方
5.タイピング課題
6.情報処理の基礎・情報検索・図書館利用法
7.自己紹介文作成と印刷
8.文書作成演習(1)ページ設定、文字列操作
9.文書作成演習(2)表の作成、印刷
10.文書作成演習(3)画像挿入、図形描画
11.おたより作成
12.表計算(1)関数による統計処理と情報分析
13.表計算(2)グラフ作成
14.パワーポイントを活用したプレゼンテーション資料の作成
15.総合演習問題

準備学習(予習・復習)・時間

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

テキスト

『これからの保育のための ICT リテラシー＆メディア入門』株式会社みらい 2022 年 4 月発刊 ISBN:978-4-86015-578-0 価格：3,300 円（税込）自分専用のノート PC を各自購入し、授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。ノートＰＣ推奨スペック→グーグルクロームが動作するもの。画面１０インチ以上。キーボード付き。
※ノート PC の購入は必須ではなく、iPad の貸し出しあり

参考書・参考資料等

学生に対する評価

受講態度(40%)、課題等(60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）Office アプリケーションを用いて、簡単な校務文書、簡単な成績処理、簡単な教材作成ができる。
（B）Office アプリケーションを用いて、一般的な校務文書、通常の成績処理、教材作成ができる。
（A）Office アプリケーションを用いて、複雑な校務文書、データに応じた成績処理、場面に応じた教材作成ができる。
（S）Office アプリケーションを用いて、複雑な校務文書、データに応じた成績処理、場面に応じた教材作成ができ、データベースによる住所録作成ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、授業内にて対応する。授業時間外の質問は電子メールにて対応する。 ・課題については、提出されたものをすべて評価した後、フィードバックを行う。

その他

授業内容に関するプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いる。

科目名	生涯学習論							学 期	前期
副 題	生涯の発達・教育・形成とのインタラクションから				授業方法	講義	担当者	山田正行	
ナンバリング	K3-17-013	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
グローバリゼーションにおいてこそ国や郷土の伝統・文化の修得が求められる。アイデンティティが確立してこそ多文化共生社会で自律・自立できる。この観点から生涯学習の過去・現在・未来(歴史・現状・展望・課題)、社会教育と学校教育の連携、生涯発達に即した学習・教育の内容や方法を、アクティブ・ラーニングと組み合わせて講義する。マイスター制度の豊富な教育スタッフの協力による体験学習プログラムやフィールドワークに繋げる。

授業の到達目標
知識基盤社会(knowledge-based society)の時代において超スマート社会(Society 5.0)に向けた人材育成を基軸に、生涯学習をテーマとし、地域にしっかりと立脚して持続可能な発展／開発に資する生涯学習の基礎的実践的理解を得ることができる。

授業計画
1.授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明
2.生涯学習・生涯教育・生涯発達の相互連関
3.グローバリゼーションにおけるアイデンティティ形成のための生涯学習
4.多文化共生と日本の伝統文化に即した生涯学習
5.日進月歩の生涯学習社会における社会教育と学校教育の連携
6.胎児期と胎教、乳児期と家庭教育
7.幼児期と保育
8.少年期と早期教育
9.学童期と初等教育、前期中等教育
10.青年期と後期中等教育、高等教育
11.若い成人期と高度情報社会、知識基盤社会
12.成人期と継続教育、若い世代の育成
13.老年期とライフサイクルの完結、デス・エデュケーション
14.超スマート社会(Society 5.0)に向けた生涯学習の課題
15.授業のまとめ、振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として授業で指示したキーワードを調べ (60 分)、事後学修として、授業で配布したレジュメや資料を読み返し、自分のノートを整理し (60 分)、関連するテーマで自習すること (30 分)。

テキスト
最新の研究成果や情報をまとめたレジュメを毎回配付する。

参考書・参考資料等
波多野完治『生涯教育論』(小学館)、宮原誠一編『生涯学習』(東洋経済新報社)、山田正幸他「叢書生涯学習」全 10 巻(雄松堂)、『文部科学省白書』最新版

学生に対する評価
授業への積極的な参加 20%、小レポート 30%、定期試験 50%。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 参考書・資料、授業の六割が理解できる。
(B) 参考書・資料、授業の七割以上の理解を、教育や社会に適用できる。
(A) 参考書・資料、授業の八割以上の理解を教育や社会に適用し，論理的に思考し、表現できる。
(S) 参考書・資料、授業の九割以上の理解を教育や社会に適用し，論理的に思考し、積極的に解釈や提言を表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業やクラスルームで総評・解説し，個別的にはオフィス・アワーやメールで対応する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	平和教育							学 期	前期
副 題	普遍的な価値たる平和の構築・維持・発展のために				授業方法	講義	担当者	山田正行	
ナンバリング	K3-17-014	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（テーマ）平和教育（peace education）を、平和に関する教育（education about peace）と平和のための教育（education for peace）の二側面から講義し、平和の構築・維持を積極的に考え、取り組む人間の育成をテーマにする。(授業の概要）グローバリゼーションの絶えざる進展において世界各国・地域の関係がますます緊密になる一方、新たな矛盾も生じている。国境の壁が低くなるに伴いリスクも高まっている。このような現状における平和教育の実践や課題を解説する。いのちの尊さ、他者を大切にすること、異なる文化を理解することへと導く教育実践の方法や内容の基礎を修得するために、様々な教科に関連づけ総合的学習としてカリキュラム化する。

授業の到達目標
平和というグローバルな課題について、子供の身近な興味、関心、疑問からいのちの尊さ、他者を大切にすること、異なる文化を理解することへと導く教育実践の方法や内容の基礎を修得できる。

授業計画
1.授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明
2.平和教育の思想的な基礎－不殺生、ヒューマニズム、永遠平和
3.国際的動向（国連、ユネスコなど）と平和教育
4.日本の外交政策と生涯学習－「キッズ外務省」、「外交講座」、青年海外協力隊など国際ボランティア
5.持続可能な開発／発展の教育（ＳＤＥ）と政府開発援助（ＯＤＡ）
6.平和教育とエンパワーメント－生きる力の総合的学習のために
7.平和教育の課題－パワーポリティクスにおける複合的な暴力としての戦争の認識と抑止
8.人間の安全保障と平和教育
9.国際緊急・人道支援、クラスター制度と平和教育
10.パブリック・ディプロマシー（広報文化外交）と平和教育
11.ソフトパワーと平和のためのメディア・リテラシー
12.平和教育と家庭教育－生涯学習とチーム学校（1）
13.平和教育と社会教育－生涯学習とチーム学校（2）
14.平和教育とボランティアー生涯学習とチーム学校（3）
15.授業のまとめ、振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として授業で指示したキーワードを調べ（60 分）、事後学修として、授業で配布したレジュメや資料を読み返し、自分のノートを整理し（60 分）、関連するテーマで自習すること（30 分）。

テキスト
最新の研究成果や情報をまとめたレジュメを毎回配付する。

参考書・参考資料等
外務省『外交青書』最新版 山田正行『平和教育の思想と実践』(同時代社)、山田正行 『「わだつみのこえ」に耳を澄ませる』(同時代社)

学生に対する評価
授業への積極的な参加 20%、小レポート 30%、定期試験 50%。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）参考書・資料、授業の六割が理解できる。
（B）参考書・資料、授業の七割以上の理解を、教育や社会に適用できる。
（A）参考書・資料、授業の八割以上の理解を教育や社会に適用し，論理的に思考し、表現できる。
（S）参考書・資料、授業の九割以上の理解を教育や社会に適用し，論理的に思考し、積極的に解釈や提言を表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業やクラスルームで総評・解説し，個別的にはオフィス・アワーやメールで対応する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	人権と社会							学期	後期
副題	皆が共に生きていけるまちづくりをめざして				授業方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバリング	K3-17-015	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（テーマ）社会にある多様性を差別との関連で捉え直し、自分の社会的立場についての認識を深める。（授業の概要）グローバル化が急激に進む中、これまでの人権論では想定できない新たな人権課題の分野にも関心が高まっている。その中にあって「多様性」を生かしつつ差別を克服してきた歴史や動きを知るとともに、個々がどのように他者や社会に働きかけるのか、解決に向けての具体的な方法を身に付けられるようにする。また、現代の課題である子どもの貧困、虐待、学校現場でのいじめなどを考察し、それをもとに生きた教材をつくる方法を学ぶ。

授業の到達目標

(1))社会がどのようにして多様性を生かしつつ差別を克服しようとしてきたかを理解できる。
(2)人権に関する諸問題が生じる要因について科学的に認識できるとともに、教職の専門性として、その解決に向けての教育実践を構想することができる。

授業計画

1.オリエンテーション　人権とは何か。憲法と人権
2.社会にある多様性と差別(その1)　アンコンシャス・バイアスに気づく
3.社会にある多様性と差別(その2)　マイクロ・アグレッションって何？バイアスについて知ろう
4.子どもの貧困から考える…子ども達の声、ヤングケアラー，ケアする学校
5.生きづらさを考える　ひきこもり，不登校，当事者研究
6.障害者と人権…社会モデルからのアプローチ
7.男女平等問題について考える…ジュエンダーギャップ，教育をジェンダーの視点で見直す
8.ジェンダー平等社会の実現をめざして
9.多文化共生教育(1)…ロールプレイからのアプローチ
10.多文化共生教育(2)…外国にルーツのある子どもと共に
11.差別解消に向けた取り組みから学ぶ
12.戦争と子ども・女性…平和教育の教材について学ぶ，現代における内戦、避難民問題を知る。
13.新聞記事を読み比べる，新聞記事を使ってのミニ討論①　教材づくり①
14.新聞記事を使ってのミニ討論②　教材づくり②　人権教材を使っての考察
15.SDGs と人権，小テスト

準備学習（予習・復習）・時間

授業後に次のテーマに関した課題を課すので，次回までに小レポートとして準備・提出すること（毎回 50 分）　人権教育を深めるための授業案や教材づくりの準備しておくようにする（120 分）。

テキスト

特に指定しないが、日本国憲法、世界人権宣言、国際人権規約、子どもの人権条約，こども基本法などの条文に目を通しておくとともに、新聞記事も毎日読んでおくこと。

参考書・参考資料等

レジメ、資料を適宜配布する。

学生に対する評価

・レポート［教材、作品も含む］（50%）・授業への参加(50%)　配点内訳：小テスト(20%)、授業でのワークシート記述(20%)、積極的参加度・発表(10%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会にある人権関する諸問題や解決に向けた動きを理解することができた。
（B）社会にある人権関する諸問題を自分の経験（当事者意識）と絡めて理解することができた。
（A）身近な事象や出来事から，人権問題にアプローチすることができ，社会にある人権に関する諸問題や解決に向けた動きを，多面的・多角的に理解することができた。
（S）身近な事象や出来事から，人権問題を深め，社会にある人権に関する諸問題や解決に向けた動きを，探究的な活動の中で多面的・多角的に理解することができた。

課題に対するフィードバックの方法

資料や授業で使用したパワポ資料は classroom に提示していく。授業後の小レポートはコメントを添え返却する。

その他

アクティブ・ラーニングを多く取り入れた科目である。特に，受講者同士の対話的な学びを重視する。人権をテーマにした映像，ドラマ，絵本，サブカルチャー等のメディア教材や ICT 教材を使い理解を深めていけるようにする。また，人権教育に関した教材の活用方法を考察するととも，教材を自分達で開発することも行っていく。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

中学校教員時では，市の人権教育協議会の事務局長として，校内や小中連携の人権教育カリキュラムづくりに携わった。その経験と人とのつながりを生かした講義の構成を行いたい。講義の中では，人権課題の解決に向けて取り組んでいる方々を外部講師として招聘してのワークショップも予定している。

科目名	教育原理							学期	前期
副題	教育とは何か				授業方法	講義	担当者	岡部美香／高木万由葉	
ナンバリング	K1-17-016	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
【授業のテーマ】教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出す。 【授業の方法】おもに講義形式で授業を進める。受講者数や授業の進み具合に応じて、グループ・ディスカッションも行う。また毎回の授業内では、コメントシートの提出を求める。 【準備学習の内容】毎回授業終了時に、授業内容を復習し、そこで扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えること。

授業の到達目標
○教育に関わる基本的な概念を学び、自らの言葉で具体的に説明できる。
○多様な教育の理念や思想が、どのような歴史的背景のもと現れてきたのかを理解している。
○現代社会における様々な教育課題やその解決策について、多角的に考察できる。

授業計画
1.イントロダクション――教育の原理を学ぶ意味
2.「教える」とは何か①――人間形成と教育
3.「教える」とは何か②――人間形成と教育を問うことの意味
4.「子ども」の誕生と変容
5.西洋における教育の歴史と思想①――子ども期の成立と学校
6.西洋における教育の歴史と思想②――近現代の学校教育の成立
7.西洋における教育の歴史と思想③――科学・ポストモダン時代における教育
8.日本における教育の歴史と思想①――近代以前の教育
9.日本における教育の歴史と思想②――近代学校の成立
10.教育とカリキュラム――どのように構成されてきたか
11.教育とメディア――学習理論と学習指導の形態
12.現代社会と教育①――多文化教育
13.現代社会と教育②――インクルーシブ教育
14.現代社会と教育③――子どもの貧困
15.授業のまとめと確認

準備学習（予習・復習）・時間
【予習】次回授業に関するテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおく（60 分）。
【復習】毎回授業で扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えておく（60 分）。
その他は授業中に別途指示する。

テキスト
適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等
岡部美香（編著）『子どもと教育の未来を考えⅡ』北樹出版、2017 年

学生に対する評価
コメントシート（40%）・レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教育に関わる基本的な理念や思想を理解している。
（B）教育に関わる理念や思想を、自らの言葉で説明できる。
（A）教育に関わる理念や思想を、現代的課題に結びつけられる。
（S）教育に関わる理念や思想の理解をもとに、現代的課題について多角的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法
コメントシートについては、毎回次の授業時にフィードバックを行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
小学校での実務経験をもとに、実践事例を紹介しながら講義を行う。

科目名	教職入門							学 期	前期
副 題	教職に就くための基礎知識を学ぶ				授業方法	講義	担当者	今西幸蔵	
ナンバリング	K1-17-017	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
教職に関する理解を深め、学校をとりまく教育条件を理解することにより教員の役割を認識する。 この授業では、講義をとおして実際の教育行政や教育現場の様子を知り、教員としての基礎的な資質を高めることをめざす。学校現場では、多様な教育活動が求められているため、教員としてのあり方や指導の仕方について、個人としてだけでなくチーム学校として対応していかねばならないことを学ぶ。 また、学校が社会から期待されており、それに応えるべく教員の役割について実例を取り上げて解説するので、それを学ぶことによって自ら教員としての意識と意欲を高めてほしい。

授業の到達目標
実際の教育行政や教育現場の様子を知り、教員としての基礎的な資質を高めることができる。学校現場では、多様な教育活動が求められているため、教員としてのあり方や指導の仕方について、個人としてだけでなくチーム学校として対応していかねばならないことを学ぶことができる。また、学校が社会から期待されており、それに応えるべく教員の役割について実例を取り上げて解説するので、それを学ぶことによって自ら教員としての意識と意欲を高めることができる。

授業計画
1.教職課程と教員免許制度
2.教職の意義と教員
3.教育行政と教員採用の現状【授業内課題１】教員の身分について
4.教員と校務
5.教員と教材研究
6.教員の諸権利と義務【授業内課題２】教員の仕事の内容と教材研究
7.子ども文化と子ども理解
8.子どものいのちと安全を守る教育【授業内課題３】子どもをどう理解したか
9.児童・生徒指導のあり方、進め方とチーム学校づくり
10.教員と服務・研修制度
11.教員に問われていること、求められていること【授業内課題４】良い先生とは
12.教員に必要な資質や能力
13.地域社会と学校の協働化【期末リポート】地域社会と学校とがどうつながるべきか
14.教員と家庭・地域社会との関わり、コミュニティスクールの進め方
15.過去と未来の学校

準備学習（予習・復習）・時間
１．事前学修として、前時に配付された授業レジュメをよく読み、簡単な記入を行うだけでなく、キーワードについてその意味や概念を調べておく。
２．事後学修として、適宜、授業の振り返りを目的とした小レポートを仕上げる。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト
今西幸蔵・古川治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識（三訂版）』八千代出版

参考書・参考資料等
解説教育六法編集委員会『解説 教育六法 2021 年版』三省堂/古川治・今西幸蔵他『教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房/下村哲夫『先生の条件』学陽書房/立田慶裕・今西幸蔵『学校教員の現代的課題』法律文化社

学生に対する評価
授業内課題（80%）、期末リポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教職とはどのような仕事であり、学校が果たす役割が何かという基本事項を知っている。 そのことをふまえて、日本の教育に対する理解を進めることができる。
（B）教職に意欲や関心を持ち、教員になろうとする気持ちを持っている。 さらに、教員として必要とされる基礎的知識とスキルを身につけようとすることができる。
（A）教員になりたいとする意欲が生まれ、そのための力を身につけようとすることができる。 教員としての具体的なスキルや質の高い知識を獲得することについて考えることができる。
（S）教員になりたいとする強い意志が見られ、教職課程学修に対して積極的な姿勢を示すことができる。質の高い教員をめざして、自己研鑽に励むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
小テストを実施した際には、次の講義において解説を実施し、振り返りと知識やスキルの定着を図る。

その他
１．教職課程プログラムの最初の科目であり、先ずは「教職」についての基本的理解に努め、その上で、教員になることについて考えてほしい。
２．配付する授業レジュメは、授業の概要を理解する上で重要な内容を示しているので、読み解くことによって何を学ぶのかを理解しておく必要がある。
３．アクティブ・ラーニングであるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ジグゾー法などを取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
中学校及び高等学校教員及び教育委員会事務局職員としての勤務経験があり、その経験を活用して教職を志望する学生への対応に生かす。また、他大学の教員として、この科目と内容のほぼ変わらない学修活動を指導してきている。

科目名	教育と社会							学 期	前期
副 題	社会の持続可能な発展／開発のための教育				授業方法	講義	担当者	山田正行	
ナンバリング	K2-17-018	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、社会の教育への影響や作用を基軸に学校や教師の機能、役割、課題を講義する。児童生徒が社会の持続可能で公正な開発／発展を進め、超スマート社会(Society 5.0)を担える者となれる学力・体力・徳性・生きる力を習得させる授業実践を解説する。日本再生や教育再生など具体的課題に即してアクティブ・ラーニングを組み入れ、理論や知識を実践力に結実させる。午後のマイスター制度の豊富な教育スタッフの協力による体験学習プログラムやフィールドワークに繋げる。

授業の到達目標
人間が安心して生きられる安全な社会を基盤とし、またそれを支える教育のあり方、そのための学校と教師の役割を理解できる。そして、これを実践的に理解して、児童生徒を地域の持続的な発展の担い手として育成できる教育的力量を向上させることができる。

授業計画
1.授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明(シラバスにある諸概念の詳しい解説)
2.教育と社会と捉える視座―学校と地域の角度から
3.学校教育と社会教育の連携とシナジー効果(相乗効果)
4.学校の基盤としての安全な地域社会―安全教育の役割と課題
5.児童生徒の家庭生活の理解―学校教育と家庭教育
6.教師と親・保護者の協力―ＰＴＡと相互教育
7.子供会・少年団の教育的な機能―地域生活における形成と教育
8.総合的学習とボランティア活動―アクティブ・ラーニングの指導
9.地域のグローバル化と学校の役割―外国にルーツのある児童生徒の指導
10.地域の伝統文化を活用した授業実践(多文化共生の中での日本的アイデンティティ)
11.地域の人材を活用した授業実践(生涯学習の成果の還元・活用)
12.学校開放とセーフティーネットの構築―安全教育の実践(アクション・リサーチ)
13.「教育再生」における学校や教師の役割―レジリエンス、生きる力の育成のために
14.超スマート社会(Society 5.0)に向けた学校や教師の役割―明日を担う子供を教え育てるために
15.授業のまとめ、振り返り、フィードバック

準備学習(予習・復習)・時間
シラバスと参考書・資料に基づく予習 (90 分)、授業の指示に基づく復習 (90 分)。

テキスト
最新の研究成果や情報をまとめたレジュメを毎回配付する。

参考書・参考資料等
ジョン・デューイ『学校と社会』岩波文庫。稲垣・岩井・佐藤編著『社会と教育』協同出版。『文部科学省白書』最新版。山田『アイデンティティと時代』同時代社。山田「公共性の実践的構造転換と学習の認識論・Ⅰ―「叢書生涯学習」(1987-1992 年)の発展のために―」『大阪教育大学紀要』総合教育科学第 68 巻

学生に対する評価
授業への積極的な態度等 20%、小レポート 30%、定期試験 50%。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）参考書・資料、授業の六割が理解できる。
（B）参考書・資料、授業の七割以上の理解を、教育や社会に適用できる。
（A）参考書・資料、授業の八割以上の理解を教育や社会に適用し，論理的に思考し、表現できる。
（S）参考書・資料、授業の九割以上の理解を教育や社会に適用し，論理的に思考し、積極的に解釈や提言を表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
授業やクラスルームで総評・解説し、個別的にはオフィス・アワーやメールで対応する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	教育心理学							学 期	後期
副 題						授業方法	講義	担当者	米澤好史
ナンバリング	K2-17-019	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
教職に関する科目「教育の基礎理論に関する科目」に相当し、教育の対象を理解するため、教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。養護教諭として生徒に教育することはもちろん、将来、患者教育や保健指導、臨床指導や看護教育の場面で活用できることをねらい、本授業では発達と教育に関する概念・理論を学び、教育実践の基礎的スキルを習得する。

授業の到達目標
こどもの発達、特性を正しく理解し、学習、教育のメカニズムを踏まえた、適切な支援、かかわりができる。

授業計画
1.発達支援と発達を規定する要因
2.愛着という視点と人間関係の支援
3.愛着障害・発達障害の理解とその支援
4.いじめの理解と支援
5.不登校の理解と支援
6.特性の理解と評価
7.知能の特性とその発達
8.「わかる」メカニズムとその支援（1）－わかるの落とし穴－
9.「わかる」メカニズムとその支援（2）－わかる支援に必要なこと－
10.「覚える」メカニズムとその支援
11.「学ぶ」メカニズムとその支援（1）－できるとわかるの違い－
12.「学ぶ」メカニズムとその支援（2）－学び支援のあり方－
13.「意欲」のメカニズムとその支援
14.「考える」メカニズムとその支援
15.まとめ（こどもを支援するということ）

準備学習（予習・復習）・時間
事前にレジュメを配布しておくので、調べ学習など適宜指定した内容について、予習・復習ともに60分以上取り組むこと。

テキスト
米澤好史（著）「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラム－発達障害・愛着障害 現場で正しくこどもを理解し、こどもに合った支援をする－　福村出版

参考書・参考資料等
米谷淳，米澤好史，尾入正哲，神藤貴昭（編著）『行動科学への招待［改訂版］－現代心理学のアプローチ－』　福村出版

学生に対する評価
出席及び授業参加意欲、参加態度50%、試験とレポート50%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の到達目標に記された内容について合格最低基準である。
（B）授業の到達目標に記された内容について妥当な習得がなされている。
（A）授業の到達目標に記された内容について優れた成果を認められる。
（S）授業の到達目標に記された内容について特に優れていると認められる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。状況によっては、ICT機器を用いた遠隔授業で実施する。

科目名	特別支援教育							学 期	集中
副 題	特別な配慮を要する子どもの理解と支援				授業方法	演習	担当者	宮本直美	
ナンバリング	K2-17-020	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
現代の特別支援教育に至る今日までの歴史的変遷を、基本理念、制度、教育内容を通して学ぶ。そして、特別支援教育、システム、指導法の基本的な理解をする。

授業の到達目標
障害や特別なニーズのある子どもに対する、その子どもを支える教育や制度が理解できる。その上で、特別支援教育の在り方とその方法が理解できる。

授業計画

【前期】	【後期】
1.特別支援教育とは～その概要～	1.
2.特別支援教育に至る障害児教育の歴史的変遷	2.
3.特別支援教育の理念、その基本的な考え方	3.
4.特別支援教育の対象	4.
5.「特別なニーズ教育」と特別支援教育	5.
6.個別の教育支援計画と指導計画	6.
7.特別支援学校における教育の概要	7.
8.特別支援学校における教育課程の特長	8.
9.特別支援学校における教育、その自立活動の目標及び内容	9.
10.特別支援学校におけるセンター的機能とその役割	10.
11.特別支援教育コーディネーターの役割	11.
12.幼、小、中学校等における特別支援教育～特別支援学級、通級、その指導の仕組み～	12.
13.幼、小、中学校等における特別支援教育～校内支援体制、その仕組み～	13.
14.幼、小、中学校等における特別支援教育～地域との連携教育体制～	14.
15.特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援	15.

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習：講義時に配布する資料や紹介した文献、教示したテキストの当該箇所を読み、疑問点等を含めて内容について整理しておくこと。 事後学習：毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと（計 90 分以上)。

テキスト
森田健宏・田爪宏二（監修）よくわかる！教職エクササイズ５　石橋裕子・林幸範（編著）『特別支援教育』ミネルヴァ書房、2019 年（生協で購入）

参考書・参考資料等
本田秀夫（著）フクチマミ（マンガ）『マンガでわかる発達障害の子どもたち』SB クリエイティブ株式会社、2023 年 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育の基礎・基本　2020』ジアース教育新社 2020 年 資料は適宜配布する。

学生に対する評価
定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する振り返りやレポート（30%）、授業中の発言や発表、グループワークやプレゼンへの取り組み等授業への参加状況（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができる。
（B）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができ関心が深まる。
（A）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）に関心を持ち、積極的に理解を深めようとする意欲がある。
（S）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等）の支援に関心もち理解を深め、積極的に支援に参加しようとする意欲が深まる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の課題は添削し次回の講義時に返却する。 質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックす

る。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

授業 10～15 において、発達障害のある生徒等や障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等への指導と支援について、担当者の通級における指導や特別支援コーディネーターとしての体験を取入れ、具体的な事例を通して講義を行う。

科目名	教育方法論･ICT 活用論							学 期	通年
副 題					授業方法	講義	担当者	下倉雅行 八木英二	
ナンバリング	K3-17-021	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（テーマ）これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。
（授業の概要）
教育方法は、教育目的、目標、内容、評価に関わる実践プロセス全体のひとつの単位である。講義では、教科と教科外を問わず、子どもの指導に関わる具体的な VTR 事例等を提示しつつ、歴史的経緯をふまえて、現代に必要な知識やスキルを扱う。また、子どもの成長・発達の観点とも関わらせながら、ICT 教材やソフトの活用などを含む授業法等を説明し、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力(情報モラルを含む)の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけさせる。

授業の到達目標

１）教育方法の基礎的理論と実践に関わる意味と、その在り方(主体的・対話的・深い学びの実現など)を理解しつつ、学習評価の基礎的な考え方まで理解できる。
２）教育目的と指導技術の関係を理解して身につけることができる(目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点などを含む、様々な学習指導理論を踏まえつつ学習指導案を作成することができるようになる)。
３）情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力(情報モラルを含む)の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけることができる。

授業計画

１．教育方法の学び方　―授業研究等（八木）
２．教育目的・目標・内容と教育方法（八木）
３．子ども理解と教育方法（八木）
４．授業を構成する要件(学級、生徒、教員)（八木）
５．教材・教具の意味理解(デジタル教科書等を含む)（八木）
６．発問の方法と「表現の組織化」(授業の基礎技術)（八木）
７．学習指導案の作成方法（八木）
８．多様な学習形態と評価(含む学習履歴（スタディログ）などを活用した指導や学習評価について）（下倉）
９．情報通信技術の活用の意義等(主体的・対話的で深い学びを実現するための授業とは、特別の支援を必要とする児童及び生徒に対するＩＣＴ活用）（下倉）
10．ＩＣＴによる学びの保障(遠隔・オンライン教育の工夫)とＩＣＴを効果的に活用した校務の推進（下倉）
11．教育情報セキュリティの重要性を理解し、情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の指導事例を理解する。(下倉)
12．児童及び生徒に情報通信機器の操作を身につけさせるための指導法を身につける。(下倉)
13．授業教材の作成（下倉）
14．模擬授業を発表する（下倉）
15．ＩＣＴ活用のための環境整備及び構内体制と外部連携(ＩＣＴ支援員等の活用)及びまとめ（下倉）

準備学習(予習･復習)･時間

事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する用語を検索し、収集・通読しておくこと（90分)。

テキスト

(1～7 回)テキストは用いないが、各回の講義で資料を配布
(8～15 回)西野和典他著「教職課程　情報通信技術を活用した教育の理論および方法」、実教出版、定価1,000 円＋税、ISBN:978-4-407-35841-4

参考書･参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領』

学生に対する評価

各回講義の内容や資料等についての感想提出（50%)、期末リポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の目的に適した指導技術（含 ICT 活用）について理解している。
（B）子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の目的に適した指導

技術（含 ICT 活用）について理解していると同時に基礎的な指導法を理解している。
（A）子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の目的に適した指導技術（含 ICT 活用）を身につけていると同時に基礎的な指導法を身につけている。
（S）子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の目的に適した指導技術（含 ICT 活用）と同時に基礎的な指導法を身につけ、学習指導案を作成することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義の感想やそこでの質問については、次の授業の機会にフィードバックする。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

科目名	教育相談							学 期	後期
副 題	ラボラトリートレーニングで学ぶ教育相談				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	K2-17-022	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学校教育相談の主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校教育相談の意義や方法について具体的に考察する。また、子どもの発達上の課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する問題を取りあげ、それらへの理解を深めていく。

授業の到達目標
学校教育相談の意義や方法について理解できる。また、子どもの発達課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する典型的な課題についての基本的理解を習得し、対応知識を得ることができるようになる。

授業計画
1.オリエンテーション
2.学校教育相談とは
3.学校教育相談と生徒指導
4.学校教育相談の基礎１－カウンセリングの基本－
5.学校教育相談の基礎２－カウンセリングの諸理論－
6.学校教育相談の基礎３－発達障害－
7.学校教育相談の基礎４－アセスメント－
8.スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー
9.校内連携－チーム学校－
10.保護者との関係
11.学校教育相談と不登校
12.学校教育相談といじめ
13.学校教育相談と虐待
14.学校教育相談と特別支援教育
15.まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容を、予習・復習を取り組むこと（60 分以上）。各講義終了後、feedback 用紙にて①講義でのキーワードの説明をレポートし、体験学習について各講義後に思考・感情・身体の変化などを記録し、体験学習での気づきのレポートを作成する（60 分以上）。これを、次回の授業に提出する。

テキスト
「体験型ワークで学ぶ教育相談」（小野田正利他監修　2019 年　大阪大学出版会）

参考書・参考資料等
生徒指導提要・改訂版（令和４年 12 月　文部科学省）。他は、授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価
授業での態度・意欲・発表（50%）、試験（レポートを含む）（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教育相談の理論と技術の基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）教育相談の理論と技術の基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）教育相談の理論と技法（最低３つ以上）の関連性と実践について説明できる。
（S）教育相談の理論と技法を用いて、学校場面の基礎的な問題事象を解決できる提案やロールプレイにおいて実践できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師、臨床心理士、カウンセリング心理士（スーパーバイザー）、ガイダンスカウンセラー（スーパーバイザー）、NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ＩＳＰトレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。なお、令和元年より和歌山県 SC・スーパーバイザー

科目名	Phonetics in Education							学 期	前期
副 題	英語音声のメカニズムと、その指導法を学ぶ				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K1-07-024	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・英語音声のこれまでの変化と国際共通語としての多様な音声システムを理解する。 ・音声学の理論を学ぶことにより、自分自身の英語の発音を向上させる。 ・日本人学習者を対象とした効果的な英語発音の指導方法について、理解を深める。

授業の到達目標
英語音声のこれまでの変化と国際共通語としての多様な音声体系について学び、さらに音声学の基礎理論を踏まえることで、英語発音と日本語発音のそれぞれの特徴と違いを理解することができる。さらに日本人学習者が苦手な英語発音を効果的に指導する方法について学び、理解することができる。

授業計画
1.授業ガイダンス（進め方と評価）
2.英語音声の歴史的変遷と現代英語の標準発音
3.英語のつづりと発音の関係
4.調音点と調音様式
5.英語の子音の発音のメカニズムと発音練習 shadowing（閉鎖音）
6.英語の子音の発音のメカニズムと発音練習 shadowing（摩擦音）
7.英語の子音の発音のメカニズムと発音練習 shadowing（破擦音・鼻音）
8.英語の子音の発音のメカニズムと発音練習（側音・半母音），中間試験（理論及び発音技能）
9.英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 shadowing（短母音）
10.英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 shadowing（長母音）（二重母音
11.英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 shadowing（イントネーション）
12.英語の母音の発音のメカニズムと発音練習 shadowing（弱母音）
13.英語の超分節音素のメカニズムと発音練習 shadowing（アクセント）（リズム）
14.フォニックスとアルファベット読み
15.小学校における音声教育と発音指導

準備学習（予習・復習）・時間
事前に配布した資料等に目を通し、わからない言葉や発音等について調べておくこと。また、授業後に繰り返し発音練習をしておくこと（いずれも60分以上）。

テキスト
プリント配布

参考書・参考資料等
Roach, P. (1983). ‘English Phonetics and Phonology (3rd ed.)’ Cambridge University Press.
「改訂新版初級英語音声学」竹林滋、清水あつ子、斎藤弘子（大修館書店）

学生に対する評価
毎時間の講義のまとめレポートまたは実技試験(30%)、講義への積極性(30%)、定期試験(40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）発音の母音と子音のメカニズムを理解することができる。
（B）上記に加え、子音の発音のメカニズムを理解することができる。
（A）上記に加え、母音と短母音の違いを理解することができる。
（S）上記に加え、小学校における音声教育と発音指導に関してプランを提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法
単元ごとに講義中に適宜実施する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	Intensive Reading							学 期	後期
副 題	正確な読みを目指す				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K2-07-025	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義では論文や短編など、ある程度まとまった英文を精読し正しく理解するために、日本人に共通する誤読のパターンを説明し、その後に理解を深めるためにグループで練習問題に取り組む。また講義内容の定着をはかるために、内容を振り返って、小テストや定期試験を実施する。

授業の到達目標
語彙・文法知識を活用しながら、英文を正確に読み理解することができる。

授業計画
1. 講義の概要や評価、グループ活動の説明
2. 論文の文体とニュースの文体
3. 小説の技法 (1) 視点
4. 小説の技法 (2) 強調・繰り返しの効果
5. 句読法
6. 英語化している日本語の単語
7. 授業の2回目から6回目を振り返り、論文の文体とニュースの文体、小説の技法、句読法、英語化している日本語の単語について、内容の定着を確認
8. 多義性 (動詞における2つ以上の語義)
9. 多義性 (名詞)
10. 形容詞の外延と内包
11. 非分離複合語と分離複合語、ハイフンつき複合語
12. イタリックの使用について
13. 暗喩、直喩、比喩
14. 専門語の誤訳
15. 卑語、タブー語

準備学習(予習・復習)・時間
毎回配付する資料について目を通し、単語等を調べておくこと。また、授業後に改めて課題文を読み直し、正確な意味を把握すること (90 分)。

テキスト
プリントを配布

参考書・参考資料等
村上陽介『英語正読マニュアル』研究社出版、 2000 年

学生に対する評価
小テスト (20%)、中間・期末テスト(60%)、講義内での発表やグループワーク(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 英文のレトリック構造について理解することができる。
(B) 上記に加え、小説や童話文法を理解することができる。
(A) 上記に加え、英語の多義性、句読法等について理解することができる。
(S) 上記に加え、約 1,000words のトピックを読みサマリーを書くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	British Literature							学 期	集中
副 題	そのときイギリスで何があったのか				授業方法	講義	担当者	松田正貴	
ナンバリング	K1-07-026	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ）イギリス文学の背景および具体的作品を概観することである。（授業の概要）授業で配布する教材に沿って、イギリス文学を歴史的に概観する。各時代の社会的背景を踏まえながら、それぞれの作家が何を表現しようとしたのかを検証する。

授業の到達目標
文学作品の内容や背景等を学ぶことにより、イギリスという国に対する理解を深めることができる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス（シラバスの確認、本講義の内容を簡単に説明する）
2. トマス・モア『ユートピア』とヘンリー8 世の時代
3. ウィリアム・シェイクスピア『テンペスト』とエリザベス 1 世・ジェイムズ 1 世の時代
4. 映画『テンペスト』: ここまでの議論の総括・ディスカッション
5. ダニエル・デフォー『モル・フランダーズ』とイギリス資本主義
6. メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』とラッダイト運動
7. チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』とチャーチスト運動
8. 映画『どん底作家の人生に幸あれ』: ここまでの議論の総括・ディスカッション
9. ウィリアム・ブレイク『無垢の歌』と黒人表象
10. ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』とモダニズム芸術
11. D・H・ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』と炭鉱労働者
12. 映画『オルランド』: ここまでの議論の総括・ディスカッション
13. アガサ・クリスティと大英帝国
14. カズオ・イシグロ『浮世の画家』と第二次世界大戦
15. まとめ

【後期】

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
講義内容を復習し、授業の中で示した関連文献を読む（120 分）。

テキスト
教材は授業中に配布する。

参考書・参考資料等
トマス・モア『ユートピア』（岩波文庫、1957 年）、ウィリアム・シェイクスピア『テンペスト』（ちくま文庫、2000 年）、カズオ・イシグロ『浮世の画家』（ハヤカワ epi 文庫、2019 年）

学生に対する評価
中間レポート(40%)、期末レポート(40%)、授業での発表(20%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）各文学作品の内容を把握できている。
（B）歴史の流れに沿って各文学作品を位置づけることができる。
（A）歴史の流れに沿って各文学作品を位置づけ、独自の見解を文章化することができる。
（S）歴史の流れに沿って各文学作品を位置づけ、問題点を見出し、それに対する答えを自分の言葉で文章化することができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	American Literature							学 期	集中
副 題	そのときアメリカで何があったのか				授業方法	講義	担当者	松田正貴	
ナンバリング	K1-07-027	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ）アメリカ文学の背景および具体的作品を概観することである。（授業の概要）テキストの流れに沿って、アメリカ文学を歴史的に概観する。各時代の社会的背景を踏まえながら、それぞれの作家が何を表現しようとしたのかを検証する。

授業の到達目標
文学作品の内容や背景等を学ぶことにより、アメリカという国に対する理解を深めることができる。

授業計画

【前期】
1. ガイダンス（シラバスの確認、本講義の内容を簡単に説明する）
2. アン・ブラッドストリート『最近アメリカにあらわれた十番目の詩神』とピューリタン
3. ズィトカラ＝シャ：アメリカインディアンの物語
4. 映画『ウインド・リバー』：ここまでの総括・ディスカッション
5. ハーマン・メルヴィル『白鯨』と日本の開国
6. ウォルト・ホイットマン『草の葉』と南北戦争
7. エミリー・ディキンソン『詩集』とアメリカ現代詩
8. 映画『グローリー』：ここまでの総括・ディスカッション
9. スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』と 1920 年代アメリカ
10. ラングストン・ヒューズ『詩集』とハーレム・ルネッサンス
11. カール・サンドバーグ『シカゴ暴動』と人種問題
12. 映画『私はあなたのニグロではない』：ここまでの総括・ディスカッション
13. ロン・コーヴィック『7 月 4 日に生まれて』とヴェトナム戦争
14. アレン・ギンズバーグ『リアリティ・サンドイッチ』と 1960 年代アメリカ
15. まとめ

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
講義内容を復習し、授業の中で示した関連文献を読む（120 分）

テキスト
能勢卓監修『アメリカの声をひろう−言葉で闘う作家たち』（ナカニシヤ出版）（生協で購入）

参考書・参考資料等
ハーマン・メルヴィル『白鯨 上・下』（岩波文庫、2004 年）、ウォルト・ホイットマン『おれにはアメリカの歌声が聞こえる』（光文社古典新訳文庫）、スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』（中央公論新社、2006 年）

学生に対する評価
中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、授業での発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）各文学作品の内容を把握できている。
（B）歴史の流れに沿って各文学作品を位置づけることができる。
（A）歴史の流れに沿って各文学作品を位置づけ、独自の見解を文章化することができる。
（S）歴史の流れに沿って各文学作品を位置づけ、問題点を見出し、それに対する答えを自分の言葉で文章化することができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	Critical Thinking and Creative Writing							学期	前期
副 題	学術的かつ論理的な思考を組み立て英文を書く				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K1-07-028	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学術的かつ論理的に思考を組み立て、英文をまとめる技術を学ぶ講義である。まずは基本的な知識を集約し、自分の意見や考えを批判的思考（クリティカルシンキング）を身につけながらまとめる力を段階的に習得し、テーマに沿って討議しながらプレゼンテーション力も身につけることができる。英語での発表や発信が主な目的であるため、学生の創造力を養いながら効果的に書き、伝える力を身につけることができる。

授業の到達目標
①学術的な文章を記述するための基本を理解し、自分の意見や考えを英語でまとめる技術を身につけることができる。
②批判的思考（クリティカルシンキング）を理解し、その技術を身につけ、自分の意見をまとめることができるようになる。
③英語での効果的なプレゼンテーション力を身につけることができる。

授業計画
1. オリエンテーション：講義概要、評価（個人・グループ）の説明
2. 「70 億人が生きる地球で自分はどう生きるのか」エッセイの構成と種類　［ライティング］:アカデミック・ライティングの修辞構造を学ぶ
3. 「目標の職種を獲得するために何をすればよいのか」　［ライティング］:資料作成の仕方と倫理、参考文献の提示
4. プレゼンテーションのためのグループワーク　（ブレーンストーミング，アウトライン作成、資料検索）
5. 「マイクロアドベンチャーの意義について考える」　［ライティング］:分類と比較・対照エッセイの展開方法
6. 「ビジュアル時代に真偽を確かめる（ディープ・フェイク）」　［ライティング］:原因と結果のパラグラフの展開方法
7. 「リスク・テイカーについて考える」　［ライティング］:意見を述べるパラグラフの展開方法（演繹法と帰納法）
8. 「ヤングケアラーについて」
9. 「絶滅危惧種について考える」　［ライティング］:問題解決のパラグラフの展開方法
10. 「いくつかの発明品について考える」　［ライティング］:描写のパラグラフ（形容詞の外延と内包・時間経過の描写法）
11. 「身近にある問題を採り上げ分析する」　［ライティング］: 分析のパラグラフの展開方法
12. 「効果的なプレゼンテーションをするために（目的・対象等・ノンバーバル）」
13. グループワーク（スライドやハンドアウト等の資料作り）
14. グループによる英語でのプレゼンテーション
15. フィードバック（グループでの発表について）

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の内容とテーマについて、資料はもちろん、関連領域について調べておくこと。また、授業後も同様に、授業を通して生じた不明な点や用語等について調べておくこと（90 分程度）。

テキスト
プリント配布

参考書・参考資料等
『決定版　英語エッセイ・ライティング』コスモピア　2014 年　門田修平監修著　ISBN:978-4-86454-050-6　参考書は講義中に適宜紹介する。また資料のプリントを配布する。

学生に対する評価
英語によるプレゼンテーション(40%)，レポート(20%)，まとめテスト(20%)，講義内での発表およびグループワークでの貢献度(20%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）英語のアカデミックライティングの基本を理解する。
（B）与えられたトピックに関して 400words ほどのエッセイを書く。
（A）与えられたトピックに関して 800 words ほどのエッセイを書く。
（S）自らの考えを opinion essay として書き英語でプレゼンする。

課題に対するフィードバックの方法
単元ごとに適宜講義中に実施する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	第二言語習得概論							学 期	前期
副 題	第二言語習得のメカニズムを学修し、授業計画にいかす				授業方法	講義	担当者	森本敦子／染谷藤重	
ナンバリング	K2-07-031	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
１． 第二言語習得に関する基本的な理論について理解するようになる。 ２． 第二言語習得理論を用いた実践的な授業案を構成することができる。

授業の到達目標
第二言語習得およびそれに関連する事項についての知識を、具体的な事例を参考にしながら理解できる。また第二言語習得理論を日本の英語教育に応用しながら、授業を計画することができる。

授業計画
1.イントロダクション（講義のねらいと進め方、英語の歴史的変遷と現在、文法指導の変遷、音声の仕組みについて）（染谷）
2.目標項目を目立たせよう：インプット強化（染谷）
3.目標項目の処理を手助けしよう：処理指導（染谷）
4.話す活動と文法指導：フィードバック（森本）
5.ライティングのフィードバック効果（染谷）
6.タスクを効果的に用いよう（染谷）
7.ペア・グループワークの潜在力を引き出そう（森本）
8.発音指導（森本）
9.語彙と文法指導（森本）
10.語用論指導（染谷）
11.個人差とコンテクスト・国際共通語としての英語の理解（染谷）
12.指導の評価：スキル学習理論の観点から（染谷）
13.フォーカス・オン・フォームの指導（染谷）
14.第二言語習得論を用いた模擬授業の実践（森本）
15.まとめとフィードバック（森本）

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを予め読んでおき、専門用語を理解しておくこと。(90 分) 事後学習として授業の内容をまとめ、提出または発表ができるように準備をしておくこと。(90 分)

テキスト
『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』 鈴木渉 編 （大修館書店） 配布プリント

参考書・参考資料等
『SLA 研究入門～第二言語の処理・習得研究のすすめ方ー』門田修平（くろしお出版）

学生に対する評価
講義レポートおよび発表(40%)、試験(40%)、講義の積極性(20%)、

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）第二言語習得に関する基礎的な用語を理解することができる。
（B）第二言語習得に関する基礎的な用語を説明することができる。
（A）第二言語習得の現状や課題について、論理的に自分の言葉で説明することができる。
（S）第二言語習得の現状や課題を論理的に説明し、さらにその理論を利用した授業を展開する計画を立てることができる。

課題に対するフィードバックの方法
・講義についての質問は、授業内、レポートや試験等の課題については次時にフィードバックを行う。

その他
・３０分以上で遅刻都市、本授業においては、遅刻３回で欠席１回とみなす。
・学生による模擬授業等アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた科目である。
・第二言語習得理論を用いた実践等、英語で講義を行う場面がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
私立学校にて英語専科教員および英会話スクールにて英語講師として勤務していた教員による講義である。

科目名	国語科内容論							学 期	前期
副 題	国語科は何を教える教科なのか				授業方法	講義	担当者	村尾聡	
ナンバリング	K1-20-035	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学習指導要領国語科における目標や内容について学習し、国語科教育についての理解する。 国語科には「詩、物語、小説などの文学教材」「伝統的な言語文化である俳句、短歌」「説明文（論説文）」「作文教育」「読書指導」などがある。講義は教員自らが文学教材、説明文などを「模擬授業形式（学生参加型）」で授業を実施する。

授業の到達目標
１）学習指導要領に示された国語科における国語教育の内容を理解することができる。
２）「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、伝統的な言語文化と国語の特質」における具体的な指導内容について理解することができる。

授業計画
1.学習指導要領国語科の学力観と教育内容
2.詩教材、低学年
3.詩教材、中・高学年
4.物語教材、低学年
5.物語教材、中・高学年
6.説明文教材、低学年
7.説明文教材、中・高学年
8.俳句教材
9.短歌教材
10.絵本
11.作文教育について
12.読書指導について
13.国語科教育のその他の教育内容について
14.授業構想の立て方
15.まとめと振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業で行った内容（詩や物語をどのように分析・解釈し、どのような発問、板書で授業化するのか）について要点を整理する。文芸学、教育的認識論（ものの見方・考え方）の概念用語を復習し、覚える（90分程度）。

テキスト
・文部科学省『学習指導要領解説　国語編』東洋館出版
・平成29年小学校国語教科書『国語 四 上 かがやき』光村図書出版、令和2年
・小学校国語教科書『国語 四 下 はばたき』光村図書出版、令和2年
・講義時に適宜資料（テキスト）を配布

参考書・参考資料等
村尾聡『文学教育論―西郷文芸学の教育学的考察―』ブイツーソリューション、2014 年 西郷竹彦監修、文芸教育研究協議会著『新国語教育事典』明治図書、2005 年

学生に対する評価
授業への積極的参加(30%)　レポート(30%)　定期試験(40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義で学習した内容を最低限理解できている。
（B）講義で学習した内容を自分の言葉で表現できている。
（A）講義で学習した内容を文芸用語を使って表現できている。
（S）講義で学習した内容を文芸用語を使って的確に表現できている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
パワーポイント等の ICT 機器を使って、模擬授業形式で講義を行う。学生同士の話し合い（グループワーク）等、アクティブ・ラーニングの時間もとる。講義後に授業内容についての感想を書いてもらい小テストとする。本授業では、授業の３分の１をこえて欠席した場合は失格とし、遅刻・早退（いずれも３０分以上）は２分の１の欠席と計算とする。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について 25 年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	社会科内容論							学 期	後期
副 題	社会科における見方･考え方を身に付ける				授業方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバリング	K1-20-036	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
・社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を身に付ける。また，本講義では、小学校の社会科の学習内容と学年間の系統性について理解するとともに、教科書を手掛かりとして、“社会”に関する基礎的な知識を、様々な角度から考察する。本講義を通して、受講者が持続可能な社会の在り方に関心がもてるようにする。

授業の到達目標
（1）社会科の学習内容について理解を深めることができる。
（2）時事問題について基礎的な解説をすることができる。

授業計画
1.授業ガイダンス　今までの社会科の学びを振り返る。
2.新学習指導要領：「主体的で対話的な深い学び」をつくるためにはどうすればいいのかを考える。
3.教科書の性格、役割、構成。教材とは何かを考察する。
4.社会科学習方法にはどんなものがあるのかを調べ，まとめる。
5.第３学年の内容「身近な地域や市の様子」や「地域に見られる販売の仕事」を見方・考え方から教材研究する。
6.第３学年の内容「地域に見られる生産の仕事」の単元をフィールドワークや取材から教材を考える。
7.第４学年の内容「都道府県の様子」　各都道府県新聞をプレゼンしあう。
8.第４学年の内容「自然災害から人々を守る」　すぐれた実践に学ぶ。デジタル教科書の活用を考える。
9.第５学年の内容「我が国の農業・水産業における食料生産」　どんな探求課題を設定すればいいかを考える。
10.第５学年の内容「我が国の産業と情報の関わり」　社会見学・取材を授業に生かす。
11.第５学年の内容「日本の国土」　災害に強い町づくりという視点からの授業づくりを行う。
12.第６学年の内容「私たちの生活と政治」　模擬裁判の判断をトゥールミン図式でまとめる。
13.第６学年の内容「我が国の歴史Ⅰ」　史料・資料を有効に使う授業とは何かを考察する。
14.第６学年の内容「我が国の歴史Ⅱ」エンパシーに着目して。グループ発表（模擬授業）を行う（その１）。
15.グループ・個人発表（模擬授業）を行う（その２）。小テストと講評

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学修として，次回までに調べたり提出したりする課題を提示するので，小レポートや課題・指導案として提出すること（60 分）。授業で使ったパワポ資料は，classroom に載せるので復習しておくこと。(30 分)

テキスト
学習指導要領（平成 29 年告示）解説　社会編　日本文教出版　（生協で購入）

参考書・参考資料等
北俊夫他/新編　新しい社会 3～6/東京書籍

学生に対する評価
レポート［作品や授業略案も含む］(30%)、小テスト(20%)、ワークシート記述内容(30%)，積極的参加度・発表［模擬授業も含む］(20%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）・これまで受けてきた社会科の学びを振り返ることができる。学習指導要領の内容（求められる学び，教科目標，教科内容など）が理解できる。
（B）・自分の社会科の学びを振り返るともに，また，学習指導要領の内容を理解し，学習課題を考えることができる。
（A）・自分の社会科の学びを振り返るともに，また，学習指導要領の内容を理解し学習課題を考えることができる。また，学習者の関心がもてるような教材の用意ができている。
（S）・自分の社会科の学びを振り返るともに，また，学習指導要領の内容を理解し学習課題を考え，また，学習者の関心にそった授業を指導案や模擬授業で表現できている。

課題に対するフィードバックの方法
・授業での振り返りワークシート（提出された課題も）に書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々にフィードバックするとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。

その他
・現学習指導要領では，「主体的・対話的な深い学び」が求められている。特に，社会科はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法がこれまで多く取り入れられてきた。それを学ぶためにも，授業では，PBL,

グループディスカッション，グループ内プレゼン，ゲームシミレーションなどを行う。メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

・中学校教員及び地域支援教育コーディネーターとして勤務した教員が，その経験を活かして，子どもが意欲的に学ぶ授業づくりができるように指導する。そのために，まず，自分たちが学生時代に受けてきた授業を振り返る。また，カリキュラムや単元・授業の計画，単元のトピックで何ができるのかを，「学習指導要領」「子どもの現状」「学問の研究成果」「社会の現状」を踏まえて，具体的な単元計画や授業案の形で表現できるよう指導する。

科目名	算数科内容論							学 期	後期
副 題	算数科で何を学ぶか				授業方法	講義	担当者	東尾晃世	
ナンバリング	K2-20-037	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校学習指導要領における算数科の目標，領域，各学年の内容とその系統性を実践的・協働的な学びを通して理解する．小学校算数の領域（数と計算，図形，測定，変化と関係，データ活用）を理解し，学年での系統性や指導上考えるべき点などを学習指導要領に基づいて理解し，指導の在り方についての見通しを持つことを目指す．

授業の到達目標
学習指導要領に基づいて算数科の目標，領域（数と計算，図形，測定，変化と関係，データの活用），内容とその系統性について理解できる。また，小学校における算数科の学習内容に関わる数学に関する基本的な知識を身に付けることができる。

授業計画
１.オリエンテーション（授業の目的と授業の進め方について，算数科の内容構成）
２.算数科に係る学習指導要領の歴史
３.算数科の目標
４.数学的活動の意義
５.算数科における問題発見・解決学習
６.数と計算（１）低学年
７.数と計算（２）高学年
８.図形（１）低学年
９.図形（２）高学年
10.測定
11.変化と関係
12.データの活用（１）基本
13.データの活用（２）発展
14.算数科における内容と系統性について
15.まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間
・課題について調べてまとめ，発表や討議を踏まえ内容について各自で整理する．(60 分)
・講義内容について，要点をまとめる．(60 分)

テキスト
文部科学省(2017),小学校学習指導要領解説算数編,日本文教出版

参考書・参考資料等
文部科学省(2017),小学校学習指導要領,東洋館出版 必要に応じて資料を配付する

学生に対する評価
レポート等８０％，授業への取り組み２０％

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）到達目標の内容を最低限満たしている．
（B）到達目標に照らし妥当であると認められる．
（A）到達目標を満たしつつ優れた成績であると認められる．
（S）到達目標を満たしながら特に優れた成績であると認められる．

課題に対するフィードバックの方法
レポートや発表等に対するフィードバックを適宜行う

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど，アクティブ・ラーニングの手法を用いる．また，メディア教材や ICT 教材を用いることがある．

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
教育現場での実務経験を生かして，算数科の目的や内容に係る授業を行う．

科目名	理科内容論							学期	後期
副題	科学的な考えを主体性を持ってできる基礎講義				授業方法	講義	担当者	児島昌雄／柳原高文	
ナンバリング	K1-20-038	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校理科の目的・内容についての理解を深め、理科の授業の基礎となる科学的知識を身につけると共に、授業の構成力を身に付ける。 小学校理科の目的・内容・方法を理解すると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の教材構成ができるように学習する。また、児童の「主体的・対話的で深い学び」への授業理解を育む。

授業の到達目標
1）小学校学習指導要領に定められた、理科の「目的・内容」を理解することができる。 2）小学校理科の内容の基礎となる科学的知識を身に付ける。 3）「主体的・対話的で深い学び」を理解し、指導することができる。

授業計画
1. 授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察
2. 小学校3年生理科「風とゴムの力の働き」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
3. 小学校3年生理科「身の回りの生物」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
4. 小学校4年生理科「月と星」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
5. 小学校4年生理科「空気と水の性質」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
6. 小学校4年生理科「季節と生物」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
7. 小学校4年生理科「電流の働き」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
8. 小学校5年生理科「天気の変化」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
9. 小学校5年生理科「植物の発芽、成長、結実」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
10. 小学校5年生理科「天気の変化」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
11. 小学校6年生理科「月と星」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
12. 小学校6年生理科「てこの規則性」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認（30 分） 復習：ワークシートの考察課題（60 分）
13. 情報機器を授業に活かす手法・指導案について 予習：情報機器等の理解（30 分） 復習：指導案の書き方（60 分）
14. 方向目標と到達目標 予習：各単元の内容がどこに向かうか（30 分） 復習：単元ごとの方向目標の作成（60 分）
15. 授業のまとめと全体討論

準備学習（予習・復習）・時間
・予習として、講義の単元の内容を小学校の教科書などで確認しておくこと。復習として、講義内容を学習ノートにまとめ、関連問題の復習をすること。いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト
文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説理科編」

参考書・参考資料等
・「シリーズ日本型理科教育　第２巻　『子ども』はどう考えているか−とらえやすい自然認識と化学概念−」　日置光久・星野昌治（編）　東洋館出版社　2007 年　・「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集　改定２版」　松原静郎・岩間淳子（編）オーム社　2018 年

学生に対する評価
講義への関心・意欲・態度(20%)、課題作成(30%)、定期試験(50%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）小学校理科で学習する内容の知識がある。
（B）小学校理科で学習する内容の知識と関連問題を解くことができる。
（A）小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができる。
（S）小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で科学的（理科的）に思考する。天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう？」「これは何？」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍や web 等で調べ課題解決をすること。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	生活科内容論							学 期	後期
副 題	児童の自立とは				授業方法	講義	担当者	柳原高文	
ナンバリング	K2-20-039	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
(テーマ)小学校生活科のねらいや内容等に関する基礎的な知識を習得する。(授業の概要)　新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して学ぶ。生活科の考えやその内容構成の考え方について理解し、生活科を学ぶ意義を理解する。

授業の到達目標
1)生活科創設の意味、ねらいについて理解することができる。
2)新学習指導要領における生活科の改定趣旨と目標について理解することができる。
3)学習指導要領における生活科の学年の内容と目標について理解することができる。
4)年間指導計画の作成および指導案の作成ができる。

授業計画
1.授業の進め方、評価方法、生活科創設とねらいについて
2. 生活科の内容と目標、情報機器を授業に活かす手法 予習：講義内容の情報を収集する 復習：情報機器を実際に使ってみる
3.「学校と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
4.「家庭と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
5.「地域と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
6.「公共物や公共施設の利用」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
7.「季節の変化と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
8.「自然や物を使った遊び」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
9.「動植物の飼育・栽培」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
10.「生活や出来事の伝え合い」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
11.「自分の成長」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える
12.生活科と総合的学習について：グループ討議 予習：自らの経験した総合的学習と生活科を整理しておく　復習：生活科と総合的な学習の意味を考える
13.生活科と幼児教育 予習：「幼稚園教育要領」の内容を調べる　復習：幼稚園から小学校への連続性と違いを整理
14.中学年科目内容との関連 予習：3年生理科・社会科の内容を調べる 復習：連続性と違いを整理
15.最終グループ討論とまとめ 予習：グループでの役割を検討する 復習：小学校教育における生活科の意味・役割を総括する

準備学習(予習・復習)・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに60分以上取り組むこと。

テキスト
文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編」

参考書・参考資料等
必要に応じて指示する。

学生に対する評価
講義への関心・意欲・態度：20%、課題：30%、定期試験：50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）小学校生活科で学習する内容の知識がある。
（B）小学校生活科で学習する内容の知識と行動することができる。
（A）小学校生活科で学習する内容の知識と行動することができ、教材開発ができる。
（S）小学校生活科で学習する内容の知識を関連問題を解き、行動することができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法
学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で児童と生活科との関係に思考する。日常生活で社会や天

気、動植物など絶えず「なぜなんだろう？」「これは何？」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍や web 等で調べ課題解決をすること。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	音楽科内容論							学 期	前期
副 題	児童の学習意欲を高める音楽教育				授業方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバリング	K1-20-040	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義を考えながら、そこで扱う音楽内容について理解を深め、音楽の指導ができるようになる。 授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の 1 曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。

授業の到達目標
小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義について、自分の意見を述べることができる。歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。即興的に伴奏を付けることができる。小学校・幼稚園・保育所において、発達段階に合った音楽の指導ができるようになる。

授業計画
1. 音楽科の目標と内容
2. 子どもの発達と音楽科教育について
3. 音楽と身体表現
4. わらべうた遊び
5. オルフ・シュールベルク 、コダーイ・システム
6. 歌唱（1）小学校歌唱共通教材
7. 歌唱（2）合唱
8. 器楽（1）リコーダー
9. 器楽（2）器楽合奏
10. 鑑賞
11. 音楽づくり（情報機器を使用した音楽づくり含む）
12. 様々な活動（まとめ）
13. 実技テスト（1） リコーダー
14. 実技テスト（2）弾き歌い、授業内確認テスト
15. 振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習）・時間
・授業内発表、グループワークでは、毎回の実践内容を振り返り、今後、どのような音楽的技量を身につける必要があるかを確認する。(90 分) ・課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表、ワークを踏まえ、内容について各自で整理する。 (90 分)

テキスト
「小学校学習指導要領(平成 29 年告示）解説」音楽編 平成 29 年 7 月 文部科学省

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価
提出物（40%） 授業内発表及び実技テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）就学前・小学校の音楽活動・授業の意義と内容について基本的に理解できる。
（B）基本的な理解に基づき、音楽の指導を考えることができる。
（A）指導に必要な実技（器楽・弾き歌い等）ができる。
（S）音楽の指導について、自分の意見に基づき、指導を工夫するとともに、それに必要な弾き歌い・即興的な演奏ができる。

課題に対するフィードバックの方法
各提出物については、当該翌週の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内の発表や、実技テストについては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
音楽の活動実践に関する個人の取り組み、グループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	図画工作科内容論							学 期	前期
副 題	小学校学習指導要領における図画工作科の指導において必要とされる知識及びその内容を理解する。				授業方法	演習	担当者	吉垣隆雄	
ナンバリング	K2-20-041	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
子どもの表現活動について成長の道筋を述べ、発達論的な理解を深め、幼児造形表現から小学校教育の教育の連続性を鑑み、小学校学習指導要領図画工作編に記述されている教科の目標と内容を理解するとともに授業における基礎技法習得や指導の実践力と評価を身につける。さらに学生自身が描くことや作ることに挑戦したり、相互に作品を鑑賞することで、図画工作の自由な発想を涵養し、楽しさや達成感を体験する。

授業の到達目標
・子どもの表現についての発達過程を学ぶことで、造形的表現と成長の理解ができるようになる。
・小学校学習指導要領「図画工作」のねらい及び内容を理解し、造形表現の指導目標を身に付ける。
・表現のための基礎的な技法を実践していくことで技法習得し、授業で実践できるようになる。

授業計画
1.『表現』とは何か。H.リードの「表現活動を通した教育」および子どもの表現についての発達過程を知る
2.幼児の「あそびと造形表現」、幼児教育における目標と内容を知る(幼稚園・こども園教育要領・保育所指針)
3.子どもの表現についての発達過程、
4.幼児造形教育から図画工作教育への連続性、学習指導要領とは何か？
5.図画工作のねらい（「A 表現」）
6.図画工作のねらい（「B 鑑賞」、共通事項について）
7.図画工作教育の目標と内容　材料をもとにした造形遊びをする活動（低学年）
8.図画工作教育の目標と内容　材料をもとにした造形遊びをする活動（中学年）
9.図画工作教育の目標と内容　材料をもとにした造形遊びをする活動（高学年）
10.「造形遊び」の実践と作品制作
11.学習計画の理解 題材とは？（教科書を使った題材の理解　（教科書の調査）
12.学習計画の理解 題材とは？（教科書を使った題材の理解　（調査内容の発表と意見交換）
13.指導計画とは何か？表したいことを絵や立体、工作に表す活動（教材研究・指導案作成）
14.図画工作における評価、評価の意義、評価活動の要点
15.図画工作の学習指導　学習指導案の作成、課題のまとめ

準備学習（予習・復習）・時間
・毎回の授業内容をふりかえり、テーマやキーワードと内容についての理解を深める。 ・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深めてみる。 ・課題制作の作品は必ず完成させ、必要に応じてレポートを提出する。※60 分以上取り組むこと。

テキスト
・小学校学習指導要領解説（図画工作）　・樋口一成『小学校図画工作の基礎』、萌文書林、2020 年（生協で購入）　・図画工作セット(水彩絵の具セット、スケッチブック、鉛筆、マーカー)（生協で購入）

参考書・参考資料等
主としてテキストを使用するが、内容・必要に応じて適宜プリント配布する

学生に対する評価
学習を反映させた作品（60%）、出席点・課題レポート・確認テスト（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たして成果物をまとめている
（B）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を用いて成果物をまとめている。
（A）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を応用して成果物をまとめている。
（S）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を発展的に成果物にまとめている。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・提出された成果物(課題作品・レポートなど)は評価し、返却を行う。
・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
・小テストを実施した際には、次の講義にて解説を実施する。

その他

・30 分を超える遅刻は欠席とみなす、また本授業では、遅刻３回で欠席１回とみなす。
・制作活動を中心にアクティブ・ラーニングの手法を用いる。
・制作に必要な画材用具(水彩絵具セット、マーカー、色鉛筆、のり、はさみなど)や各自で準備すべき材料は忘れずに持参する。
・課題作品は、授業でのポイントを抑えながら自身で工夫し、期日までに必ず仕上げて提出する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

大阪府公立中学校教員(美術科)及び大阪府公立学小校管理職教員を経て、短期大学教員(造形教育))、および現役学校教員に対する教員免許更新講習として教育経験を持つ教員が、その経験や指導を活かし図画工作科教育の基本的な知識と内容を講義し、手法についても具体的に用具を用いて指導にあたる。

科目名	家庭科内容論							学 期	前期
副 題	小学校家庭科に関する専門的な内容の理解				授業方法	演習	担当者	井出康子	
ナンバリング	K1-20-042	実務経験の有無	有	関連DP	1,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

小学校家庭科のねらいの趣旨を生かした授業をするためには、その背景となる専門的な知識や技術が必要である。家庭科の内容を支えている衣服、食物、住居等の各領域について、基礎的な知識を習得し、小学校家庭科の授業構成及び実践ができる能力をつけることを目標とする。

授業の到達目標

・小学校家庭科の各領域の内容について、実際の家庭科教科書（５・６年）を参照しながら、基礎知識と応用力を習得できる。
・各領域の基本的な考え方、内容の深め方、授業構成の仕方などを理解できる。

授業計画

1．小学校家庭科の理念・目的・学習内容。
2．家族・家庭生活−家庭生活と仕事
3．食生活－食事の役割
4．食生活－調理の基礎
5．食生活－栄養を考えた食事
6．食生活－米飯および味噌汁の調理
7．衣生活－衣服の働きと着用
8．衣生活－衣服の手入れ
9．衣生活－縫い方の基礎（手縫い、ミシン縫い）
10．衣生活－役立つ物の製作（手縫い）
11．住生活－住まい方の工夫
12．住生活－整理・整頓
13．消費生活
14．家庭生活と環境
15．家族・家庭生活−家族や近隣の人々との関わり

準備学習（予習・復習）・時間

授業後にテキスト・資料をもとに復習し確実な理解を図るとともに、自らの考えを小レポートにまとめること（60 分）、調理・被服製作に当たっては授業内での指示に従い、グループで話し合うなど準備を計画的に進めること（60 分）

テキスト

『小学校学習指導要領解説　家庭編』（文部科学省）
文部科学省検定済教科書小学校家庭科用『わたしたちの家庭科』開隆堂

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
『小学校家庭科教育法』大竹美登利他編著　建帛社

学生に対する評価

授業への積極的参加 50%、期末筆記試験 50%

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、課題に取り組めている。
（B）小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用して課題に取り組めている。
（A）小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用するとともに、自らの考えを持って工夫して課題に取り組めている。
（S）小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業の学びだけでなく自ら学びを深め考察したうえで工夫して課題に取り組めている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

授業内容に関するグループワークや実習等、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

科目名	体育科内容論							学 期	前期
副 題	小学校体育科の理解を深める				授業方法	演習	担当者	本山司	
ナンバリング	K2-20-043	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

体つくり運動系、器械運動系、陸上運動系、水泳運動系、ボール運動系、表現運動系、保健領域の特性を理解し、具体的な授業実践及び評価ができるようになる。(授業の概要)　小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法をについて理解を深める。 小学校体育科の内容は，運動領域と保健領域から構成されている。本授業では，新学習指導要領における体育科の目標及び内容について解説し理解を深める。また、運動領域、保健領域それぞれの内容を示し、体育授業の学習指導の展開の仕方について考える。

授業の到達目標

①小学校体育科教育の内容を理解できる。
②小学校体育科教育の学年別目標と指導内容の関係性について理解できる。
③体育科の内容に即した授業を実践するよう、知識や技術を身につけることができる。

授業計画

1.本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。シラバスに沿って講義の内容を説明する。
2.学習指導要領における小学校体育科の目標、内容、全体構造について
3.「体つくりの運動遊び」及び「体つくり運動」について
4.「器械・器具を使っての運動遊び」及び「器械運動」について
5.「走・跳の運動遊び」及び「走・跳の運動」について
6.「陸上運動」について
7.「水遊び」及び「水泳運動」について
8.「ゲーム」について
9.「ボール運動(ゴール型)」について
10.「ボール運動(ネット型)」について
11.「ボール運動(ベースボール型)」について
12.「表現リズム遊び」及び「表現運動」について
13.「保健(健康な生活、体の発育・発達)」
14.「保健(心の健康、けがの防止、病気の予防)」
15.まとめ及び体育科の評価の考え方

準備学習(予習・復習)・時間

・事前にシラバスを読み、授業計画の内容について事前学習を行うこと。(60 分)・学習した内容を踏まえて、ポイントを各自でまとめ、提出または授業実践ができるように準備しておくことす。(90 分)

テキスト

『初等体育科教育』吉田武男監修、岡出美則編著、ミネルヴァ書房 2018

参考書・参考資料等

小学校指導要領解説　体育編(平成 29 年度　文部科学省)

学生に対する評価

本試験 60%　レポート他の提出物 20%　実技テスト 20%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）小学校体育科教育における運動領域・保健領域、新学習指導要領の内容について理解することができる。
（B）授業内容の理解に基づき、各領域の指導法を考えることができる。
（A）学年別の目標と指導内容の関係性から教材づくりができる。
（S）体育科の内容に即した知識や技術を教材として表現し、指導につなげることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見、実技テストは講義内でフィードバックを行う。レポートや他の提出、試験等ついては次時にフィードバックを行う。

その他

毎回出席をとる。パワーポイント等 ICT 機器を使用して授業を行いつつ、実技等のアクティブ・ラーニングを組み合わせながら行う科目である。実技をする場合は必ず動ける服装、靴を準備すること。また天候により授業内容を変更する場合があり、学内メール等で連絡する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

中学校保健体育教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、現代の子どもたちの体力問題等にも着目しながら、実践に活かせる内容（教材）の提供をする。

科目名	初等英語科内容論							学 期	後期
副 題	初等英語教育における基本事項を学ぶ講義				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	K1-20-044	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校英語教育のねらいや内容等に関する基礎的な理解と、指導者としての英語能力を身につけることを目的とする。新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について講義する。英語教育に関する考え方や内容構成の考え方について理解するとともに、指導者としての英語能力の向上を目指す。

授業の到達目標
１．第二言語習得に関する基本的な事柄について理解できる。
２．新学習指導要領における外国語の改定趣旨と目標を理解できる。
３．初等英語科の内容・評価を理解でき、指導者としての英語能力を高めることができる。

授業計画
1.イントロダクション（講義のねらいと進め方、評価の仕方）
2.第二言語習得とは何か、脳科学と教育学の観点から
3.学習指導要領における４技能５領域についてと、最近の研究報告について
4.英語の音声（聞くこと・話すこと）について　ーweb 教材を使ってー
5.英語の文字（読むこと・書くこと）
6.英語の綴りと音声（フォニックスについて）
7.英米の児童文学（マザーグースや童話）について
8.異文化交流と言語コミュニケーションについて
9.国際理解と英語教育
10.バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーション
11.グループやペア等の学習形態とその効果について
12.英語教材の内容と構成
13.小学校における英語での発表について
14.グループ討論　小学校英語教育を考える
15.全体のまとめ　豊かな初等英語教育を目指して

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを予め読んでおき、専門用語を理解しておくこと。(90 分)　事後学習として授業の内容をまとめ、提出または発表ができるように準備をしておくこと。(90 分)

テキスト
金森強『小学校英語科教育法ー理論と実践ー』、成美堂、2019 年 配布プリント

参考書・参考資料等
『Let’s Try！１』(文部科学省)、『Let’s Try!2』(文部科学省)

学生に対する評価
毎時間の講義レポート(30%)、発表に対する評価(30%)、試験(40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）小学校英語教育に関する基礎的な用語を理解することができる。
（B）小学校英語教育に関する基礎的な用語を説明することができる。
（A）小学校英語教育の現状や課題について、論理的に自分の言葉で説明することができる。
（S）小学校英語教育の現状や課題を論理的に説明し、さらに英語で授業を行うための英語力を身につけることができる。

課題に対するフィードバックの方法
・講義についての質問は授業内、レポートや試験等の課題については次時にフィードバックを行う。

その他
・３０分以上の遅刻は欠席とみなす。
・本授業では遅刻３回で欠席１回とみなす。
・学生による模擬授業等のアクティブ・ラーニングや ICT 機器を取り入れた科目である。
・初等英語教育の実践等、内容により英語で講義を行う場面がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・先進的な初等英語教育を提供する私立小学校の英語科主任としての経験や指導技術を活かし、シラバスに沿って段階的に紹介する。そのため受講生には初等英語教育の理論と実践の両側面を連携させながら、講義を理解し、指導に必要な英語力も身につけることを期待している。

科目名	国語科指導法							学 期	前期
副 題	学習指導案の作成と模擬授業の演習				授業方法	講義	担当者	村尾聡	
ナンバリング	K2-20-045	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力を身につける。 国語科には「詩、物語、小説などの文学教材の指導」「伝統的な言語文化である俳句、短歌の指導」「説明文(論説文)の指導」「作文教育」「読書指導」などがある。講義の前半は教員自らが文学教材の指導、説明文の指導などについて具体的な授業を示し、後半は、学生自らが学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その中で実践的な指導力を身につける。

授業の到達目標
国語科教育の現状について基本的な知識を習得し、学習指導要領に示された国語教育の特徴や指導法について理解することができる。 教材の特質や学年の発達段階に即した「ねらい」(教授課題)をふまえ、教材を分析し、発問や板書計画を含む学習指導案を立案し、模擬授業ができる。

授業計画
1.国語科教育の目的および現状と課題
2.教材研究のしかた(詩教材)
3.教材研究のしかた(物語教材　低学年)
4.教材研究のしかた(物語教材　中・高学年)
5.教材研究のしかた(説明文教材　低学年)
6.教材研究のしかた(説明文教材　中・高学年)
7.書写(硬筆・毛筆指導)の指導内容
8.「伝統的な言語文化と国語の特質」の指導について
9.学習指導案の書き方と国語科の評価法
10.模擬授業と振り返り(詩教材)
11.模擬授業と振り返り（物語教材　低学年)
12.模擬授業と振り返り（物語教材　中・高学年)
13.模擬授業と振り返り(説明文教材　低学年)
14.模擬授業と振り返り(説明文教材　中・高学年)
15.ICT を取り入れた授業の構想

準備学習(予習・復習)・時間
教材分析のしかた（文学、説明文など）を復習し、学んだことをもとに授業計画や学習指導案を事前に作成する。60 分以上取り組むこと。

テキスト
『小学校学習指導要領』文部科学省　　講義時に適宜資料(テキスト)を配布

参考書・参考資料等
村尾聡『文学教育論―西郷文芸学の教育学的考察―』ブイツーソリューション、2014 年 斉藤鉄也『たぬきの糸車』新読書社、2016 年 奥葉子『おおきなかぶ』新読書社、2017 年　 辻恵子『一つの花』新読書社、2016 年

学生に対する評価
授業への積極的参加　30%　レポート　30%　定期試験　40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）講義で学習したことを最低限理解できている。
（B）講義で学習したことをもとに授業計画・学習指導案を作成できる。
（A）講義で学習したことをもとに自分なりの工夫した授業計画・学習指導案を作成できる。
（S）講義で学習したことをもとに自分なりの工夫した授業計画・学習指導案を作成し、模擬授業ができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎時間後、学習したことに関する小レポートを書かせ、次の講義時にフィードバックを行う。

その他
教材分析の仕方は、パワーポイント等 ICT 機器を用いて講義する。また、実際に学生が教材を分析した上で授業計画や学習指導案を作成し、模擬授業をする等のアクティブ・ラーニングの手法を用いる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について 25 年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	社会科指導法							学 期	前期
副 題	主体的で対話的な深い学びの指導法探究				授業方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバリング	K2-20-046	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

(テーマ) ・小学校社会科教育の理論の理解と体験活動を通して、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。(授業の概要) 本講義では、小学校の社会科における授業において、発問や教材などをどのように考えつくるのかを検討し、さらに、模擬授業を行うことにより、実践的な力量を習得すること目的とする。学習指導案の作成や、模擬授業の準備を丁寧に行うことにより、教材研究の意義について考察する。受講者が、授業時間外に教材作成のための準備や、模擬授業のための準備を行う必要がある。

授業の到達目標

1)小学校社会科教育の目標・内容・方法・評価について理解できる。
2)小学校社会科の授業を計画・実施することができる。
3)小学校社会科における授業づくりの基礎・基本を習得することができる。
4)小学校社会科の学習指導要領や、小学校社会科の授業内容について理解できる。
5)グループでの模擬授業などの演習を通して、実践的な場面を想定した小学校における社会科指導法の実践力を高めることができる。

授業計画

1.次期学習指導要領における社会科の目標
2.主体的で対話的な深い学びをつくるために
3.教材とは何かを考察する。ユニバーサルデザインを意識した授業づくり
4.学習指導案の作成について　グループを使った指導法①
5.情報機器の活用・いかし方(デジタル教科書、ダブレットなど)教材研究
6.すぐれた実践に学ぶ　見方・考え方を踏まえた授業と教材研究　グループを使った指導法②
7.模擬授業の実施と検討(1)-第3学年　「身近な地域」または「地域に見られる販売の仕事」
8.模擬授業の実施と検討(2)-第4学年　「都道府県の様子」または「自然災害から人々を守る」
9.模擬授業の実施と検討(3)-第5学年　「我が国の農業・水産業・工業」
10.模擬授業の実施と検討(4)-第5学年　「我が国の国土の様子と国民生活」
11.模擬授業の実施と検討(5)-第6学年　「我が国の政治の働き」
12.模擬授業の実施と検討(6)-第6学年　「我が国の歴史①　江戸時代終わりまで」
13.模擬授業の実施と検討(7)-第6学年　「我が国の歴史②　現代まで」
14.模擬授業の実施と検討(8)-第6学年　「グローバル化する世界と日本の役割」
15.学習評価(パフォーマンス評価等)、まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として，資料などを提示・配布するので，予習をしておくようにする (50分)。また，自分が担当する模擬授業の内容を教材研究し，資料，ワークシート，指導案を作成する。classroomに授業で使ったパワポ資料を掲載するので，授業後復習するようにする。

テキスト

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　社会編　日本文教出版（社会科内容論で使用したもの）

参考書・参考資料等

北俊夫他/新編　新しい社会3～6/東京書籍

学生に対する評価

レポート［作品も含む］(30%)、小テスト(20%)、模擬授業と指導案(30%)、ワークシートと積極的参加度(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）・学習内容を踏まえた授業展開を考え・作成することができる。
（B）・学習内容を踏まえた授業展開を考え・作成することができる。また，学習者の意欲・関心を意識した授業を展開することができる。
（A）・学習内容を踏まえた授業展開を考え・作成することができる。また，主体的で対話的な学びを意識して授業を展開することができる。
（S）・学習内容を踏まえ，見方・考え方を働かせる授業案を作成するとともに，資料の用意もできている。また，主体的で対話的な深い学びを意識し授業を展開することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出された課題に対しては，次につながるコメントを書き，フィードバックする。また，模擬授業に関しては，グループでの対話的な練り上げや振り返りをすることを行う。

その他

・現学習指導要領では，「主体的・対話的な深い学び」が求められている。特に，社会科はアクティブ・ラ

ーニングを取り入れた授業方法がこれまで多く取り入れられてきた。それを学ぶためにも，授業では，PBL，グループディスカッション，グループ内プレゼン，ゲームシュミレーションなど ICT 機器を用いた取り組み等も行う。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

・中学校教員及び小学校地域学校支援コーディネーターとして勤務経験を持つ教員が，教材開発をする視点や教材研究の仕方を具体的な授業実践から説明するとともに，授業経験を活かして，授業力向上の指導をしていく。

科目名	算数科指導法							学 期	後期
副 題	算数をどのように教えるか				授業方法	講義	担当者	東尾晃世	
ナンバリング	K3-20-047	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
算数科の目標，指導内容について理解し，授業づくり及び学習評価について学ぶ。発問，板書計画をふまえた学習指導案作成，授業実践を試み，それらを振り返ることを通して実践的指導力を身に付ける。情報機器についても指導案等で活用する。

授業の到達目標
小学校学習指導要領に示された算数科の目標，指導内容をふまえた授業づくり及び学習評価について理解できる。また，発問，板書計画をふまえた学習指導案の作成，授業実践を試み，授業記録を基に学習指導を振り返ることを通して実践的指導力を身に付けることができる。

授業計画
1.算数科の目標と学習評価について
2.問題解決学習における授業設計
3.学習指導案作成　導入・発問・授業設計
4.「数と計算」領域の指導立案，教材研究と指導法
5.「数と計算」領域の模擬授業
6.「図形」領域の指導立案・発問・授業設計
7.「図形」領域の模擬授業
8.「測定」領域の指導立案，教材研究と指導法
9.「測定」領域の模擬授業
10.「変化と関係」領域の指導立案，教材研究と指導法
11.「変化と関係」領域の模擬授業
12.「データの活用」領域の指導立案，教材研究と指導法
13.「データの活用」領域の模擬授業
14.ＩＣＴを活用した授業づくり
15.総括

準備学習（予習・復習）・時間
・課題について調べてまとめ，発表や討議を踏まえ内容について各自で整理する．(60 分)　・講義内容について，要点をまとめる．(60 分)

テキスト
文部科学省(2017),小学校学習指導要領解説算数編,日本文教出版

参考書・参考資料等
文部科学省(2017),小学校学習指導要領,東洋館出版 指導書小学校算数「授業力をみがく」指導ガイドブック　啓林館

学生に対する評価
レポート等７０％，授業への取り組み３０％

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）到達目標の内容を最低限満たしている．
（B）到達目標に照らし妥当であると認められる．
（A）到達目標を満たしつつ優れた成績であると認められる．
（S）到達目標を満たしながら特に優れた成績であると認められる．

課題に対するフィードバックの方法
レポートや発表等に対するフィードバックを適宜行う

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど，アクティブ・ラーニングの手法を用いる．また，メディア教材や ICT 教材を用いることがある．

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
教育現場での実務経験を生かして，算数科の指導方法に係る授業を行う．

科目名	理科指導法							学期	後期
副題	科学的な考えを持って講義を組み立てる方法とは				授業方法	講義	担当者	児島昌雄／柳原高文	
ナンバリング	K2-20-048	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

(テーマ)小学校理科授業に対する基本的な考え実践力を身に付けると共に、日常生活における科学的知識と応用が出来るようにする。
（授業の概要）1)小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。2)実際に観察・飼育・実験をすることで、学習指導要領に基づく小学校理科の内容と指導法について理解を深める。3)小学校理科で扱う内容の理解から、災害や小学校で起こりうる事故を科学的な考えで理解し、災害からの避難方法、事故防止に役立つ実践的に学ぶ。

授業の到達目標

1)小学校理科の目的・内容の理解の上で、理科の指導法について理解することができる。
2)小学校理科の授業を実践するための基礎的な知識・技能を習得できる。
3)科学的な知識を身につけ日常生活に応用できる。

授業計画

1.授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察
2.小学校学習指導要領に定められた小学校理科の目的・目標および内容 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：講義内容をふり返りまとめる
3.教科目標を達成するための指導法1 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
4.教科目標を達成するための指導法1 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
5.「エネルギー分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
6.「粒子分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
7.「生命分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
8.「地球分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる
9.昆虫採集と飼育 予習：身の回りで生息する昆虫を調べる 復習：昆虫の飼育方法を調べる
10.災害と科学・情報機器の利用法 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
11.指導案作成(情報機器の効果的な活用を含む) 予習：指導案の構想を練る 復習：指導案作成
12.指導案グループ論議(情報機器の効果的な活用を含む) 予習：指導案を確認する 復習：グループ討議から指導案の見直し
13.模擬授業1 予習：指導案を確認する 復習：模擬授業から指導案を見直し
14.小中連携を検討する 予習：小・中学校学習指導要領の内容の関連を調べる 復習：小学校理科の内容を整理する
15.初等理科の学習評価について 予習：指導要領の評価を確認する 復習：指導と評価について自分の意見をまとめる

準備学習（予習・復習）・時間

適宜指定した内容について、予習・復習ともに60分以上取り組むこと。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編」

参考書・参考資料等

「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集　改定2版」　松原静郎・岩間淳子(編)オーム社　2018年　2000円

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、指導案：20%、模擬授業：20%、定期試験：40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）小学校理科で学習する内容の知識がある。
（B）小学校理科で学習する内容の知識と関連問題を解くことができる。
（A）小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができる。
（S）小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で科学的（理科的）に思考する。天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう？」「これは何？」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍やweb等で調べ課題解決をすること。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。

科目名	生活科指導法							学 期	前期
副 題	児童が主体的に生活科に関わるための手法				授業方法	演習	担当者	柳原高文	
ナンバリング	K3-20-049	実務経験の有無	無	関連DP	1.2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
(テーマ)生活科の内容や構成、ねらいを理解した上で、アクティブ・ラーニング、幼・保・小の連携、地域の財をテーマとしてその目的と指導法について学ぶ。(授業の概要)　まちたんけんや野菜の栽培など実践的な体験を伴う学びをする。幼児教育から小学校への接続をスムーズにするために、発達段階に応じた幼児や児童の特性の理解など、実践例を示しながら講義を行い、指導案の作成、模擬授業などができるようにする。

授業の到達目標
1)様々な指導法について理解し、生活科への適用を考えることができる。
2)小学校低学年の特質について理解し、中高学年との違いを踏まえた指導計画、指導案を作成することができる。
3)地域を知ることで、地域の財を授業に取り込んだ指導ができる。
4)幼・保・小の連携を生活科の授業を利用して、計画・実施することができる。

授業計画
1.授業の進め方・評価方法、身の回りの自然観察
2.生活科とアクティブラーニングの関わりを知る　予習：情報を収集する　復習：授業の展開を考察する
3. 接続プログラムから幼・保・小の連携を考える　予習：情報を収集する　復習：授業の展開を考察する
4.生活科の目的を理解し、指導内容の年間計画を立てる　予習：学習指導要領解説生活編に目を通す　復習：年間指導計画を構想する
5.情報機器の使用方法、野菜の栽培、観察1　予習：情報を収集する　復習：野菜の栽培のお世話について考える
6.まちたんけん、野菜の栽培、観察2　予習：情報を収集する　復習：まちたんけんの情報を確認する
7.まちたんけん動画作成、野菜の栽培、観察3　予習：まちたんけん情報の確認　復習：動画発表の準備
8.まちたんけん動画発表、野菜の栽培、観察4　予習：動画の確認　復習：野菜の栽培、観察のまとめをする
9.野菜の収穫、観察のワークシート発表　予習：野菜の栽培、観察のワークシート確認　復習：収穫した野菜の調理と試食
10.野菜栽培を授業に活かす指導法をグループで討議　予習：ワークシートの確認　復習：野菜の栽培の授業の展開を構想する
11.児童の特性を知り、地域の財を教材にする　予習：情報を収集する　復習：地域の財の教材化を考察する
12.地域の財を使って指導案を作成する　予習：情報を収集する　復習：指導案作成
13.指導案をグループ討議(ICT利用)　予習：指導案確認　復習：グループ討議から指導案の見直し
14.模擬授業1　予習：指導案確認　復習：模擬授業から指導案の見直し
15.生活科の学習評価について　予習：学習指導要領を確認　復習：授業全体を振り返りまとめる

準備学習(予習・復習)・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに60分以上取り組むこと。

テキスト
文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編」(生協で購入)

参考書・参考資料等
必要に応じて指示する。

学生に対する評価
講義への関心・意欲・態度：20%、まちたんけん動画20%、野菜の栽培、観察ワークシート20%、指導案20%、模擬授業20%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 小学校生活科で学習する内容の知識がある。
(B) 小学校生活科で学習する内容の知識があり、主体的に行動することができる。
(A) 小学校生活科で学習する内容の知識があり、主体的に教材開発ができる。
(S) 小学校生活科で学習する内容の知識を関連問題を解き、行動することができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法
学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で児童と生活科との関係に思考でき、授業へと発展させ教材化できるように思考行動すること。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。

科目名	音楽科指導法							学期	前期
副　題	児童の学習意欲を高める音楽科指導法				授業方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバリング	K2-20-050	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本授業では、①「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。②音楽科の特性を理解し、子供の実態を視野に入れ、情報機器を活用した内容の音楽科学習指導案を作成する。③模擬授業ではアクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループ学習による多様な題材の授業の実践を行う。さらに授業後の総括・発表・討論を経て、音楽の授業に対する理解を深め、個人レポートを作成する。④クラス音楽会を組織・運営し、学校行事での音楽活動に参加するための基礎的能力を高める。

授業の到達目標
1)育成すべき資質・能力に対応した音楽科の授業を設計し、実践できるようになる。
2)「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容を理解し、音楽科の教材研究・指導法・評価に関する実践力を身に付けることができる。

授業計画
1.「小学校学習指導要領(音楽)」の理解1　音楽科の目標と各学年の指導内容
2.「小学校学習指導要領(音楽)」の理解2　歌唱共通教材と器楽の実践
3.「小学校学習指導要領(音楽)」の理解3　音楽づくりの実践と「共通事項」
4.音楽科学習指導案1　指導案の原理・形式と学習評価基準について
5.音楽科学習指導案2　指導案の作成(情報機器の効果的な活用を含む)
6.模擬授業の準備1　題材の選択と教材研究
7.模擬授業の準備2　模擬授業の指導案作成(情報機器の効果的な活用を含む)
8.模擬授業1　日本の伝統音楽・諸外国の音楽による授業の実践
9.模擬授業2　わらべうた・日本の民謡による授業の実践(情報機器の効果的な活用を含む)
10.模擬授業3　ポピュラー音楽・身体表現による授業の実践
11.模擬授業4　音楽づくり・手作り楽器による授業の実践
12.模擬授業の総括　全模擬授業の振り返りと学生による討論
13.二部合唱と指揮の実践(クラス音楽会で発表)
14.クラス音楽会の企画と準備
15.クラス音楽会の開催と総括

準備学習(予習・復習)・時間
・指導案、模擬授業の発表、グループワークでは、個々やグループで内容を振り返り、課題やその解決方法を探り、確認する。(90 分)　・課題について調べたこと、内容について各自で整理し、児童が主体的に取り組み、学びにつなげることを重視した指導案、模擬授業を作成する。(90 分)

テキスト
「小学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説」音楽編　平成 29 年 7 月　文部科学省

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価
模擬授業に関する総括レポート(40%)、模擬授業及び、授業内発表内容 (30%)、音楽科学習指導案の提出(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 小学校の音楽科授業の意義と目的等について基本的に理解できる。
(B) 基本的な理解に基づき、音楽科授業の教材と指導案について考えることができる。
(A) 音楽科授業の指導について、自分の意見を述べるとともに、模擬授業を組み立て、実践することができる。
(S) 音楽科授業の指導について、自分の意見に基づき、模擬授業と必要な技能について工夫をするとともに、実践することができる。

課題に対するフィードバックの方法
指導案については、当該翌週の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内の発表や、模擬授業については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
講義ではあるが、音楽の活動実践に関する個人の取り組み、グループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学

校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	図画工作科指導法							学 期	前期
副 題	図画工作科の指導において必要とされる知識及び指導法を理解し、実践していく能力を養う。				授業方法	演習	担当者	吉垣隆雄	
ナンバリング	K3-20-051	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
図画工作科は、自発的･自主的な表現及び鑑賞の活動を通してつくり出す喜びや価値を手にし、共有することのできる教科である。ここでは、学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を反映した資質・能力の育成を目指す指導の方法や様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成、技法習得や評価のあり方を交流・検討しながら学修する。併せて、児童の実態に応じた指導と支援を行うための学習指導案の作成･検討を通して、授業実践力を養う。

授業の到達目標
・小学校学習指導要領の図画工作のねらい・内容を踏まえた技法習得およびその指導法と評価法を学び、指導の実践力を養うことができる。
・指導方法に基づき指導計画案を立案・実施することにより授業実践できるようになる。

授業計画
1.「図画工作」のねらい及び内容の取扱い、特に造形の側面からを理解する
2.教育現場における造形表現の実際
3.幼小接続・学びの連続性における表現の発達を造形、図画工作の側面から理解する
4.身近な素材を用いた造形活動の製作
5.自然の素材を用いた造形活動の製作
6.素材を用いた造形活動を行う指導案の立案（情報機器の効果的な活用を含む）
7.素材を用いた造形活動を行う指導案のための教材研究
8.指導案の実施（模擬授業）（情報機器の効果的な活用を含む）
9.模擬授業の評価と改善（振り返り）
10.造形活動に用いる様々な技法
11.描画活動における授業者の視点
12.造形技法を楽しむ指導案の立案
13.造形技法を楽しむ指導案ための教材研究
14.指導案の実施（模擬授業）（情報機器の効果的な活用を含む）
15.模擬授業の評価と改善（振り返り）と学習評価について

準備学習（予習･復習）･時間
・毎回の授業内容をふりかえり、テーマやキーワードと内容についての理解を深める。
・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深めてみる。
・課題制作の作品は必ず完成させ、必要に応じてレポートを提出する。※60 分以上取り組むこと。

テキスト
・小学校学習指導要領解説（図画工作）　・樋口一成『小学校図画工作の基礎』、萌文書林、2020 年（「図画工作内容論」で使用）　・図画工作セット(水彩絵の具セット、スケッチブック、鉛筆、マーカー)（「図画工作内容論」で使用）

参考書･参考資料等
主としてテキストを使用するが、内容・必要に応じて適宜プリント配布する

学生に対する評価
学習を反映させた作品（60%）、出席点・課題レポート・確認テスト（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たして成果物をまとめている
（B）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を用いて成果物をまとめている。
（A）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を応用して成果物をまとめている。
（S）課題の条件（知識・技能・造形的思考）を満たし、自らの課題意識を発展的に成果物にまとめている。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・提出された成果物(課題作品・レポートなど)は評価し、返却を行う。
・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
・小テストを実施した際には、次の講義にて解説を実施する。

その他
・３０分を超える遅刻は欠席とみなす。また本授業では欠席１回とみなす。
・制作活動を中心にアクティブ・ラーニングの手法を用いる。

・制作に必要な画材用具(水彩絵具セット、マーカー、色鉛筆、のり、はさみ など)や各自で準備すべき材料は忘れずに持参する。
・課題作品は、授業でのポイントを抑えながら自身で工夫し、期日までに必ず仕上げて提出する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

大阪府公立中学校教員(美術科)及び大阪府公立学小校管理職教員を経て、短期大学教員(造形教育)、および現役学校教員に対する教員免許更新講習として教育経験を持つ教員が、その経験や指導を活かし図画工作科教育の基本的な知識と内容を講義し、手法についても具体的に用具を用いて指導にあたる。

科目名	家庭科指導法							学 期	前期
副 題	小学校家庭科の授業構成力及び指導力の育成				授業方法	演習	担当者	井出康子	
ナンバリング	K3-20-052	実務経験の有無	有	関連DP	1,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
家庭科で学ぶ子どもの姿と教師のかかわり方をイメージした上で、小学校家庭科が目指す学習内容や、指導計画、指導法や評価などの基本事項を習得する。これらを活かして児童や地域の実態にあった授業の設計を行い、学習指導案の作成や模擬授業など、具体的・実践的な家庭科指導の在り方について学習する。

授業の到達目標
・小学校家庭科で習得させる事項について理解することができる。
・小学校家庭科の学習指導に必要な知識・技能、指導方法、評価、年間計画などの基本を理解することができる。
・学習指導案の作成を通して、授業の構想と立案について理解することができる。
・模擬授業の実施と総合評価の実施によって、授業力を身に付けることができる。
・児童や地域の実情を考慮し、生活課題に向き合えるような授業を提案することができる。

授業計画
1．小学校家庭科の歩みとねらい
2．家庭科の目標と内容
3．家庭科の学習指導・評価のあり方
4．指導と評価の計画
5．授業づくりの工夫(情報機器を活用した授業実践動画の視聴他)
6．学習指導案の書き方
7．学習指導案の作成(個人)
8．学習指導案の修正(個人)
9．模擬授業の検討(グループ) - 指導案の比較検討 -
10. 模擬授業の検討(グループ) - 教材作成・情報機器の活用 -
11. 模擬授業の検討(グループ) - プレ実施・グループ討議 -
12. 模擬授業 - 食分野 -
13. 模擬授業 - 衣・住分野 -
14. 模擬授業 - 家族・消費環境分野 -
15. 模擬授業の評価とまとめ

準備学習(予習・復習)・時間
授業後にテキスト・資料をもとに復習し確実な理解を図るとともに、自らの考えを小レポートにまとめること（60 分）指導案作成に当たっては授業内での指示に従い、グループで話し合うなど準備を計画的に進め模擬授業へとつなげること（60 分）

テキスト
『小学校学習指導要領解説　家庭編』(文部科学省)
文部科学省検定済教科書小学校家庭科用『わたしたちの家庭科』開隆堂

参考書・参考資料等
『小学校学習指導要領』(平成 29 年 3 月告示　文部科学省)
『小学校家庭科教育法』大竹美登利他編著　建帛社

学生に対する評価
授業への積極的参加 30%、成果発表 40%、学期末レポート 30%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）小学校家庭科で習得させる事項及び、学習指導に必要な基本事項を理解し、指導案の作成や模擬授業に取り組めている。
（B）小学校家庭科で習得させる事項及び、学習指導に必要な基本事項を理解し、指導案の作成や模擬授業、総合評価の実施に取り組めている。
（A）小学校家庭科で習得させる事項及び、学習指導に必要な基本事項を理解するとともに、児童や地域の生活課題を踏まえた指導案の作成や模擬授業、総合評価に取り組めている。
（S）小学校家庭科で習得させる事項、学習指導に必要な基本事項を理解するとともに、児童や地域の生活課題等を踏まえ自ら工夫して指導案や模擬授業、総合評価に取り組めている。

課題に対するフィードバックの方法

その他
授業内容に関するグループワークや実習等、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

科目名	体育科指導法							学 期	前期
副 題	体育科の指導方法を修得する				授業方法	演習	担当者	本山司	
ナンバリング	K3-20-053	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
(テーマ)小学校体育科の目的・目標・内容、学習の指導方法・過程などの理論と実際について、指導案作成及び模擬授業を通して、授業運営を行う方法を身に付ける。(授業の概要) 小学校体育科の目的・目標・内容、学習の指導方法・集団・形態・過程などの理論と実際について、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。 小学校体育実技種目は，体つくり運動，器械運動，陸上運動，水泳運動，ゲーム，ボール運動，表現運動などがあげられる。本授業では，体育科内容論で習得した知識をもとに，各種目の学習指導計画を作成し，技能習得のための理解と実践を行い，教材研究及び授業展開の実際を検証する。

授業の到達目標
①小学校体育科教育の目的を理解できる。
②小学校体育科教育の諸理論や実践方法を学び、初等体育科教育における自分自身の考えを深めることができる。
③小学校体育科の指導計画、授業実践及び授業評価を展開するための、知識や技術を身につけることができる。

授業計画
1.本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。シラバスに沿って講義の内容を説明する。
2.体育科の指導計画(年間計画、単元計画、単元時間計画)子供の認識・思考と授業設計
3.体育科の学習指導内容について
4.体育科の教材研究について
5.体育の技術指導の方法(授業を行う場所の設定、授業実践の基礎基本)について
6.体育の技術指導の方法(問題解決型学習・個別学習と集団学習)について
7.体育授業で使用する用具や場所等について
8.小学校体育における保健の授業の目的・内容・方法について
9.指導案の作成について
10.模擬授業(低学年)
11.模擬授業(中学年)
12.模擬授業(高学年)
13.模擬授業(保健)
14.体育や保健における学力のとらえ方と学習評価について
15.体育科の学習のまとめを ICT を用いて発表する。

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、次時の内容にあたる部分の該当ページを予め読んでおく、指導案作成、模擬授業の教材づくり等を行う。(90 分)
・事後学習として、授業内容の整理を行い、指導案と授業展開に活かせるように復習する。(90 分)

テキスト
『初等体育科教育』吉田武男監修、岡出美則編著、ミネルヴァ書房 2018（生協で購入）

参考書・参考資料等
小学校指導要領解説　体育編(平成 29 年度　文部科学省)

学生に対する評価
授業への積極的参加（30%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、学期末レポート（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）小学校体育科の授業内容や方法を理解することができる。
（B）体育科内容論で習得した知識や本講義で学習した内容をもとに，学習指導計画・学習指導案を作成することができる。
（A）体育科内容論で習得した知識や本講義で学習した内容をもとに，自身の工夫を取り入れて学習指導計画・学習指導案として作成することができる。
（S）体育科内容論で習得した知識や本講義で学習した内容をもとに，自身の工夫を取り入れて学習指導計画・学習指導案として作成し、授業展開することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については授業内、学習指導案と模擬授業は授業内、内容によっては次時にフィードバックを行う。学期末レポートは後日コメント書いて返却する。

その他
毎回出席をとる。体育実技を実施する授業、体育領域の模擬授業等アクティブ・ラーニングを実施する場合は必ず動ける服装、靴を準備すること。また天候により授業内容を変更する場合があり、学内メール等

で連絡する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

中学校保健体育教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、現代の子どもたちの体力問題等にも着目しながら実践に活かせる指導方法を提供する。

科目名	初等英語科指導法							学 期	後期
副 題	初等英語の理論と実践をより深く学ぶ				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	K2-20-054	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校外国語活動・外国語科の指導に必要な理論と実践的な指導法を学び、教育現場で実践できるようにすることが目的の講座である。 講義では学習指導要領にある小学校外国語教育の特徴を捉え、学習者の年齢を考慮した指導のあり方や指導技術、授業計画の組み立て方、学習指導案の書き方も学び、学生は英語で模擬講義も行う。

授業の到達目標
1. 小学校学習指導要領における外国語活動・外国語科に関する内容を理解することができる。
2. 学習指導案を作成することができる。
3. 基礎・基本を踏まえた授業指導を行うことができる。

授業計画
1.授業オリエンテーション(本講義の内容とねらいの確認)
2.小学校における外国語活動・外国語科の授業の現状
3.第二言語習得に関する基本的な理論について
4.小学校での英語教授法と指導法はどのように行われているか
5.小学校現場でのグループ活動とロールプレイの観察
6.グループでの発表と討論
7.情報伝達技術(ICT)を利用した授業展開
8.ティーム・ティーチングの理念と定義、効果的な指導方法
9.学習指導要領におけるリーディング、ライティングの指導
10.学習指導要領におけるリスニング、スピーキングの指導
11.学習指導要領に基づいた異文化理解とコミュニュケーション指導
12.パフォーマンス評価とポートフォリオ評価
13.指導案の授業方法を意識して作成する
14.指導案の合評会
15.まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、テキストの該当ページを予め読んでおき、専門用語と内容を理解しておくこと。(90 分)。
事後学習として授業の内容をまとめ、提出または発表ができるようにまとめておくこと。(90 分)

テキスト
望月昭彦編著 (2018) .『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第 3 版』大修館書店 『Here We Go! 5 [令和 5 年度] (文部科学省検定済教科書 小学校外国語科用) 』光村図書出版

参考書・参考資料等
文部科学省 (2017).『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』文部科学省. 白畑知彦・冨田祐一・村野日仁・若林茂則著 (2019) .『英語教育用語辞典第 3 版』大修館書店.

学生に対する評価
毎時間の講義終了後のレポート(30%)、課題や発表に対する評価(30%)、 試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 初等英語教育に関する基礎的な用語や指導法を理解することができる。
(B) 初等英語教育に関する基礎的な用語や指導法を説明することができる。
(A) 初等英語教育の現状や課題について、論理的に自分の言葉で説明することができる。
(S) 初等英語教育の現状や課題を論理的に説明し、さらに英語で授業を行うための英語力を身につけることができる。

課題に対するフィードバックの方法
・講義についての質問は授業内に、レポートや試験等の課題については次時にフィードバックを行う。

その他
・本授業では２０分以上の遅刻は欠席とみなす。
・本授業では遅刻３回で欠席１回とみなす。
・学生による模擬授業等のアクティブ・ラーニングや ICT 機器を取り入れた科目である。
・初等英語教育の実践等、内容により英語で講義を行う場面がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・先進的な初等英語教育を提供する私立小学校の英語科主任としての経験や指導技術を活かし、シラバスに沿って段階的に実践的な英語教育の指導技術を紹介する。そのため受講生には講義の理解と模擬授業を

含む課題発表を連携させながら、指導に必要な英語力の習得も目指す講座である。

科目名	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）							学 期	集中
副 題	子どもの研究を踏まえた楽しい教材の開発				授業方法	講義	担当者	笠潤平	
ナンバリング	K2-20-055	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義は、小学校のアクティブ・ラーイング的な授業運営と創造的な教材開発について理解を深めることを目的とする。取り上げる例としては、理科分野における、①仮説実験授業、②児童の認知的発達の促進を目指す英国の授業プログラムの討を中心とする。その際、座学中心ではなく、ア）講師による模擬授業への参加と教材分析、イ）出版されている授業記録・授業報告の分析、ウ）受講者による模擬授業の実施と振り返りの討論などの能動的な活動を通じて、この目的を達成する。また、社会科等の教材例なども含める予定である。

授業の到達目標
受講者は、
・小学校の授業の目標と授業運営・教材の用い方について基本的な理解を得る
・「仮説実験授業」の思想、授業構造と運営、教材の特徴について理解する
・英国の認知的能力の発達の促進を目指す授業の思想、授業構造と運営、教材の特徴について理解する
・授業の設計・運営、教材の開発について基本的な理解を得る

授業計画
1．講義の主旨の紹介：授業の目標、構成、教材などについての導入
2．講師による模擬授業の受講・観察：理科の探究型の授業（例：「仮説実験授業」）
3．前時の受講・観察にもとづく「仮説実験授業」の構造と授業書の役割の分析
4．講師による模擬授業の受講・観察と集団的な分析：社会科の「仮説実験授業」の例
5．講師による模擬授業の受講・観察と分析：英国の児童の認知的発達を促す授業プログラムとその教材について
6．講義：英国の児童の認知的発達を促す授業プログラムとその教材の開発の思想と背景
7．与えられた授業案と教材の受講者の各班による検討と授業準備
8．受講者の各班による模擬授業の実施：A,B,グループ
9．受講者の各班による模擬授業の実施：C,D,グループ
10．受講者の各班による模擬授業の実施：E,F,グループ
11．第 8 回から第 10 回までの模擬授業のまとめ
12．各班によるマイクロ授業とその教材開発の計画および準備
13．各班によるマイクロ授業の実施とその教材開発についての発表：A~C グループ
14．各班によるマイクロ授業の実施とその教材開発についての発表：D~F グループ
15．本講義全体の振り返り：最終レポート課題の提示

準備学習（予習・復習）・時間
①事前学修として指定された論文を読むこと、②事前学修として、課せられた模擬授業の練習を班と共同で行うこと、③事前学修として、班ごとの発表の準備をすること、④事後学修として、授業の内容を振り返り、課せられたミニレポート課題に答えること。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト
笠潤平、イギリス科学教育の豊かな可能性、岡本正志編著『今こそ教育！』、 ミネルヴァ書房、第 9 章、2021　その他は必要なプリントを講師が用意し配布

参考書・参考資料等
小学校学習指導要領、2017, 幼稚園学習指導要領、2017 板倉聖宣『仮説実験授業の ABC・第 5 版』、仮説社、2011　他は授業中に紹介する

学生に対する評価
授業中の提出物（３０％）、授業中の実習課題のパフォーマンス（３０％）、授業中の発言による議論への貢献（１０％），最終レポート課題（３０％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）本講義で取り上げられた授業の少なくとも一つについてその思想、授業運営、教材の特徴のおおよその理解を示している
（B）本講義で取り上げられた授業の少なくとも一つについてその思想、授業運営、教材の特徴の適切な理解を示している
（A）本講義で取り上げられたいずれの授業についてもその思想、授業運営、教材の特徴の適切な理解を示し、自らの授業観をのべることができている
（S）本講義で取り上げられたいずれの授業についてもその思想、授業運営、教材の特徴の優れた理解を示し、自らの授業観を適切にのべることができている

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出されたミニレポートに見られる主要

な意見については次回授業時に討議すべき話題として取り上げる。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

グループワーク、学生によるプレゼンテーション、実験実習、学生による模擬授業の実習、ディスカッションをともなう科目である。
一部、新型コロナ感染症のまん延の状況によって、遠隔授業（オンライン同期型授業およびオンデマンド型）とする場合がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

講師は、高校および中学校教員として理科の授業を担当した豊富な経験を持ち、その経験を活かして、学校教育現場および児童・生徒の実態に即した現場で役立つ学修経験の場を保障する。

科目名	授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）							学期	集中
副　題	自然科学を五感を使って体験する				授業方法	講義	担当者	児島昌雄／柳原高文	
ナンバリング	K2-17-056	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校理科における実験・観察の基本的な考え方・技能を身につけるとともに、事故や災害について科学的視点で思考する。（授業の概要）実験・観察の目的・方法、および理科実験を授業にどう位置付けるかを解説した上で、理科授業にある実験や観察を実際に体験し基礎的な技能を習得する。その上で、理科実験や観察の教材開発ができる実践力を身に付ける。

授業の到達目標
1）理科授業における実験・観察の目的・方法を理解することができる。
2）実験・観察の基礎的な技能を習得することができる。
3）実験器具・薬品を安全に使う知識・技能を習得できる。
4）実験や観察を工夫して授業に取り入れることができる。

授業計画
【前期】
1. 授業の進め方、理科授業における実験・観察の目的、評価方法
2. 小実験・観察の方法、実験器具・薬品の安全な扱い方、情報機器を授業に活かす手法　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
3. 身の回りの自然の観察とスケッチ方法　予習:講義内容の情報を調べる　復習：講義内容をふり返りまとめる
4. 実験演習(1)「物質・エネルギー」分野‥物の重さ・温度による変化など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
5. 実験演習(2)「物質・エネルギー」分野‥磁石・電気など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
6. 実験演習(3)「物質・エネルギー」分野‥‥燃焼・水溶液など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
7. 実験演習(4)「生命・地球」分野」分野‥‥気象など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
8. 実験演習(5)「生命・地球」分野」分野‥‥地震・火山など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
9. 実験演習(6)「生命・地球」分野」分野‥‥月・太陽など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
10. 野外観察演習「生命」分野‥‥動植物など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
11. 野外観察演習「生命」分野‥‥人体・環境など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
12. 野外観察演習「地球」分野‥‥天気・地層など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
13. 野外観察演習「地球」分野‥‥‥月・太陽など　予習：講義内容を教科書で確認する　復習：講義内容をふり返りまとめる
14. 実験・観察結果の表現と、教材開発(グループ討議)　予習：指導案の構想を練る　復習：指導案作成
15. 発表

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト
講義内容に合致する情報をまとめたレジュメ資料を毎回配付する。

参考書・参考資料等
『理科の実験安全マニュアル』（東京書籍）

学生に対する評価
講義への関心・意欲・態度：20%、レポートなどの提出物：40%、指導案：40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）小学校理科で学習する内容の知識がある。
（B）小学校理科で学習する内容の知識と関連した実験を行うことができる。
（A）小学校理科で学習する内容の知識を基に実験を行い、教材開発ができる。
（S）小学校理科で学習する内容の知識を基に実験を行い、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で科学的（理科的）に思考する。天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう？」「これは何？」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に可能な限り体験を行い書籍や web 等で調べ課題解決をすること。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関するフィールドワークなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	音楽Ⅰ(表現技法)							学期	後期
副 題	豊かな音楽表現力のための理論と実践				授業方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバリング	K1-17-057	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
小学校・幼稚園・保育所おいて子供たちと接するとき、音楽は欠かせないものである。 音楽を通して子供たちと楽しい時間を共有するためには、然るべき音楽能力が必要となってくる。実際に歌い、ピアノを弾くという実践を通じて、音楽の基礎を身につける。 音楽Ⅰ(表現技法)では音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。声楽分野では発声法を基礎から学び、練習曲や唱歌を用いて楽譜を読んで歌うことに慣れ、また、簡単な二声の合唱曲に取りくむ。ピアノでは各自の能力に合わせて、練習曲などの演奏に取り組む。

授業の到達目標
音楽理論：基礎的な楽典知識を身につけ、楽譜を正確に読むことができる。 声楽：正しい発声法および正確な音程で歌うことができる。 ピアノ：ごく簡単なピアノ曲を初見演奏できる。

授業計画
1.発声法１／ピアノ演奏の基礎
2.発声法２／ピアノ課題曲１
3.発声法３／ピアノ課題曲２
4.歌唱１/ピアノ課題曲３
5.歌唱２/ピアノ課題曲４
6.歌唱３/ピアノ課題曲５
7.歌唱４/ピアノ課題曲６
8.歌唱／ピアノ小テスト１
9.歌唱５／課題曲７
10.歌唱６／課題曲８
11.歌唱７／課題曲９
12.歌唱８／課題曲１０
13.歌唱９／課題曲１１
14.歌唱１０／課題曲１２
15.歌唱小テスト２／ピアノ小テスト２

準備学習(予習・復習)・時間
ピアノや声楽の演奏技術上達のためには、日々の練習は欠かせない。
・事前学修として、次回の課題曲の譜読みをする（40 分)。
・事前学修として、次回の課題曲を毎日練習すること（140 分)。

テキスト
バーナムピアノテクニック１（音楽之友社） バイエルピアノ教則本（全音出版）

参考書・参考資料等
マイ・レパートリー（ヤマハミュージック）

学生に対する評価
授業への取り組み（30%)、ピアノ小テスト（35%)、 歌唱小テスト（35%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）楽譜を理解し、ごく簡単なピアノの曲が弾け、正しい音程で歌える。
（B）楽譜を理解し、簡単なピアノの曲が弾け、正しい音程で歌える。
（A）音楽理論を理解し、簡単なピアノ曲を正しく弾け、良い発声法で歌える。
（S）楽譜を読む力があり、簡単なピアノ曲や簡単な唱歌を、音楽性豊かに演奏できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックは、毎回の授業でおこなう。

その他
ピアノおよび歌唱の練習を毎日すること。授業では、実際に演奏する形でアクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、ICT 教材を用いて技術的な指導を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
合唱指導とピアノの個人レッスンの実務経験を生かして、学生の個人個人の能力に合わせて教育指導する。

科目名	音楽Ⅱ（表現技法）							学 期	後期
副 題	豊かな音楽表現力のための理論と実践				授業方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバリング	K2-21-058	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
小学校・幼稚園・保育所おいて子供たちと接するとき、音楽は欠かせないものであるが、音楽を通して子供たちと楽しい時間を共有するためには、然るべき音楽能力が必要となってくる。実際に歌い、ピアノを弾くという実践を通じ、音楽の基礎・応用・表現力を身につける。 音楽Ⅱ(表現技法)では、音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎から応用を学ぶ。 声楽では発声法の基礎から学び、練習曲や唱歌を用いて歌唱技術を向上させる。 ピアノでは各自の能力に合わせて、ピアノ演奏における表現力を培う。

授業の到達目標
音楽理論：基礎的な楽典知識を有し、楽譜を正確に読むことができる。
声楽：正しい発声法および正確な音程で、表現力豊かに歌うことができる。
ピアノ：簡単なピアノ曲を初見演奏できる。

授業計画
１.発声法の復習１／課題曲１
２.発声法の復習２／課題曲２
３.発声法の復習３／課題曲３
４.歌唱１／課題曲４
５.歌唱２／課題曲５
６.歌唱３／課題曲６
７.歌唱４／課題曲７
８.歌唱小テスト１／ピアノ小テスト１
９.合唱１　　／課題曲８
10.合唱２　　／課題曲９
11.合唱３　　／課題曲１０
12.合唱４　　／課題曲１１
13.合唱５　　／課題曲１２
14.合唱６　　／課題曲１３
15.合唱学内発表会／ピアノ小テスト２

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト
バーナムピアノテクニック１（音楽之友社） バイエルピアノ教則本（全音出版） ブルグミューラー24 練習曲（全音出版）

参考書・参考資料等
マイ・レパートリー（ヤマハミュージック）「学習指導要領解説　音楽」文部科学省(29)

学生に対する評価
授業への取り組み（３０％）、ピアノ小テスト（３５％）、 歌唱小テストおよび学内発表会での実践（３５％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）音楽理論を理解し、簡単なピアノ曲が弾け、正しい音程で歌える。
（B）音楽理論を理解し、簡単なピアノ曲や簡単な唱歌を、音楽性豊かに演奏できる。
（A）楽譜を読む力があり、簡単なピアノ曲や簡単な唱歌を、音楽性豊かに演奏できる。
（S）ピアノ演奏や歌唱によって、音楽の楽しみを豊かに表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックは、毎回の授業でおこなう。

その他
ピアノおよび歌唱の練習を毎日すること。授業では、実際に演奏する形でアクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、ICT 教材を用いて技術的な指導を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
合唱指導とピアノの個人レッスンの実務経験を生かして、学生の個人個人の能力に合わせて教育指導する。

科目名	幼児と健康							学 期	後期
副 題	乳幼児期の健康と生活習慣について学ぶ				授業方法	演習	担当者	本山司	
ナンバリング	K1-21-059	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
健康の概念を明らかにし，乳幼児期の健康について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」に基づき，意義とねらい，内容を理解する。また幼児期に，生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身につけることの大切さを理解する。

授業の到達目標
幼児期の健康について，運動遊びや運動指針を深く理解し，現在の子どもを取り巻く生活習慣と健康課題について深く理解することができる。

授業計画
1.オリエンテーション　授業の進め方，成績評価の説明
2.幼児の「健康」についての目的と内容の理解
3.幼児の体と発育・発達と現在の健康課題について
4.幼児の心の発達及び生活習慣について
5.幼児の身体の発達と運動能力について（健康なこころと体を育む保育）
6.幼児の身体の発達と運動能力について（幼児の動機付けや意欲）
7.幼児の身体の発達と運動能力について（幼児理解と保育の視点）
8.幼児の安全について
9.幼児の病気(含感染症等)・ケガについて
10.保育現場における応急処置の基礎及び病気の予防
11.0～2 歳児の生活について
12.0～2 歳児の動作について
13.3～5 歳児の生活について
14.3～5 歳児の動作について
15.まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
・事前にシラバスを読み、授業計画の内容について事前学習を行なっておくこと。(60 分)・学習した内容を踏まえて、ポイントを各自で整理すること。(60 分)

テキスト
平成 29 年告示「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド本社　定価 550 円)

参考書・参考資料等
適宜プリント等配布

学生に対する評価
授業の積極的な参加(20%)、授業への取り組み方（姿勢，態度）(20%) レポート提出(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）学習内容を理解することができる。
（B）グループ学習等の活動を通して主体的に行動することができる。
（A）現在の幼児の健康課題について説明することができる。
（S）幼児が健康を獲得するための方法を提案することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他
毎回出席をとる。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、テーマに基づいた調べ学修など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	幼児と人間関係							学 期	集中
副 題					授業方法	演習	担当者	幸田瑞穂	
ナンバリング	K1-21-060	実務経験の有無	有	関連DP	1.2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

人との関わりに関する領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、幼児期の人間関係の発達や特性や子どもの人間関係にかかわる現代社会の状況をふまえ、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うための幼稚園教育内容及び援助について理解する。 本講義では、幼児期の人間関係の意味や発達に関する諸理論を理解し、教育内容の構成について学ぶ。具体的には、まず、領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱いについて学ぶ。その際、子どもを取り巻く社会の状況（縮小する家族、母親の就労、変化する生活環境など）を踏まえて理解できるようにする。次に、それぞれの年齢での子どもの発達がどのようなものか、教師・保育者はどのように一人ひとりに関わって人との関わりを促していけばいいのかを学習していく。さらに、自立心、共感力、道徳性・規範意識、コミュニケーション能力などを育成するために、どのような支援をしていけばいいのかを、事例を使って、具体的に考えていけるようにする。最後に、人間関係の育ちを育む環境づくりについて考察できるようにする。

授業の到達目標

1）領域「人間関係」のねらいおよび内容について理解できる。
2）子どもを取りまく状況に関心を持ち、改善の方策を考察できる。
3）幼児期の人間関係の発達の特性を理解し、教育内容および方法を考察できる。
4）自立心、共感力、道徳・規範意識、コミュニケーション能力を培う指導・援助方法及び気になる子どもへの支援方法を考察できる。
5）子どもたちを取り巻く人間関係を豊かにするため、家庭や地域社会との連携を深める大切さを理解できる。

授業計画

【前期】

1. 領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱い
2. 子どもを取り巻く社会の状況について
3. 「非認知能力」とは何か。マシュマロテストから考える
4. 3歳児の遊びと人間関係、子どもの考えの広がり
5. 4歳児の遊びと人間関係　生活を通して学ぶ
6. 5 歳児の遊びと人間関係　5 歳という立場とその発達
7. 子どもの自立心をどう育むか。自立心につながる絵本教材の活用
8. 子どもたちのいざこざ・けんかなどのトラブル事例研究を通して学ぶ①
9. 子どもの遊びや生活に見られる共感や思いやりとは。事例研究を通して学ぶ②
10. 幼児期に育てたい道徳性・規範意識の芽生え、ルールやマナーとの関連性に視点をおいて：事例研究を通して学ぶ③
11. 個と集団の育ち、幼稚園における評価の考え方
12. コミュニケーションの理論とコミュニケーション能力を育むための関わりについて
13. 気になる子どもとのかかわり、多様な文化的背景に対応できるかかわり方の理解
14. 子どもを取り巻く人間関係　保護者との信頼関係づくり、同僚との関係、チーム力、子育て支援ネットワークの広がり
15. 幼保小の連携、まとめ

【後期】

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間

各授業までに保育所保育指針と幼稚園教育要領等の人間関係の項目や指示した資料について読んでおくこと。 また授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること(60 分)

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

レポート(40%)、小テスト(20%)、発表(10%)、授業でのワークシート記述(20%)と積極的参加度(10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）乳幼児期の発達と人間関係の繋がりが理解できている。
（B）幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。
（A）子どもたちの仲間関係や、保育者・地域の人々との人間関係を育てる保育実践について具体的な場面から構想できる。
（S）領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を理解し、具体的な指導場面を想定しつつ保育を構想していく力がある。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・提出された課題やレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

・公立幼稚園教諭として 12 年間の勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、理論のみならず保育現場の実際や子どもたちの姿、保育者のあり方など具体的な実践事例をふまえ指導する。

科目名	幼児と環境							学 期	後期
副 題	自然との関わりを五感を使って理解する				授業方法	演習	担当者	児島昌雄／柳原高文	
ナンバリング	K2-17-061	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
(テーマ)領域(環境)のねらいと内容について理解し、幼児と身近な環境との関わりの意義や自然認識の発達について学ぶ。(授業の概要) 幼児は、人や社会、自然など様々な環境に取り巻かれて育つことから、幼児の思考、自然認識の発達や、幼児と環境との関わりの意義、現代的な課題などについて学ぶ。

授業の到達目標
１）幼稚園教育要領における保育内容(環境)のねらいと内容を理解し、説明できる。
２）身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、幼児と環境との関わりの意義や、自然認識の発達について理解することができる。
３）幼児の生活における小量・図形や、施設等の関わりについて、その意義や発達について理解することができる。

授業計画
1.授業の進め方、評価方法、保育内容領域(環境)の全体構造
2.保育内容領域(環境)のねらいと内容 予習：講義内容の幼稚園教育要領解説に目を通す 復習：講義内容をふり返りまとめる
3.「森のようちえん」実践例と教育的効果 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
4.自然保育の構成とそのねらい 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
5.幼児の好奇心と探求心の芽生え 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
6.幼児と環境(1)自然環境とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
7.幼児と環境(2)生き物とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
8.幼児と環境(3)生活の中での小・図形とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
9.幼児と環境(4)身近なモノ・標識・国旗とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
10.幼児と環境(5)生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
11.地域の自然・文化と保育内容(環境)とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
12.幼児の好奇心と探求心を高める環境構成 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる
13.幼児の自然認識の発達について 予習：情報を収集する 復習：講義内容をふり返りまとめる
14.SDG’sなどの現代的課題について 予習：情報を収集する　復習：講義内容を振り返りまとめる
15.まとめと振り返り 予習：これまでの授業を整理しておく　復習：振り返りをまとめる

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した調べ学修等の内容について、予習・復習ともに60分以上取り組むこと。

テキスト
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館

参考書・参考資料等
必要に応じて指示する。

学生に対する評価
講義への関心・意欲・態度：20%、発表・レポート：30%、定期試験：50%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）保育内容（環境）を解することができる。
（B）保育内容（環境）を理解し行動することができる。
（A）保育内容（環境）を理解し行動することができ、プログラム作成ができる。
（S）保育内容（環境）を理解し行動ができ、プログラム開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法
学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で自然環境に思考する。動植物がとりなす自然環境や気象などの科学的な事象にも興味関心を持ち、幼児との関わりを考える。フィールドワークや幼児との交流活動など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。

科目名	幼児と言葉							学 期	前期
副 題	領域「言葉」のねらい及び内容、教材について学ぶ				授業方法	演習	担当者	香田健治	
ナンバリング	K2-17-062	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（目的・ねらい） 幼児期の言葉による経験が小学校就学以降の学びへとつながる力を育むことを理解した上で、発達に沿った言葉の環境構成について、実践的な指導力を習得する。 （概要） 言葉に対する感覚や、言葉で表現する力を養う幼児期の教育の在り方について、絵本や紙芝居の製作、読み聞かせなどを通して学修する。

授業の到達目標

１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、身近な環境との関わりに関する領域「言葉」のねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連や指導上の留意点を理解できる。 ２）話し言葉や書き言葉等の言葉の意義と機能について説明できる。 ３）言葉に対する感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識・技能を身に付けている。 ４）絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について理解するとともに、実践について基礎的な知識・技能を身に付けている。

授業計画

1. 幼児と言葉の内容とねらいについて（『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストにして）
2. 人間にとっての言葉の意味を考えながら（詩をテキストにして）保育内容（言葉）を捉える
3. 幼児と文学(物語・絵本)、よい絵本とは何か
4. 絵本の絵について（絵の役割、絵のイメージ）
5. 絵本の世界を豊かに体験する
6. 反復と対比（絵本のイメージと意味）
7. 絵本の読み聞かせについて
8. 絵本の制作
9. 制作した絵本の内容について（発表と検討）
10. 物語絵本の解釈
11. 物語絵本の分析　保育としての物語絵本を考える
12. 物語絵本の読み聞かせについて
13. こどもの発達と言葉
14. 言葉の持つおもしろさ(ことばあそび)
15. これまでの振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習）・時間

指定した教科書を通読しまとめること（60 分）。様々な作製の授業については、事前に指示する準備物を持参すること（30 分）。授業後の振り返りをノートに記述する（15 分）。

テキスト

・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年（生協で購入） ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 年（生協で購入） ・福山多江子、伊澤永修 、大澤洋美 、生野金三編著 『0～6 歳児「言葉を育てる」保育―よくあるギモン 40＆言葉あそび 20－』東洋館出版社、2021 年（生協で購入）

参考書・参考資料等

・文部科学省『幼稚園教育要領』 ・厚生労働省『保育所保育指針』 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

学生に対する評価

授業への積極的参加４０％、レポート３０％、試験３０％

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）保育内容「言葉(言語表現)」に関する最低限の知識及び技能を身につけている。
（B）保育内容「言葉(言語表現)」に関する知識及び技能を概ね身につけている。
（A）保育内容「言葉(言語表現)」に関する知識及び技能を十分に身につけている。
（S）保育内容「言葉(言語表現)」に関して優れた知識及び技能を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出の振り返りについては、必要事項について次週の授業でフィードバックを行う。

その他

・将来、教師を目指す受講生であるから、出席、受講マナーはもとより、講義内容へ積極的に参加・参画すること。
・授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

・状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

科目名	幼児と表現							学 期	後期
副 題	幼児の表現を引き出す環境と援助				授業方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバリング	K2-21-063	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、幼児の表現を受け止め共感できる感性を養う。

授業の到達目標
1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解することができる。
2. 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、保育を構想できる。
3. 音楽表現などの表現活動の基礎的知識・技能を学び、保育に活用する際に必要な感性を豊かにすることができる。

授業計画
1. オリエンテーション、幼稚園教育要領・保育所保育指針における基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造
2. 乳幼児の表現の発達
3. 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性
4. 保育における表現活動の環境①　物的・人的環境
5. 保育における表現活動の環境②　保育者の援助
6. 領域「表現」と演奏活動
7. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び①
8. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び②
9. 総合的な表現活動
10. 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向
11. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：造形・身体表現遊び
12. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：音楽表現遊び
13. 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇遊び
14. 多様な教材と豊かな表現：総合的な表現活動（情報機器を使用した活動含む）
15. 授業のまとめ、領域「表現」の評価の考え方、授業内テスト

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト
石井玲子（編著）『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」-音遊びから音楽表現へ-』教育情報出版

参考書・参考資料等
『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育 保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房、『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

学生に対する評価
課題への取り組み（30%）、提出物（40%）、授業内テスト(30%)等により総合的に評価する

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）領域「表現」のねらい及び内容を基本的に理解できる。
（B）基本的な理解に基づき、領域表現の活動環境や教材について考えることができる。
（A）領域「表現」に必要な様々な教材、活用方法について具体的に構成できる。
（S）領域「表現」の様々な活動に対し、他の領域との関連性を含め、教材、方法等を具体的に構成できる。

課題に対するフィードバックの方法
課題、提出物については、当該翌週の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内テストについては、後日あるいは、授業内で可能なフィードバックを行う。

その他
音楽の活動実践に関する個人の取り組み、グループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学

校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	保育内容の指導法(健康)							学 期	後期
副 題	健康と安全な生活を培うための指導方法を学ぶ				授業方法	演習	担当者	本山司	
ナンバリング	K3-21-064	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
(テーマ)幼児の健康な心と体を育て、幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を培うために必要な教育方法を身につける。(授業の概要) 幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学び、指導方法を身につける。幼児の健康に関連したさまざまな事象について学び、幼児が健康を獲得するための知識や技能・指導方法を身につける。

授業の到達目標
①幼児期に育みたい資質・能力を理解することができる。
②幼児期に起こりやすい怪我や感染症等を理解することができる。
③幼児の健康の維保持・増進につながる指導のあり方を身につける。
④幼児の発育、発達の特性を理解することができる。

授業計画
1.本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。
2.幼児の発達と認識・思考、身体特性について
3.幼児の体力・運動能力について①（レクチャー）
4.幼児の体力・運動能力について②（グループ討議）
5.幼児の運動遊びについて①（レクチャー）
6.幼児の運動遊びについて②（グループ討議）
7.幼児期の運動指針の内容について①（レクチャー）及び②（グループ討議）
8.基本的生活習慣の獲得を目指した保育計画と評価（指導案の書き方〈ICT の活用〉）
9.基本的生活習慣の獲得を目指した模擬保育
10.基本的生活習慣の獲得を目指した模擬保育の評価と改善(振り返り)
11.運動遊びを中心とした保育計画と評価（指導案の書き方）
12.運動遊びを中心とした模擬保育
13.運動遊びを中心とした模擬保育の評価と改善(振り返り)
14.ICT を活用した保育構想と、学習評価について
15.授業のまとめと振り返り、保育実践の動向、小学校とのつながりについて

準備学習(予習・復習)・時間
・テキストの該当部分を予め読む、子どもの健康情報の収集などの復習しておくこと。(90 分)
・課題への取り組み、ノート・資料整理などにより、学習内容の復習および知識の定着を図ること。(90 分)

テキスト
『演習　保育内容　健康』川邉貴子, 建帛社,2008（生協で購入）

参考書・参考資料等
『幼稚園教育要領解説書　平成 29 年度告示版』文部科学省 『保育所保育指針解説書　平成 29 年度告示版』厚生労働省

学生に対する評価
定期試験 60%　レポート他の提出物 20%　授業への積極的参加 20%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）幼児が健康になるための知識・技能、指導方法を理解することができる。
（B）幼児が健康になるための知識・技能、指導方法を具体的に考えることができる。
（A）幼児が健康になるための知識・技能、指導方法を具体的な考えを指導案に作成することができる。
（S）幼児が健康になるための知識・技能、指導方法を具体的な考えを指導案に作成し、指導案に基づいて実践することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については授業内、学習指導案と模擬授業は授業内、内容によっては次時にフィードバックを行う。レポートや定期試験は後日コメント書いて返却する。

その他
毎回出席をとる。運動遊び・模擬保育等アクティブ・ラーニングを実施する場合は必ず動ける服装、靴を準備すること。メディア教材や ICT 教材を用いることがある。また天候により授業内容を変更する場合があり、学内メール等で連絡する。

科目名	保育内容の指導法(人間関係)							学期	集中
副題					授業方法	演習	担当者	幸田瑞穂	
ナンバリング	K3-21-065	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

1.養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。
2.子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の３つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」) と、1 歳以上 3 歳未満児及び 3 歳以上児の保育のそれぞれ５つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」) を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、５つの領域のうち、「人間関係」についての保育の内容および指導法を具体的に理解する。
3.上記２に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって「人間関係」領域について保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。
4.子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善) の実際について理解する。

授業の到達目標

養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、保育を展開していくために保育内容(人間関係) に関する知識・技術・判断力を習得することができる。

授業計画

1. 自己理解と自己概念 (自分を知ることからはじめよう・自画像)
2. 子どもを取り巻く社会・文化の状況
3. 領域「人間関係」のねらい、内容、他領域との関連
4. 領域「人間関係」の基礎知識
5. 保育の中で育つ人と関わる力　3歳児の保育　「人間関係」演習①-あなたたならどうしますか-人との信頼関係
6. 保育の中で育つ人と関わる力　4歳児の保育　「人間関係」演習②-あなたたならどうしますか-けんかやいざこざから生まれるもの
7. 保育の中で育つ人と関わる力　5歳児の保育
8. 保育の中で育つ人と関わる力　「人間関係」演習④-あなたたならどうしますか-気になる子どもと他児とのつながり
9. 人と関わる力を育てるための保育①　指導案の作成、教材研究・準備
10. 人と関わる力を育てるための保育①　指導案の作成、教材研究・準備
11. 人と関わる力を育てるための保育②　模擬保育の実施
12. 人と関わる力を育てるための保育③　模擬授業の振り返り (評価と改善)
13. ICT を活用した保育構想と評価のあり方
14. 保護者とのかかわり:「日常生活で発するメッセージ」のエクサイズ　保育者同士のかかわり:チーム力をつける
15. まとめ・振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

各授業までに保育所保育指針と幼稚園教育要領等の人間関係の項目や指示した資料について読んでおくこと。また授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること(60 分)

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(生協で購入)

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

・レポート・指導案（４０％)、小テスト（２０％)、発表（２０％)、
授業でのワークシート記述・課題（１５％）と積極的参加度（５％)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）養護及び教育に関わる保育の内容の関連性が理解でき、保育内容(人間関係) に関する知識が身についている。
（B）養護及び教育に関わる保育の内容の関連性が理解でき、保育内容(人間関係) に関する知識・技術が身についている。
（A）養護及び教育に関わる保育の内容の関連性が理解でき、保育内容(人間関係) に関する知識・技術・判断力が身についている。
（S）養護及び教育に関わる保育の内容の関連性を理解した上で、領域「人間関係」にかかる現代的課題や実践の動向を理解し、知識・技術・判断力を発揮できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・提出された課題やレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・公立幼稚園教諭として 12 年間の勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、理論のみならず保育現場の実際や子どもたちの姿、保育者のあり方など具体的な実践事例をふまえ指導する。

科目名	保育内容の指導法(環境)							学期	前期
副　題	自然環境と幼児教育との関連を発展させる手法				授業方法	演習	担当者	柳原高文	
ナンバリング	K3-21-066	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
(テーマ)保育者として、自然への気付きを育み、領域「環境」の内容・ねらいを理解し、保育の構想・指導方法を身につける。 また、幼児の発達を理解し、環境とかかわる力を育てる保育内容から、内面を育てる豊かな環境の構成ができるようにする。(授業の概要) 幼児と環境の内容を踏まえて、保育指導の実践力を身に付ける。 幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導に加えて、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。

授業の到達目標
1)幼稚園教育要領における領域「環境」のねらいや内容を理解し説明できる。
2)領域「環境」のねらいと内容に基づき、指導上の留意点について理解できる。
3)幼児の発達を理解し、具体的な保育を構想できる。
4)身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、保育構想の向上に取り組む。

授業計画
1.授業の進め方、評価方法、身の回りの自然観察
2.領域「環境」の変遷、実現したい具体的な内容と活動、情報機器の利用法　予習:講義内容をテキストで確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
3.自然保育とは　保育実践の動向について　予習:講義内容をテキストで確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
4.絵本が育む幼児の自然観　予習:講義内容の情報を収集する　復習:絵本について自分なりの考えをまとめる
5.幼児が体験できる教材開発　予習:講義内容の情報を集める　復習:教材作成
6.教材発表　予習:発表準備　復習:発表内容をふり返りまとめる
7.幼児教育における木育とは　予習:講義内容をテキストで確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
8.身の回りの樹木の観察と幼児教育との関わり　予習:講義内容をテキストで確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
9.行事とのかかわり:地域マップを作成　予習:講義内容の情報を収集する　復習:地域マップ作成
10.幼児施設における動物の飼育方法(獣医師からの指導)　予習:講義内容をテキストで確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
11.園内環境としての園具・遊具・素材、理想的な園庭とは　予習:講義内容をテキストで確認する　復習:講義内容をふり返りまとめる
12.指導案作成(ICTを活用した保育構想と評価のあり方を含む)　予習:情報の収集　復習:指導案を練る
13.模擬授業(ICTを活用した保育構想と評価の在り方を含む)　予習:指導案確認　復習:模擬授業の振り返り
14.保育内容(環境)と学習内容、小学校との連携を考える　予習:情報を収集する　復習:講義内容を振り返りまとめる
15.まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
事前に配布した資料に目を通し、適宜指定した内容について、予習・復習ともに60分以上取り組むこと。

テキスト
文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(生協で購入)

参考書・参考資料等
適宜プリント等配布

学生に対する評価
講義への関心・意欲・態度:20%、制作物:40%、指導案:20%、模擬授業:20%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C)保育内容(環境)で学習する内容の知識がある。
(B)保育内容(環境)で学習する内容の知識と関連問題を解くことができる。
(A)保育内容(環境)で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができる。
(S)保育内容(環境)で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法
学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で保育内容(環境)に思考する。自然への探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍やweb等で調べ課題解決をすること。フィールドワークなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。

科目名	保育内容の指導法(言葉)							学 期	前期
副 題	領域「言葉」を主とした保育指導力の習得				授業方法	演習	担当者	香田健治	
ナンバリング	K3-21-067	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（目的・ねらい） 子どもが「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ために、どのような経験を重ねること学びへとつながっていくのか、個々の発達に応じた援助や場面に応じた環境を構成する力を身につけることを目的とする。 （概要） 幼児教育において育みたい資質・能力について理解し、幼児期にふさわしい、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた指導場面を構想するとともに、模擬保育実践をする。

授業の到達目標

1）養護及び教育に関わる保育の内容の関連性を理解し、総合的に展開していくための知識・技術・判断力を習得できる。
2）保育所保育指針における乳児保育の３つの視点と、1 歳以上 3 歳未満児及び 3 歳以上児の保育の５つの領域を通して子どもの発達を捉え、理解できる。
3）領域「言葉」についての保育の内容と指導法を具体的に理解できる。
4）発達過程に即した保育場面を想定しながら、環境の構成や教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解できる。

授業計画

1.『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における「言葉教育」のねらいと内容およびその指導法
2.童話と絵本の与え方
3.人形劇を考える
4.紙芝居と言葉
5.エプロンシアターとは
6.絵本の読み聞かせ(模擬保育)
7.「絵本を作ってみよう」(指導案の作成〈ICT の活用〉)
8.指導案の検討と評価について
9.幼児にユーモア文学を与える意味（ユーモアとは何か)
10.紙芝居をつくる
11.紙芝居の発表会(模擬保育)
12.発達と個人の特性を踏まえた指導とは
13.保育者として言葉領域の内容と学習の評価の考え方を検討する
14.ICT を活用した保育構想と小学校との連携に配慮した保育実践について
15.まとめと振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

指定した教科書を通読しまとめること。(60 分） 様々な作製の授業については、事前に指示する準備物を持参すること。(30 分） 授業後の振り返りをノートに記述する。(15 分）

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(生協で購入） 適宜プリント等配付

参考書・参考資料等

・文部科学省『幼稚園教育要領』 ・厚生労働省『保育所保育指針』 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

学生に対する評価

授業への積極的参加 ４０％ 指導案の作成・模擬保育 ３０％ 試験 ３０％

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）保育内容である領域「言葉」に関する最低限の知識及び技能、実践的指導力を身につけている。
（B）保育内容である領域「言葉」」に関する知識及び技能、実践的指導力を概ね身につけている。
（A）保育内容である領域「言葉」に関する知識及び技能、実践的指導力を十分に身につけている。
（S）保育内容である領域「言葉」に関して優れた知識及び技能、実践的指導力を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出の振り返りについては、必要事項について次週の授業でフィードバックを行う。

その他

・将来、教師を目指す受講生であるから、出席、受講マナーはもとより、講義内容へ積極的に参加・参画すること。

・授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。
・状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

科目名	保育内容の指導法(造形表現)							学 期	後期
副 題	幼児の造形活動を指導する方法について学ぶ				授業方法	演習	担当者	原田昌幸	
ナンバリング	K3-21-068	実務経験の有無	無	関連DP	1.2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
幼児の絵画について、発達段階を理解し、年齢に応じた適切な指導を行えるよう基礎知識を学ぶ。 身近な素材をもとに、幼児の素朴な造形活動を体験し、保育指導案を作成することで実践的な保育能力を獲得する。

授業の到達目標
幼児における絵画、造形制作の有意性を理解し、状況に応じた指導を工夫し実践していく能力を身につけることができる。 子どもの発達に則した、造形教育の題材開発ができるようになる。

授業計画
1.領域「表現」のねらい及び内容の取扱いを総合的に理解する
2.幼児期における描画の発達段階１　なぐり描き期
3.幼児期における描画の発達段階２　象徴期
4.幼児期における描画の発達段階３ 図式期
5.色彩の学習　②身近な素材で色相環を作成する
6.色彩の学習　①色彩の基礎を理解する
7.身近な環境への意識　フロッタージュから
8.乳幼児のおもちゃ制作―感じるおもちゃ
9.乳幼児のおもちゃ制作―操作するおもちゃ
10.身近な素材から造形活動を考える－①素材を感じる
11.身体表現、台詞を用いたとしての表現活動の実際
12.身近な素材から造形活動を考える　③指導案の目的を考える
13.身近な素材から造形活動を考える　④指導案の展開を考え完成させる
14.模擬保育の実践（保育場面での情報機器の活用を含む）
15.模擬保育の振り返りと表現活動の学習のまとめ

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、毎回の内容をファイルにまとめておくこと（60 分）
課題によっては必要な素材を準備する。(60 分)

テキスト
文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(生協で購入)

参考書・参考資料等
適宜プリント等配布

学生に対する評価
毎回の学びのミニレポート（３０％)、学習のまとめの発表内容及び成果（７０％)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）実施した課題内容を理解し、指導案を作成できている。
（B）実施した課題内容を理解し、指導案を作成できている。指導案に従って実践が行えている。
（A）課題内容を充分に理解したうえで、実際の保育に活かせるように指導案が作成されている。作成した市指導案をもとに実践が出来ている。
（S）課題内容を完全に理解したうえで、実際の保育に活かせるよう、独自の工夫が加えられて実践できている。

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題やレポートは添削し、次回授業時に返却する

その他
基本的には個人での道具・材料は必要ないが、課題によっては事前に準備が必要な場合がある。その際には事前に予告する。アクティブ・ラーニングの手法を用いた作品制作や、メディア教材や ICT 教材を用いた授業を行うことがある。

科目名	保育内容の指導法(音楽表現)							学期	前期
副　題	子どもの表現活動意欲を高める指導方法				授業方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバリング	K3-21-069	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
領域「表現」の指導に関する、乳幼児の音楽表現の姿やその発達および、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

授業の到達目標
１．幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
２．音楽表現を理解し、実際の保育に活用できる保育技術を身につけることができる。

授業計画
1.オリエンテーション、グループ作成
2.表現とは何か、保育の基本と音楽表現
3.幼稚園教育要領・保育所保育指針における音楽表現(ねらい、内容、評価)について
4.指導案の校正と理解・情報機器を授業に生かす手法
5.乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現①：わらべうた 1
6.乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現②：わらべうた 2
7.乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現③：手遊びうた
8.領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法①：リトミック 1
9.領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法②：リトミック 2
10.領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法③：ハンドベル 1
11.領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法④：ハンドベル 2
12.領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法⑤：ダンス 1
13.領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法⑥：ダンス 2
14.グループ発表
15.小学校との連携を考える

準備学習(予習・復習)・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト
適宜、資料・楽譜等を配布する

参考書・参考資料等
文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』

学生に対する評価
授業時の取り組み(30%)、課題の提出状況(35%)、グループ発表(35%)等により総合的に評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）領域「表現」のねらい及び内容を基とした活動を理解できる。
（B）基本的な理解に基づき、領域表現の活動環境や教材について考えることができる。
（A）領域「表現」に必要な様々な教材、活用方法を踏まえ、具体的な指導方法を構成できる。
（S）領域「表現」の様々な活動に対し、他の領域との関連性を含め、具体的な指導案を立案できる。

課題に対するフィードバックの方法
課題、提出物については、当該翌週の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内テストについては、後日あるいは、授業内で可能なフィードバックを行う。

その他
音楽の活動実践に関する個人の取り組み、グループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	地域体験基礎							学 期	前期
副 題	非認知能力を伸ばすためには				授業方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバリング	K1-19-070	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
地域体験は、本学のもっとも特徴的な体験学習であり、教職につく者はもちろん、たとえ教職以外の道に進んだとしても、この学習で得るものは大きい。そうした地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な観点を学習する。授業は課題解決・課題発見型の形式で行い、連携団体とともに調査したり，学習方法ではグループ討論やプレゼンテーション活動などを多く取り入れ学習者主体に進めていく。

授業の到達目標
(1)地域体験の意味を、資質・能力形成（特に非認知能力）と関連させて考えることができる。
(2)連携団体の特徴、地域の課題等を把握し、地域での活動のあり方を知ることができる。
(3)地域活動を通して，自らの成長についても振り返ることができる。

授業計画
1.オリエンテーション(地域体験の内容、進め方、学習の意味)
2.連携団体の活動を知る。日誌記入・提出の仕方を通じて ICT の活用も理解する。
3.体験学習の意味を考察し理解する。
4.非認知能力とは何かを学習指導要領，経済学，心理学の視点から理解する。
5.体験５日間の活動レポート内容や表現をブラシュアップする。
6.体験前と体験後での自分の変化に関したレポートづくりを行う。
7.自分たちの町の魅力と課題を調べまとめる。
8.連携団体とのワークショップから，地域の現状を知る。
9.連携団体とともにフィールドワークを行う。①
10.フィールドワークでの気づきを共有するとともに，地域の課題に焦点をあてる。
11.連携団体とともにフィールドワークを行う。②
12.地域の方々からの聞き取りを行う。地域の魅力を発見する。
13.課題解決に向けての理解を深める。発表会に向けてのリハーサルを行う。
14.発表会本番と振り返り
15.私たちは地域活動を今後どうすすめていけばいいのかを，グループで討論する。地域の産業についても学ぶ。

準備学習(予習・復習)・時間
・課題について，取材・調査・体験したことをもとにまとめ，発表の準備をする。発表，討議やワークを踏まえ，最終レポートにまとめられるように準備しておく（90 分)。
・地域調査に出かけ，調査結果をまとめ課題レポートにまとめ，発表のための準備をする。(120 分)。

テキスト
授業前や授業中に配布する資料

参考書・参考資料等
適宜紹介する

学生に対する評価
課題及び最終レポート(40%)　小レポート(25%)　プレゼン(35%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）・連携団体の活動，非認知能力とは何かを知る。
（B）・地域の課題や連携団体の活動を理解する。非認知能力が注目されてきた背景を知る。
（A）・地域の現状と課題を理解し、 自分たちのできる参加段階の企画案を立てることができる。 ・学習活動での非認知能力育成の意義を説明できる。
（S）・より積極的な参加段階の企画を立て，外部からの意見をもらい，自分たちの企画案を検討・評価し，発信できる。 ・非認知能力の評価の仕方を考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
・提出されたレポート・課題については，コメントをつけ個々にフィードバックをするとともに，発展的に全体にもフィードバックし深めていくようにする。

その他
・「地域活動をどのように進めればよいか」という課題を解決していく PBL を取り入れた科目である。
・グループでの調査・議論・まとめ・発表を中心に進め，討議やグループ学習を随時行うアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
・メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

コミュニティスクールの地域教育支援コーディネーターとしての勤務経験や中学校教員として校内の総合的な学習の時間を担当し，かつ地域コーディネーターや学校運営協議会，社会教育委員の役割を担った経験を活かして，地域の現状・課題をつかみ、地域と学校がつながる上で何が大切かを理解させる。また，連携団体の活動から，真正な学びとは何かを考察し，かつ，非認知能力の育成の大切さに気づかせ，授業やこれからの生活にいかせるようにする。

科目名	科学技術と社会							学 期	前期
副 題					授業方法	講義	担当者	岡本正志	
ナンバリング	K1-11-071	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
科学技術の急速な発展において、今日ほど科学や技術と人間や社会との関係が問われている時代はない。AI の登場が及ぼす人間世界への影響やそのあり方、エネルギーと環境との関連など、具体的なテーマに沿って、課題学習的に学ぶ。科学技術の歴史的な発展についても触れる中で、今日と未来についても一緒に検討していきたい。

授業の到達目標
今日の科学技術について基本的な知識を学ぶ。科学的な思考について理解し、社会への影響について考えることができる。与えらえた課題について調査し、討論において自分の意見を述べ、仲間と協同して理解を深めることができる。

授業計画
1.イントロダクション：科学的思考を考える―地球は動いているのか
2.宇宙論を検討する：なぜビッグバン理論が登場したのか
3.技術の発展と社会変化：ひとつの技術が世界を変えた(時計の社会史)
4.生と死をめぐる１９世紀の科学と宗教：進化論、心霊研究、生命科学
5.（調査課題）現代における生と死　大震災での生と死、臓器移植、感染症とワクチンなど
6.課題発表と討論
7.物理科学の発展　光と磁気の科学から電磁気学に
8.量子力学の不思議な世界：量子の振る舞い
9.量子力学の不思議な世界：シンクロニシティ
10.通信技術の発展と社会変化
11.科学と技術の交流
12.AI の登場と社会の変化
13.（調査課題）科学技術と社会のあり方を考える
14.課題発表と討論
15.振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習：参考書などで、次の回の講義テーマについて調べておく。 事後学習：講義内容をノートにまとめ、理解できているか確認し、自らの課題を検討する。 調査課題：課題テーマについて調べまとめて、発表できるように準備する。※いずれも 60 分以上。

テキスト
資料配布

参考書・参考資料等
岡本正志編著『科学技術の歩み』建帛社

学生に対する評価
課題発表(30%)、小レポート(20%)、定期試験(50%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義で説明された科学技術の歴史や内容について、言葉や概念の基礎的な理解をする。
（B）科学技術と社会との関係について、いくつかの事例を理解し説明できる。
（A）科学技術と社会に関する課題を検討し、自分の意見を発表できる。
（S）科学技術が社会にどのような影響を及ぼしているのか理解し、それを教育にどのように活かせるか考えられる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見、小テスト等については講義内で説明、解説する。全体への振り返りは最後の授業で行う。

その他
課題発表やグループワーク、討論など、アクティブラーニング形式で行う。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	自然と人間							学 期	後期
副 題					授業方法	講義	担当者	那須義次	
ナンバリング	K1-24-073	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

複雑な生態系のしくみを理解し、生物多様性の重要さを学ぶことによって、自然とヒトとの関わりについての理解を深める。座学だけでなく、実際に学内のフィールド調査や学内に設置した小鳥用巣箱調査を通じて生態系と生物多様性を理解する。河内長野市内でおこなわれている自然保護活動の実践現場の見学を通じて、自然とヒトとの関わりについて体験しながら、教育にどのように活かせるのかも考察する。

授業の到達目標

・複雑な生態系をひもとくための基礎知識が理解できる。
・生物多様性の重要さを学ぶことができるとともに、フィールド調査の体験を通して生物多様性が理解できる。
・自然保護活動の実例を学ぶことによって、自然とヒトとの関わりについて理解できる。

授業計画

1. 環境問題の背景
2. 生態系を知る
3. 食物連鎖、食物網
4. 生物多様性
5. 生物の相互作用
6. フィールド調査①学内の植物と動物
7. 動植物の違い
8. 共生と擬態
9. 地球と生物の進化
10. ヒトと自然の関わり
11. 里山と農業生態系
12. フィールド調査②小鳥用巣箱の管理
13. 自然保全・再生の試み
14. フィールド調査③バードレスキュー活動の見学
15. まとめと教育に活かすための考察

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、次回のテキストの範囲を読み、専門用語等の意味を理解し、図書やホームページを通して関連分野の予備知識を得ておくこと（90 分)、事後学習として授業の内容について整理しておくこと（90 分)。

テキスト

テーマに応じた資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

鷲谷いずみ著『絵でわかる生物多様性』（講談社、2017 年）鷲谷いずみ著『新版絵でわかる生態系のしくみ』（講談社、2018 年）　浅間茂・中安均著『校庭の生き物ウォッチング』（全国農村教育協会、2003 年）

学生に対する評価

全体レポート（40%)、フィールド調査時の取り組み（3 回、各 20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生態系と生物多様性の用語を理解できている。
（B）生態系と生物多様性について理解し、具体的な事例とともに自分の言葉で表現できる。
（A）生態系と生物多様性を理解し、それらについて論理的かつ小学生にもわかる平易な文章で具体的に表現できる。
（S）生態系と生物多様性を理解し、人間との関わりについて具体例を元に小学生の授業でいかに取り組むかを提言できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。
・提出された全体レポートは、最終授業で全体に対するフィードバックをおこなう。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

大阪府農業大学校講師、愛甲農業科学専門学校講師としての勤務経験を活かし、昆虫分類学および野鳥と昆虫との共生関係の研究を進めている教員が、その知識および経験を踏まえ生態系や生物多様性について

具体的に講義するとともに、フィールド調査を通じて理解させる。

科目名	日本文化							学 期	前期
副 題	仏画の歴史と絵写経作成				授業方法	講義	担当者	浅井雅宏	
ナンバリング	K1-02-074	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
日本文化の仏画について、その意味や歴史との関係を踏まえた講義を学び、仏教や日本の歴史と日本人の精神について理解を深める。実際に仏画を描き体験して学ぶことで、目標設定や困難にたち向かう仏教的解決方法を修得する。

授業の到達目標
絵写経・写仏について理解し、説明及び実施ができるようになる。解決すべき問題の壁に当たった時や自らの考えをまとめる時に、古来より行われてきた、心身を落ち着かせ心に向き合う時間をつくるための方法を身に付ける。

授業計画
1.絵写経・写仏の説明。・実習：絵写経
2.絵写経・写仏の活用方法。実習：カーボン紙づくり
3.日本における仏画の歴史（仏教伝来～奈良白鳳時代）。実習：色紙に写仏。
4.日本における仏画の歴史（平安時代）。実習：色紙写仏に墨入れ。
5.日本における仏画の歴史（鎌倉・室町時代）。実習：写仏。
6.目で覚える彩色の仕方。実習：写仏と彩色。
7.日本における仏画の歴史（江戸時代）。実習：絵写経
8.日本における仏画の歴史（近代）。実習：絵写経
9.実習：色紙写仏に彩色。
10.ディスカッション。レポート提出。
11.実習：絵写経
12.実習：絵写経
13.課題であるオリジナル絵写経の制作。
14.課題であるオリジナルの絵写経の制作・提出。
15.課題であるオリジナルの絵写経の発表。

準備学習（予習・復習）・時間
・課題について調べて、作品制作および発表の準備をする（30 分）
・実習においては、毎回の内容を振り返り、今後どのような技量が必要かを、確認する（60 分）
・講義内容についてのレポートを提出する。（６０分）

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
中村涼應　中村幸真・初めて描く仏画入門　淡水ムックゆうシリーズ　週末の手習い―7

学生に対する評価
・作品（40%）・レポート（30%）・発表（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）絵写経・写仏を描くことができる。
（B）絵写経・写仏の活用を理解し、描くことができる。
（A）絵写経・写仏の活用を理解し、技術も優れている。
（S）絵写経・写仏の歴史・活用法を修得し、技術も優れている。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
実習、ディスカッション、学生によるプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。実習に必要な、筆(1 本 600 円)、面相筆(1 本 450 円)、彩色筆(450 円×2 本)は授業で全員購入すること。その他、顔彩絵具(24 色、メーカー:吉祥、2400 円)も必要だが水彩絵の具も可。初回授業で説明する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・二科展入賞・会友経験及びグラフィックデザイン業務の経験より、美の本来の美しさを見出す実習を行い、将来設計を豊かな感性と共に考える重要性を認識させる。仏画制作・教室講師の経験より、仏画の知識や技術を身に付けさせる。絵写経を広める活動経験を通して、心のセルフケア方法としての、静かな時間の取り方やコツコツと取り組む大切さを生徒と共有し認識させる。

科目名	文学							学 期	後期
副 題	文学作品で何を教えるのか				授業方法	講義	担当者	村尾聡	
ナンバリング	K1-20-075	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
文学とは人間の真実やものごとの本質を美的に表現したものである。だからこそ、読者は文学作品からふかい思想的な解釈を発見し、自らの認識を広げ、深めて行くことが出来る。本科目は、小学校の教科書に掲載されている文学作品、さらに詩、俳句、短歌、絵本（主に国語科内容論で取り上げなかった作品）などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の人間観・世界観を広げ、深めていくことを目的とする。

授業の到達目標
文学教育の基本的知識を身に付け、教材を分析・解釈することができる。

授業計画
1. 文学の基本用語（詩「きょうね」「から」）
2. 文学作品の読み方1（類比・対比―絵本「ゆうたとさんぽする」、詩「たべもの」、順序「大きなかぶ」）
3. 文学作品の読み方2（類別―寓話「だからわるい」、条件・仮定―詩「おちば」「こゆび」、構造・関係・機能―物語「一つの花」）
4. 文学作品の読み方3（変換―詩「からっぽとは」、関連―説明文「見立てる」、詩「おと」、相関―詩「わるくち」）
5. 詩の分析・解釈「はきはき」（工藤直子）、「おうむ」（鶴見正夫）、「春の歌」（草野心平）
6. 詩の分析・解釈「雪」（三好達治）、「はくさいぎしぎし」（武鹿悦子）、「よかったなあ」（まど・みちお）
7. 物語の分析・解釈「お手紙」（アーノルド・ローベル、三木卓訳）
8. 物語の分析・解釈「おおきなかぶ」（ロシア民話、西郷竹彦訳）
9. 物語の分析・解釈「モチモチの木」（斎藤隆介）
10. 物語の分析・解釈「ちいちゃんのかげおくり」（あまんきみこ）
11. 寓話の分析・解釈「だからわるい」（オセー・エワ、西郷竹彦訳）
12. 物語の分析・解釈「海の命」（立松和平）前半
13. 物語の分析・解釈「海の命」（立松和平）後半
14. 物語の分析と解釈「やまなし」（宮沢賢治）前半
15. 物語の分析と解釈「やまなし」（宮沢賢治）後半

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の授業で行った文芸学の理論（詩や物語をどのように分析し、どのように解釈するのか）について要点を整理し、概念用語を覚える（60 分以上）。

テキスト
講義時に適宜資料（テキスト）を配付

参考書・参考資料等
西郷竹彦『名詩の世界　西郷文芸学入門講座』光村図書、2005 年 村尾聡『文学教育論―西郷文芸学の教育学的考察―』ブイツーソリューション、2014 年　西郷竹彦『宮沢賢治「やまなし」の世界』黎明書房、2009 年

学生に対する評価
小テスト（30%）、レポート（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義で学習した内容を最低限理解できている。
（B）講義で学習した内容を自分の言葉で表現できている。
（A）講義で学習した内容を文芸用語を使って表現できている。
（S）講義で学習した内容を文芸用語を使って的確に表現できている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
模擬授業形式で講義を行う。このプレゼンテーションに加え、学生同士の話し合い（グループワーク）の時間等、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。使用教材は学修進度により変更になる可能性がある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について 25 年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	創作研究							学 期	前期
副 題	第二言語習得を学び英語絵本や紙芝居を作成				授業方法	演習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K1-04-076	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義では、英語圏の様々な文化を童話文法の視点から学び、将来教員として必要な英語力を体験的・総合的に取得するために、グループによる英語の絵本作りや紙芝居や演劇という創作活動を行う。本講義の目的は、英語への理解を深めるために単に英語の４技能１領域の力を高めるだけでなく、小学生が英語に興味・関心を持ちモチベーションを持続させることができるようにするために、教員は何を使用し、どのようにそれを使用するべきかを考える力をつける。

授業の到達目標
童話文法の学習から英語学習の「気づき」や「理解」ができる。英語絵本、英語紙芝居、英語演劇(ミュージカル)の制作や、幼稚園や小学校英語教育での実践で「発信」することができる。

授業計画
1.オリエンテーション(講義の進め方、予習、復習、成績評価について説明する)　[テキストUnit 1]
2.講義(英語圏の絵本や紙芝居作成のための物語文法を学習する)　[テキストUnit 2]
3.英語絵本作成の基本を講義後、グループによる絵本作成　[テキストUnit 3]
4.グループによる英語紙芝居作成　[テキストUnit 4]
5.作成した英語絵本と英語紙芝居の発表　各グループへの評価をフィードバックする　[テキストUnit 5]
6.作成した「英語絵本」を実演する
7.作成した「英語紙芝居」を実演する
8.第二言語習得とバーバルとノン・バーバルについて学習する　[テキストUnit 6]
9.英語学習における演劇の効果について学習する
10.グループによる演劇実演の準備１　[テキストUnit 7]
11.グループによる演劇実演の準備２　[テキストUnit 8]
12.実演のための発音指導　[テキストUnit 9]
13.実演のためのリハーサルと各グループへの評価をフィードバックする　[テキストUnit 10]
14.小学校等で「英語演劇」を実演する
15.総括とフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間
毎時間ごとに、取り組みの進捗状況に合わせ、グループ毎に個別に取り組むべき内容を指示をする(60分)

テキスト
英語テキストとプリント教材を準備し、初回講義で配布する。テキスト:『Fairy Tales』童話で学英語の四技能　(英光社)

参考書・参考資料等
参考書は講義中に適宜紹介し、プリントは配布する

学生に対する評価
評価はグループワークでの参加度、授業態度、実演を加味して行う。英語での発表３回分(60%)、授業参加の積極性(30%)フィードバック(10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）講義の基本的な内容を理解することができる。
（B）グループ活動で仲間と協力を得ながらでも与えられた役割を完遂することができる
（A）グループ活動に協力的に参加し、与えられた役割を完遂することができる。
（S）絵本作成や演劇実演の活動に関して、グループで中心的な役割をはたすことができ、それらの作品を児童が理解できるように実演することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う

その他
本講義は英語科カリキュラムの一つである。従って講義中の指示は英語で行う。英語絵本作成は１グループ４名編成で、グループディスカッションやICT機器の活用も踏まえたプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。英語演劇活動は１グループ５人から６人で作品を完成する。

科目名	茶道							学 期	後期
副 題	茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる理論と実践				授業方法	演習	担当者	岡本文音	
ナンバリング	K1-26-077	実務経験の有無	有	関連DP	2,4,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めるため、初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。その上で受講生自らが茶会を企画実践し、亭主側と客側とを体験する。これらを通して、茶の湯の精神や美意識について考える。

授業の到達目標
茶の湯（茶道）における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前（盆略点前）ができるようになる。 茶の湯（茶道）の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようになる。

授業計画
1.講義　茶道概説　茶事（茶会）のながれ
2.実習　客の所作と心得１　お茶のいただき方（薄茶）
3.実習　客の所作と心得２　席入りの仕方
4.講義　茶の湯の文化１　茶道史　茶の湯以前
5.実習　盆略点前１　割稽古
6.実習　盆略点前２　割稽古
7.講義　茶の湯の文化２　茶道史　草創期の茶の湯
8.実習　盆略点前３　割稽古
9.実習　盆略点前４　割稽古
10.講義　茶の湯の文化３　茶道具について
11.実習　盆略点前５　通し稽古
12.実習　盆略点前６　通し稽古
13.実習　茶杓削り
14.実習　茶会の企画と実践
15.実習　茶会体験　初釜

準備学習（予習・復習）・時間
実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。(60 分)　体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。(60 分)　講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。(90 分)

テキスト
学校茶道編集委員会編　『学校茶道（初級編）』　財団法人茶道文化振興財団発行　平成 15 年出版 授業時に一括購入

参考書・参考資料等
①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社 2007 年 ②谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社 2005 年

学生に対する評価
授業時に随時課す提出物（30%）茶会の企画と実践（35%）期末試験（35%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
（B）基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
（A）客の所作と盆略点前を修得している
（S）茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
実地的に所作を指導したり、茶会を体験するなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。実習の費用（茶・菓子・炭）として 3,500 円、および茶杓削りの材料費として約 1,000 円が必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
茶道教授者としての実務経験により、学生の個人能力に合わせて教育指導をする。

科目名	書学入門(書道)							学 期	後期
副 題	書教育における漢字の時空と尚古思想				授業方法	演習	担当者	野田悟	
ナンバリング	K1-06-078	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。さらに発展的に、東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論を含めた実践から焦点を当てる。 本講座は基本的に古典臨書を根底とし、形臨、背臨を経て、学生同士で切磋琢磨し、最後は個々に作品制作を行う。国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。

授業の到達目標
国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる筆順も含めた書写力を向上させ、授業理論・実践・指導内容が理解できる。さらに、発展的に芸術としての書道の悠久の歴史や楽しさを学ぶことができる。場合によっては、自身の書作品を展示して頂き、客観的に鑑賞する学びの機会も得ることができる。漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識と写経作品による創作を行うことができる。

授業計画
1.第１回：ガイダンス　表意文字としての漢字の位置
2.第２回：小学校国語科書写の学習内容の概要と評価
3.第３回：小学校国語科書写の実技と理論、指導案について
4.第４回：臨書入門　顔真卿「多寶塔碑」①　導入
5.第５回：臨書入門　顔真卿「多寶塔碑」②　仕上げ
6.第６回：臨書入門　褚遂良「雁塔聖教序」①　導入
7.第７回：臨書入門　褚遂良「雁塔聖教序」②　仕上げ
8.第８回：前半の半紙臨書作品の提出及び鑑賞
9.第９回：二つの法帖を比較臨書①　導入
10.第１０回：二つの法帖を比較臨書②　仕上げ
11.第１１回：自分で法帖を１つに絞り再度臨書する。
12.第１２回：自分で選択した法帖の背臨
13.第１３回：般若心経写経創作①　準備
14.第１４回：般若心経写経創作②　導入
15.第１５回：般若心経写経創作③　仕上げ及び合評

準備学習(予習・復習)・時間
事前学習として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の時間に備える。(１２０分以上)　＊次回に臨む課題の指示（毛筆及び硬筆）は、授業中に行う。

テキスト
・中国法書選　４０　顔真卿「多寶塔碑」、３４褚遂良「雁塔聖教序」：二玄社　・書道字典を持っている方が望ましい。・その他、必要に応じてプリントを配布する。・技術的に高いレベルの学生は、個々に別課題を課す。

参考書・参考資料等
『説文解字』(中華書局等)、『聾瞽指帰』・『篆隷万象名義』等（高野山大学蔵）　『新書源』(二玄社）等々
「小学校学習指導要領解説　国語」、文部科学省、H29

学生に対する評価
・基本的に提出作品及び授業態度による評価。・各学期ごとに採点し、平均点を算出する。そのため本授業では欠席が 1/3 を超えた場合その時点で失格とする。(欠席各－３点、遅刻各－１点)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）臨書している法帖の結構並びに基本的な筆づかいが出来ているか。
（B）臨書の鍛錬を基に、線がしっかりしていて、結構や余白につりあいがとれているか。
（A）法帖を基盤とした高いレベルでの作品を作れるか。
（S）作品作りの上で、落款や跋文（願文も含む）を非常に高いレベルで創作できるか。

課題に対するフィードバックの方法
・休み時間中に毎回の課題を貼ってもらい、授業の導入部分で批評しながら、フィードバックを行う。
・毎回の課題は作品〔レポート）として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他
・筆（太筆・細筆〕、墨（原則として墨汁は許可しない)、文鎮、半紙、反切は個々に準備の事〔ガイダンス時に詳しく説明する〕。

・書道実技（アクティブ・ラーニング）の講座として、毎回、課題が課され、授業以外での自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。課題は反切画宣紙を使用する。
・休み時間のうちに全ての準備を済ませ、授業に臨むこと。
・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。展覧会出品も考えている。その場合の表具代は自己負担となる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

書道家であり、高校書道教員及び芸術系大学院講師の勤務経験を持つ教員の指導により、東洋文化を考えるうえで、表意文字である漢字の原点に立ち返り、教育現場での必要性を講じ、実技指導する。

科目名	地域体験特論							学期	前期
副　題	地域体験Ⅰ・Ⅱで学んだ基盤を地域、文化活動へと発展させていく				授業方法	講義	担当者	岡本正志／柳原高文／和井田祐司	
ナンバリング	K2-19-079	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（テーマ）地域での体験活動を教育に活かす　（授業の概要）　(1)1 年時の活動発表を振り返り、地域体験がもつ意味を改めて考察する。 (2)自らの教育体験を、学習論と結びつけながら考察する。 (3)地域体験の活動を援用し、小学校の授業案を構成し発表する。

授業の到達目標
・地域体験がもつ意味を自らの言葉で表現することができる。
・地域を教材化する視点を獲得することができる。
・自らの教育体験を位置づけ、表現することができる。
・地域体験の内容をもとに小学校における教育活動を構想することができる。

授業計画
1.体験を軸としたカリキュラムの意味とねらい（岡本・柳原・和井田）
2.地域の自然の財を活かした体験活動①放課後活動から（柳原）
3.地域の自然の財を活かした体験活動②森のようちえんから（柳原）
4.森のようちえん実践　幼児との関わり（柳原）
5.森のようちえん体験ふりかえり（柳原）
6.見れどもみれず　体験と認識論（岡本）
7.体験と認知・非認知能力（岡本）
8.体験できないことは、認識できないのか　（岡本）
9.どうする「体験」：教育活動への導入を考える（岡本）
10.「地域」ってなんだろう①【理論編】 - 上原専禄と森田俊男が考えたこと（和井田）
11.「地域」ってなんだろう②【実践研究】 - 「地域に根ざした教育実践」論（和井田）
12.「地域」と「体験」を結ぶ生活教育論（和井田）
13.地域研究・地域の教材化演習①（フィールドワークと感想交流）（和井田）
14.地域研究・地域の教材化演習①（フィールドワークと感想交流）（和井田）
15.レポート作成・発表・感想交流（岡本・柳原・和井田）

準備学習（予習・復習）・時間
毎回、課題を提出するので、よく検討し、次回の講義の時に発表できるように準備しておく。 また、授業時に参考図書を提示する。図書館等を利用し、参照されるのが望ましい。いずれも９０分程度。

テキスト
毎回の講義の際に、その時間の内容に応じたレジュメを配付する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する

学生に対する評価
授業への参加・発表：50%、レポートなどの提出物：50%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）発表や提出物など、最低限の義務を果たした。
（B）発表に工夫が見られ、提出物の内容が妥当である。
（A）良い発表を行い、提出物も優れている。
（S）発表や提出物共に、特に優れた内容でオリジナリティがある。

課題に対するフィードバックの方法
質問等については毎回の授業でフィードバックする。提出物についても、添削し授業でフィードバックを行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。担当者が適宜分担して授業を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
・地域における体験学習や参画を含む、特色のあるカリキュラムを開発・実践してきた教員が、その実践経験も踏まえつつ、地域の教材化や体験学習における子どもの成長について、適宜講義する。

科目名	学校・保育現場体験Ⅰ							学 期	通年
副 題	学校園や保育所で実際の活動を学ぶ				授業方法	実習	担当者	今西幸蔵	
ナンバリング	K1-17-080	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学校・保育現場での体験活動。 活動の内容は ・授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助 ・授業における教員とのチームティーチングによる生徒の学習指導補助 ・その他、この体験の目的に即した活動・ などである。体験が深まるまでは見学や行事の手伝い、下校指導などが中心となり、経験が深まるにつれて内容が高度になる。

授業の到達目標
教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力を育むことができる。

授業計画
【前期】
1.内容詳細
2.①業務全般（児童・幼児の個人情報に関すること、成績に関すること、会議参加等は不可）
3.②授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助
4.③校外学習は参加不可（徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可）
5.④授業における児童・幼児への学習指導補助
6.その他、この体験の目的に即した活動であり、校園長が認めるもの
7.体験するまでの流れ
8.4月下旬　説明会・事前指導
9.5月下旬　体験先決定（河内長野市教育委員会・高野山大学で協議）
10.6月中旬～　体験開始
11.　適宜、振り返りを含む中間的な指導
12.1月下旬　事後指導
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
１．事前学修として、体験先の学校や保育所に関する情報収集を図り、そこで行われている教育活動の内容を知る（60分以上）。
２．事後学修として、体験記録などのレポートを作成し、その内容を振り返り、得られた経験知を自分のものとする（60分以上）。

テキスト
資料「学校・保育体験ガイド」配布

参考書・参考資料等
使用しない

学生に対する評価
教育実習に準じて、校園長、担任の評価を基に、担当教員が評価する。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）実際に学校や保育の現場に触れ、そこで働いておられる人々の姿から教育や保育の意味・意義を感じ取り、職業としての現状を理解する。
（B）学校や保育所の現場での実習を通して、教員や保育士の仕事内容を知り、自分の将来の職業選択について考えることができるようになる。
（A）学校や保育所の現場を理解することから、教員や保育士に必要とされているものが何かが理解できるようになり、志望の実現のために必要とされることを学ぶ意欲を高める。
（S）教育や保育の現場を深く理解するとともに、教員や保育士になろうとする意欲・希望がこれまで以上に強いものになり、専門性の高い知識やスキルの習得への関心を持つ。

課題に対するフィードバックの方法
体験記録などのレポートに対して、一定の評価を与えるとともに、問題点や課題を指摘する。そのことにより体験活動の成果を深めることになる。

その他

１．学校や保育所現場での体験活動をとおして、教育や保育の意味・意義を理解して欲しい。その上で、教員・保育士としての将来の自分の姿を見つめ、そのために必要な学修に努めることを期待する。
２．実習であるので、活動自身がアクティブラーニングと一致する要素がある。ICT 機器を用いたプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション等を行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

中学校・高等学校及び教育委員会事務局職員としての勤務経験があり、その経験を活用して、教員や保育士などを希望する学生を指導する。また、他大学で教員として、この科目と内容のほぼ変わらない学修活動を指導してきている。

科目名	学校・保育現場体験Ⅱ							学期	通年
副　題	小学校や幼稚園で実際の活動を学ぶ				授業方法	実習	担当者	山田正行／柳原高文	
ナンバリング	K2-17-081	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学校・保育現場での体験活動。活動の内容は ・授業・保育の見学・行事への参加・下校や帰りの指導・給食・清掃の補助 ・授業・保育における教員・保育士とのチームティーチングによる学習・保育指導補助 ・その他、この体験の目的に即した活動 などである。 「学校・保育現場体験Ⅰ」における体験学習に基づいて行うので、学生の体験は深まっているが、現場の先生・保育者の指導に基づき、適切な関わりを行う。

授業の到達目標
教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべきより高度な資質・能力を育むことができる。

授業計画
【前期】
1.内容詳細
2.①業務全般(児童・幼児の個人情報に関すること、成績に関すること、会議参加等は不可)
3.②授業・保育の見学・行事への参加・下校・帰りの指導・給食・清掃の補助
4.③校外学習は参加不可(学校から徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可)
5.④授業における児童・幼児への指導補助
6.　その他、この体験の目的に即した活動であり、校園長が認めるもの
7.体験するまでの流れ
8.4月下旬　説明会・事前指導
9.5 月中旬　体験先決定(河内長野市教育委員会・高野山大学で協議)
10.6月中旬～　体験開始
11.　適宜、振り返りを含む中間的な指導
12.1月下旬　事後指導
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習(予習・復習)・時間
１．事前学修として、体験先の学校や保育所に関する情報収集を図り、そこで行われている教育活動の内容を知る（60 分以上)。 ２．事後学修として、体験記録などのレポートを作成し、その内容を振り返り、得られた経験知を自分のものとする（60 分以上)。

テキスト
資料「学校・保育体験ガイド」配布

参考書・参考資料等
使用しない

学生に対する評価
教育実習に準じて、校園長、担任の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）実際に学校や保育の現場に触れ、そこで働いておられる人々の姿から教育や保育の意味・意義を感じ取り、職業としての現状の理解を深める。
（B）学校や保育所の現場での実習を通して、教員や保育士の仕事内容を知り、自分の将来の職業選択について考え、教育や保育士の仕事内容の理解を深める。
（A）学校や保育所の現場を理解することから、教員や保育士に必要とされているものが何かを理解できるようになり、志望の実現のために必要とされることを学ぶ意欲を高め、学習成果を深める。
（S）教育や保育の現場を深く理解するとともに、教員や保育士になろうとする意欲・希望がこれまで以上に強いものになり、専門性の高い知識やスキルの習得への関心を持ち、学習成果を深める。

課題に対するフィードバックの方法
体験記録などのレポートに対して、一定の評価を与えるとともに、問題点や課題を指摘する。そのことにより体験活動の成果を深めることになる。

その他

１．学校や保育所現場での体験活動をとおして、教育や保育の意味・意義を理解して欲しい。その上で、教員・保育士としての将来の自分の姿を見つめ、そのために必要な学修に努めることを期待する。
２．実習であるので、活動自身がアクティブラーニングと一致する要素がある。ICT 機器を用いたプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション等を行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

本科目の実施を統括する教職支援センターは、多数の教員（幼・小・中・高）経験者から組織されている。構成員の知見を活かしながら、学生の体験活動を具体的な局面でサポートする。

科目名	地域体験Ⅰ							学 期	通年
副 題	地域と大学との協働				授業方法	実習	担当者	柳原高文	
ナンバリング	K1-19-082	実務経験の有無	無	関連DP	2,3,4,5	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰは、1年次で行う。農業・栽培・動物に関する体験プログラムのいずれかに参加する。 連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標
地域社会を担っている団体での体験活動を行うことで、農業・栽培の知識・技能を習得し、気候や害虫、害獣など様々な環境での農業・栽培の工夫や技法を習得し、教育現場で活かせる力を習得し、児童に栽培の指導ができるようになる。

授業計画

【前期】	【後期】
1.説明会・事前指導	1.
2.体験活動	2.
3.体験活動・ふり返り	3.
4.体験活動	4.
5.体験活動	5.
6.体験活動・ふり返り	6.
7.体験活動	7.
8.体験活動	8.
9.体験活動・ふり返り	9.
10.体験活動	10.
11.体験活動	11.
12.体験活動・ふり返り	12.
13.体験活動	13.
14.体験活動・ふり返り	14.
15.発表会	15.

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学習として対象作物の栽培について書籍やweb利用で情報を得ておく。
・栽培日誌を読み、先週の活動の状況を確認する。
・活動して気付いたことなどの栽培日誌を作成し、適所に絵や写真などで記録する。いずれも６０分程度。

テキスト
参考資料配布

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
体験日誌および発表会資料、発表を基に評価する。(100%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）農業・栽培について作業ができる。
（B）農業・栽培について適切な作業が出来る。
（A）農業・栽培について気候や害虫・害獣など環境変化に応じて作業が出来る。
（S）農業・栽培について気候や害虫・害獣など環境変化に応じて作業が出来き、それを生徒指導に活かせる。

課題に対するフィードバックの方法
各回の栽培日誌を点検し、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
毎回の作業は体力を要するので、前日から体調管理を行うこと。作業に適した服装、持ち物の準備をすること。体験内容に関するグループディスカッションやICT機器を用いたプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。

科目名	地域体験Ⅱ							学 期	通年
副 題	社会的スキル･コミュニケーション力の育成				授業方法	実習	担当者	本山司	
ナンバリング	K1-19-083	実務経験の有無	無	関連DP	2,3,4,5	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅱは、1 年次で行い、地域体験Ⅰで参加した体験活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動に関連する体験、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。 連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標
地域活動を通して、地域社会および生活文化に関する多様な知識・技能を習得できる。 地域の方々と適切なコミュニケーションをとることができる。 仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を身につける。

授業計画

【前期】	【後期】
1.説明会・事前指導	1.
2.体験活動①	2.
3.体験活動②・振り返り①	3.
4.体験活動③	4.
5.体験活動④	5.
6.体験活動⑤・振り返り②	6.
7.体験活動⑥	7.
8.体験活動⑦	8.
9.体験活動⑧・振り返り③	9.
10.体験活動⑨	10.
11.体験活動⑩	11.
12.体験活動⑪・振り返り④	12.
13.体験活動⑫	13.
14.体験活動⑬・振り返り⑤	14.
15.発表会	15.

準備学習（予習・復習）・時間
毎時間、授業後に活動の振り返りを行い、評価と今後の課題について整理し小レポートにまとめる（60 分）

テキスト
参考資料配布

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
体験日誌、発表会資料、最終レポートを基に、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）地域活動を通して地域の方から知識技能を学び、仲間と協力しながら課題に取り組むことができる。
（B）地域活動を通して地域の方から知識技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら課題に取り組むことができる。
（A）地域活動を通して地域の方から知識技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら主体的に課題に取り組むことができる。
（S）地域活動を通して地域の方から知識・技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら主体的に課題に取り組み、その学びを言語化して共有できる。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは、コメントを付して返却する。

その他
フィールドワークを行う科目であるため、体調管理を行うこと。作業に適した服装、持ち物を準備すること。体験内容に関するグループディスカッションや ICT 機器を用いたプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。

科目名	地域体験Ⅲ							学 期	通年
副 題	人とつながる力を意識した活動を通して				授業方法	実習	担当者	村尾聡	
ナンバリング	K2-20-084	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4, 5	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅳは、２年次で行う。地域体験Ⅳでは文化活動体験（舞台づくり活動体験）に参加する。この授業の目的は 3 つある。一つは舞台づくりには役者とそれを支える裏方の仕事があり，その両方を学ぶことで，仕事・取組みのトータルを実感的に知る。二つ目は，将来，先生になった時，行事に参加する子ども達の思いに寄り添うためのヒントを掴む，三つ目は舞台づくりの知識・技能に加えて、他者と協働して完成させる力などの非認知能力を育む。

授業の到達目標
文化活動体験（舞台づくり活動体験）を通して，他者と協働してものごとを完成させる力，困難にくじけず最後まであきらめない態度を養うとともに，地域や自己の課題に向き合い表現する力を身に付けることができる。

授業計画
【前期】
1. 舞台づくりをする意味を考える
2. 発声練習や身のこなし方を学ぶ
3. 演劇エチュードを通して表現の仕方を学ぶ①
4. 演劇エチュードを通して表現の仕方を学ぶ②
5. ダンスを通して自分の身体を意識する
6. プロの演劇から学び
7. 裏方の仕事を学ぶ
8. 脚本を選び（または脚本づくり）
9. 読み合わせ　演出の方法
10. パートに分かれて練習，裏方の仕事（道具や衣装づくり，音響）の準備
11. 自分達で工夫して演出を行う。
12. リハーサルを行う
13. ゲネプロを行う（本番さながらの練習）
14. 舞台で表現する
15. 活動の振り返り

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
毎時間，授業後に活動の振り返りを行い，評価と今後の課題について整理し小レポートを作成する（60 分）。また，舞台発表に向けて，各自又は各パートで自主的な練習を行えるようにする。

テキスト
授業時間中に参考資料配布

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
最終レポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶことができた。
（B）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶことと，自分の立てた目標（非認知能力の面）を意識して行動がとれていた。
（A）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶこと，非認知能力に磨きをかけるように意識して活動ができ，この体験を今の自分に生かそうとしていた。
（S）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶこと，非認知能力に磨きをかけるように意識して活動と表現ができ，この体験を今と将来の自分に生かそうとしていた。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは，担当教員がコメントを書き返却する。

その他
毎回の活動は，身体を動かす場面があり，ある程度体力を要するので，前日からの体調管理を行うこと。活動に適した服装，持ち物を準備すること。体験内容に関するグループディスカッションや ICT 機器を用いたプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務してきた。地域体験での体験・活動が小学校現場にどのように生

かされ、実践に結びつけていくのかを助言する。

科目名	地域体験Ⅳ							学 期	通年
副 題	人とつながる力を意識した活動を通して				授業方法	実習	担当者	奥田修一郎	
ナンバリング	K2-19-085	実務経験の有無	無	関連DP	2, 3, 4, 5	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅳは、２年次で行う。地域体験Ⅳでは文化活動体験（舞台づくり活動体験）に参加する。この授業の目的は 3 つある。一つは舞台づくりには役者とそれを支える裏方の仕事があり，その両方を学ぶことで，仕事・取組みのトータルを実感的に知ること。二つ目は，将来，先生になった時，行事に参加する子ども達の思いに寄り添うためのヒントを掴むこと，三つ目は舞台づくりの知識・技能に加えて、他者と協働して完成させる力などの非認知能力を育むことである。

授業の到達目標
文化活動体験（舞台づくり活動体験）を通して，他者と協働してものごとを完成させる力，困難にくじけず最後まであきらめない態度を養うとともに，地域や自己の課題に向き合い表現する力を身に付けることができる。

授業計画
【前期】
1. 舞台づくりをする意味を考える。
2. 発声練習や身のこなし方を学ぶ。
3. 演劇エチュードを通して表現の仕方を学ぶ。①
4. 演劇エチュードを通して表現の仕方を学ぶ。②
5. ダンスを通して自分の身体を意識する。
6. プロの演劇から学び
7. 裏方の仕事を学ぶ
8. 脚本を選び（または脚本づくり）
9. 読み合わせ　演出の方法
10. パートに分かれて練習，裏方の仕事（道具や衣装づくり，音響）の準備
11. 自分達で工夫して演出を行う。
12. リハーサルを行う。
13. ゲネプロを行う（本番さながらの練習）。
14. 舞台で表現する。
15. 活動を振り返る。

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
毎時間，授業後に活動の振り返りを行い，評価と今後の課題について整理し小レポートを作成する（60 分）。また，舞台発表に向けて，各自又は各パートで自主的な練習を行えるようにする。

テキスト
授業時間中に参考資料配布

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
最終レポート，活動ごとのレポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶことができた。
（B）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶことと，自分の立てた目標（非認知能力の面）を意識して行動がとれていた。
（A）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶこと，非認知能力に磨きをかけるように意識して活動ができ，この体験を今の自分に生かそうとしていた。
（S）文化活動体験を通して，舞台づくりの知識・技能を学ぶこと，非認知能力に磨きをかけるように意識して活動と表現ができ，この体験を今と将来の自分に生かそうとしていた。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは，担当教員がコメントを書き返却する。

その他
毎回の活動は，身体を動かす場面があり，ある程度体力を要するので，前日からの体調管理を行うこと。活動に適した服装，持ち物を準備すること。体験内容に関するグループディスカッションや ICT 機器を用いたプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。

科目名	English CommunicationⅢ							学 期	集中
副 題	プレゼンテーション能力を高める。（留学生と高校生と共に学ぶ）				授業方法	演習	担当者	帯野久美子	
ナンバリング	K3-07-091	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
SDGs に関連するトピックを読み、聞く。E-learning による自宅学修でトピックに対する自分の意見を簡単な英語にまとめ、それを意見交換したりプレゼンテーションしたりすることを通じて、書く、読む、聞く、話すに意見構築力を加えた 5 技能を育成する。学修したことを基に河内長野市を紹介する Web 資材を作成して、外国人にプレゼンテーションを行う。

授業の到達目標
特定分野のトピックの学修を通じて、学生がコミュニケーションⅠとⅡで習得した力を基に運用能力を向上させることができる。さらに関連情報を収集整理することで学生が自らの意見を構築することができる。それを他者に伝えることで自己の力を評価し、さらなる学修に発展させていくことができる。TOEIC 模擬診断テストを実施して学生が自己分析、学修方法の策定を行うことができる。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション　講義の進め方、学びの目標と方法、評価の仕方について説明
2. 初回 TOEIC 診断テスト
3. 貧困　貧困をテーマにしたトピックのリスニング及びリーディング学修
4. 貧困　関連情報を収集、整理。意見をまとめる。ディスカッションをする
5. 教育格差　教育格差をテーマにしたトピックのリスニング及びリーディング学修
6. 教育格差　関連情報を収集、整理。意見をまとめる。ディスカッションをする
7. ジェンダー問題　ジェンダー問題をテーマにしたトピックのリスニング及びリーディング学修
8. ジェンダー問題　関連情報を収集、整理。意見をまとめる。ディスカッションをする
9. 再生エネルギー　再生エネルギーをテーマにしたトピックのリスニング及びリーディング学修
10. 再生エネルギー　関連情報を収集、整理。意見をまとめる。ディスカッションをする
11. 各グループの発表、クラス全体による評価、評価結果を反映した修正
12. 各グループの最終プレゼンテーション、フィードバック、フィールド学修の準備
13. 外国人にプレゼンテーションを行う
14. 外国人にプレゼンテーションを行う
15. 最終 TOEIC 診断テスト、自己評価と学修の振り返り

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として与えられたテーマに関する情報を収集し理解しておくこと。 事後学修として与えられた課題に関してレポートを提出すること。※いずれも 60 分以上取り組むこと

テキスト
Web テキストを使用

参考書・参考資料等
適宜資料を指定する。

学生に対する評価
試験は実施しない。授業への参加の度合い 30%　レポート 30%　最終プレゼン 40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）取り扱う学修トピックに関する必要最低限の知識・理解を示し、自分の意見を構築し基本的な英語（ベーシックイングリッシュ）を用いて発表することができる。
（B）取り扱う学修トピックに関する一般的な知識・理解を示し、独自性のある意見を構築しわかりやすく適切な英語（ベーシックイングリッシュ）を用いて発表することができる。
（A）取り扱う学修トピックに関する十分な知識・理解を示し、独創的な意見を構築しハイレベルな英語（アドバンストイングリッシュ）を用いて発表することができる。

（S）取り扱う学修トピックに関する深い知識・理解を示し、革新的な意見を構築し、アカデミックなレベルの英語（アカデミックイングリッシュ）を用いて発表することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、質疑応答の時間をとり、授業内でフィードバックを行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

担当者はこれまで英語教育に携わる企業を運営してきた。その経験とネットワークを活かし、学生自身に英語を中心とした社会人基礎力を身につけてもらうような授業を行う。

科目名	高野山国際ガイド体験							学 期	集中
副 題	世界遺産高野山を英語で観光ガイドする				授業方法	演習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K2-07-092	実務経験の有無	無	関連DP	1,4,5	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
English Communication 等で学んだ知識や技能を、実際に体験することで深め、より高いレベルの英語活用能力を獲得することを目指す。高野山を訪れる多くの外国人観光客に、ボランティアの観光ガイドとして関わり、観光客への案内やサポートを英語で行う。 様々な国から訪れる多くの人々を対象に高野山の歴史、建造物や精進料理はもちろんのこと、高野山大学ならではの密教に関することを英語で発信できることを目的とする。

授業の到達目標
ガイド体験に高野山に関することを学び、ガイドに必要な英語力を習得し、プレゼンできるようになる。「壇上伽藍」「奥の院」「精進料理」など、高野山大学ならではの密教に関することを英語で発信できることを目的とする。ガイド体験を通して、外国の文化を偏見なく理解する。

授業計画

【前期】
1. 授業の進め方、予習の範囲、成績評価について説明し、グループ分けをする
2. 和歌山県あるいは高野山観光協会の職員によるレクチャーと質疑応答
3. 高野山の音声ガイドや英語案内版に含まれていない情報を分析・発表する。
4. 観光説明の英文作成、各グループで現地でのガイドに使用する資料作りをする
5. ガイド体験①(現地で外国人にガイドをする)
6. ガイド体験②(現地で外国人にガイドをする)
7. ガイド体験③(現地で外国人にガイドをする)
8. ガイド体験後にビデオを見てフィードバックとアンケートを行う。
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習(予習・復習)・時間
課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で 整理する。(90 分)

テキスト
テキストは使用しない。

参考書・参考資料等
参考書は講義中に適宜紹介し、プリントを配布する

学生に対する評価
予習状況と授業態度(グループワーク)、ガイド体験の成果を加味して行う。 英文作成(30%)、発表(40%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 高野山観光やツーリズムを理解できる。
(B) 高野山観光の案内内容を十分に理解し、日本語を交えながら観光案内ができる。
(A) 高野山においてメモを見ながら英語での観光案内ができる。
(S) 高野山においてスムーズな英語での観光案内ができる。

課題に対するフィードバックの方法
観光案内を実践した直後とレポート課題を提出した翌週に行う。

その他
コンピュータールームでのグループ学習のために USB を準備すること。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	キャリアデザインⅢ							学 期	集中
副 題	教育の未来 ICT と心の融合				授業方法	演習	担当者	帯野久美子	
ナンバリング	K3-16-094	実務経験の有無	有	関連DP	4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
前半は、就職活動に必要な知識・技術を身につける。採用試験の概要や、マナー講座、教職研究、企業研究、エントリーシートの書き方等を学び、就職活動の準備を進める。 後半は、今後の教育を考えるうえで重要となるインクルーシブ教育のあり方を探究する。障害者の多様なキャリアを理解するために先進的な取り組みをする企業や組織から講師を招き、講義と現場見学を通じて特別支援教育のあり方を考える。

授業の到達目標
・教職採用試験、就職活動の流れを理解することができる。
・社会人としてのマナーや、採用試験に必要な知識を身につける。
・キャリアの視点から新しい時代のインクルーシブ教育のあり方について考えることができる。

授業計画
【前期】
1.オリエンテーション
2.教職研究　私立学校　今西幸蔵
3.教職研究　公立学校　古久保功
4.教職研究　公立学校　古久保功
5.産業と職業を理解する　高田綾子
6.キャリアプランを意識した自己分析を行う　高田綾子
7.社会人基礎力を体験する　高田綾子
8.社会人基礎力を体験する　高田綾子
9.障害者の多様なキャリアを考える　江田裕介
10.インクルーシブ教育と合理的配慮　江田裕介
11.障害者の社会参加とコミュニケーション　江田裕介
12.障害者のキャリア発達の多様性と「心豊かに生きる力」の教育　江田裕介
13.企業研究　株式会社ダイキンサンライズ摂津　渋谷栄作氏の講義と会社見学
14.企業研究　NPO 法人ぬくもり代表　鬼頭大助氏の講義と現場見学
15.まとめ　講評

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として与えられたテーマに関する情報を収集し理解しておくこと。 事後学習として与えられた課題に関してレポートを提出すること。※いずれも 60 分以上取り組むこと

テキスト
適宜資料を指定する。

参考書・参考資料等
適宜資料を指定する。

学生に対する評価
授業への参加の度合い 30%　レポート 30%　最終プレゼン 40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）キャリアデザインに関する語彙や内容をある程度理解できる。
（B）キャリアデザインとは何かについて具体的に理解できている。
（A）日本社会の現状と課題を理解し、職業を自身のこととして具体的に考えることができる。
（S）変化する時代の中で生きる力を持って、自身のキャリアデザインを具体的に描くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回、質疑応答の時間をとり、授業内でフィードバックを行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

担当者は自ら企業を運営してきた。その経験とそネットワークを活かし、学生自身にキャリアデザインの設計や社会人基礎力を身につけてもらうような授業を行う。

科目名	体育の理論と実技							学 期	前期
副 題	運動やスポーツの楽しさを体験的に理解する。				授業方法	演習	担当者	本山司	
ナンバリング	K1-17-095	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
「運動不足」「体力の低下」が問題視され，「運動嫌い」「スポーツが苦手」な子どもが増え，運動を指導するだけではなく，楽しさを伝える指導力が重要である。この体育実技では，体力強化，身体づくりとともに，運動やスポーツの楽しさを体感し，技能面を高めたり，楽しさを味わったりできるような練習やゲームの進め方を考えながら進めていく。

授業の到達目標
ボール運動の個人技能を身につけたり，集団(チーム)としての動きの高まりをめざしたりして取り組むことができるようにする。また，自身の体力の維持増進を図るとともに，さまざまな運動の特性を知り，運動技能の向上を図ることができるようにする。

授業計画
1.オリエンテーション　授業の進め方，成績評価の説明，今後の予定，簡単なボール運動を行う。
2.ドッジボール(さまざまな形式のドッジボール)
3.パスゲーム①(ドリブルを使わずに，簡単なルールで行う)
4.パスゲーム②(チームの戦術を考える)
5.バスケットボール①(3on3 バスケットボール)
6.バスケットボール②(チームの戦術を考える)
7.プレルボール①(基本技能の向上をめざす)
8.プレルボール②(チームの戦術を考える)
9.バレーボール①(基本技能の向上をめざす)
10.バレーボール②(チームの戦術を考える)
11.フラッグフットボール①(攻撃と守備の人数を変えて行う)
12.フラッグフットボール②(チームの戦術を考える)
13.フットサル①(基本技能の向上をめざす)
14.フットサル②(チームの戦術を考える)
15.授業のまとめ，振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として実施する内容について調べて理解しておくこと。(60 分)
・学習した内容や運動技能等を踏まえて、ポイントを各自で整理すること。(60 分)

テキスト
適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等
小学校体育科学習指導要領解説　体育編

学生に対する評価
授業への積極的な参加(40%)　レポート（40%）　実技能力(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）運動やスポーツの楽しさを理解することができる。
（B）運動やスポーツの楽しさを理解し、主体的に行動することができる。
（A）運動やスポーツの楽しさを理解し、自ら計画的に運動に取り組むことができる
（S）問題を解決する能力を身につけ、豊かなスポーツライフを送ることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他
毎回出席をとる。アクティブ・ラーニングの手法を用いる実技の授業については、運動しやすい服装や指定の靴等を各自できちんと準備し、授業に臨むこと。安全管理のため、貴金属類は必ず外しておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
中学校保健体育教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、学校現場で使える運動の提供と自身の体力維持増進するための方法を指導する。

科目名	数学の世界							学 期	後期
副 題	数・量・図形の指導が楽しくなる数学体験				授業方法	講義	担当者	吉田　明史	
ナンバリング	K1-15-096	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

小学校との接続を考えるとき、幼保において、子どもたちの「保育環境」に数学的な要素を含めたり、「遊びを通して学ぶ活動」の中に数学的な場面を見つけて適切に言葉がけをしたりすることが大切です。そのためには、算数の知識・技能や数学的な見方や考え方が必要です。また、算数教育においては、幼児期に体験する学びを踏まえることも大切です。　本授業では、保育者に必要な数学をきっかけとして、小学校教員として必須となる数学的な考え方、及び知識・技能を見つけることができるようにします。

授業の到達目標

①様々な事象を数学的にみることの楽しさ、面白さを味わい、数学への苦手意識を払拭することができる（リフレクションで確認）。
②教科書に示されている問題の 70%について、正答できること（課題で確認）。

授業計画

1. オリエンテーション、保育者にかかわる数･量･形；図形の相似（テキスト p20-23）
2. 保育者にかかわる数･量･形；比例、倍数･約数（テキスト p24-29）
3. 保育者にかかわる数･量･形；濃度（テキスト p30-33）
4. 保育者にかかわる数･量･形；データーの分析（テキスト p34-39）
5. 保育者にかかわる数･量･形；集合数、順序数、１対１対応、座標（テキスト p40-43）
6. 保育者にかかわる数･量･形；黄金比と白銀比（テキスト p44-49）
7. 保育者にかかわる数･量･形；数の分解と合成（テキスト p50-53）
8. 保育者にかかわる数･量･形；線対称、点対称（テキスト p54-57）
9. 保育者にかかわる数･量･形；立体の切断（テキスト p58-62）
10. 保育者にかかわる数･量･形；速さの比較（テキスト p63-66）
11. 保育者にかかわる数･量･形；数詞、命数法（テキスト p67-70）
12. 保育者にかかわる数･量･形；量の比較、測定（テキスト p71-74）
13. 保育者にかかわる数･量･形；わり算（テキスト p75-78）
14. 保育者にかかわる数･量･形；立体とその展開図（テキスト p79-83）
15. 保育者にかかわる数･量･形；個数の処理、投影図（テキスト p84-87）、まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

予習：テキストの該当部分を読んでおくこと（60 分）。 復習：与えられた課題を解くこと（60 分）。

テキスト

「保育者が身につけておきたい数学」萌文書林

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領解説　平成 30 年 3 月（文部科学省） 小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）算数編（文部科学省）

学生に対する評価

①課題･レポート（30 点）、②リフレクション（30 点）、③テスト（40 点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）評価の①～③の合計得点が 60 点以上 70 点未満であること。
（B）評価の①～③の合計得点が 70 点以上 80 点未満であること。
（A）評価の①～③の合計得点が 80 点以上 90 点未満であること。
（S）評価の①～③の合計得点が 90 点以上であること。

課題に対するフィードバックの方法

「イマキク」を使って、毎時間授業のリフレクションを行い、そこに記述された内容を確認し、次時にフィードバックします。課題についても同様です。

その他

テキストには「保育者」というタイトルがついていますが、幼稚園等で子どもが体験すること、保育者が考えることなどを通して、中学校卒業レベルの数学を学ぶような構成になっています。そのため、テキストにある数学の問題は、小学校教員採用試験（数学分野）にも対応しています。毎時行うリフレクションはスマートフォン等 ICT 機器を用いて行います。授業内容に関してグループディスカッション含め、自ら実践するアクティブ・ラーニングの手法を用います。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

評価の配分で、①及び②に 60 点を割り当てているように、授業への参加意欲、態度を重視した授業を行います。皆さんの意欲が喪失しないように、「分かる授業」を心がけます。

科目名	世界遺産と観光							学 期	集中
副 題	世界遺産を体験する文化観光の学び				授業方法	演習	担当者	宗田好史	
ナンバリング	K1-11-097	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

高野・吉野・熊野という“紀伊山地の三霊場と参詣道”が UNESCO の世界文化遺産に登録され 18 年がたつ。また、日本政府が世界遺産条約を批准して 30 年、世界遺産条約が締結され 50 年となり、コロナの時代を経て、世界遺産の意味も観光の形態も大転換している。その中で、高野山は弘法大師の教えを伝える信仰の地であり続ける。信仰の歴史に接する観光客の態度は、UNWTO（国連観光機関）が提唱する持続可能な観光の姿である。講義では、特に聖地巡礼を通じて信仰の歴史を知り、世界遺産を体験する文化観光を学ぶ。文化財保護の制度を学び、世界と日本の様々な観光の形を理解し、世界各地の多様な信仰を知る。また、文化遺産を取巻く各地の宗教紛争を知り、信仰が文化となり、観光がその交流を促進する可能性と、その教育的意義を探る.

授業の到達目標

世界遺産が観光資源になるという誤解を解き、観光に経済効果があるという間違った思い込みを改める。そのため地域経済の仕組みを理解し、産業連関と経済構造を把握する術を身につける。また、地方税収の資料から観光の経済効果を自治体財政の上で分析し、世界遺産を取巻く住民、事業者、行政関係者に正しい理解を図るための具体的説明能力を習得できる。

授業計画

【前期】

1. 世界遺産の意味を知る？世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年、文化遺産の変遷
2. ヨーロッパの文化遺産、記念物、建造物群、遺跡、そして歴史都市、文化的景観、産業遺産、無形文化遺産
3. 東アジアの文化遺産、日中韓の戦後史と文化財保護の政治的意味、世界文化遺産委員会での議論
4. 東南アジア、中南米の世界文化遺産、キリスト教と植民地と先住民族の歴史と遺産を伝える
5. 文化遺産保存の歴史と ICOMOS(国際記念物遺産会議)の取組み、国際機関、UNESCO の役割の変遷
6. 近代日本の文化財保護制度、古社寺保存法から史蹟名勝、国宝保存法へ、近代史国際比較の視点ら
7. 戦後日本の文化財保護制度、保護法制定とその後の改正、文化財の変遷、そして世界遺産条約へ
8. 世界遺産の変遷、世界遺産委員会での 1990 年代の議論から、不均衡問題、文化的多様性、真正性へ
9. 国際社会と文化遺産、国際協力と文化的権威主義、文化遺産の政治的利用、民主国家の限界、日韓の争点
10. 文化遺産と観光、戦後の日本観光史、修学旅行から世界遺産観光へ、観光行動の変化と文化遺産の消費
11. UNWTO 持続可能な観光、国際観光市場拡大と観光公害、コロナ禍とインバウンド、消滅と再生
12. 紀伊山地の霊場と参詣道、登録の取組みと登録後 16 年の軌跡、地元理解と世界の評価、将来展望
13. 信仰の世界遺産、三大宗教にみる文化遺産への対応、宗教離れへの対応、消滅可能自治体と寺院消滅
14. 観光の経済効果を知る．観光事業のビジネスモデル、地方税収から財政構造を知る、観光公害と地域政策
15. まとめ、世界遺産と観光、文化遺産による国際理解の促進と平和教育の取組み、UNESCO の教育理念を知る

【後期】

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
予習・復習のために授業日ごとに前日の振り返りをし、次の授業の理解を深める。授業の一連の流れを知り、習ったことを再現できるように反復する（90 分）。

テキスト
宗田好史『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社、2020 年
宗田好史『創造都市のための観光振興－小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社、2009 年

参考書・参考資料等
宗田好史『町家再生の論理－創造的まちづくりへの方途』学芸出版社、2009 年 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか－市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社、2012 年 宗田好史『京都観光学のススメ』、人文書院、2005 年

学生に対する評価
授業日ごとの課題と出席（50%）と最終レポート（50%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の目的に記された内容について合格と認められる最低限の成績である。
（B）授業の目的に記された内容について合格と認められる成績である。
（A）授業の目的に記された内容について優れた成績である。
（S）授業の目的に記された内容について特に優れた成績である。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見を常に受けつけ、授業で細かく対応する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションや事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。その場合は、ICT を活用し、より広い理解の促進を図る。特に、チャット等を活用して課題や質問、意見へのフィードバックを進める。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

科目名	AIと世界							学期	後期
副　題	AIの発達によって変化する生活				授業方法	講義	担当者	広瀬勝則	
ナンバリング	K1-13-086	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
インターネットやＡＩ技術の急速な進歩が、社会に大きな影響を与えている。情報が世界をまたいで飛び交い共有化され、ＡＩが様々な分野に進出して、従来とは異なった新たな社会が登場する。こうしたSociety 5.0と名付けられる新しい社会のなかで、人類はどのようにふるまっていけば良いのか、未来社会で人間が活躍しうる分野は何だろうか。本科目では、ＡＩについての基礎的な知識を学び、AIが活躍する新たな社会における人間の役割などについて検討する。 また、簡単なAIプログラミングの作成を通して、先端テクノロジーが日常生活に入り込んでいることを知る。

授業の到達目標
AIの誕生から現在に至るまでの歴史を理解し、現在どのような分野でAIが活用されているかを学ぶことができる。 簡単なScratchプログラミングの作成方法について習得し、ＡＩプログラミングの基礎について学ぶことができる。 AIの発達がもたらす未来の社会について考察し、将来の教育にAIがどのように活用できるかを学ぶことができる。

授業計画
1.ＡＩとは（暮らしを便利に身近にするＡＩ）
2.AIの歴史（１）（第１次AIブームから第２次AIブーム）
3.AIの歴史（２）（第３次AIブーム）
4.ＡＩとビッグデータ（１）（ビッグデータの利用）
5.ＡＩとビッグデータ（２）（機械学習とディープランニング）
6.ＡＩでできるようになったこと
7.社会にはいるＡＩ
8.AIの進化で教育はどう変わるのか
9.Scratchプログラミング（１）（キャラクターを動かす）
10.Scratchプログラミング（２）（ゲームを作成する）
11.ＡＩプログラミングの作成（１）（ＡＩレジの作成）
12.ＡＩプログラミングの作成（２）（○×クイズの作成）
13.AIについての研究レポート作成（１）（ＡＩの歴史と暮らしの中のＡＩ）
14.AIについての研究レポート作成（２）（ＡＩの現状と教育への影響）
15.研究レポート発表

準備学習（予習・復習）・時間
・事前学修として、授業内容に関連する資料を書籍やインターネットから集めておくとこと（90分）

テキスト
『しっかりと知りたい ビッグデータとＡＩ』宇野 毅明（著）、池田亜希子（著） 丸善出版株式会社(2018年) 定価（本体760円+税）

参考書・参考資料等
森川幸人『イラストで読むAI入門』株式会社筑摩書房2019年発行　定価（本体価格780+税） 小林真輔『できるたのしくやりきるScratch3子どもAIプログラミング入門』株式会社インプレス　定価1,320円（税込）

学生に対する評価
レポート（50%）、課題（30%）、発表（20%）。授業態度も重視する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）ＡＩについて基本的なことを理解している。
（B）ＡＩについて基本的なことを理解していて、その内容について説明できる。
（A）暮らしの中で活用されているＡＩについて説明できる。 Scratchを使って簡単なプログラミングを作成できる。
（S）ＡＩの役割、人間の役割について理解し、教育への影響について論じることができる。 Scratchプログラミングを使って、簡単なＡＩプログラミングを作成できる。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。 プログラミングの質問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
・日ごろからニュースなどで触れられているＡＩやビッグデータについて関心を持ち、気づいたことをノートにメモしておくこと。 ・授業及びレポート発表にはPowerPoint2016を中心にICT機器を使用する。操作方法は授業で説明するが、「情報と教育」のテキストも参考に予習をしておくこと。また、授業内容に

関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法も用いる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。

科目名	死生観							学 期	集中
副 題	死に関する諸問題について知見を深める				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	K3-10-098	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
「私たちはどこからきて、どこに行くのか」、「なぜ、私たちは生まれ、死ぬのか」という問いは、人類が抱く大きな問いです。宗教はこの問いに答えようとしますし、社会はこの問いと向き合うための一定のルール(死の判定や安楽死など)を作り、文化はこの問いを受け入れるための習慣(葬送儀礼やお宮参りなど)を形作ります。この講義では、死と生にまつわる人類の思索に触れ、自身の死生観を涵養します。

授業の到達目標
日本文化における死生観についての理解を深めると同時に、自身の死生観を見つめ、培うことができる。

授業計画

【前期】	【後期】
1.ガイダンス：死生観とは	1.
2.個々人の死生観①(グループワーク)	2.
3.死生学と死生観	3.
4.仏教における死生観① 概説と歴史	4.
5.仏教における死生観② 具体的な実践	5.
6.キリスト教における死生観① 概説と歴史	6.
7.キリスト教における死生観② 具体的な実践	7.
8.神道における死生観	8.
9.その他の宗教における死生観	9.
10.日本文化における死生観	10.
11.緩和ケア・ホスピスと死生観	11.
12.安楽死と尊厳死① 概説と歴史	12.
13.安楽死と尊厳死② 具体的な実践	13.
14.いのちの尊厳と人権	14.
15.まとめ：個々人の死生観②(グループワーク)	15.

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、 事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の資料を配布する。

参考書・参考資料等
脇本平也『宗教学入門』講談社､1997 年。その他、適時紹介する。

学生に対する評価
レポートによる評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）死生観に関する基本的な概念（宗教的な知識）について理解をしている。
（B）死生観に関する基本的な概念（宗教的な知識）について理解をし、他者に説明することができる。
（A）日本文化における死生観についての理解を深めると同時に、自身の死生観について意識することができる。
（S）日本文化における死生観についての理解を深めると同時に、自身の死生観について他者に語り、また、他者の死生観についても受容することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、学校現場で生じる種々の問題への対応について視点や姿勢を講義する。

科目名	身体技法(ダンス)							学 期	前期
副 題	身体表現とその創意工夫					授業方法	実技	担当者	範衍麗
ナンバリング	K1-17-099	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
本授業では身体表現の豊かさの年齢的特徴やリズミカルな動きの発達などの知識を学ぶ。また、フォークダンス、身近な素材を使った身体表現、動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって表現する遊び、劇遊び、触れ合い遊びなどを演習する。そして、ダンスを創作する知識や基本ステップを学び、グループでダンスを創作し、発表する。授業を通して、コミュニケーション能力や表現力を高めながら、ダンスを創意工夫することができる。

授業の到達目標
・ダンスやリズム遊び、表現遊びを体得し、身体表現の知識・技能を教育現場で活用することができる。
・自らの役割を理解し、積極的に行動する力を身に付けることができる。
・グループや全体の中で、自分の役割が理解でき、他者との連携を取りながら、身体で表現することができる。

授業計画
1.オリエンテーション・豊かな身体表現とは
2.世界のフォークダンス
3.身近な素材を使った身体表現１ポンポン、傘袋などを使った身体表現
4.身近な素材を使った身体表現２タオル、新聞紙、スカーフなどを使った身体表現
5.絵本から身体表現への展開
6.絵本から劇遊びへの展開
7.身体表現を取り入れた伝承遊び１だるまさんが転んだ、はないちもんめなど
8.身体表現を取り入れた伝承遊び２ころ、あぶくたったにえたったなど
9.日本の民踊
10.触れ合い遊び
11.即興的な身体表現
12.リズム遊び
13.ダンスの創作１ダンス創作の知識や基本ステップ
14.ダンスの創作２グループごとでダンスを創作する
15.創作ダンスの発表・授業の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
授業後に毎回一定時間を要する課題を課すので、次回の授業の前に課題に取り組んだ上で授業に臨むこと。(60 分)

テキスト
特に指定しない。

参考書・参考資料等
古市久子編著 『保育表現技術　豊かに育つ・育てる身体表現』　ミネルヴァ書房、2013 年 新リズム表現研究会編著 『身体表現をたのしむあそび作品集』　かもがわ出版、2018 年

学生に対する評価
授業参加の積極性（40%）、授業内発表（30%）、提出物（20%）、創作ダンスの発表（10%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）自分なりに身体で表現することができる。
（B）メンバーと協力して自分なりに身体で表現することができる。
（A）積極的に授業に参加し、身体で豊かに表現することができる。
（S）積極的に参加し、メンバーと協力して活動ができる。身体で豊かに表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回授業のワークシートに書かれた質問や意見については、次の授業内でフィードバックを行う。

その他
・グループワークやダンスによるプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、ダンスの確認や復習等に ICT 機器を活用する。
・本授業では 20 分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・体操服、体育館シューズを着用するので準備すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
小学校や幼稚園での身体表現の指導経験を活かし、身体表現の指導法について事例をあげて解説する。

科目名	現代社会と医療							学 期	前期
副 題	日本の医療と健康課題					授業方法	講義	担当者	早川和生
ナンバリング	K1-26-100	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4,5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
現代の日本の医療制度や健康情報について教員として知っておくべき基本的知識を幅広く習得できます。また学校現場において教員として勤務した時に有益で役立つ具体的な医療。保健。福祉活動を知ることが出来ます。

授業の到達目標
幼稚園や小学校などの教育現場で発生する健康問題や課題について適切に対処するために必要な基礎知識を習得することが出来ます。

授業計画
１.日本の人口動態、都道府県別比較と健康課題と社会環境
２.結婚、離婚及び出生の現状
３.衛生行政、医療施設と保健福祉施設
４.医療と保健福祉の専門職の養成
５.医療保険制度、公的医療、生活保護、在宅医療、訪問看護
６.産業保健と職場の健康
７.地域別の生命表
８.国民医療費の増大
９.小児保健と学校保健
10.レポート作成とミニテスト
11.環境保健、公害、大気汚染、放射線、電磁波、水道、産業保健
12.現代社会と救急救命活動
13.障害者・児の障害別支援
14.現代社会の高齢者福祉と介護
15.高齢者の医療問題と学術研究

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト
厚生の指標、増刊号、「国民衛生の動向」、2022/2023,

参考書・参考資料等
適宜紹介します。

学生に対する評価
試験 70%、レポート３０％

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の到達目標に記された内容について合格と認められる最低限の成績である。
（B）授業の到達目標に記された内容について妥当と認められる成績である。
（A）授業の到達目標に記された内容について優れた成績である。
（S）授業の到達目標に記された内容について特に優れた成績である。

課題に対するフィードバックの方法

その他
テキストは履修する学生が全員１冊を購入してください。（生協で購入する）。授業内容に関するメディア教材や ICT 教材を用いることがあります。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

科目名	世界の医療課題							学 期	後期
副 題	国際的社会環境医学					授業方法	講義	担当者	早川和生
ナンバリング	K1-26-101	実務経験の有無	有	関連DP	2,3,4,5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要
前期の授業「現代社会と医療」の内容を踏まえて、世界全体の医療制度について国際的視野を持って人類全体の健康問題と課題や今後の進むべき方向を考える上で必要な基本的知識を習得出来ます。

授業の到達目標
世界的視野を持って学校教育や幼児教育を考える上で必要な健康問題や医療問題について基本的な専門知識を習得できます。

授業計画
1. 健康指標と日本および世界各国の人口動態（寿命）
2. 日本の都道府県別人口動態（死因）
3. 世界の人口動態（疾病罹患率の国際的比較）
4. 乳児死亡、周産期死亡、死産、新生児志望
5. 死因の概要動向（都道府県別）
6. 日本と世界の死因概要と動向（悪性新生物）
7. 日本と世界の死因概要と動向(脳血管疾患、心疾患、等)
8. レポート作成とミニテスト
9. 精神保健と自殺率の国際比較
10. 感染症り患の現状
11. 感染症対策：予防接種、食中毒、感染源特定演習
12. 国際保健機関、ユニセフ等の国際機関の活動と日本人
13. 世界各国の医療制度
14. 現代に司法、法律と医療
15. 予防医学研究の動向

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容について、予習・復習ともに 60 分以上取り組むこと。

テキスト
厚生の指標、増刊号「国民衛生の動向、2023/2024, 厚生労働協会、2022 年　（生協で購入）履修する学生は全員が各自で１冊を購入して下さい。

参考書・参考資料等
適宜紹介します。

学生に対する評価
試験 70%、レポート３０％

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の到達目標に記された内容について合格と認められる最低限の成績である。
（B）授業の到達目標に記された内容について妥当と認められる成績である。
（A）授業の到達目標に記された内容について優れた成績である。
（S）授業の到達目標に記された内容について特に優れた成績である。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートには各々にコメントして評価を記して返却する。

その他
テキストは履修する学生が全員１冊を購入してください。(生協で購入する)。授業内容に関するメディア教材や ICT 教材を用いることがあります。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
病院、医療機関、保健機関、学校等の現場体験を通して得た具体的な実践知識も含めて授業を行う予定です。

科目名	常用経典							学 期	通年
副 題	僧侶として日々唱える経典に習熟する。				授業方法	実技	担当者	添田隆昭	
ナンバリング	K3-01-102	実務経験の有無	有	関連DP	4,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
般若心経、礼文、理趣経、観音経、三陀羅尼、金剛界礼讃　立義文、舎利礼、九条錫杖、諸真言等の読誦に通達し、その内容について、おおまかな知識を得る。

授業の到達目標
上記経典を単独で正確に読誦できること。

授業計画
【前期】
1.般若心経
2.般若心経
3.礼文
4.理趣経初段
5.理趣経第二段
6.理趣経第三段
7.理趣経第四段
8.理趣経第五段
9.理趣経第六段
10.理趣経第七段
11.理趣経第八段
12.理趣経第九段
13.理趣経第十段
14.理趣経第十一段
15.理趣経第十二段～十七段

【後期】
1.理趣経百字偈
2.理趣経善哉以下
3.理趣経合殺
4.観音経
5.観音経
6.観音経偈
7.三陀羅尼
8.三陀羅尼
9.三陀羅尼
10.金剛界礼讃
11.立義文
12.舎利礼
13.九条錫杖
14.諸真言
15.試験

準備学習（予習・復習）・時間
毎回、前回分の独唱をさせますから、よく、復習しておくこと（90 分程度）。

テキスト
真言宗常用諸経要聚（携帯用にてひらかな付きのもの）

参考書・参考資料等
必要に応じて配布

学生に対する評価
出席と授業毎の習熟度

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）般若心経、観音経はすらすら読誦できること。
（B）理趣経が他人と唱和できること。
（A）理趣経を正確に独唱できること。
（S）諸経典を正確に独唱できること。

課題に対するフィードバックの方法
授業中に指摘し、回答する。

その他
直接的な指導→実践や実地訓練→振り返りと指導→…といった形で、循環しながら学びを深めていくアクティブ・ラーニングの手法を用いる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山内塔頭の住職として日々の勤行に出仕し、かつて宗務総長として本山の諸法要の導師を務めた。

科目名	声明							学 期	通年
副 題	日々の勤行で唱える声明を習得する				授業方法	実技	担当者	添田隆昭	
ナンバリング	K3-01-103	実務経験の有無	有	関連DP	4,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
前讃、後讃、唱礼、散華、対揚、中曲等を修得し、山内法要に参列する

授業の到達目標
上記声明各曲を独唱できること。

授業計画

【前期】	【後期】
1.四智讃　梵語	1.仏讃
2.四智讃　梵語	2.仏讃
3.四智讃　梵語	3.仏讃
4.心略讃　梵語	4.散華
5.心略讃　梵語	5.散華
6.心略讃　梵語	6.散華
7.不動讃　梵語	7.対揚
8.不動讃　梵語	8.対揚
9.不動讃　梵語	9.対揚
10.四智讃　漢語	10.唱礼
11.四智讃　漢語	11.唱礼
12.四智讃　漢語	12.唱礼
13.心略讃　漢語	13.中曲
14.心略讃　漢語	14.中曲
15.心略讃　漢語	15.試験

準備学習（予習・復習）・時間
毎回、前回分の復唱を課するゆえ、よく、復習しておくこと（90 分程度）。

テキスト
真言宗常用諸経要聚（携帯用、ひらかな付きのもの）「常用経典」の授業と共通

参考書・参考資料等
便宜、授業中に配布

学生に対する評価
上記声明各曲を独唱できること。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）前後讃が独唱できること。
（B）唱礼が独唱できること。
（A）散華対揚が独唱できること。
（S）中曲が独唱できること。

課題に対するフィードバックの方法
授業中に確認し、繰り返させる。

その他
直接的な指導→実践や実地訓練→振り返りと指導→…といった形で、循環しながら学びを深めていくアクティブ・ラーニングの手法を用いる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山内塔頭の住職であり、日々の勤行でお唱えしており、高野山第５２４世法印として、これまで山内の法要を主管してきた。

科目名	法式							学 期	後期・集中
副 題	高野山で学ぶ法会の実際				授業方法	実技	担当者	山口文章	
ナンバリング	K3-01-104	実務経験の有無	有	関連DP	4,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
高野山真言宗の僧侶として法式の基礎知識を理解する

授業の到達目標
高野山真言宗の法会に必要な荘厳の基礎知識を理解し、説明できること

授業計画
【前期】
1.法式について
2.道場荘厳の解説①　事相と教相
3.道場荘厳の解説②　荘厳の目的と意識
4.道場荘厳の解説③　道場荘厳の歴史
5.道場荘厳の解説④　祀り方の実際
6.道場荘厳の解説⑤　道場荘厳具の説明
7.道場荘厳の解説⑥　道場荘厳具の説明
8.道場荘厳の解説⑦　道場荘厳具の説明
9.道場荘厳の解説⑧　道場荘厳具の説明
10.六種供養について①　供養の基本
11.六種供養について②　供養の内容
12.六種供養について③　供養の意義
13.六種供養について④　供養の意義
14.道場荘厳見学
15.試験と総括

【後期】
1.法式について
2.真言宗の本尊について
3.真言宗の八祖について
4.壇荘厳の解説①　壇荘厳の意義と歴史
5.壇荘厳の解説②　壇の形式と種類
6.壇荘厳の解説③　大壇荘厳具の説明
7.壇荘厳の解説④　大壇荘厳具の説明
8.壇荘厳の解説⑤　大壇荘厳具の説明
9.壇荘厳の解説⑥　大壇荘厳具の説明
10.壇荘厳の解説⑦　大壇荘厳具の説明
11.壇荘厳の解説⑧　大壇荘厳具の説明
12.壇荘厳の解説⑨　大壇荘厳具の説明
13.壇荘厳の解説⑩　大壇荘厳具の説明
14.壇荘厳見学
15.試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間
テキスト『真言宗の事作法』や参考書『真言宗法儀解説（新装版)』を参照し、内容を理解することを予習する（60 分)。授業内容を理解し、テキスト・参考書をもとに復習する（60 分)。

テキスト
『真言宗の事作法』密教学科教務課にて購入のこと

参考書・参考資料等
『真言宗法儀解説（新装版)』大山公淳著、東宝出版

学生に対する評価
出席状況と試験

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）基本用語を理解している
（B）基本用語を理解し、活用できる
（A）道場荘厳の様式について理解している
（S）道場荘厳の様式について理解し、説明できる

課題に対するフィードバックの方法
授業中や WebClass により質問を受け付け、個別にフィードバックを行う

その他
高野山真言宗の僧侶として必須である荘厳の基本を理解することを目標とする。直接的な指導→実践や実地訓練→振り返りと指導→…といった形で、循環しながら学びを深めていくアクティブ・ラーニングの手法を用いる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
教員は高野山真言宗総本山金剛峯寺の役職員として 25 年間勤務した高野山真言宗寺院住職である。長年にわたり、高野山の恒例法会に出仕してきた実務を通して法式の基礎を伝授する。

科目名	布教							学 期	後期・集中
副 題	布教の基本と実践					授業方法	実技	担当者	山口文章
ナンバリング	K3-03-105	実務経験の有無	有	関連DP	4,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
布教の原理と基本を学び、実践に結びつける科目である。弘法大師の教えと真言密教の体系的な理論をもとに、一般大衆にひろく教化伝道することを目的とする。

授業の到達目標
布教理論の学習により、教化伝道の意義を認識し、布教実習を通して自ら原稿を作成して法話を実践することを目標とする。

授業計画
【前期】
1.布教の概要について解説する
2.布教伝道の精神
3.布教の目的
4.布教の任務
5.仏教の布教伝道
6.真言宗の布教理念
7.信仰心の喚起
8.礼拝の実践
9.安心の獲得
10.真言宗布教史
11.布教の対象
12.布教の種類
13.説法の十事
14.布教資料について
15.布教の五段・三段法

【後期】
1.布教原稿の書き方
2.教材収集の方法
3.布教の心得と教材の扱い方
4.布教実習①
5.布教実習②
6.布教実習③
7.布教実習④
8.布教実習⑤
9.布教実習⑥
10.布教実習⑦
11.実習の所感
12.文書布教のあり方
13.高野山開創の意義
14.布教作法とその心得
15.総括

準備学習(予習・復習)・時間
講義前にテキストを正しく読めるようにしておくこと。(60 分) 講義で学習した弘法大師の聖語を『定本弘法大師全集』で調べ、研究方法を身につけること。(60 分)

テキスト
寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社

参考書・参考資料等
授業配布プリント他

学生に対する評価
出席状況、レポート、布教実習

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 仏教、密教の基本的用語が理解できる
(B) 布教に関する資料を収集し、活用できる
(A) 布教原稿を適切に作成できる
(S) 法話を構成し、原稿を作成して人々に布教することができる

課題に対するフィードバックの方法
授業中や WebClass により質問を受け付け、個別にフィードバックを行う

その他
法話とは目的を持ったコミュニケーション方法である。完成度が高い法話の実践は、教育現場や社会において重要な意義を有する。「話す」ことと「伝える」ことの違いを認識し、布教で学んだ技術を応用していくことが肝要である。直接的な指導→実践や実地訓練→振り返りと指導→…といった形で、循環しながら学びを深めていくアクティブ・ラーニングの手法を用いる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
教員は高野山真言宗総本山金剛峯寺の役職員として 25 年間勤務した高野山真言宗寺院住職である。長年にわたり、全国の檀信徒に布教してきた実務を通して有効な布教とは何かを伝授する。

科目名	教育課程論							学 期	前期
副 題	カリキュラム・マネジメントの意義とプロセス				授業方法	講義	担当者	八木英二	
ナンバリング	K2-17-106	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（授業のテーマ） 学習指導要領をふまえ、教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 （授業の概要） 学校教育は、目的や価値の実現をめざす活動であり、到達目標を達成するために、教育内容を組織的、体系的に編成するものが教育課程であることを講義する。講義で得た知見をとおして、学校における教育計画や教育課程の編成の仕方について、学生自身が身につけることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の場を設定する。

授業の到達目標

１）学校教育における教育課程の役割、機能、意義について理解できる。
２）学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的、改訂の変遷及び主 な改訂内容を理解できる。
３）学習指導要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解できる。

授業計画

1.学習指導要領及び教育課程編成の意味理解
2.学習指導要領の歴史的変遷及び改訂内容
3.国際動向からみた教育課程【授業内課題１】学習指導要領とは何か
4.教育課程の社会的役割と機能　―近年の国際的・国内的動向
5.教育課程編成の基本原理（「教育課程の構造」とコンピテンシー）
6.教育内容の選択と配列【授業内課題２】教育課程はどのように編成すべきなのか
7.生徒や学校、地域との連携、協働　―社会的要請と学校の在り方
8.児童・生徒の実情を踏まえる指導計画【授業内課題３】子ども理解と学校の在り方
9.カリキュラム・マネジメントの意義（１）　―発達的階梯と学びのメカニズム
10.カリキュラム・マネジメントの実施（２）　―教育課程づくりの条件整備
11.カリキュラム評価（１）　－必要性と意義【授業内課題４】カリキュラム・マネジメントとは
12.カリキュラム評価（２）　－教育目標・評価論の変遷と機能
13.カリキュラム評価（３）　－評価の方法と実際
14.グローバルな市民教育カリキュラム（１）　－新学習指導要領を中心に
15.グローバルな市民教育カリキュラム（２）　－これからの社会（SDGs）と教育課程

準備学習（予習・復習）・時間

事後学習として講義内容の感想提出を求める（15 分）。反転授業を行う時には事前の宿題を課すこともある（60 分）。

テキスト

金馬国晴編『カリキュラム・マネジメントと教育課程』学文社

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』

学生に対する評価

授業内課題（60%）、期末リポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義内容について基礎レベルの習得が認められる水準
（B）講義内容について平均的な理解に達していると判断される水準
（A）求められる課題についての理解が優れていると認められる水準
（S）自身の独創的な考えも加えつつ講義内容についての発展的な理解を示すことが出来る水準

課題に対するフィードバックの方法

課題の結果について全体状況は授業内で対応するが、個々の状況は個別対応も行う

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、反転授業、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

教育現場での実務経験を活かし、現場に関与した参与観察記録等を授業内容（VTR 記録や口頭説明）で用いて、具体的かつ実践的な理解に寄与することができる。

科目名	保育教育課程論							学 期	前期
副 題	カリキュラム・マネジメントの意義とプロセス				授業方法	講義	担当者	八木英二	
ナンバリング	K2-17-107	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
保育・教育の実践の VTR 記録を用いて、保育・教育課程の役割・機能・意義を深めながら、保育・教育課程編成の基本原理と、各施設の保育実践に即した保育・教育課程の編成の具体的な在り方を理解できるようにする（遊びと生活の年齢別・季節毎の違いを含む)。

授業の到達目標
幼稚園教育要領等を基準として各施設で編成される教育・保育課程について、その意義や編成の方法についてカリキュラム・マネジメントを含めて理解できる。

授業計画
1．保育・教育課程の歴史的経緯
2．保育所や認定子ども園における指導計画の意味(保育内容と領域の理解)
3．幼稚園における保育・教育課程の意味(保育内容と領域の理解)
4．保育・教育課程づくりの前提となる子どもの遊び活動と子ども理解
5．乳幼児期のあそびと学びの理解
6．低年齢の遊びと保育・教育課程
7．年度当初・入園当初の保育・教育課程
8．春の遊びと保育・教育課程
9．夏の遊びと保育・教育課程
10．秋の遊びと保育・教育課程
11．冬の遊びと保育・教育課程
12．年間のまとめの指導計画　－行事、地域との連携を活かす保育・教育課程
13．「困っている」子どもの保育・教育課程
14．小学校との連携(幼・保から小学校への接続にかかわる取組)
15．保育の質を高める計画と評価・カリキュラム・マネジメント

準備学習（予習・復習）・時間
事後学習として講義内容の感想提出を求める（15 分)。反転授業を行う時には事前の宿題を課すこともある（60 分)。

テキスト
テキストは用いないが、各回で講義プリントを配布し、VTR 記録を使用する。

参考書・参考資料等
幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)

学生に対する評価
各回の授業内で提示する VTR 記録の感想提出（50%)、期末リポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義内容について基礎レベルの習得が認められる水準
（B）講義内容について平均的な理解に達していると判断される水準
（A）求められる課題についての理解が優れていると認められる水準
（S）自身の独創的な考えも加えつつ講義内容についての発展的な理解を示すことが出来る水準

課題に対するフィードバックの方法
課題の結果について全体状況は授業内で対応するが、個々の状況は個別対応も行う

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、反転授業、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
教育現場での実務経験を活かし、現場に関与した参与観察記録等を授業内容（VTR 記録や口頭説明）で用いて、具体的かつ実践的な理解に寄与することができる。

科目名	道徳教育の理論と方法							学 期	集中
副 題	「特別の教科 道徳」の授業づくりを中心に				授業方法	講義	担当者	小林将太	
ナンバリング	K2-17-108	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
道徳教育の歴史・理論などの基礎知識を紹介し、道徳教育をめぐる現在の課題や焦点を押さえたうえで、学習指導要領に沿った具体的事例の考察を通じてその理解を深め、授業実践力の育成へとつなげる。授業では、ディスカッションやプレゼンテーション等を交え、適宜ビデオ教材を用いる。

授業の到達目標
道徳教育を実践するにあたり、現代社会で生じる道徳的葛藤をはらんだ諸問題に対して、根本的なレベルで批判的考察を加えるために教師に求められる観点や思考力を身につけたうえで、それにもとづいて「特別の教科 道徳」の授業を実際に構想できるようになることを目指す。

授業計画
【前期】
1. イントロダクション（ガイダンスと導入）
2. 道徳教育の歴史（1）―戦前（大正新教育など）
3. 道徳教育の歴史（2）―戦後
4. 道徳性の発達理論
5. 学習指導要領に示される道徳教育の目標・内容・方法
6. 道徳科の指導方法と学習指導案の作成方法
7. 学習指導案の作成・検討（1）―主題（ねらいと教材）
8. 学習指導案の作成・検討（2）―主題設定の理由
9. 学習指導要領に示される道徳教育の指導計画・評価
10. 模擬授業とその評価・改善（1）
11. 学習指導案の作成・検討（3）―学習指導過程
12. 学習指導案の作成・検討（4）―板書計画やワークシート
13. 道徳教育における現代的な課題（シティズンシップ教育など）
14. 模擬授業とその評価・改善（2）
15. 総括

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
授業回ごとにミニレポートを課す。授業の復習をしながら考えたことなどを記述すること（30 分）。 一部の授業回では、予習としてあらかじめ資料等を読むこと（30 分）。

テキスト
授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等
文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説：特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき 岡部美香・谷村千絵編（2012）『道徳教育を考える：多様な声に応答するために』法律文化社 苫野一徳（2019）『ほんとうの道徳』トランスビュー

学生に対する評価
出席・授業末に課すミニレポート・授業への参加度 40%、学期末試験 60%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）「特別の教科 道徳」の学習指導案を一定の形式に沿って作成することができる。
（B）「特別の教科 道徳」の学習指導案を、他の人も理解・実践できる内容で、一定の形式に沿って作成することができる。
（A）「特別の教科 道徳」の学習指導案を、道徳的課題を明確にした上で、他の人も理解・実践できる内容で、一定の形式に沿って作成することができる。
（S）「特別の教科 道徳」の学習指導案を、道徳的課題を明確にし、教材の特質もふまえた上で、他の人も理解・実践できる内容で、一定の形式に沿って作成することができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。できれば ICT を活用したいと考えている。

その他
本授業の成績評価にあたっては、全授業回への出席を原則とする。欠席しなければならない事情がある場

合は必ず説明・相談すること。 授業内容に関するグループディスカッションや模擬授業など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。 学習指導案の作成・検討はグループワークで実施する。 模擬授業も、各グループの複数名で実施する。

科目名	総合的な学習の時間の指導法							学 期	前期
副 題	問いをつくり探究するために必要なこと				授業方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバリング	K3-K-109	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

〈目的〉(1)「総合的な学習の時間」の創設の趣旨・目標や内容等について理解を深める。(2)学習指導要領の基本理念の一つに,「学びに学び向かう力」「人間性等の涵養」にあることを学び,「総合的な学習」を教科横断的に進めてうける構想力を身に付ける。〈概要〉本講義では，まず,「総合的な学習の時間」の創設の趣旨等，基本的な考え方を学ぶ。また，全体計画・年間指導計画の在り方，学習指導方法，評価の在り方など，学習活動を具体的に進めるための基本を，先行実践・研究をもとに考察するともに自ら構想できるようにする。

授業の到達目標

(1)「総合的な学習の時間」の目標・内容等に関わる専門的知識と指導技能、カリキュラム構想力を身に付けられるようにする。
(2)主体的で対話的な深い学びが目指せるような学びの姿勢を自ら協働で体験する中で、修得できるようにする。

授業計画

1.創設の背景と趣旨　小中高時での「総合的な学習」時間を振り返る
2.「総合的な学習の時間」の目標及び内容　どんな実践が生まれてきたか。
3.目指す生徒の姿と育てたい資質と能力の態度　総合的な学習を進めていく上での難しさを考える。
4.教育課程上の位置づけ、各教科等との関連　小学校の実践から〈総合的な学習の時間の進め方〉
5.各学校における全体計画、年間指導計画，中学校の実践から（キャリア教育）
6.「主体的で対話的な深い学び」の実現をめざした授業改善，個別最適化な学びと協働的な学びの一体的な充実
7.教材、教育環境、学習支援者をどう充実させていくか。防災教育や食農教育からのアプローチ
8.地域連携体制をどう構築していくか。(まちづくりの会や地域の企業との連携)
9.小学校・中学校における全体計画・年間指導計画の作成(カリキュラム作成)
10.小学校における学習指導案の作成　①（単元展開に視点をおいて）
11.中学校における学習指導案の作成　②(テーマ設定に視点をおいて)
12.それぞれの学習指導案のプレゼンテーション。(個人またはグループ発表)
13.STEAM 教育の中核としての総合的な学習の在り方について，単元指導計画作成
14.総合的な学習の時間における資質・能力の評価について－学びに向かう力を中心に－，単元指導計画案の発表
15.目指す「総合的な学習の時間」とそれに向けての課題，まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

授業後にワークシート課題を課すので，次回までに小レポートとして提出すること（50 分）　調査や取材をする中で探究課題を設定し，単元指導計画，一時間の授業案を書き，プレゼンテーションできるように準備しておくこと。(120 分）適宜　小テストを実施するので復習をしておくこと（30 分）

テキスト

小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　総合的な学習の時間編　東洋館出版社（生協で購入）

参考書・参考資料等

レジメ、資料は適宜配布する。

学生に対する評価

レポート[単元計画,学習指導案、作品も含む](50%)、小テスト(20%)、授業でのワークシート記述（20%)、積極的参加度・発表(10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）「総合的な学習の時間」の目標及び内容等に関して理解することができた。
（B）「総合的な学習の時間」の目標及び内容等を理解するともに調査に関した技能を身に付けることができた。また，単元指導計画の構想を描くことができた。
（A）「総合的な学習の時間」の目標及び内容等を理解するともに探究方法を知り活用し，単元指導計画と授業案をつくることができた。
（S）「総合的な学習の時間」の目標及び内容等を理解するともに他者と協働しておこなう探究方法を身に付け，単元及び年間指導計画と授業案，評価案をつくることができた。

課題に対するフィードバックの方法

意見や質問については，毎回の授業内でフィードバックする。また，提出されたレポートは，コメントを添え次回授業時に返却する。

その他

アクティブ・ラーニングを多く取り入れた科目である。特に，書籍や ICT を活用した調査だけでなく取材をすることも大切にする。また，受講者同士の対話的な学びを重視し，素材をもとに問いを見つけ.探究する時間を設けていく。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

中学校教員及び地域支援教育コーディネーターとして勤務した教員が，その経験を活かして，地域とつながり子ども達が意欲的に探究できる単元構成・授業づくりができるように指導する。そのために，まず本大学の地域体験の学びを振り返る。また，目標やそれを実現のための探究課題の設定の仕方とカリキュラム・マネジメントの意味を，具体的な実践例から理解できるようにする。さらに，問いをつくるための手法や思考ツールの意義を考えるとともに,具体的な年間計画や学習指導案が自分で書けるように指導する。

科目名	特別活動の指導法							学 期	前期
副 題	よりよい生活や人間関係を形成し、自己実現を図る特別活動				授業方法	講義	担当者	松田忠喜	
ナンバリング	K3-17-110	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（テーマ）教科外活動としての特別活動が、集団や社会の形成者としての見方や考え方を育む自主的、実践的な活動であることや特別活動で育成すべき資質・能力について理解する。（授業の概要） 特別活動における各活動（学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事、クラブ活動）に関わる内容を理解し、特別活動の基本的な考え方について学ぶ。また、各活動における学習過程を通して、どのように指導していくのかを実践事例なども踏まえ具体的に検討する。

授業の到達目標

１）特別活動の目標や特質・教育的意義を踏まえ、特別活動で育成すべき資質・能力について理解を深めることができる。
２）特別活動の内容、指導法について理解し、実践に向けたスキルを身に付けることができる。

授業計画

1.教育課程における特別活動の位置づけと教育的意義及び各教科等との関連
2.特別活動の歴史と果たす役割
3.特別活動の特質と方法原理 【授業内課題1】特別活動の基本的な考え方と意義
4.特別活動の目標と内容―学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事等
5.学級・ホームルーム活動の指導のあり方(1)・・・・事前の指導
6.学級・ホームルーム活動の指導のあり方(2)・・・・話合い活動・実践活動
7.学級・ホームルーム活動の指導のあり方(3)・・・・相互評価
8.学級・ホームルーム活動の活動内容の指導１ 学習指導案作成 【授業内課題2】学級・ホームルーム活動の年間指導計画を立てよう
9.学級・ホームルーム活動の活動内容の模擬授業（実習）
10.児童会・生徒会活動の目標・内容と指導上の留意点
11.学校行事の目標・内容と指導上の留意点
12.クラブ活動の目標・内容と指導上の留意点 【授業内課題3】学校行事の中に、児童・生徒の自発的・自治的な活動を取り入れる工夫を考えよう。
13.特別活動と生徒指導、キャリア教育 【授業内課題4】いじめを予防するための方法を考えよう
14.道徳と特別活動の関連 【期末リポート】よりよい集団づくりのために、特別活動を軸に据えた学級経営の方法を考えよう。
15.特別活動を生かした学級経営と家庭・地域、関係諸機関等との連携

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学修として、テキストの該当ページ及び講義資料を読み、その内容の理解に努めること（60 分） ・配付される資料をもとに復習し、要点を整理する（60 分） ・授業後に出される課題に取り組む（60 分）

テキスト

中園大三郎・松田修（編著）21 世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 第 3 版「特別活動の理論と実践」学術研究出版社（2023） （生協で購入）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領 特別活動編＜最新版＞文部科学省 中学校学習指導要領 特別活動編＜最新版＞文部科学省 高等学校学習指導要領 特別活動編＜最新版＞文部科学省

学生に対する評価

授業内課題（８０％）期末リポート（２０％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）特別活動の目標及び各内容を理解することができる。
（B）特別活動の目標及び各内容を理解するとともに、特別活動で育成すべき望ましい集団の在り方や自主的、実践的な態度を身に付ける。
（A）特別活動の目標及び各内容を理解するとともに、特別活動で育成すべき望ましい集団の在り方や自主的、実践的な態度で常に取り組むことができる。
（S）特別活動の目標及び各内容を理解するとともに、特別活動で育成すべき望ましい集団の在り方や自主的、実践的な態度を身に付け、見通しを持ち、主体的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

一人一人コメントをつけて返却するとともに、みんなで共有することが望ましい内容等については、講義中に知らせることで理解を深める。

その他

ディスカッションやグループワーク、発表などアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業である。「なすことによって学ぶ」特別活動の方法原理を体得するためにも、自主的（主体的）に自ら進んで参加することを期待する。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

小学校教員として、教諭（特別活動主任も経験）、首席、教頭、校長を務める。 教諭時代から大阪府小中学校の特別活動研究会に所属し、その計画・運営に携わり、書記・副会長（5 年間）、会長（5 年間）を務めるとともに、近畿の各特別活動の研究会及び全国大会にも関わり、実践発表や指導助言を行う。

科目名	生徒指導論							学 期	前期
副 題	生徒指導の理論と実践				授業方法	講義	担当者	今西幸蔵	
ナンバリング	K2-17-111	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（授業のテーマ）授業は、学校における生徒指導の在り方や進め方を理解することによって、実際に児童・生徒を指導・支援する具体的方略について理解することを目的とする。（授業の概要）今日の学校ではさまざまな問題が生起し、課題として児童・生徒に対する適切な指導が求められている。生徒指導の本質を理解し、適切な指導が可能となるスキルを習得することが必要である。不登校や問題行動のある児童・生徒、発達障害のある児童・生徒に対して、教員として適切な指導が行えるよう、多面的な観点からの生徒指導の進め方を講義する。

授業の到達目標

１）学校における児童・生徒に対する指導の意義や原理を把握できる。
２）幼児期から少年期に至る児童・生徒の特性を知り、そのための学校の指導体制をつくり、必要な指 導や支援について理解できる。
３）発達障害のある児童・生徒について正しく理解し、適切な指導ができる。
４）不登校や問題行動を行う児童・生徒について支援し、指導できる。
５）児童・生徒を指導するための地域ネットワークを構築することの意義が理解できる。

授業計画

1.学校と生徒指導の意義
2.生徒指導の方法原理
3.生徒指導と教育課程の関係【授業内課題１：教員として生徒指導をどう理解したか】
4.児童の特性と理解
5.生徒の特性と理解【授業内課題２：現代の児童・生徒の意識と行動】
6.学校における児童・生徒への指導体制
7.教育相談の意義と実践的スキル
8.スクールカウンセリングの意味と諸機関との連携【授業内課題３：カウンセリングマインド】
9.児童・生徒全体への指導の進め方
10.学校行事における学級指導の進め方【授業内課題４：全体指導の実際的能力】
11.個々の児童・生徒への指導と支援１（問題行動）
12.個々の児童・生徒への指導と支援２（不登校）
13.個々の児童・生徒への指導と支援３（発達障害）【期末リポート：個々の児童への指導法】
14.「校則」等に見る規範と法制度の理解
15.学校と家庭・地域社会との関係づくり

準備学習（予習・復習）・時間

毎時、授業前にレジュメを配付するので、これを通して何を学ぶのかを理解し、予習する。授業時には授業資料を配付するので、これを使用して授業内容の内実化を図る。さらに与えられた課題を提出することによって復習に努める。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト

今西幸蔵編『生徒指導・進路指導の理論と実践』法律文化社

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要（改定版）／コンパクト版』ジアース教育新社

学生に対する評価

授業内課題（８０％）、期末リポート（２０％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生徒指導に関わる基礎理論と実践の意味・意義をおおむね理解することができる。
（B）生徒指導に関わる基礎理論を理解した上で、教員としてどのように実践すべきかを考えることができる。
（A）生徒指導に関わるさまざまな理論と児童・生徒の発達特性を理解し、教員として何をすべきなのかを考え、学校の指導体制を計画することができる。
（S）生徒指導に関わるさまざまな理論と児童・生徒の発達特性を深く理解し、その上に立って教員の専門性を生かした指導のあり方を検討し、学校の指導体制の組織化ができるだけの知識とスキルを習得する。

課題に対するフィードバックの方法

各自のリポートを添削した上で解説を加え，問題点を指摘して改善することを促し、学修成果があがるように努める。

その他

授業時には、アクティブ・ラーニングの方法論を採用し、グループワークによって学修の充実化を図る。具体的には、ディスカッション、ディベート、ロールプレイや反転学習を実施して単元目標の達成に努める。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

担当者は、中学校教諭 3 年、高等学校教諭 13 年、府教育委員会指導主事等 8 年及び高等学校教頭 3 年としての経験を持つ教員であり、その経験を生かして、理論学習だけでなく具体的実践のあり方、進め方を指導する。特に管理職を務めた経験から、学校における生徒指導体制づくりや個別の課題を抱える児童・生徒への指導・支援について、幅広い視野から取り組むことができる力を育成する。

科目名	幼児理解方法論							学 期	後期
副 題	子どもに寄り添った理解と支援とは				授業方法	演習	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	K1-21-112	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
子ども期の発達は生涯の中で、短期間ながらも劇的な変化を遂げる時期である。本授業では、子どもの発達とそれに伴う生活上の課題についての学びを深めるとともに、それらを踏まえた子ども理解の視点や方法について学ぶ。また、さまざまな場面設定における子どもの反応や変化を把握・記録した上で考察する際の留意点についても学ぶ。

授業の到達目標
①子どもの発達とその課題について理解できる。
②子どもを理解する際に様々な視点や方法を用いることができる。
③子どもの反応や変化を把握・記録し考察することができる。

授業計画
1. 子ども理解の意義について一様々な場面設定からー
2. 子どもを取り巻く人的環境としての保育者
3. 子どもを理解する視点①　生活や遊び
4. 子どもを理解する視点②　ことばとコミュニケーション
5. 子どもを理解する視点③　自己と他者
6. 子どもを理解する視点④　集団における育ち
7. 子どもを理解する視点⑤　自然環境や保育環境との関わり
8. 子どもを理解する視点⑥　いのちにふれる、慈しむ
9. 葛藤やつまづきへの理解
10. 子ども理解の方法①　観察や記録について
11. 子ども理解の方法②　情報の抽出と検討・考察
12. 子ども理解の方法③　情報の共有、ネットワークの構築
13. 特別な配慮を要する子ども①　その特性を知る
14. 特別な配慮を要する子ども②　関わり方を知る
15. まとめ　「広がり」と「時間の流れ」を意識した子どもへの理解と支援

準備学習（予習・復習）・時間
何回分かの資料をあらかじめ配布するので、事前学修としてその内容に目を通し、わからない言葉等について調べておくこと（90 分）。事後学修として、日常的な実践を念頭におきながら授業のふりかえり学修を行うこと（90 分）。

テキスト
適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等
高嶋景子・砂上史子　『新しい保育講座③　子ども理解と援助』ミネルヴァ書房

学生に対する評価
授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）子どもの発達と生活課題について理解するための方法と支援について基本的な知識を有している。
（B）子どもの発達と生活課題について理解するための方法と支援について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に整理できる。
（A）子どもの発達と生活課題について理解するための方法と支援について基本的な知識を有するとともに、体系的に説明・実践することができる。
（S）子どもの発達と生活課題について理解するための方法と支援について基本的な知識を有するとともに、具体的な事例に関連付けた上で体系的に説明・実践することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。
②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	進路指導・キャリア教育							学 期	後期
副 題	「生きる力」を育成するキャリア教育				授業方法	講義	担当者	松田忠喜	
ナンバリング	K2-17-113	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

（授業のテーマ）児童の「生きる力」の育成を目的として、学校におけるキャリア教育・進路指導の意義や原理を理解する。(授業の概要) キャリア教育や進路指導の意義や内容、基本的な考え方について理解し、キャリアに関わる諸要素やコンピテンシーについて講義する。学校と地域や関係機関との連携についての重要性について理解するとともに、具体的な内容について調べたり、討議したりしながら内容を深めていく。また、これらの内容を生かしながら、キャリア教育を志向した教育課程づくりについて考察する。

授業の到達目標

1)キャリア教育・進路指導についての意義や原理を知り、具体的な指導につながるような力量を身につけることができる。
2)キャリア教育・進路指導についての歴史的な背景や変遷、期待されることについて理解を深めることができる。
3）学校と地域や関係機関との連携の重要性を理解し、具体的な連携や取り組みについて調べ検討し、教育課程づくりに生かすことができるようにする。

授業計画

1.「キャリア教育」の定義
2.「キャリア教育」の必要性と意義・内容【授業内課題１】「キャリア教育」の必要性、意義・内容をまとめる。
3.社会人、職業人として必要な資質・能力とは【授業内課題２】社会人、職業人としての資質・能力とは
4.キャリア発達の諸要素と職業観・勤労観の育成
5.日本における職業教育・進路指導について
6.進路指導のさらなる推進としての「キャリア教育」【授業内容課題３】学校におけるキャリア教育とは何か
7.「キャリア教育」と現代の課題【授業内課題４】「キャリア教育」推進の視点からみた現代の課題とは何か
8.学校教育における「キャリア教育」～キャリア・パスポート～
9.小学校における「キャリア発達」【授業内課題５】小学校の頃を振り返って
10.教育課程における「キャリア教育」
11.「キャリア教育」の要としての特別活動【授業内課題６】「キャリア教育」をどのように進めるか
12.学級活動における「キャリア教育」
13.教科指導における「キャリア教育」
14.「キャリア教育」の具体的実践の工夫【期末リポート】「キャリア教育」についての指導計画案の作成
15.これからの「キャリア教育」と諸課題

準備学習（予習・復習）・時間

・次回の講義範囲について概説するので事前学修を行う。(60 分)・講義内容と講義で配布される資料の要点を整理する（60 分)・授業後に毎回課題を課すので、次回に提出すること。(60 分)

テキスト

必要な資料は授業中に配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省　改訂版『小学校キャリア教育の手引き』教育出版経済産業省 『キャリア教育 ガイドブック』学事出版 文部科学省　『生徒指導提要』文部科学省ホームページ（2023 年 12 月）

学生に対する評価

授業内課題、役割等（70%）　　期末リポート（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）キャリア教育・進路指導についての意義や原理を理解できる。
（B）キャリア教育・進路指導についての意義や原理を理解し、これからのキャリア教育・進路指導について考察することができる。
（A）キャリア教育・進路指導についての意義や原理を理解し、キャリア教育を志向した教育課程づくりについて考察することができる。
（S）キャリア教育・進路指導についての意義や原理を理解し、キャリア教育を志向した教育課程づくりについて考察することができるとともに、具体的な指導につながるような力量を身につけることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバック行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
小学校の教員、管理職としての指導、実務経験を生かして実際の教育実践に対応した内容や事例を講義内容として提供する。とくに大学の講義において、進路指導・キャリア教育、特別活動、総合的な学習の時間を指導してきた経験も踏まえる。

科目名	教師力養成特講Ⅰ(HR マネジメント)							学 期	前期
副 題	学級づくりの理解と実際					授業方法	講義	担当者	大西誠子
ナンバリング	K3-17-114	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学級づくりは、学校教育の基盤である。学級づくりの意義及び学級担任の役割についての理解をするとともに、学級づくりの基礎的な知識や指導の在り方を実践的に学び、学級担任に求められる資質・能力について理解する。

授業の到達目標
・学級づくりの意義及び学級担任の役割を理解することができる。
・実践的な学修を通して、学級づくりの基礎的な知識や指導の在り方を説明することができる。

授業計画
1.オリエンテーション（HR マネジメントとは）
2.学級づくりの意義（学級開き等）
3.学級担任の役割（担任の一日等をとおして）
4.学級づくりと環境設定（1）ルールづくり・生活環境
5.学級づくりと環境設定（2）係活動・当番活動等
6.学級づくりと環境設定（3）生活班・学習班等
7.認め合う学級づくり（1）学習活動をとおして
8.認め合う学級づくり（2）話し合い活動をとおして
9.学級づくり（1）子ども理解
10.学級づくり（2）問題行動への対応
11.学級づくり（3）集団づくり
12.学級づくり（4）行事・児童による活動の運営
13.学級づくり（5）学年とのつながり
14.学級づくり（6）保護者等とのつながり
15.まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
・課題について調べてまとめ、発表やグループワークをすることを想定し内容を整理する。（６０分）　・授業後にキーワード等をもとに要点をまとめる。（６０分）

テキスト
文部科学省（２０１８）小学校学習指導要領解説（平成２９年告示）特別活動編　東洋館出版

参考書・参考資料等
文部科学省/国立教育政策研究所教育課程研究センター（２０１９）特別活動指導資料 みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）　文溪堂

学生に対する評価
授業への取り組み（４０％）　小レポート（４０％）　最終レポート（２０％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）講義内容について概ね理解している
（B）講義内容について理解している
（A）講義内容について、理解し活用しようと努力している
（S）講義内容について理解し、活用している

課題に対するフィードバックの方法
レポートや発表等に対して、適宜フィードバックを行う

その他
ペア学習・グループワークやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公立小学校教員としての実務経験をいかして、学級の様々な場面をとりあげ、具体的に想定し、学級づくりについて授業する。

科目名	教師力養成特講Ⅱ(学校理解)							学 期	前期
副 題	「みんなの学校」をつくるために					授業方法	講義	担当者	木村泰子
ナンバリング	K3-17-115	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
公校育の最上位の目的「すべての子どもの学習権を保障する」学校をつくることを合意し、そのための手段を探求する。学校が在る意義を探求し、教師に必要な資質能力を問い、「子どもが育つ」学校づくりを創造する。従前の学校の当たり前を問い直し、10年後の社会で「生きて働く力」を見出す。子どもを主語にした学校づくりについて探求する。「地域の学校」の意義を問う。 困っている子が困らなくなる学校づくりについて探求する。

授業の到達目標
・主体的で対話的な学び合いができる。
・「みんなの学校」について自分なりの考えを持ち、自分の言葉で語ることができる。
・子どもを主語にした学校づくりについて自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることができる。
・地域の学校」であることの目的を理解し、そのための手段を探求し続ける事の必要性を自分の言葉で語ることができる。
・すべての子どもの学習権を保障する学校をつくるために、教員に不可欠な力は何かについて自分の言葉で語ることができる。

授業計画
1.自己紹介を通し、本授業に対する各自の願いを伝え合う
2.「みんなの学校」について知る
3.映画「みんなの学校」を視聴する　前半部とエピソード
4.映画「みんなの学校」を視聴する　後半部とエピソード、各自の感想
5.「みんなの学校」をつくるための自らの問いを持ち、伝え合う　問いの設定
6.「みんなの学校」をつくるための自らの問いを持ち、伝え合う　発表と議論
7.日本の学校教育の最大の課題を知り、2030年に必要とされる「学力」について理解する
8.「見える学力」と「見えない学力」について対話し、「学力」を問い直す
9.公教育の最上位の目的のため、従前の学校の当たり前を問い直す　当たり前について考える
10.公教育の最上位の目的のため、従前の学校の当たり前を問い直す　当たりまえを問い直す
11.子どもの事実「自殺・不登校・いじめ」から学校づくりを問い直す　現状の把握
12.子どもの事実「自殺・不登校・いじめ」から学校づくりを問い直す　解決法を模索する
13.「地域の学校」をすべての子どもの「安全基地」にするための手段を探求し合う　地域の学校とは
14.「地域の学校」をすべての子どもの「安全基地」にするための手段を探求し合う　具体的な手段
15.本授業で学んだことをプレゼンし合う

準備学習(予習・復習)・時間
授業の中で持った問いを言語化し、毎回、授業の終了後に自分の考えを書いて提出する 次時の課題について、自分の考えを持って次時の授業にのぞむ　※いずれも６０分以上取り組むこと

テキスト
なし

参考書・参考資料等
「みんなの学校」をつくるために　小学館 「ふつうの子」なんてどこにもいない　家の光協会 10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方　青春出版社

学生に対する評価
人を大切にする力（25%）自分の考えを持つ力（25%）　自分を表現する力（25%）チャレンジする力（25%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）「みんなの学校」の目的を理解することができる
（B）「みんなの学校」の目的を理解し、自分なりの考えを持つことができる
（A）「みんなの学校」が不可欠であることを自分の言葉で語り、手段を探ることができる
（S）自律する力をつけ「みんなの学校」をつくるための具体的な手段を探求することができている

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は学生と対話する中で伝える

その他
ありのままの自分を大切に対話を重ねていきましょう。授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を多用する。また、メディア教材やICT教材を用いることがあります。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

45 年間の小学校現場での体験（失敗）をもとに学生と学び合いたい 子どもの事実をもとに対話を重ねていきたい

科目名	教職とICT							学期	前期
副題	教職者によるICTの効果的な活用法				授業方法	演習	担当者	広瀬勝則	
ナンバリング	K3-17-116	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義は、以下の能力を身につけさせることを目的とする。 （1）教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 （2）授業にICTを活用して指導する能力 （3）児童生徒のICT活用を指導する能力 （4）情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

授業の到達目標
・具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。
・学習指導要領を理解し、具体的にICTを活用した授業計画と学習指導案が作成できる。
・端末を効果的に使った授業を実施する為のデジタル教材が作成できる。
・遠隔授業の実施方法について理解し実施できる。

授業計画
1.教育にICT活用能力が必要となった背景について理解し、ICTを活用した教育の現状を調査する。
2.ICT教育の現状調査から浮かび上がる問題点とそれを解決する為に習得すべき能力のついて考える。
3.指導教科、学年、単元などを設定して学習指導案を作成する。
4.作成した学習指導案の中にICTをどのように取り入れるか考える。
5.ICTを活用したデジタル教材の作成（1）（PowerPointを使って）準備
6.ICTを活用したデジタル教材の作成（2）（PowerPointを使って）応用
7.デジタル教材を使用した模擬授業の実施（1）（PowerPointを使って）
8.デジタル教材を使用した模擬授業の実施（2）（GoogleMeetを使用した遠隔教育）
9.ロイロノートを使用した生徒参加型の教材の作成（1）準備
10.ロイロノートを使用した生徒参加型の教材の作成（2）作成
11.ロイロノートを使用した生徒参加型の教材の作成（3）応用
12.デジタル教材を使用した生徒参加型の模擬授業の実施（1）（ロイロノートを使って）
13.デジタル教材を使用した生徒参加型の模擬授業の実施（2）（ロイロノートを使って）
14.どの様にICTを活用した教育を実践できるか総括する。
15.今後のICT教育の在り方について考察する

準備学習（予習・復習）・時間
（予習）次回授業内容についてシラバスを参考に、事前に文献等を調査しておく（90分）。 （復習）授業内に完成出来なかったところ、及び不十分であった箇所を完成させる。（90分）。

テキスト
プリントを配布する。

参考書・参考資料等
『ICTを活用した学び合い授業アイデアBOOK』明治図書出版、 （監修）豊田 充崇（編著）愛知県岡崎市立葵中学校授業研究部 、2014年

学生に対する評価
課題提出（60%）、ICTを活用した授業教材の作成と発表（40%）。授業態度の重視する。 ICTを活用した授業教材の作成は、授業計画案と実際作成した教材を使用しての模擬授業も評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）・教育にICT活用能力が必要となった背景について説明できる。 ・学校現場へのICT導入の現状と問題について説明できる。
（B）・教員のICT能力の必要性と教育にもたらす効果について説明できる。 ・簡単なデジタル教材を作成できる。
（A）・ICT を活用した効果的な授業指導案と教材を作成できる。 ・ICT 教材を使用した授業展開が出来る。
（S）・生徒にICT機器を使用させた授業展開ができる。 ・情報を扱う際の情報モラルについて説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・提出された課題は、添削し次回授業時に返却する。

その他
・テレビ・新聞・雑記などで取り上げられる教育とICT関連のニュース・記事などにも注意を払い、参考になるものは記録しておく。
・ICT と教員関連のイベントなども可能であれば参加し、知識を広げておくこと。どの様なイベントが開催されるかは授業で紹介する。

・授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を多用する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

大学で情報処理の授業及び高校理科教員で ICT を使用した授業を実施している教員が、その経験を活かして指導する。

科目名	保育原理							学 期	前期
副 題	保育・教育の現場をよりよくするために				授業方法	講義	担当者	石上浩美	
ナンバリング	K2-21-117	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]　1.保育の意義及び目的について理解する。 2.保育に関する法令及び制度を理解する。 3.保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4.保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5.保育の現状と課題について理解する。 [授業全体の内容の概要]　1.保育の意義及び目的　2.保育に関する法令及び制度　3.保育所保育指針における保育の基本 4.保育の思想と歴史的変遷　5.保育の現状と課題

授業の到達目標

1. 保育・教育の理念,西洋・日本の教育思想史に関する基礎知識をふまえた論述ができる。 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容について論述ができる。 3. 子どもの発達過程と教育の関係について論述ができる。 4. 現代社会における保育・教育の位置づけと課題について論述ができる。

授業計画

1.オリエンテーション　授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明
2.西洋の保育・教育１（古代）
3.西洋の保育・教育２（中世）
4.西洋の保育・教育３（近代１）
5.西洋の保育・教育４（近代２）
6.西洋の保育・教育５（現代）
7.日本の保育・教育１（縄文時代から平安時代まで）
8.日本の保育・教育２（鎌倉時代から室町時代まで）
9.日本の保育・教育３（江戸時代）
10.日本の保育・教育４（明治時代から第二次世界大戦前まで）
11.日本の保育・教育５（第二次世界大戦から現代まで）
12.現代の教育課題１（幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の変遷）
13.現代の教育課題２（子どもの権利条約・虐待・貧困）
14.現代の教育課題３（保幼小連携において求められる保育者）
15.保育原理まとめ　西洋と日本の幼児教育について

準備学習（予習・復習）・時間

予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60 分)　復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題(60 分) ※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。

テキスト

石上浩美編著（2018)『教育原理－保育・教育の現場をよりよくするために－』　嵯峨野書院（ISBN：978478230574)

参考書・参考資料等

・文部科学省編　幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）　フレーベル館(ISBM9784577814475)　264 円 ・厚生労働省編　保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）　フレーベル館(ISBM9784577814482)　352 円 その他適宜指示する。

学生に対する評価

筆記試験：50%　知識・理解の習熟度合いについて 毎回のミニレポート（Google Form）内容：30%　思考・判断について 口頭発表：20%　表現・独創性について

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）保育に関わる基本的な理念や思想について理解できる。
（B）保育に関わる基本的な理念や思想についての理解をもとに要約し自らの言葉で説明できる。
（A）保育に関わる基本的な理念や思想についての理解をもとに現代的課題と関連づけることができる。
（S）保育に関わる基本的な理念や思想についての理解をもとに、現代的課題について問いと仮説をたて多角的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

・授業時全体アナウンス ・Google Classroom コメント

その他

反転授業（授業外にテキスト精読を行い、知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。 事前に指定されたテキストページの精読（予習）を前提とした授業内ディスカッションへの参加を重視する。

科目名	子ども家庭福祉							学 期	後期
副 題	子どもと家庭を支えることの本質とは					授業方法	講義	担当者	溝渕淳
ナンバリング	K2-21-118	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

目的
1.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2.子どもの人権擁護について理解する。
3.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
5.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
概要
1.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷
2.子どもの人権擁護
3.子ども家庭福祉の制度や実施体系
4.子ども家庭福祉の現状と課題
5.子ども家庭福祉の動向と展望

授業の到達目標

１．子どもと社会のかかわりの歴史を理解できる。
２．現代の子どもと家庭がおかれた状況と今後の見通しについて理解できる。
３．子どもと家庭を支える制度や実践について理解できる。

授業計画

１.オリエンテーション　保育と子ども家庭福祉の関連、現代社会における子ども家庭福祉
２.子ども家庭福祉の理念と概念
３.子ども家庭福祉の歴史的変遷と国際動向
４.子どもの人権（1）子ども観の変化と歴史
５.子どもの人権（2）現代における子どもの権利擁護
６.子ども家庭福祉の制度と法体系（1）子ども家庭福祉を支える制度
７.子ども家庭福祉の制度と法体系（2）子ども家庭福祉と関連領域の法体系
８.子ども家庭福祉の担い手（1）子ども家庭福祉を担う行政機関
９.子ども家庭福祉の担い手（2）子ども家庭福祉を担う施設とサービス及びその費用
10.子ども家庭福祉の担い手（3）子ども家庭福祉を担う専門職と地域の社会資源
11.子ども家庭福祉の現状と課題（1）少子化と子育て支援、母子保健、多様な保育ニーズ
12.子ども家庭福祉の現状と課題（2）障がいのある子どもへの支援、少年非行への対応
13.子ども家庭福祉の現状と課題（3）子ども虐待やDVの防止、社会的養護
14.子ども家庭福祉の現状と課題（4）ひとり親・貧困・外国籍の子ども家庭福祉
15.子ども家庭福祉の動向と展望　地域共生社会における子ども家庭福祉　まとめ 定期試験を実施する。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90分）。

テキスト

一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2024』（中央法規、2023）。その他、適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）子ども家庭福祉の対象と範囲、担い手、関連する諸制度や実践活動について基本的な知識を有している。
（B）社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に整理できる。
（A）子ども家庭福祉の対象と範囲、担い手、関連する諸制度や実践活動について基本的な知識を有するとともに、自らの生活に関連付けて説明することができる。
（S）子ども家庭福祉の対象と範囲、担い手、関連する諸制度や実践活動について基本的な知識を有するとともに、自らの生活や現代社会の諸問題に関連付けて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。
②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	社会福祉論							学 期	前期
副 題	生きづらさに向き合う					授業方法	講義	担当者	溝渕淳
ナンバリング	K1-21-119	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
1.現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷を知る。
2.社会福祉の制度や実施体系を学ぶ。
3.社会福祉における相談援助の位置づけと役割を知る。
4.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5.社会福祉の動向と課題について考える。

授業の到達目標
1.現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解できる。
2.社会福祉の制度や実施体系等について理解できる。
3.社会福祉における相談援助について理解できる。
4.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解できる。
5.社会福祉の動向と課題について理解できる。

授業計画
１.オリエンテーション　保育と社会福祉の関係　保育者に求められる役割
２.社会福祉を支える考え方
３.社会福祉の歴史的変遷　海外の動向との比較
４.社会で暮らす人びとの生活課題　社会福祉と子ども家庭支援との関連
５.社会福祉の制度と法体系（1）社会福祉制度と法体系の確立と展開
６.社会福祉の制度と法体系（2）各制度と法体系の内容理解と相互の関連
７.社会福祉を担う行政機関と社会福祉の財政
８.社会福祉の施設とそこでの運営
９.社会福祉の専門職
10.社会保障および関連制度
11.社会福祉における相談援助（1）相談援助を支える考え方
12.社会福祉における相談援助（2）相談援助の対象範囲とそれらへの理解
13.社会福祉における相談援助（3）相談援助の方法と技術
14.社会福祉における権利擁護とサービスの質保証
15.今後の社会福祉の動向と課題　地域共生社会　まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90分）。

テキスト
適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2024』（中央法規、2023）

学生に対する評価
授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有している。
（B）社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に整理できる。
（A）社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に理解し、自らの生活に関連付けて説明することができる。
（S）社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に理解し、自らの生活や現代社会の諸問題に関連付けて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・

ラーニングの手法を用いる。
②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	子ども家庭支援論							学 期	後期
副 題	子どもと家庭を支える専門性				授業方法	講義	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	K3-21-120	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ） 子育て家庭の生活を支える保育士の役割と実践
（授業の概要） 子どもを中心として、家庭(保護者)や地域社会への広がりを意識した上で、保育士が、保育や福祉の専門的な知識や技術を子育て支援にどのように活用していくのかについて考える。また、多様な家庭(及び地域)の状況に対する工夫や配慮についても学ぶ。

授業の到達目標
1. 子育て家庭が抱える生活上の課題について理解できる。
2. 子ども家庭支援の意義と目的について理解できる。
3. 保育士を中心とした子育て家庭支援の体制や地域での取り組みについて理解できる。
4. 子育て家庭支援の現状と課題について理解できる。

授業計画
1.オリエンテーション　子ども家庭支援の意義と必要性
2.子ども家庭支援の目的と機能
3.子ども家庭支援の視点と方法
4.保育の専門性を活かした子育て家庭支援
5.保育の専門性を活かした地域への働きかけと連携
6.保育士に求められる関わり方(1)基本的な態度、保護者への関わり
7.保育士に求められる関わり方(2)情報の提供、家庭の状況に応じた関わり
8.子育て家庭支援のための法制度
9.子育て家庭支援のための具体的なサービス
10.子育て家庭支援のための社会資源
11.具体的な支援の実際(1)保育所等を利用する子育て家庭への支援
12.具体的な支援の実際(2)地域における子育て家庭への支援
13.具体的な支援の実際(3)障がいのある子ども、要保護児童の家庭への支援
14.具体的な支援の実際(4)ひとり親、外国籍の子どもの家庭、病児への支援
15.子ども家庭支援の現状と課題、今後の展望　まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90分）。

テキスト
一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2024』(中央法規、2023)。その他、適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する。

学生に対する評価
授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）子ども家庭支援の対象と範囲、活用する社会資源、具体的な実践活動について理解している。
（B）子ども家庭支援の対象と範囲、活用する社会資源、具体的な実践活動について理解するとともに、自らの生活と関連付けて考えることができる。
（A）子ども家庭支援の対象と範囲、活用する社会資源、具体的な実践活動について理解するとともに、自らの生活と関連付けて考え、説明することができる。
（S）子ども家庭支援の対象と範囲、活用する社会資源、具体的な実践活動について理解するとともに、自らの生活と関連付けて考え、実践活動として模索することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。
②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

科目名	社会的養護Ⅰ							学 期	前期
副 題	社会で子どもを育むことの意味				授業方法	講義	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	K3-22-121	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ）「社会全体で子どもを育む」ことの大切さと、それを実現するしくみ （授業の概要）子どもの育ちに関して社会全体が責任を負っていることへの理解を深めた上で、社会的な支えが必要な子どもをとりまく現状や課題、それらに対する制度や支援および担い手について理解する。事例や映像教材なども用い、社会的養護について、「自らのこととして考える」態度の醸成も目指す。

授業の到達目標
1. 社会における社会的養護の意義について、歴史的な流れも踏まえ理解できる。
2. 社会的養護が必要な子どもの現状や生活上の課題について理解できる。
3. 子どもの人権・権利擁護と社会的養護の原理について、国際動向も踏まえ理解できる。
4. 社会的養護の制度とその実施体系について理解できる。
5. 社会的養護の対象と形態、それらを担う専門職について理解できる。
6. 社会的養護の現状と課題を理解し、今後を展望することができる。

授業計画
1.オリエンテーション　社会全体で子どもを育む必要性
2.社会的養護の理念と概念
3.社会的養護の歴史的変遷
4.社会的養護の国際比較
5.子どもを取り巻く課題～虐待を中心に～
6.社会的養護の基本原則　子どもの権利擁護と社会的養護
7.社会的養護の制度と法体系
8.社会的養護のしくみと実施体系
9.社会的養護における保育士等各専門職の倫理および責務
10.社会的養護とファミリー・ソーシャルワーク
11.社会的養護の対象と支援の実際(1)施設養護とその担い手
12.社会的養護の対象と支援の実際(2)家庭養護とその担い手
13.社会的養護に携わる各専門機関とその運営管理
14.被措置児童等への虐待防止、障がい児と社会的養護
15.地域福祉と社会的養護の連動、今後の課題　まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90 分）。

テキスト
適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
公益財団法人児童育成協会監修『新基本保育シリーズ　社会的養護Ⅰ』(中央法規、2019)。 小野澤昇・大塚良一・田中利則編著『子どもの未来を考える社会的養護』(ミネルヴァ書房、2019)。

学生に対する評価
授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）社会的養護の原理と子どもの人権およびその権利擁護について理解している。
（B）社会的養護の原理と子どもの人権およびその権利擁護について理解し、社会問題と関連付けることができる。
（A）社会的養護の原理と子どもの人権およびその権利擁護について理解し、社会問題と関連付け、その原因を見いだすことができる。
（S）社会的養護の原理と子どもの人権およびその権利擁護について理解し、社会問題と関連付け、その原因を見いだし、解決方法を模索することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。

②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	保育者論							学 期	前期
副 題	保育者の役割、倫理、連携・協働等を学ぶ				授業方法	講義	担当者	板倉史郎	
ナンバリング	K1-21-122	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]　1.保育者の役割と倫理について理解する。 2.保育士の制度的な位置づけを理解する。 3.保育士の専門性について考察し、理解する。 4.保育者の連携・協働について理解する。 5.保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

[授業全体の内容の概要]　1.保育者の役割と倫理 2.保育士の制度的位置付け 3.保育士の専門性 4.保育者の連携・協働 5.保育者の資質向上とキャリア形成

授業の到達目標

保育者の役割と倫理、保育士の専門性が理解できる。

授業計画

1.保育者の役割・職務内容
2.保育者の倫理
3.児童福祉法における保育士の定義
4.保育士の資格・要件、失格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等
5.保育士の資質・能力
6.養護及び教育の一体的展開
7.家庭との連携と保護者に対する支援
8.計画に基づく保育の実践と省察・評価
9.保育の質の向上
10.保育における職員間の連携・協働
11.専門職間及び専門機関との連携・協働
12.地域における自治体や関係機関等との連携・協働
13.保育者の資質向上に関する組織的取組
14.保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義
15.組織とリーダーシップ

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)　・毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習をしておくこと (60 分)

テキスト

なし（各講義で内容に即したプリントを配布する）

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

授業への積極的な態度、ミニレポート、小テスト等により総合的に評価。状況を見てそれぞれの割合を授業の中で示す。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）・講義で扱った用語について説明できる。
（B）・講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
（A）・ルーブリック(B)の内容に加えて、疑問点や自分の考えを記述できる。
（S）・ルーブリック(A)の内容が説得力があるものとなっている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・提出されたレポートは、次回授業時にコメントを加えて、返却する。

その他

・小グループで適宜ディスカッションを行うなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

・小学校教員としての経験を活かして、保護者等への対応を中心についての知識、手法について説明、指導する。

科目名	保育の心理学							学 期	前期
副 題	子どもの発達と学び				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	K1-21-123	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

1.保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
2.子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3.乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。
[授業全体の内容の概要]
1.発達を捉える視点
2.子どもの発達過程
3.子どもの学びと保育

授業の到達目標

保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達の理解と援助の基本、保育における人との相互的関わり等を理解する。

授業計画

１．子どもの発達を理解することの意義
２．子どもの発達と環境
３．発達理論と子ども観・保育観
４．社会情動的発達①自己と感情
５．社会情動的発達②他者理解
６．社会情動的発達③他者とのかかわり
７．身体的機能と運動機能の発達
８．認知の発達①認識の基礎
９．認知の発達②数と形
10．言語の発達
11．乳幼児期の学びに関わる理論
12．乳幼児期の学びの過程と特性①認知的学び
13．乳幼児期の学びの過程と特性②社会情動的学び
14．乳幼児期の学びを支える保育
15．子どもの発達と現代的課題

準備学習（予習・復習）・時間

授業の前に必ずテキストの該当箇所を読んでおくこと（90 分）。授業後は、講義資料とテキストを見直し、学習内容をノートにまとめること（90 分）。

テキスト

本郷一夫・飯島典子（編著）（2019）『シードブック　保育の心理学』建帛社

参考書・参考資料等

杉村伸一郎・山名裕子（編）（2019）『新・基本保育シリーズ８　保育の心理学』中央法規
本郷一夫（編著）（2014）『保育の心理学ワークブック』建帛社

学生に対する評価

授業中の発表・ディスカッションへの取り組み（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）・保育に関する心理学の基礎的な理論の概要について理解し説明することができる。
（B）・保育に関する心理学の理論を踏まえて、保育における人や環境との相互作用について理解し説明することができる。
（A）・保育現場での具体的な子どもの姿について、心理学の理論を援用して説明することができる。
（S）・心理学の理論を踏まえた上で、具体的な保育実践の方法について考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内でフィードバックを行う。最終レポートについては LMS を通じてフィードバックを行う。

その他

受講者の相互の学び合いを重視するアクティブラーニングを取り入れた授業であり、各自の積極的な参加を期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する担当教員が、幼児の保護者にカウンセリングを行った実務経験などを踏まえて、実際の保育場面における子どもの姿を心理学の理論を通じて捉えることについて、受講者が理解を深めることのできる授業を行う。

科目名	子ども家庭支援の心理学							学 期	集中
副 題	子どもと家庭をとらえる視点を身につける				授業方法	講義	担当者	渋谷郁子	
ナンバリング	K2-21-124	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本講義は子どもや家庭という概念を改めて問い直すところから出発する。講義の主要な柱は、生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得することと、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係などについて発達的観点から理解することの 2 点である。これらを通して、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を習得する。さらに子育て家庭をめぐる社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解し、適切に支援するためには問題をどうとらえるべきなのか、洞察を深める。

授業の到達目標
1. 子どもとその家族の置かれた状況を理解し、発達的観点から説明することができる。
2. 家庭の機能を理解するための基礎的知識を身につけ、説明することができる。
3. 子どもや家庭を支援するための方法について考えることができる。

授業計画
【前期】
1. 子どもと家庭
2. 生涯発達（1）乳幼児期から学童期にかけての発達
3. 生涯発達（2）思春期・青年期の発達
4. 生涯発達（3）成人期・老年期における発達
5. ライフコース：恋愛・結婚・子育て・仕事と家庭
6. 家族・家庭の意義と機能：親子関係・家族関係の理解
7. 子育てを取り巻く社会的状況
8. 子育ての経験と親としての育ち
9. 多様な家庭の形とその理解
10. 子どもの生活・生育環境と心の健康（1）
11. 子どもの生活・生育環境と心の健康（2）
12. 災害や事故と子どもの心
13. 発達支援が必要な子どもと家庭の理解（1）
14. 発達支援が必要な子どもと家庭の理解（2）
15. 子ども家庭支援をめぐる現代の社会的状況と課題

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
授業後に授業内容を振り返り、復習を行うこと（60 分）。全部で 4 回、理解度を問う小テストを実施する。

テキスト
テキストは使用せず、レジュメを配布する。

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
筆記試験 55%、小テストやワークシート・レポートなどの授業内課題 45%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で取り扱った用語をおおむね理解している。
（B）子どもと家庭の状況を発達的観点から説明できる。また、家庭の機能について説明できる。
（A）子どもと家庭の状況を発達的観点から適切に説明できる。また、家庭の機能について適切に説明できる。
（S）子どもと家庭の状況を発達的観点から適切に説明できる。また、家庭の機能について適切に説明できる。さらに、子どもや家庭を支援するための適切な方法を考えられる。

課題に対するフィードバックの方法
受講生の質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 レポートは添削し、授業内で返却する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

臨床心理士としての臨床経験から、子どもや家庭への支援について実践的な知見を提供する。

科目名	子どもの保健							学 期	前期
副 題	生理機能の発達と子どもの病気				授業方法	講義	担当者	釜島美智代	
ナンバリング	K1-21-125	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
[授業の目的・ねらい]　生理機能の発達を理解したうえで、子どもの健康状態を把握できるようになること。 子どもに多い病気（感染症、アレルギーの病気を中心に）の病態を学び、早期発見、予防、対応について理解することを目的とする。

授業の到達目標
生理機能の発達について説明できる。 子どもの健康状態の把握の方法と症状への対応を説明できる。 子どものかかりやすい感染症の特徴と予防方法を説明できる。 子どもに多くみられるアレルギーの病気の病態を説明できる。

授業計画
1.子どもの保健とは。母子保健サービス
2.体のつくりと身体発育、身体発育の評価
3.生理機能とは：生理機能の発達と関連する症状、病気：体温
4.生理機能の発達と関連する症状、病気：呼吸器・循環器
5.生理機能の発達と関連する症状、病気：消化器
6.生理機能の発達と関連する症状、病気：泌尿器・生殖器
7.生理機能の発達と関連する症状、病気：感覚器
8.生理機能の発達と関連する症状、病気：免疫機能
9.感染症とは。感染症概論
10.子どものかかりやすい感染症①
11.子どものかかりやすい感染症②
12.感染症の予防と対策：予防接種
13.アレルギーの病気
14.筆記試験
15.試験の解答解説、まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
あらかじめ配付した資料の内容についてあらかじめ調べておいてもらうなど、一定時間（60 分以上）の予習復習を別途指示する。

テキスト
鈴木美恵子編著　「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健　」　創成社　2019

参考書・参考資料等
日本外来小児科学会編著『お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド第４版』 厚生労働省　「保育所における感染症ガイドライン（2018 年改訂版）」2018　厚生労働省　「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019 年改訂版）」

学生に対する評価
授業内の課題、レポート(40%)、到達度確認テスト(60%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）子どもの健康を守るために必要な最低限の知識を習得している
（B）子どもの健康を守るための幅広い知識を習得している
（A）子どもの健康を守るための知識を資料などを調べることでより深めることができる。
（S）子どもの健康を守るための知識を応用して問題を解くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業内に提出したワークシートは確認して返却する。 授業内に行った小テストは授業内で解説する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
小児病棟、病児保育、放課後デイサービス、小児救急電話相談事業に従事した経験のある教員が病気になった時の子どもの様子や病気の子どもを看護する保護者の様子などを紹介し、学生が実際の場面をより具体的にイメージできるように授業を行う。

科目名	子どもの食と栄養							学 期	前期
副 題	小児栄養及び食育の理解と実践				授業方法	講義	担当者	井出康子	
ナンバリング	K3-21-126	実務経験の有無	有	関連DP	1,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

【目的】次の 4 点について修得する。1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識。2.子どもの発育・発達と食生活の関連。3.養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方や内容。4.家庭や児童福祉施設、特別な配慮を要する子どもの食に関する現状と課題。
【概要】1.子どもの健康と食生活の意義、2.栄養に関する基本的知識、3.子どもの発育・発達と食生活、4.食育の基本と内容、5.家庭や児童福祉施設における食事と栄養、6.特別な配慮を要する子どもの食と栄養

授業の到達目標

・子どもの健康と食生活の意義を理解できる。
・栄養に関する基本的知識を踏まえて、食育活動や食生活指導および特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる。

授業計画

1.子どもの心身の健康と食生活、現状と課題
2.栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
3.食事摂取基準と献立作成・調理の基本
4.乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
5.乳児期の心身の発達と食生活
6.幼児期の心身の発達と食生活
7.学童期・思春期の心身の発達と食生活
8.保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価
9.食育のための環境
10.地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通した保護者への支援
11.家庭における食事と栄養
12.児童福祉施設における食事と栄養
13.疾病及び体調不良の子どもへの対応
14.食物アレルギーのある子どもへの対応
15.障害のある子どもへの対応

準備学習(予習・復習)・時間

授業後にテキスト・資料をもとに復習し確実な理解を図るとともに、自らの考えを小レポートにまとめること（60 分)。指導案作成に当たっては授業内での指示に従い、グループで話し合うなど準備を計画的に進め模擬授業へとつなげること（60 分)。

テキスト

堤 ちはる/土井 正子「子育て・子育ちを支援する子どもの食と栄養」萌文書林（生協で購入）

参考書・参考資料等

「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成 24 年 3 月厚生労働省）

学生に対する評価

授業への積極的な参加(20%)、成果発表(30%)、定期試験(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）子どもの食と栄養の内容及び保育実践についての基本を理解し、課題に取り組めている。
（B）子どもの食と栄養の内容及び保育実践についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用して課題に取り組めている。
（A）子どもの食と栄養の内容及び保育実践についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用するとともに、自らの考えを持って工夫して課題に取り組めている。
（S）子どもの食と栄養の内容及び保育実践についての基本を理解し、授業の学びだけでなく自ら学びを深め考察したうえで工夫して課題に取り組めている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

授業内容に関するグループワークや実習等、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

科目名	保育内容総論							学 期	前期
副 題	子育てを総合的、科学的に考えるために学ぶ				授業方法	演習	担当者	明神規子	
ナンバリング	K2-21-127	実務経験の有無	有	関連DP	1.2.3.4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
1.保育所保育指針、幼稚園教育要領等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2.保育所保育指針、幼稚園教育要領等の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3.子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善) につなげて理解する。

授業の到達目標
1.保育所保育指針や幼稚園教育要領に基づく保育の基本を踏まえた、保育所、幼稚園などの就学前の保育施設における指導の考え方を理解できる。
2.乳幼児の興味関心、発達の実態に応じた具体的な指導のあり方への理解を深め，養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて習得できる。
3.保育所や幼稚園など就学前施設における指導計画の考え方を理解し、乳幼児の発達過程を見通した指計画を作成できる。
4.保育の多様な展開について具体的に理解できる。

授業計画
1.保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
2.保育の内容の歴史的変遷をと社会的背景
3.保育現場における遊びの実際(ビデオ鑑賞による)から、「環境による保育」を捉える
4.遊びの中にある教育活動をどう捉えるか
5.乳幼児期の子ども理解(保育園や未就園児の子どもの生活と遊び)
6.支援を要する子ども理解(子どもの生活と遊び)
7.幼小接続、学びの連続性(領域から教科へ)
8.幼小接続の相互の教師の理解
9.乳幼児の発達を見据えた教育課程、指導計画
10.長期指導計画、短期指導計画の特徴の理解
11.ひとつの行事について長期計画の立案
12.長期計画案をもとに短期計画を立案
13.行事のために必要な指導法(ICT の活用法)
14.模擬保育に向けた指導計画案立案
15.模擬保育の実施、評価と改善(振り返り)

準備学習(予習・復習)・時間
予習：授業中に予告した内容について予習すること。 復習：授業内容に関連する実践的資料を取り上げ、学びを深めること。※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト
神長美津子・津金美智子・田代幸代編著『保育内容総論』光生館

参考書・参考資料等
内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成 29 年度 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

学生に対する評価
筆記試験 50%、授業への積極的参加・ミニレポート等の提出物・授業態度による評価 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）学習内容を理解することができる。
（B）講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
（A）ルーブリック（B）の内容に加えて、疑問点や自身の考えを記述できる。
（S）ルーブック（A）の内容が説得力があるものになっている。

課題に対するフィードバックの方法

その他
テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。
また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
①保育所での経験を活かして、幼児教育の基本や保育内容とその具体的な方法について指導する。
②保護者等の対応についての知識、手法について指導する。

科目名	乳児保育Ⅰ							学 期	前期
副 題	乳児保育の在り方について理解を深めること				授業方法	講義	担当者	明神規子	
ナンバリング	K2-21-128	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
［授業の目的・ねらい］1.乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2.保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3.3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。［授業全体の内容の概要］1.乳児保育の意義・目的と役割 2.乳児保育の現状と課題 3.3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 4.乳児保育における連携・協働

授業の到達目標
1.乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割り等について理解できる。
2.3 歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える生活と遊びについて理解し、実践力を身につけることができる。

授業計画
1.乳児保育とは何か　- 子どもにとっての乳児教育 -
2.全体的な計画(保育課程)、指導計画を考える上で必要なこと
3.全的的な計画(保育課程)を編成し、指導計画を作成する
4.0 歳児の発達と保育
5.1 歳児の発達と保育
6.2 歳児の発達と保育
7.模擬保育を通して学ぶ①(教材研究)
8.模擬保育を通して学ぶ②(指導案作成)
9.模擬保育を通して学ぶ③(グループ発表)
10.0・1・2 歳児の基本的な生活　－生活・用語技術－
11.健康・安全管理　－子どもの生命を守り健康を育むために－
12.乳児保育に求められる連携・協力　－多面的な協力・連携－
13.社会における乳児保育の役割　－その歩みと今日的課題－
14.乳児保育が行われる場所　－家庭以外のさまざまな場について－
15.乳児保育今後の課題

準備学習(予習・復習)・時間
予習：授業中に予告した内容について予習すること。 復習：授業内容に関連する実践的資料を取り上げ、学びを深めること。 ※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト
高内正子・豊田和子・梶美保編著『健やかな育ちを支える乳児保育Ⅰ・Ⅱ』建帛社

参考書・参考資料等
参考書等は適宜指示する。

学生に対する評価
筆記試験 60%、授業への積極的参加・ミニレポート等の提出物 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）学習内容を理解することができる。
（B）講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
（A）ルーブリック（B）の内容に加えて、疑問点や自身の考えを記述できる。
（S）ルーブック（A）の内容が説得力があるものになっている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
保育士としての経験を活かして、乳児保育の必要性と役割、保護者との関係づくりについて具体的事例を基に指導する。

科目名	乳児保育Ⅱ							学 期	後期
副 題	発達を保障するための乳児保育計画について学ぶ				授業方法	演習	担当者	明神規子	
ナンバリング	K2-21-129	実務経験の有無	有	関連DP	1.2.3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
［授業の目的］1.3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2.養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3.乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。［授業全体の内容の概要］1.乳児保育の基本　　2.乳児保育における子どもの発育･発達を踏まえた生活と遊びの実際 3.乳児保育における配慮・計画の実際

授業の到達目標
乳児保育の発育・発達の過程や特性を理解し、乳児保育の生活と遊びの実際や配慮の実際を理解し、乳児保育の計画が作成できる。

授業計画
1.オリエンテーション　/質の高い乳児保育を目指して
2.心の育ちとかかわり　①
3.心の育ちとかかわり　②
4.心の育ちとかかわり　③
5.0・1・2 歳児の指導計画
6.0 歳児の指導計画
7.0 歳児の保育内容(模擬保育)
8.1 歳児の指導計画
9.1 歳児の保育内容(模擬保育)
10.2 歳児の指導計画
11.2 歳児の保育内容(模擬保育)
12.基本的な生活　－展開と援助－
13.遊びの指導・援助　－乳児保育にふさわしい遊び　－
14.乳児保育における言葉の指導・援助　－ことば遊び・絵本など－
15.乳児保育が行われる場所　－家庭以外のさまざまな場について－

準備学習（予習･復習）･時間
予習：授業中に予告した内容について予習すること。 復習：授業内容に関連する実践的資料を取り上げ、学びを深めること。 ※いずれも 60 分以上取り組むこと。

テキスト
授業時にプリントを配布する。

参考書･参考資料等
今井和子監修『育ちの理解と指導計画』小学館

学生に対する評価
筆記試験 50%、授業への積極的態度・ミニレポート等の提出物 50%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習内容を理解することができる。
（B）講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
（A）ルーブリック（B）の内容に加えて、疑問点や自身の考えを記述できる。
（S）ルーブック（A）の内容が説得力があるものになっている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
保育士としての経験を活かして、乳児保育の必要性と役割、保護者との関係づくりについて具体的事例を基に指導する。

科目名	子どもの健康と安全							学 期	後期
副 題	保健的観点に基づく環境や援助の理解				授業方法	演習	担当者	本山司	
ナンバリング	K2-21-130	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
1.保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2.保育における健康及び安全の管理 3.子どもの体調不良等に対する適切な対応 4.感染症対策 5.保育における保健的対応 6.健康及び安全の管理の実施体制

授業の到達目標
1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。
2.保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解できる。
3.子どもの体調不良等への適切な対応について理解できる。
4.保育における感染症対策について理解できる。
5.子どもの発達や状態等に即した適切な保健的対応について理解できる。
6.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解できる。

授業計画
1.子どもの健康と保育の環境、子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
2.保育における衛生管理
3.保育における事故防止及び安全対策
4.保育における危機管理
5.災害への備え
6.体調不良や傷害が発生した場合の対応
7.応急手当の基本
8.救急処置及び心肺蘇生法
9.感染症の集団発生と予防、感染症発生時と罹患後の対応
10.保育における保健的対応の基本的な考え方
11.3歳未満児への対応
12.個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等)
13.障害のある子どもへの対応
14.保育における保健活動の計画及び評価
15.健康及び安全の管理の実施体制

準備学習(予習・復習)・時間
・事前にシラバスを読み、授業計画の内容について事前学習を行なっておくこと。(60分) ・学習した内容を踏まえて、ポイントを各自で整理すること。(60分)

テキスト
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月厚生労働省)

参考書・参考資料等
「2012年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月厚生労働省) 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)等

学生に対する評価
授業時に実施する小テスト50% 、定期試験50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 学習内容を最低限理解することができる。
(B) 学習内容を理解し、説明することができる。
(A) 学習内容の基に現代の保育環境が子どもに及ぼす健康・安全課題を考えことができる。
(S) 学習内容の基に現代の保育環境が子どもに及ぼす健康・安全課題を考え、改善策を提案することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見、小テストは講義内でフィードバックを行う。

その他
本授業では、毎回出席をとる。テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッション等のアクティブ・ラーニングの手法を用いることがある。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。

科目名	障害児保育							学 期	後期
副 題	ひとりひとりの教育的ニーズに応じた保育を目指して				授業方法	演習	担当者	南亜紀子	
ナンバリング	K1-21-131	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]　1.障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2.障害の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3.障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4.障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5.障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

授業の到達目標

障害児保育を支える理念及び個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、障害児やその他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を踏まえて保育の計画を作成することができる。

授業計画

1.障害の概念と障害児保育の歴史的変遷、障害のある子どもの地域社会への参加、及び合理的配慮の理解
2.視覚障害・肢体不自由の理解と援助
3.聴覚障害・言語障害の理解と援助
4.知的発達症の理解と援助
5.発達障害の理解と援助①(ADHD－注意欠如多動性障害、LD-学習障害等)
6.発達障害の理解と援助②(ASD－自閉症スペクトラム障害)
7.重症心身障害の理解と支援、医療的ケア
8.特別な配慮を要する子どもの理解と支援
9.障害のある子どもの保育の実際、子ども同士の関わりと育ち合い、職員間の協働
10.記録、支援計画、個別の支援計画の作成
11.保護者、地域の関係機関等との連携
12.幼保小の連携
13.障害のある子どもの保健・医療における現状と課題
14.障害のある子どもの福祉・教育における現状と課題
15.障害児保育についてのまとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業を振り返り、知識の再構築を図り、今後、どのような技量を身につける必要があるかを確認する（６０分)。また、授業で課されたテーマについて、ミニレポートとして提出すること（６０分)。

テキスト

武藤久枝、小川英彦編著『コンパス障害児の保育・教育』建帛社、2020 年（生協で購入）

参考書・参考資料等

前田泰弘編著「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」萌文書林、2019 年 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

授業への積極的参加、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する。状況を見てそれぞれの割合を授業の中で示す。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）障害児保育を支える理念及び障害の特性を理解できている。
（B）障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を考えることができる。
（A）障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を踏まえて保育の計画を作 成し、自らの考えをプレゼンテーションすることができる。
（S）障害児の特性を理解し、個別支援の在り方や保育目標を定め、保育活動に反映できる。さらに、保護者支援に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

臨床心理士、公認心理師の資格をもつ。キンダーカウンセラーとして大阪府内の幼稚園に巡回し、現場の保育士と共に、子どもたちの育ちを支えている。また、保護者に対する育児相談にも関わっている。これらの経験から、障害児保育について知識と手法を身に着け、さらに保育者として保護者支援の在り方につ

いても、指導する。

科目名	社会的養護Ⅱ							学期	前期
副題	社会で子どもを支える方法				授業方法	演習	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	K3-22-132	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ）社会的養護の実際と、その実現に求められる視点・知識及び具体的な実践スキル （授業の概要）社会的養護を実践する際の 5W1H(いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ・どのように)について、各項目の多様性もあわせて理解する。特に「どのように」に焦点を当て、個別・集団への支援技術、さらには地域社会を視野に入れた支援技術について、事例検討やワークを実施しながら体験的に修得する。

授業の到達目標
1. 養護が必要な子どもへの理解を基礎に、社会的養護の具体的な内容について理解できる。
2. 施設養護と家庭養護の実際について理解できる。
3. 社会的養護の支援計画の作成や記録・評価の方法について理解できる。
4. 社会的養護で活用される相談援助の視点・知識・技術を理解し、実践できる。
5. 社会的養護の文脈から、家庭支援や虐待防止、地域福祉の必要性について理解できる。

授業計画
1.オリエンテーション　子どもの権利擁護について考える
2.社会的養護における子どもの生活環境への理解
3.社会的養護における子どもの課題への理解
4.日常生活支援の実際
5.心理的支援と身体面でのケアの実際
6.自立と居場所の意味について考える
7.施設養護の生活特性および実際(1)乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
8.施設養護の生活特性および実際(2)障がい児施設
9.家庭養護の生活特性および実際
10.アセスメントと記録
11.個別支援計画の作成と評価
12.社会的養護における保育の専門知識・技術
13.社会的養護における社会福祉の専門知識・技術(1)個別支援
14.社会的養護における社会福祉の専門知識・技術(2)外在化とつながりづくり
15.家庭支援の取り組み　地域を視野に入れた社会的養護　まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90 分）。

テキスト
適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
公益財団法人児童育成協会監修『新基本保育シリーズ　社会的養護Ⅱ』(中央法規、2019)。 小野澤昇・大塚良一・田中利則編著『子どもの未来を考える社会的養護』(ミネルヴァ書房、2019)。

学生に対する評価
授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）社会的養護を実践する際の状況把握・整理の方法や実際の支援技術について理解している。
（B）社会的養護を実践する際の状況把握・整理の方法や実際の支援技術について理解するとともに、説明することができる。
（A）社会的養護を実践する際の状況把握・整理の方法や実際の支援技術について理解するとともに、説明し、事例を分析することができる。
（S）社会的養護を実践する際の状況把握・整理の方法や実際の支援技術について理解するとともに、説明し、事例を分析した上で支援案を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	子育て支援							学 期	後期
副 題	子育て支援の方法と資源				授業方法	演習	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	K3-22-133	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
（授業のテーマ）保育相談支援に求められる多面的な視点と多様な技術・技法 （授業の概要）保育の専門性の一端を形成する社会福祉実践の知見を活かし、保護者や、子どもと関わる他専門職者に対する相談や助言、情報提供等の技術を修得する。また、映像教材等を用いて事例検討を行い、①多様化する状況や対象にどう向き合うのか、②どのように課題を理解するのか、③どのように支援を展開するのかについて、個人およびグループで協力しながら考え、実践できる力の修得を目指す。

授業の到達目標
1. 保護者及び他専門職者に対する保育相談支援の意義を理解できる。
2. 保育相談支援で実践する活動の具体的な内容について理解できる。
3. 保育相談支援を実践する上で求められる具体的な技術や技法を修得し活用できる。
4. 多様な状況や対象に対し、その課題を多面的に検討した上で、適切な支援を考えることができる。

授業計画
1.オリエンテーション　保護者等への支援の必要性について
2.保護者等との相互理解および信頼関係の形成(1)価値観の多様性
3.保護者等との相互理解および信頼関係の形成(2)コミュニケーション技法
4.保護者や家庭の生活上の課題に対する多面的な理解
5.地域・社会を視野に入れた、生活上の課題への理解
6.支援の初期～生活課題の把握(1)ケースの発見、インテーク・アウトリーチ・リファーラル
7.支援の初期～生活課題の把握(2)アセスメント、図像化の技法(マッピングなど)
8.支援計画の作成とカンファランス
9.支援体制のコーディネート
10.支援の実施とモニタリング・評価
11.支援のふりかえりと引き継ぎ、記録の重要性
12.職員間および他職種との連携と協働、社会資源の活用・開発
13.事例を通した学び(1)保育所・地域・多様なニーズ(外国人等)
14.事例を通した学び(2)障害のある子ども・特別な配慮を要する子ども
15.事例を通した学び(3)虐待・要保護児童・病児

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（90分）。

テキスト
適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
公益財団法人児童育成協会監修『新基本保育シリーズ　子育て支援』(中央法規、2019)。 その他、赤木正典・大西雅裕編著『相談援助セミナー』(建帛社、2012)。 大西雅裕編著『子育て支援セミナー』(建帛社、2019)。 一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2024』(中央法規、2024)。

学生に対する評価
授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）子育て支援における実践活動と社会資源について基本的な知識を有している。
（B）子育て支援における実践活動と社会資源について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に整理できる。
（A）子育て支援における実践活動と社会資源について基本的な知識を有するとともに、自らの生活に関連付けて説明・実践することができる。
（S）子育て支援における実践活動と社会資源について基本的な知識を有するとともに、自らの生活や現代社会の諸問題に関連付けて説明・実践することができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。レポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他
①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・

ラーニングの手法を用いる。
②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	表現技術(ピアノ)							学 期	後期
副 題	子どもの活動を支える音楽実践力				授業方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバリング	K2-21-134	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本授業ではコードについて学び、子どもの歌の簡易的な弾き歌いができるように進めていく。保育においては、 ピアノが弾けるということだけではなく、子どもの音楽表現を支えることが求められており、子どもの音楽の世界に気づき、受けとめ、共感し、励まし、子どもと一緒に音楽をつくる気持ちが大切である。そのために、 ピアノを弾きながら子どもの気持ちや表情に気づくこと、あるいは言葉かけをしたり、歌詞を伝えたり、合図を送るなどができるよう、グループ活動を通して弾き歌いの力を高めていく。

授業の到達目標
1. 保育現場でピアノを弾くこと、歌を歌うことの意味を実践的に学び、説明することができる。
2. 保育現場で必要となる子どもの歌の伴奏(弾き歌い)の実技能力を身につける。
3. ピアノ曲のレパートリーを増やし、豊かな音楽表現の能力を身につける。

授業計画
1.オリエンテーション：授業のねらい、概要、授業形態、評価方法の説明、課題曲の設定等
2.英語音名、日本音名、コードネームについて
3.弾き歌いの基礎① C コード基本形を用いて
4.ベース音を意識して／英語音名の確認試験
5.C G コード基本形と転回形を用いて
6.C F G コード基本形と転回形を用いて
7.C F G コードを用いて／実技試験(1)の説明
8.伴奏形のアレンジ：リズムを変えて
9.実技試験(1) 弾き歌い(自由曲 1 曲)／前奏の作り方について
10.Cm Fm Dm Em Am コードを用いて
11.D E A B♭ Gm コードを用いて
12.C7 D7 G7 E7 F7 A7 コードを用いて
13.メロディー譜を見て／実技試験(2)の説明(弾き歌いとコード進行表による演奏)
14.メロディー譜を見て／進度記録表提出の説明
15.実技試験(2) 弾き歌い(自由曲)とコード進行表より 1 曲／進度記録表の提出とまとめ

準備学習(予習・復習)・時間
・授業内課題については、個々・グループワークで毎回の実践内容を振り返り、今後、どのような音楽的技量を身につける必要があるかを確認する。(90 分) ・一回毎の課題について自宅で復習し、必要な技能を確実に身に付ける。(90 分) (90 分)

テキスト
適宜、楽譜等を配布する

参考書・参考資料等
適宜、楽譜等を配布する

学生に対する評価
授業内課題 (進度・課題達成状況) (60%)、試験(1)(2)の演奏内容 (40%)で総合評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 基本 4 コードの基本形・転回形を用いた演奏ができる。
(B) 基本 4 コードを用い、子どもの動きを予想した伴奏系にアレンジした演奏ができる。
(A) 基本 7 コードを用いて、子どもの動きを予想した伴奏系にアレンジした演奏ができる。(イントロ、エンディングを含む)
(S) ハ長調以外のコードを用いて、子どもの動きを予想した伴奏系にアレンジした演奏ができる。(イントロ、エンディングを含む)

課題に対するフィードバックの方法
習得したコードや伴奏等の確認テスト、発表に対しては、ほぼ毎回授業時に行い、その場でフィードバックを行う。試験(1)(2)のフィードバックもその場で行う。

その他
個人・グループワークによる音楽の活動実技、アクティブラーニングの手法を取り入れた科目である。授業内容の理解を深めるため、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等様々な活動の経験を活かし、就学前、小学

校の音楽活動・音楽表現の基本から、そのために必要な知識と実践力について指導する。

科目名	表現技術(造形)							学 期	後期
副 題	幼児の造形の基礎を実習を通して学ぶ				授業方法	演習	担当者	原田昌幸	
ナンバリング	K2-21-135	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
領域「表現」に関わる総計の表現技術として、造形の基礎的な技法を学ぶ。絵の具やクレパスなどを用いたモダンテクニックを体験し、幼児の造形理解へと結びつける。また身近な素材や環境を用いた造形あそびを体験し、柔軟な保育を実践する力を身につける。

授業の到達目標
造形の知識や様々な技法を、演習を通して学び、保育に繋がる表現力を身につけることができる。 絵の具や、クレパスなどの造形的知識と使用法を理解するなど、基礎技能を身につけることができる。造形活動を通して基礎技能を高めようとする意識を持ち、造形的な思考の習慣と力を身につけることができる。

授業計画
1.描く活動　人物クロッキー
2.描く活動　イラストの基礎
3.モダンテクニック(クレパスによる基礎技法　スクラッチ、ステンシル、バチック)
4.モダンテクニック(絵の具による基礎技法　デカルコマニー、ステンシル)
5.モダンテクニック(絵の具による基礎技法　ドリッピング、流し絵、にじみ絵)
6.モダンテクニック(絵の具による基礎技法　糸を使って、ストローを使って)
7.色彩の基礎知識(色と分類と属性)
8.色彩の基礎知識(色彩構成と色の混合)
9.粘土の造形　①触覚教材として体験する
10.粘土の造形　②造形素材として体験する
11.造形あそび―新聞紙で立体を作る
12.造形あそび―作成した立体で遊ぶことで、幼児の造形活動を理解する
13.造形あそび―廃材での工作
14.造形あそび―廃材での工作を完成させる
15.授業の振り返りとまとめ　乳幼児の造形活動について、授業内容をもとに理解する

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、毎回の内容をファイルにまとめておくこと（60 分） 課題によっては必要な素材を準備する。(60 分)

テキスト
適宜、プリント配布する。

参考書・参考資料等
適宜、プリント配布する。

学生に対する評価
学習を反映させた作品 50%、自己評価からみる課題レポート 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）課題内容の範囲で作品化できている。 実施した課題内容を理解しまとめられている。
（B）課題内容を理解して作品化できている。 実施した課題内容を理解したうえで、自分の気付きも加えてまとめられている。
（A）課題内容を理解したうえで自分なりに工夫を加えて作品化できている。 実施した課題内容を理解したうえで、自分の気付きや発展も加えてまとめられている。
（S）課題の想定を超えた理解や工夫が加えられている。 実施した課題内容をだけでなく、それらを生かして実際の保育も想定しまとめられている

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題やレポートは添削し、次回授業時に返却する

その他
基本的には個人での道具・材料は必要ないが、課題によっては事前に準備が必要な場合がある。その際には事前に予告する。アクティブ・ラーニングの手法を用いた作品制作や、メディア教材や ICT 教材を用いた授業を行うことがある。

科目名	発達心理学							学 期	集中
副 題	発達とは何か、人間とは何か				授業方法	講義	担当者	渋谷郁子	
ナンバリング	K2-10-136	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
人間の生涯にわたる発達過程を、認知機能および感情・社会性の側面から学ぶ。また、主たる発達理論について理解を深める。

授業の到達目標
1.人間の認知・感情、社会性の発達プロセスを知識として習得できる。
2.主たる発達理論について理解できる。
3.非定型発達に関する基礎的な知識を習得できる。
4.1～3を通して、人間という存在や人間の発達について関心を深めることができる。

授業計画
【前期】
1.ヒトとはどのような存在か：生き物としての人間、「私」の誕生、発達の規定因（遺伝と環境）
2.人間の生涯にわたる発達：エリクソンの考え方、生涯発達、心理社会的危機、フロイトの考え方
3.認知発達（1）：身体と運動の発達、ピアジェの考え方、発達段階、シェマ、同化と調節
4.認知発達（2）：自己中心的世界、アニミズム、実念論、知的リアリズム
5.認知発達（3）：ヴィゴツキーの考え方、発達の最近接領域、精神間機能と精神内機能
6.ことばの機能とその発達：言語発達過程、言語機能、一次的ことばと二次的ことば
7.感情・情動の発達：情動発達の概要、感情の社会的影響、非認知能力
8.社会性の発達：発達早期の社会性、愛着の発達段階と個人差、愛着障害
9.遊びと仲間関係の発達：遊びのおもしろさ、遊びの形態の変化、自己主張と自己抑制、仲間関係の変化
10.発達障害とその特徴（1）：障害観の変遷、発達障害の定義、ASDの特徴、発達検査
11.発達障害とその特徴（2）：ADHDやLD等の特徴、インクルージョン、発達心理関連の職種
12.児童期の発達：発達の質的転換、9歳の壁、ことばの発達、自己理解と自尊心
13.青年期・成人期の発達：心理的離乳、アイデンティティの模索、親密性の獲得、親・職業人になること
14.中年期・高齢期の発達：世代性、キャリア発達、夫婦関係の見直し、親役割の変化、加齢モデル
15.発達的視点の重要性と人間理解の深まり

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
授業後に授業内容を振り返り、復習を行うこと（60 分）。授業時間ごとに理解度を問う小テストを実施する。

テキスト
授業中にレジュメを配布する。散逸しないように注意すること。

参考書・参考資料等
授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価
筆記試験50%、小テストやワークシート・レポートなどの授業内課題50%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業で取り扱った用語をおおむね理解している。
（B）人間の認知・感情、社会性の発達プロセスや非定型発達に関する基礎的な知識を有している。また、主たる発達理論をある程度理解している。

（A）人間の認知・感情、社会性の発達プロセスや非定型発達に関する正確な知識を有している。また、主たる発達理論を的確にとらえている。
（S）人間の認知・感情、社会性の発達プロセスや非定型発達に関する正確な知識を有している。また、主たる発達理論を的確にとらえている。さらに、人間という存在や人間の発達について自分なりの考え方を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法
受講生の質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 レポートは添削し、授業内で返却する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士としての臨床経験から、子どもへの支援について実践的な知見を提供する。

科目名	カウンセリング論							学 期	集中
副 題	ワークで学ぶカウンセリング理論				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	K2-17-137	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
カウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を学習し、現実にある日常生活の課題取り上げ、ロールプレイング等を通して、思考（言語）・感情・身体のバランスを取る方法を体験的に学び、理解する。カウンセリング技法についてカウンセリングの基本的な知識と技術を学び、他者の話に傾聴ですろことを体感しながら、生理学的な視点を持つことの重要性に理解を深める。

授業の到達目標
カウンセリング技法についてカウンセリングの基本的な知識と技術を学び、ワークから思考（言語）・感情・身体感覚の調整能力を習得し、他者の話に傾聴できるようになる。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る(クライエント中心療法)
5. 様々なカウンセリングを知る(精神分析的心理療法)
6. 様々なカウンセリングを知る(解決思考アプローチ)
7. 様々なカウンセリングを知る(認知行動療法)
8. 様々なカウンセリングを知る(その他)
9. 子どもへのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
10. 保護者へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
12. 被虐待へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習(ロールプレイ含)
15. まとめと振り返り

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90 分以上)。各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分)、次回の授業時に提出する。

テキスト
講師が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等
①河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房　1998　②國分康孝著『カウンセリングの理論』誠信書房　1981③國分康孝著『カウンセリングの技等法』誠信書房　1979　④諸富祥彦著『カウンセリングの理論』上-下　誠信書房　2022

学生に対する評価
試験(50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度(50%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）カウンセリングの技法（最低３つ以上）と基礎知識について説明できる。
（S）カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー（スパーバイザー）、カウンセリング心理士（スーパーバイザー）NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ＩＳＰトレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。

科目名	学校臨床心理学							学 期	集中
副 題	学校現場における心理支援について学ぶ				授業方法	講義	担当者	森崎好雅	
ナンバリング	K2-10-138	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深めます。

授業の到達目標
学校における心理学的な課題や複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

授業計画

【前期】	【後期】
1.学校教育と心理学.歴史的背景を知る	1.
2.発達心理学的視点と学校教育	2.
3.学校内チーム支援について	3.
4.保護者と学校を支援する視点	4.
5.児童期の発達と学校教育	5.
6.児童期の学習の問題について	6.
7.児童期の不登校について	7.
8.児童期の仲間関係といじめについて	8.
9.児童期における学校内チーム支援の在り方について	9.
10.思春期・青年期の発達と学校教育	10.
11.思春期・青年期の学習の問題について	11.
12.思春期・青年期の不登校について	12.
13.思春期・青年期の仲間関係といじめについて	13.
14.思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について	14.
15.まとめと振り返り	15.

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、 事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト
講師作成の資料を配付する。

参考書・参考資料等
・学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック』第 2 版(2007・風間書房)・その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価
レポートによる評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）学校現場で生じる問題についての知識を身につけている。
（B）学校現場で生じる問題についての理解並びに対応の視点について理解をしている。
（A）学校現場で生じる問題についての理解並びに対応の視点について理解をし、それらについて自分の意見を述べることができる。
（S）学校現場で生じる問題についての理解並びに対応の視点について理解をし、それらについて自分の意見を述べることができ、かつ、その根拠を他者に正しく伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、学校現場で生じる種々の問題への対応について視点や姿勢を講義する。

科目名	心理身体論Ⅰ							学期	前期
副　題	自分の身体と心のつながりに気づく				授業方法	演習	担当者	上野和久	
ナンバリング	K3-10-139	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
教育現場における様々な心の問題は、思考・感情・身体の３者のバランスが崩れた時に生じると考えられる。言語中心のカウンセリングだけでなく、「身体からの心の声」を聴き、バランスを取り戻すためにアプローチを理解する。特に教員のセルフメンテナンスが必要な時代でセルフリラクゼーションの実習を通じて、臨床心理学、脳科学、神経生理学、身体学をもって理解し、教育現場での活用できる基礎的な力を身につける。

授業の到達目標
身体心理学の基礎的知識を学び、セルフリラクゼーションの技法を習得し、その技法を臨床心理学、脳科学、神経生理学、身体学の視点から説明をできるようになる。

授業計画
１.心理身体論の歴史：身体性をめぐる近代心理学史
２.人間性心理学と身体論①：ゲシュタルト療法
３.人間性心理学と身体論②：ゲシュタルト療法を活用した合流教育について(演習)
４.人間性心理学と身体論③：ロジャースの身体性について(傾聴と身体性)
５.人間性心理学と身体論④：ジェンドリンのフォーカシング(フィエルトセンス)
６.人間性心理学とマインドフルネス：プレゼンスとロジャース
７.マインドフルネスの歴史・概念
８.呼吸法の基礎理解と実践
９.マインドフルネスの体験(マインドフルネス＝タッチ・アンド・リターン)
10.ポリベーガル理論について(トラウマの理解と身体について)
11.トラウマへの対応：身体と脳について(闘争・逃走・凍りつき・つながりの神経系)
12.マクリーンの脳の三層構造(身体と感情と思考)
13.現実感覚と五感と認知について
14.子どもたちの心の傷と教員の対応(心と身体の統合)
15.心と身体の統合の演習

準備学習(予習・復習)・時間
適宜指定した内容を、予習・復習を取り組むこと（60 分以上)。各講義終了後、feedback 用紙にて①講義でのキーワードの説明をレポートし、体験学習について各講義後に思考・感情・身体の変化などを記録し、体験学習での気づきのレポートを作成する（60 分以上)。これを、次回の授業に提出する。

テキスト
講師が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等
久保隆司『ソマティック心理学』春秋社，2011 年。(生協で購入)　その他、適宜紹介する

学生に対する評価
試験(50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）身体と心理臨床に関わる基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）身体と心理臨床をつなげる基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）身体と心理臨床をつなげる技法（最低３つ以上）と基礎知識について説明できる。
（S）基本的な身体心理学の理論とその生理学的な視点に立つ技法を理解し、セルフリラクゼーションの技法が習得できている。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他
授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー（スパーバイザー)、カウンセリング心理士（スーパーバイザー）NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ＩＳＰトレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。

科目名	心理身体論Ⅱ							学 期	後期
副 題						授業方法	演習	担当者	中野弘治
ナンバリング	K3-10-140	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
人は日常生活の中で様々なストレスを感じている。私たちはそのストレスに対しある一定の緊張感をもって対応している。障がいを有する場合や社会的不適応を感じるとストレス感はさらに強くなり対処が難しくなる。ストレス状態が過剰になると身体的緊張として不具合が表面化してくる。臨床動作学では身体的不具合感と心理的背景の関連について、からだの動きからアプローチする心理療法である。本講義では、からだの不具合感をアセスメントし、課題動作の選別の仕方、実際の動作サポート技術などを習得し、臨床現場での実用化を目的とする。

授業の到達目標
障がい児（者）の心理的状況や精神疾患者及び社会的不適応を感じている方の困り感を理解し、身体的アプローチによる心理的サポート技術を実践的に体験できる。さらに、臨床動作学の知識を有し、様々な臨床場面における対象者に対し、適切な心理的・身体的課題の選択や判断ができ、的確なサポートが提供できる技能の習得を目標とする。

授業計画
1. 臨床動作法の誕生について
2. 臨床動作法の拡大及び展開
3. 臨床動作法の進め方　実践例
4. 障がい特性（肢体不自由児）の身体的特徴について
5. 障がい特性（発達・知的障がい児）の身体的特徴について
6. 障がい特性と困り感に対するサポート方法について（実技演習）
7. 障がい児への動作法実践例　（肢体不自由児）
8. 障がい児への動作法実践例　（発達・知的障がい児）
9. 精神疾患の特性について
10. 精神疾患の特性に合わせたサポートについて（実技演習）
11. 社会的不適応（不登校児）の特性について
12. 社会的不適応（不登校児）へのサポートについて（実技演習）
13. 社会的不適応（不登校児）の実践例
14. 統合失調症の実践例
15. 臨床動作法の可能性と活用方法について（ディスカッション形式）

準備学習（予習・復習）・時間
文献やインターネット等で臨床動作学（臨床動作法）について調べ、概要を理解しておく。授業にてストレスと身体的不調の関係について学んだことをまとめる。また、動作課題の設定や動作サポート技術を習得し、気づいたことをまとめる。

テキスト
講師作成資料を配付する。

参考書・参考資料等
適時紹介する。

学生に対する評価
レポートにて評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）臨床動作学に興味がある。
（B）ストレスと身体的不調について理解している。
（A）臨床動作学に基づいた動作課題の設定やサポート技術を理解している。
（S）臨床現場で臨床動作学を活動する態度を有している。

課題に対するフィードバックの方法
ロールプレイを行い、サポート技術や対人援助の仕方を意見交換する。

その他
講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。受講生の積極的参加が必要な、実技を中心とするアクティブ・ラーニングである。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床動作学（臨床動作法）を乳幼児や高齢者、障がい児や精神疾患のある方への実践経験のある教員がより具体的な支援方法を紹介し、体験することで臨床場面での実践内容を理解し、習得することができる。なお、講師は臨床発達心理士、心理リハビリテイションスーパーバイザー、臨床動作士、臨床動作学講師

等の資格を有している。

科目名	教育実習Ⅰ(小)							学 期	集中
副 題	小学校現場での実践体験				授業方法	実習	担当者	村尾聡	
ナンバリング	K3-17-141	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	4	他	A

授業の目的と概要
本実習では、小学校での実習を行う。 教育実習生として学校の教育活動に参加し、教育活動の特色を理解し、学級経営や学習指導などの基本を身につけると共に、教員としての愛情や使命感を深める。

授業の到達目標
教員としての基礎的な能力と態度を身につけることができる。実際に授業を実施し、教科指導を適切に行うことができる。

授業計画
【前期】
1.・実習期間中に、各教科教育法担当者、教職センターが委託校を訪問・参観・指導にあたる。
2.・実習途中、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での様子や問題点を明らかにし、問題があれば解決をはかる。また、実習参加に際して持っていた教育学的課題について議論し、解決された場合には新たな課題を設定して次の実習に参加する。
3.実習内容
4.1 校内見学と実習内容に関する説明
5.2 授業参観
6.3 学校教育の実際に関する説明
7.4 学習指導案の作成
8.5 教壇実習(できるだけ機会を多くもたせる)
9.6 特別教育活動への参加 (できるだけ多く参加させる)
10.7 生徒指導、教育相談等への参加
11.8 実習研究授業(特定日の教壇実習をもってこれにあてる)
12.9 実習研究座談会(最終日の午後に行なう)
13.10 指導方法(委託的実習法)
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習(予習・復習)・時間
・実習指導で学んだ内容や指導案等についての復習 (60 分)
・研究授業に向けての教材研究及び準備(60 分)　・記録、指導案の作成及び修正(60 分)

テキスト
「実習ハンドブック」(高野山大学)

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
実習評価(70%)、レポート(10%)、実習日誌(10%)、指導案 10%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 小学校教育に関わる教員の活動を体験し、授業やその他の教育活動を担当教員の支援を受けながら指導することができる。
(B) 小学校教育に関わる教員の活動を理解し、授業やその他の教育活動を担当教員の支援を受けながら指導することができる。
(A) 小学校教育に関わる教員の活動を理解し、授業やその他の教育活動を担当教員の支援を受けながら適切に指導することができる。
(S) 小学校教育に関わる教員の活動を理解し、授業やその他の教育活動を自ら考えながら適切に指導することができる。

課題に対するフィードバックの方法
提出された自習の記録をもとに、指導・助言する。

その他
小学校担当教員の指示に従い、実習や現場でのアクティブ・ラーニングを行うこと。また、問題が生じたときには実習担当の大学教員にすみやかに連絡すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務した経験から、授業に対する具体的な助言や学級経営の方法等

について指導・助言する。

科目名	教育実習Ⅱ(幼1)							学期	集中
副題	保育現場における見学・参加実習				授業方法	実習	担当者	植田恵理子	
ナンバリング	K3-17-142	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本実習は、幼稚園での実習の最初であり、幼稚園における保育をよく理解し、その上で教育実習生として幼稚園の保育活動に参加し、園児への対応などの基本を身につけると共に、教員としての愛情や使命感を深めることを目的とする。

授業の到達目標
教育実習ⅡおよびⅢは幼稚園実習である。教育実習は、将来、幼稚園教諭になる上での能力や適正を考え課題を自覚する機会となる。1 年次から積み重ねてきた教職の学びと、学校・保育現場体験Ⅰ、Ⅱの学びの上で、本格的に学校現場に関わり、幼稚園教諭としての基礎的な能力と態度を身につける。

授業計画
【前期】
1.・実習期間中に、担当教員、教職センターが委託園を訪問・参観・指導にあたる。
2.実習内容
3.1 園内見学と実習内容に関する説明
4.2 保育参観
5.3 保育の実際に関する説明
6.4 指導案の作成
7.5 保育実習
8.6 園内活動への参加
9.7 園児指導、教育相談等への参加
10.8 実習研究授業(特定日の保育実習をもってこれにあてる)
11.9 実習研究座談会(最終日の午後に行なう)
12.10 指導方法(委託的実習法)
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習(予習・復習)・時間
・領域や指導法で学んだ内容の整理、子どもの発達、援助、保育計画等についての復習 (60 分)
・研究保育に向けての教材研究及び準備(30 分)
・記録、指導案の作成及び修正(60 分)

テキスト
「実習ハンドブック」(高野山大学)

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
実習評価(70%)、レポート(10%)、実習日誌(10%)、指導案 10%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 実習評価における「態度、観察及び参加並びに実習園の理解、保育内容の指導及び学級経営」(以降、実習評価 4 点と記載) について基本的に理解している。
(B) 実習評価 4 点についての理解を踏まえ、保育を実施している。
(A) 実習評価 4 点についての理解を基に、具体的な保育を実施及び課題を見つけようとしている。
(S) 実習評価 4 点についての理解を基に、具体的な保育を実施及び活動を展開し、自らの課題を見いだしている。

課題に対するフィードバックの方法
学生の課題については、面談時にて確認、助言指導する。

その他
実習指導者および担当教員の指示に従い、実習や現場でのアクティブ・ラーニングを行うこと。また、問題が生じたときには実習担当の大学教員にすみやかに連絡すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
・幼稚園保育助手及び、保育園・幼稚園等における園児指導実務経験、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、教育雑誌の連載等様々な活動の経験を基に、実習園と連携して指導する。

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）							学 期	通年
副 題	保育園での保育士の役割と機能を学ぶ				授業方法	実習	担当者	本山司	
ナンバリング	K3-21-145	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、保育士資格を取得するために必要な実習科目である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。 保育実習Ⅰ(保育所)では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。

授業の到達目標
・保育所の役割や機能を具体的に理解することができる。
・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる。
・既修得の授業科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保育者への支援について総合的に理解することができる。
・保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解することができる。
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる。

授業計画
【前期】
1.・実習期間中に、実習担当教員、教職センターが委託校を訪問・参観・指導にあたる。
2.・2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での様子や問題点を明らかにし、問題があれば解決をはかる。また、実習参加に際して、持っていた教育学的課題について議論し、解決された場合には新たな課題を設定して次の実習に参加する。
3.［実習内容］
4.1　保育所の役割と機能
5.2　子どもの理解
6.3　保育内容・保育環境
7.4　保育の計画・観察・記録
8.5　専門職としての保育士の役割と職業倫理
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
【事前】「保育実習指導Ⅰ」内での課題および実習先から指定された事前準備。(60分)、実習先の概要、保育内容等について調べ、実習に必要な知識を習得。(180分)、教材研究および事前練習。(180分) 【実習期間】日々、実習日誌を作成し、実習先に提出。(90分)、教材準備。(90分)、1日の反省記録を作成。(60分) 【事後】実習報告書（レポート）作成。(180分)

テキスト
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社（生協で購入） 「実習ハンドブック」(高野山大学作成)

参考書・参考資料等
適宜、プリントで配布

学生に対する評価
実習評価　50%、実習日誌　25%、実習報告(実習報告書、実習報告会での内容)25%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）保育所の社会的役割や機能、保育士の業務について理解し、子どもと適切に関わることができる。
（B）保育所の社会的役割や機能、保育士の業務について理解し、子どもの観察や適切な関わりを通して子ども理解を深め、適切に記録を作成することができる。
（A）自らの保育を評価・省察、改善するとともに自己の課題を理解することができる。
（S）自らの保育を評価・省察、改善するとともに自己の課題を理解し説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、振り返りを行う。実習終了後に個別面談を実施し、実習先から

の評価を通知するとともに、実習日誌、実習報告の内容を踏まえて全体実習に対する講評・助言を行う。

その他

実習およびアクティブ・ラーニングの内容の配分・順序は実習をする保育所の状況によって異なる。事前オリエンテーション、保育所実習の遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中止することがある。適宜、質疑に対応し指導助言を行う。

科目名	保育実習Ⅰ（福祉施設）							学 期	通年
副 題	福祉施設における支援の実際				授業方法	実習	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	K3-21-146	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要
本授業は、保育士資格を取得するために必要な実習科目である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。 保育実習Ⅰ（福祉施設）では、福祉施設の活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。

授業の到達目標
・福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。
・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる。
・既修得の授業科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保育者への支援について総合的に理解することができる。
・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解することができる。
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる。

授業計画
【前期】
1.・実習期間中に、実習担当教員、教職センターが委託施設等を訪問・参観・指導にあたる。
2.・2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での様子や問題点を明らかにし、問題があれば解決をはかる。また、実習参加に際して、持っていた教育学的課題について議論し、解決された場合には新たな課題を設定して次の実習に参加する。
3.［実習内容］
4.1　施設の役割と機能
5.2　子どもの理解
6.3　施設における子どもの生活と環境
7.4　計画と記録
8.5　専門職としての保育士の役割と倫理
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
実習中においては、日々のふりかえりと、その日の実習においてわからなかったこと、知らなかったことを翌日までに解決する「実習中学習」の姿勢が重要となる。日々その姿勢を忘れず、ふりかえり、学学修に取り組むこと（最大 90 分）。

テキスト
「実習ハンドブック」（高野山大学作成）。その他、適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 その他適宜、プリントで配布

学生に対する評価
実習評価　50%、実習日誌　25%、実習報告（実習報告書、実習報告会での内容）25%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）福祉施設における保育士の役割や動きを理解している。実習先での体験をとりまとめ、分析することができる。
（B）福祉施設における保育士の役割や動きを理解している。実習先での体験を分析し、自らの課題を見いだすことができる。
（A）福祉施設における保育士の役割や動きを理解した上で実践できる。実習先での体験を分析し、自らの課題を見いだし、その解決方法を模索することができる。
（S）福祉施設における保育士の役割や動きを理解した上で実践できる。実習先での体験を分析し、自らの課題を見いだし、その解決方法を模索した上で行動に移すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

実習前後の実習指導および巡回指導において実習先の指導者等を交えた面談を行う。記録等については都度コメントし、共同作業する中で課題に取り組む。

その他

実習およびアクティブ・ラーニングの内容の配分・順序は実習をする事業所の状況によって異なる。事前オリエンテーション、福祉施設実習の遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中止することがある。適宜、質疑に対応し指導助言を行う。

科目名	教育実習の研究Ⅰ（小・事前事後指導）							学 期	通年
副 題	教育実習における全般的な理解及び振り返り				授業方法	演習	担当者	村尾聡／森本敦子	
ナンバリング	K3-17-149	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
小学校教育実習の目的や内容を理解する。学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を実施する。教育実習後は、実習で学んだことの報告会を実施する。

授業の到達目標
小学校教育実習の目的や内容が理解できる。
教材の特質や学年の発達段階をふまえ、教材を分析し、学習指導案を作成することができる。
学習指導案をもとに、模擬授業を行うことができる。
教育実習で学んだことを適切に発表することができる。

授業計画

【前期】	【後期】
1.事前指導項目	1.
2.1教育実習の意義	2.
3.2教育実習の内容	3.
4.3教育実習生の立場と心得	4.
5.4教科指導の指導法	5.
6.5教科外指導の指導法	6.
7.6学校及び学級(ＨＲ)運営についての学習	7.
8.7学習指導案の作成と研究授業	8.
9.8現場教員によるガイダンス	9.
10.事後指導項目	10.
11.1学習指導案及び教育実習日誌の提出・反省会	11.
12.2実習レポートの提出・反省会	12.
13.3実習担当教員による教育実習の批判及び指導	13.
14.4実習生による反省会・批判会への参加	14.
15.	15.

準備学習（予習・復習）・時間
「実習ハンドブック」（高野山大学）を事前に読み、質問事項等を考えておくこと。反省会（振り返り）前には、自習での問題点を明らかにしておくこと（90分程度）。

テキスト
「実習ハンドブック」（高野山大学）

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
事前準備20%、課題提出・到達状況40%、実習後の振り返り・まとめ・報告40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）小学校教育実習の目的や内容を理解し、実習での振り返りをすることができる。
（B）小学校教育実習の目的や内容を十分理解し、実習での振り返りをすることができる。
（A）小学校教育実習の目的や内容を十分理解し、問題意識を持って実習での振り返りをすることができる。
（S）小学校教育実習の目的や内容を十分理解し、問題意識を持って実習での振り返りを行い、将来教員として指導するために必要なことを考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法
随時質問を受け付ける。

その他
講義だけではなく、授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
小学校で長年勤務した経験から、授業に対する具体的な助言や学級経営の方法等について指導・助言する。

科目名	教育実習の研究Ⅱ（幼 1・事前事後指導）							学 期	通年
副 題	幼稚園実習の理論と実践				授業方法	演習	担当者	植田恵理子	
ナンバリング	K3-21-150	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
幼稚園実習の事前事後指導を行う。 事前指導(14 回)は、第 3 年次及び 4 年次の前期に、教育実習を行う学生を対象に「教育実習の研究」の授業内で行う。事後指導(1 回)は、第 3 年次及び 4 年次の後期に、教育実習を終えた学生を対象に「教育実習の研究」の授業内で行う。

授業の到達目標
教育実習の研究ⅡおよびⅢは幼稚園実習の事前事後指導である。幼稚園での実習を意義あるものとするため、また実習にあたって注意すべきことなど事前に準備し、実習後には反省を行い将来の保育者としての自覚を高めることができる。

授業計画

【前期】	【後期】
1.オリエンテーション　実習の意義と目的	1.
2.実習の内容の理解　実習方法の理解	2.
3.実習中の留意点　支援が必要な子ども	3.
4.実習計画と記録の理解①記録を取ることの意義・目的	4.
5.実習計画と記録の理解②実習記録の具体的内容　記録の方法	5.
6.実習計画と記録の理解③実習記録のまとめ	6.
7.指導計画と指導案①指導計画の内容の理解と指導案の具体的内容	7.
8.指導計画と指導案②指導案の作成方法	8.
9.指導計画と指導案③指導案のまとめ	9.
10. 3歳児の指導案と模擬保育　振り返り	10.
11. 4歳児の指導案と模擬保育　振り返り	11.
12.5歳児の指導案と模擬保育　振り返り	12.
13.現場で求められる実習生の姿勢	13.
14.実習事前オリエンテーション	14.
15.【実習事後指導】　実習報告会	15.

準備学習（予習・復習）・時間
予習：課題となる記録、指導案に対する資料整理及び作成(60 分)
模擬保育の教材準備及びリハーサル(30 分)
復習：記録、指導案修正版の作成(30 分)、修正版指導案に基づく模擬保育実践(30 分)

テキスト
「実習ハンドブック」(高野山大学)

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
事前準備 20%、課題提出・到達状況 40%、実習後の振り返り・まとめ・報告 40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）子どもの年齢、発達段階に基づく実習内容・方法を基本的に理解できる。
（B）基本的な理解に基づき、具体的な活動を記録したり、活動の立案について考えることができる。
（A）記録、立案についての考えから、それに必要な活動内容と教材、環境について構成でき、援助を含め、模擬保育で実践することができる。
（S）記録、立案についての考えから、それに必要な活動内容と教材、環境について構成でき、適切な援助と発展活動を含め、模擬授業で実践することができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業内に課題となった「記録」「指導案」等については、授業内で添削例を出して講義し、質問や振り返りの時間を設け、必要に応じコメント記載の上返却する。模擬保育については、質疑応答と講評をその場で行う。

その他
・授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いることが多いので、動きやすい服装で参加すること。配布物が多いので、ファイルを用意すること。小さなメモと筆記用具（実習時と同じように活動メモを取るため）を準備しておくこと。授業における遅刻、欠席、提出物の遅れの状況によっては、実習を中止する場合がある。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

・幼稚園保育助手及び、保育園・幼稚園等における園児指導実務経験、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、教育雑誌の連載等様々な活動の経験を基に、保育現場で必要な記録、指導案、活動等の実践的指導を行う。

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）							学 期	通年
副 題	保育所の保育士に求められる資質を高める				授業方法	演習	担当者	本山司	
ナンバリング	K3-21-153	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
本授業は、保育実習Ⅰ(保育所)に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 講義、演習等で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

授業の到達目標
・保育実習の意義・目的を理解することができる。
・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができる。
・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解することができる。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション(実習目的の理解、実習目的を基にした実習手続きと実習カードの指導、記入)
2. 実習先の制度等の理解、実習目的に基づく自己課題を明確にする
3. 実習記録の書き方　①目的とねらいを理解する、②子どもの動きと保育者の動き
4. 保育計画指導案の立て方　①ねらいをもった指導案作成について
5. 実習に関わる演習　①ソーシャルスキルに関わる演習、②手遊び、③絵本の読み聞かせ
6. 実習直前の指導(マナー、一日の流れ等)
7. 実習の振り返りによる自己課題を明確にする
8. 実習報告会、まとめ
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
適宜指定した内容について、予習・復習とも 60 分以上取り組むこと。

テキスト
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社（生協で購入）　「実習ハンドブック」(高野山大学作成)

参考書・参考資料等
適宜、プリントで配布

学生に対する評価
事前準備 20%、課題提出・到達状況 40%、実習後の振り返り・まとめ・報告 40%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）保育実習の意義・目的、施設における配慮事項を理解し、実習に必要な心構え知識・技術、を身に付けることができる。
（B）保育実習の意義・目的、施設における配慮事項を理解し、実習に必要な心構え知識・技術を身に付け自らの課題を明確にできる。
（A）保育実習の意義・目的、施設における配慮事項を理解し、実習に必要な心構え知識・技術を身に付け自らの課題を説明することができる。
（S）保育実習の意義・目的、施設における配慮事項を理解し、実習に必要な心構え知識・技術を身に付け自らの課題を具体的に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
各課題については適宜フィードバックを行う。

その他
誠実に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしない、課題・提出物等の期限を厳守するようにしてください。保育者として必要な職業意識・倫理観はもちろんのこと、社会人としての基本的マナーを身に付けることも目標である。・授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いることが多い。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	保育実習指導Ⅰ（福祉施設）							学 期	通年
副 題	福祉施設における保育士の役割を知る				授業方法	演習	担当者	溝渕淳	
ナンバリング	K3-21-154	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3,4	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
本授業は、保育実習Ⅰ（福祉施設）に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 講義、演習等で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

授業の到達目標
・保育実習の意義・目的を理解することができる。
・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができる。
・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解することができる。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。

授業計画
【前期】
1. オリエンテーション(福祉施設での実習目的の理解、実習目的を基にした実習手続きと実習カードの指導、記入)
2. 実習先(福祉施設)の制度等の理解、実習目的に基づく自己課題を明確にする
3. 福祉施設実習記録の書き方　①目的とねらいを理解する、②子ども・福祉施設利用者の動きと保育者の動き
4. 保育計画指導案の立て方　①ねらいをもった指導案作成について
5. 実習に関わる演習　①ソーシャルスキルに関わる演習、②介護技術、③その他の福祉施設での援助技術
6. 実習直前の指導(マナー、一日の流れ等)
7. 実習の振り返りによる自己課題を明確にする
8. 実習報告会、まとめ
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、自主的に実習先の情報や関連する法制度についての調べておくこと。事後学修として、日々の記録を読み直し、また、連続した日にちの記録を通読し、自らの変化や成長、課題等を見いだす習慣をつけること（最大 90 分）。

テキスト
「実習ハンドブック」（高野山大学作成）。その他、適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 その他適宜、プリントで配布

学生に対する評価
授業の参加の度合い　50%、授業内での提出物（ワークシート等）　30%、実習のふりかえりや自己分析への取り組み　20%

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）実習に取り組む上で必要な情報収集ができている。自らの体験をふりかえることができる。
（B）実習に取り組む上で必要な情報収集をし、分析・整理ができている。自らの体験をふりかえることができる。
（A）実習に取り組む上で必要な情報収集をし、分析・整理ができている。自らの体験をふりかえったうえで分析し、課題を見いだすことができる。
（S）実習に取り組む上で必要な情報収集をし、分析・整理ができている。自らの体験をふりかえったうえで分析し、課題を見いだし、解決に向けて取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法
事前の情報収集や提出物等の作成、自己分析等について、その成果物について都度コメント・アドバイスをおこなう。

その他
誠実に意欲的に取り組み、遅刻・欠席をしない、課題・提出物等の期限を厳守するようにしてください。保育者として必要な職業意識・倫理観はもちろんのこと、社会人としての基本的マナーを身に付けることも目標である。・授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いることが多い。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	学校・保育現場ボランティア							学 期	集中
副 題	小学校、幼稚園、こども園、放課後子ども教室等の支援活動				授業方法	実習	担当者	村尾　聡	
ナンバリング	K3-17-157	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
学校・保育現場でのボランティア活動。 学校・保育現場体験Ⅰ・Ⅱと同様に、週一回、学校・保育園等に出かける。これまで培った体験を一層活かし、より高い資質・能力形成を行うためボランティアとして参加する。

授業の到達目標
小学校、幼稚園、こども園、放課後子ども教室等の理解を深めることができる。 学校・保育現場ボランティアの目的を理解し、積極的に体験活動を行うことができる。

授業計画
【前期】
1. 学校・保育現場ボランティアの目的、活動内容、活動計画について
2. 活動施設でのオリエンテーション（活動内容、活動日時の確認等）
3. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
4. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
5. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
6. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
7. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
8. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
9. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
10. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
11. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
12. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
13. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
14. 小学校又は幼児教育関連施設での体験
15. 体験活動の報告と振り返り

【後期】
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習（予習・復習）・時間
これまでの体験学習のふりかえり、準備物の確認、目標や取り組みの明確化（60 分） ふりかえりと記録の記入、とりまとめ（60 分）

テキスト
適宜配布

参考書・参考資料等
使用しない

学生に対する評価
体験活動日誌(70%)、まとめのレポート（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学校・保育現場ボランティアの目的や内容を理解し、体験活動を行うことができる。
（B）学校・保育現場ボランティアの目的や内容を十分理解し、積極的に体験活動を行うことができる。
（A）学校・保育現場ボランティアの目的や内容を十分理解し、積極的に体験活動を行い、自分なりの振り返りを行うことができる。
（S）学校・保育現場ボランティアの目的や内容を十分理解し、積極的に体験活動を行い、将来の教員・保育士の指導に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法
ボランティア活動を随時巡回し、質問等に対応する。

その他
学校・保育現場ボランティア終了後には、体験を振り返り、自分なりの問題意識を持って事後指導に参加すること。指導においては、グループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務した経験を生かし、教員として学級をどう運営し、児童にどのように接していくのか、また現在の教育の問題状況についても考える機会を提供していきたい。

科目名	地域体験ボランティア							学 期	集中
副 題	より豊かな地域体験への主体的参加					授業方法	実習	担当者	本山司
ナンバリング	K3-19-158	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4, 5	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要
体験活動Ⅰ～Ⅳで獲得した知識や技能、資質・能力を一層高めたいと思うものが選択する科目であり、より豊かな活動ができる可能性が高い。

授業の到達目標
地域体験ⅠからⅣを踏まえて、3 年次から 4 年次にボランティアとして関わる体験活動となる。体験を通した学びの本質と意味をより明確に学び、把握することができる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. オリエンテーション・ボランティア講習会（理論編）	1.
2. ボランティア講習会（実践編）	2.
3. ボランティア活動①	3.
4. ボランティア活動②	4.
5. ボランティア活動③	5.
6. ボランティア活動④	6.
7. ボランティア活動⑤	7.
8. ボランティア活動⑥	8.
9. ボランティア活動⑦	9.
10. ボランティア活動⑧	10.
11. ボランティア活動⑨	11.
12. ボランティア活動⑩	12.
13. ボランティア活動⑪	13.
14. 活動内容のまとめ	14.
15. ボランティア活動報告会	15.

準備学習（予習・復習）・時間
活動後に毎回振り返りを行い、学びと今後の課題について小レポートを作成する。(60 分)

テキスト
資料配布する。

参考書・参考資料等
適宜指示する。

学生に対する評価
活動報告書、最終レポートおよび報告会の評価をもとに、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）地域体験ボランティアを通して、地域の方々や関係団体からの知識・技能を学ぶことができた。
（B）地域体験ボランティアを通して、地域の方々や関係団体の活動の意味を理解することができた。また、自分の立てた目標（非認知能力の面）を意識して行動がとれていた。
（A）地域体験ボランティアで得たことを言語化し、学ぶを共有することができた。また、非認知能力にみがきをかけるように意識して活動できていた。
（S）地域体験ボランティアで得たこと、仲間と協力しながら主体的に表現・発信することができた。また、活動から得られた非認知能力にみがきをかける経験を、他に生かすことができていた。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは、担当教員がコメント書き返却する。

その他
毎回の作業や活動には、体力を要するので、前日からの体調管理を行うこと。 作業に適した服装、持ち物を準備すること。体験内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	海外留学体験							学 期	集中
副 題	海外留学のための事前および事後演習				授業方法	実習	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	K2-07-159	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要
本講義では前期は海外留学の前の準備として、留学先の文化や生活を学び、留学に関して様々な準備すべきことを学修する。また留学のための関係書類の書き方も学修する。5 週間の留学期間を終えて、後期はその留学経験をもとに、英語の 4 技能 5 領域のさらなる向上と、様々な国の文化に対して偏見を持ったり固定観念で判断することなく理解できるようになることを目的とする。なお本講義では留学前後に公式 TOEIC テストを受験する必要がある。

授業の到達目標
留学前は、リーディングやリスニング学修、グループ学修でのロールプレイや、プレゼンテーションを行海外での講義で対応できるような力を身につけることができる。また、留学後は海外で培った経験をもとに様々な資料を使用して自らの考えを英語で発信することができる。

授業計画
【前期】
1.[留学前オリエンテーション]予習範囲､授業の進め方､e-leaning について、成績評価、グループ学修について説明する。
2.留学の目的を明確にする。留学経験者の体験談。プレテスト
3.復習単語テスト、留学先の文化や生活について学ぶ。e-learning(Listening)
4.復習単語テスト、教室での英語表現を学修する。e-learning(Listening)
5.復習単語テスト　ホームステイ先での英語表現を学修する。e-learning(Listening)
6.復習単語テスト　3 分程度の自己紹介をする。e-learning(Listening)
7.復習単語テスト　高野山大学での学生生活を英語で表現する。e-learning(Listening)
8.復習単語テスト　学修した内容(自己紹介と学生生活)を各自プレゼンする。e-learning(Listening)
9.留学前の様々な関係書類を作成するための支援
10.海外事情の視察①
11.海外事情の視察②
12.海外事情の視察③
13.海外事情の視察④
14.海外事情の視察⑤
15.留学後の英語力判定テスト　留学の報告レポートを作成する

【後期】
1.[留学後オリエンテーション]講義の進め方､成績評価､グループ学修について説明
2.留学後の効果的な英語学修方法について体験談を聞く　e-learning(Listening)
3.復習英作文テスト､ロールプレイ(大学)､e-learning(Listening)
4.復習英作文テスト､ロールプレイ(面接)､e-learning(Listening)
5.復習英作文テスト、プレゼンテーション準備、e-learning(Listening)
6.プレゼンテーションe-learning(Listening)
7.復習英作文テスト、ポスターセッションの為の講義、e-learning(Listening)
8.復習英作文テスト、ポスターセッション準備、e-learning(Listening)
9.ポスターセッション、e-learning(Listening)
10.復習英作文テスト、ディベートの仕方の講義　e-learning(Listening)
11.復習英作文テスト、ディベートの準備、e-learning(Listening)
12.ディベート実践、e-learning(Listening)
13.「今後の目標」をテーマに各自 5 分間スピーチをする、e-learning(Listening)
14.ポストテスト
15.ポストテスト及びe-learning の成績をフィードバックする

準備学習(予習・復習)・時間
課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で 整理する。(90 分)

テキスト
講義に必要なプリントを配布する。

参考書・参考資料等
参考書は講義中に適宜紹介し、プリントは配布する

学生に対する評価
授業での発言、単語テストやプレゼンテーションを加味して行う。毎回の小テスト(30%)、発表やレポート(50%)、授業参加の積極性(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）留学先の文化や習慣を理解することができる
（B）教室で使用する英語を使用することができる。
（A）日常生活での簡単な英語による会話を理解できる。
（S）留学先で与えられた課題に関する資料作成し、ポスターセッションやプレゼンすることができる。

課題に対するフィードバックの方法
プレゼンやポスターセッション直後にフィードバックを行う。

その他
パソコンルームでのグループ活動のために USB を準備すること。授業内容に関するグループディスカッシ

ョンやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

科目名	教職実践演習（幼・小）							学 期	前期
副 題	学校現場で即戦力となる教員の育成を図る				授業方法	演習	担当者	今西幸蔵	
ナンバリング	K4-17-160	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,3,4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
本事業の実施においては、地元である河内長野市教育委員会及び大学近辺の小学校・幼稚園等の連携・協力を得て進行する。本カリキュラム全体や教育施策等については、教委事務局職員から助言を受け、学校現場理解や AL 実施等の授業に関わる内容については、小学校・幼稚園等での演習・実習等、あるいは教員を授業に迎えることによって学生の理解を深める。

授業の到達目標
教職（小学校・幼稚園）に関する学修の集大成としての実践的授業である。教職課程のすべての学びを通して身につけた資質・能力が、教員として必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかを確認することができる。

授業計画
1.教職実践演習の意義と課題の概要（小学校、幼稚園等）
2.これまでの教職課程の学修の振り返りについてのグループ討論
3.教職の意義や教員の役割、職務内容について
4.幼児・児童理解や学級経営の事例研究（1）幼稚園、小学校低学年
5.幼児・児童理解や学級経営の事例研究（2）小学校中学年
6.幼児・児童理解や学級経営の事例研究（3）小学校高学年
7.社会性や対人関係能力についてのロールプレイ（1）幼児
8.社会性や対人関係能力についてのロールプレイ（2）児童
9.社会性、対人関係能力、幼児児童理解、学級経営についてのグループ討議
10.教科・保育内容等の指導力育成の AL（1）幼稚園、小学校低学年
11.教科・保育内容等の指導力育成の AL（2）小学校中・高学年
12.教科・保育内容等の指導力育成に関わるグループ討議
13.模擬保育・授業の体験学習
14.学校現場の見学・調査に学ぶ
15.総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
教育実習や幼稚園等実習を振り返り、個別評価を行い、各自の成果と課題について整理する。課題については、事前アンケートに記載することで指導教員と共通理解し、その内容に応じた学修計画を作成する。毎時の授業後、リフレクションシートを作成し、教員としての力量の向上を確かなものにする（90 分以上）。

テキスト
今西幸蔵・古川治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識（第３版）』八千代書房（※１年時に購入した冊子）

参考書・参考資料等
本学に入学後に各先生方から指定・配付された印刷物のすべて。教育実習で使用した印刷物や関連書類。本授業中に配付される資料等。

学生に対する評価
ルーブリックに基づき、授業中の発言、発表等の課題遂行力、提出物等を総合的に評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）教員としての力量を高める必要があることを自覚している。幼児や児童に対して愛情があるが、適切な指導を行うためには努力が必要である。教職に強い関心がある。
（B）教員としての力量を高めようとしている。幼児や児童に対して愛情を持って適切な指導ができるように努力している。教職に一定程度の熱意を持っている。
（A）教員としての豊かな力量を高めようとしている。幼児や児童に対して愛情を持って適切な指導ができる。教職に熱意を持っている。
（S）教員としての優れて豊かな力量を高めようとしている。幼児や児童に対して強い愛情を持って適切な指導ができる。教職に非常に熱意を持っている。

課題に対するフィードバックの方法
毎時、授業後にリフレクションシートに記入し、それをもとに担当教員と話し合い、課題があれば解決に向けての指導を受ける。

その他
授業形態は講義であるが、実際にはグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングに基づいた活動を主とした教育内容になる。従って、学生には積極的に授業参加することを求める。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち,どのような授業内容か）

担当の今西幸蔵は長い教員経験を有することから、実務経験を生かして授業全体を計画、実施、評価し、適切な運営が図れるようにコーディネートする。また、幼児・児童の発達段階をふまえた適切な教育内容であることを重視し、幼児教育の実務経験のある植田恵理子准教授や、各課題の実務経験があり、内容に精通している本学教員、他大学教員及び学外の教育指導者も指導にあたる。

科目名	異文化理解Ⅰ							学期	前期
副題					授業方法	講義	担当者	帯野久美子 佐藤雅之	
ナンバリング	K1-07-029	実務経験の有無		関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

○　文化や言語、価値観の異なる、外国人を含む全ての人との共生・協働に必要な異文化コミュニケーションの知識・技能を身に付け、それを現代社会に生きていく上で活用していくには、具体的にどうしたらよいかを考えることを目的とする。○　テキスト『異文化理解入門』を用いて、講義や演習（発表・討議）、相互の学び合いや議論をとおして、異文化コミュニケーションの理論や共生・協働の態度を段階的かつスパイラルに学ぶ。

授業の到達目標

①異文化理解のための基本的な知識・技能を身に付けている。②広い視野と好奇心を持って、異文化を理解し、自文化と照らし合わせながら受容していこうとする。③身に付けた知識・技能を活用して、積極的に異文化交流を取り組もうとしている。

授業計画

1. オリエンテーション、自分を相手に知ってもらう方途を知る
2. 第1章　「異文化を理解する」(1)
3. 第1章　「異文化を理解する」(2)
4. 第2章　「文化とは」(その1)
5. 第3章　「文化とは」(その2)
6. 第4章　「異文化適応」(1)
7. 第4章　「異文化適応」⑵
8. 中間まとめテスト
9. 第5章　「シミュレーション」(1)
10. 第5章　「シミュレーション」(2)
11. 第6章　「違いに気づく」(1)
12. 第6章　「違いに気づく」(2)
13. 第7章　「異文化の認識」(1)
14. 第7章　「異文化の認識」(2)
15. 期末まとめテスト

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の内容とテーマについて、資料はもちろん、関連領域について調べておくこと。また、授業後も同様に、授業を通して生じた不明な点や用語等について調べておくこと（90 分程度）。

テキスト

原沢伊都夫 著『異文化理解入門』（研究社）テキスト ISBN 番号　978-4-327-37734-2

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

中間・期末まとめテスト 20%、発表・討議 40%省察レポート 30%、双方向の講義への参加度 10%

ルーブリック（目標に準拠した評価）① 理解力 ② 参加態度

（C）①講義や討議の内容と記述・発言内容にズレがある。②発言しない。
（B）①講義や討議の内容を一部説明できている。②１回以上発言する。
（A）①講義や討議の結論を説明できている。②３回以上発言する。
（S）①講義や討議の結論や経緯を説明できている。②５回以上発言する。

課題に対するフィードバックの方法

その他

科目名	異文化理解Ⅱ							学期	後期
副題					授業方法	講義	担当者	帯野久美子 佐藤雅之	
ナンバリング	K1-07-030	実務経験の有無		関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

○　文化や言語、価値観の異なる、外国人を含む全ての人との共生・協働に必要な異文化コミュニケーションの知識・技能に基づき、国際社会における異文化交流の実践力を身に付けることを目的とする。○　異文化理解Ⅰに続いて、テキスト『異文化理解入門』を用いて、講義や演習（発表・討議・ディベート）、相互の学び合いや議論をとおして、異文化コミュニケーションの理論や共生・協働の実践の方途を具体的に学ぶ。

授業の到達目標

①　異文化理解のための基本的な知識・技能を活用している。②　異文化と自文化と照らし合わせながら、互いの良さを見つけ、それを発信しようとする。③　自ら異文化交流の現場を設定し、積極的に異文化交流を取り組もうとしている。

授業計画

1. オリエンテーション、異文化理解Ⅰの振り返り
2. 第8章　「差別を考える」(1)
3. 第8章　「差別を考える」(2)
4. 第9章　「世界の価値観」(1)
5. 第9章　「世界の価値観」(2)
6. 第10章　「世界の価値観」(1)
7. 第10章　「世界の価値観」(2)
8. 中間まとめテスト
9. 第11章　「異文化受容」(1)
10. 第11章　「異文化受容」(2)
11. 第12章「自分を知る」 第13章「非言語コミュニケーション」
12. 第13章　「違いに気づく」(2)
13. 第14章　「アサーティブ・コミュニケーション」
14. 第15章　「多文化共生社会の実現を目指して」
15. 期末まとめテスト

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の内容とテーマについて、資料はもちろん、関連領域について調べておくこと。また、授業後も同様に、授業を通して生じた不明な点や用語等について調べておくこと（90分程度）。

テキスト

原沢伊都夫 著『異文化理解入門』（研究社）テキスト ISBN 番号　978-4-327-37734-2

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

中間・期末まとめテスト 20%、発表・討議 40%、省察レポート 30%、双方向の講義への参加度 10%

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）①講義や討議の内容と記述・発言内容にズレがある。②発言しない。
（B）①講義や討議の内容を一部説明できている。②１回以上発言する。
（A）①講義や討議の結論を説明できている。②３回以上発言する。
（S）①講義や討議の結論や経緯を説明できている。②５回以上発言する。

課題に対するフィードバックの方法

その他

科目名	英語科指導法Ⅰ							学 期	集中
副 題					授業方法	講義	担当者	尾上　利美	
ナンバリング	K1-07-032	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校・中学校・高等学校の外国語教育の見通し、小学校での外国語教育を踏まえて、中学校段階において生徒に外国語(英語)を指導するために必要な基本的な指導技術を身につける。

授業の到達目標
中学校・高等学校において「外国語科(英語)」の授業に関わる教員が必要とする基本的な専門知識の習得を目標とする。

授業計画
1. オリエンテーション、中学校・高等学校学習指導要領「外国語科(英語)」の理解
2. 小学校での外国語教育を踏まえ、中学校・高等学校における「外国語科(英語)」における役割を理解する。
3. 英語教育の目的 (英語学習の意義、教育の目的と英語教育)
4. 英語教育の指導目標 (学習指導要領が閉まる基本方針、学習指導要領の変遷)
5. 学習指導要領における英語各科目の目標　コミュニケーション能力の構成要素 (言語能力、認知能力、態度・姿勢など)
6. 英語指導方法について　目標設定と指導及び評価
7. 英語指導方法について　年間指導計画
8. 英語指導方法について　授業の流れから見た指導技術①　挨拶、ウォーミングアップ、復習、オーラル・イントロダクション　新出言語項目の導入、理解活動、読後活動・表現活動
9. 英語指導方法について　授業の流れから見た指導技術②　クラスルーム・イングリッシュ、発音指導、文字指導、語彙指導、文法指導
10. 英語科学習指導案作成　「中学1年生英語」　指導案のモデルについて説明
11. 英語科学習指導案作成　指導案作成上の留意点　グループディスカッション
12. 授業観察　DVDの視聴
13. 模擬授業①　復習、新語導入、オーラル・イントロダクション、内容理解、文法、音読、言語活動など　模擬授業後のグループディスカッション
14. 模擬授業②　英語教材研究の方法(ICT活用を含む)　グループディスカッション
15. まとめ、振り返り

準備学習(予習・復習)・時間
毎回の内容とテーマについて、資料はもちろん、関連領域について調べておくこと。また、授業後も同様に、授業を通して生じた不明な点や用語等について調べておくこと (90分程度)。

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説 (外国語編・外国語活動編)」
「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説(外国語編)」
「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説(外国語編)(英語編)」

学生に対する評価
授業への積極的参加(20%、ディスカッション及び発表40%、レポート課題40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価) ① 理解力 ② 参加態度
(C) 小学校の外国語教育を踏まえ、中・高校における「外国語科 (英語)」の役割を理解している。
(B) 中・高校の英語教育の目的を理解している。
(A) 中・高校の英語教育の指導目標を理解し、指導案作成ができる。
(S) 英語科学習指導案に基づく模擬授業ができる。

課題に対するフィードバックの方法

その他
実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
小学校教員としての経験を活かして、大学教員として小学校現場の英語教育を行い、教員の研修会講師を担当している。

科目名	英語科指導法Ⅱ							学 期	集中
副 題					授業方法	講義	担当者	尾上　利美	
ナンバリング	K1-07-033	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
小学校・中学校・高等学校の外国語教育の見通し、小学校での外国語教育を踏まえて、中学校段階を想定して、実践的な英語力高める。また、英語教師として生徒に外国語(英語)を指導するために必要な指導技術、評価、テスト、教授法、英語教師論等の理論についても理解する。

授業の到達目標
中学校・高等学校において「外国語科(英語)」の授業に関わる教員が必要とする基本的な専門知識の習得を目標とする。

授業計画
1. オリエンテーション、授業計画、授業の進め方について
2. 英語評価と言語テストについて　言語テストの目的と種類と役割、条件
3. 英語評価と言語テストについて　英語能力と観点別評価
4. 英語評価と言語テストについて　言語テストの作成と実施、評価のための統計
5. 二言語習得研究に基づく英語指導1　様々な知見を理解する（ICT 活用を含む）
6. 第二言語習得研究に基づく英語指導2　インプット、アウトプット
7. 第二言語習得研究に基づく英語指導3　インタラクションを中心に
8. 第二言語習得研究に基づく英語指導4　文法指導の役割
9. 外国語教授法について、英語教師論について
10. 小学校外国語教育について（ICT 活用を含む）
11. 英語科学習指導案の作成①　「中学2年生英語」学習指導案モデルの検討
12. 英語科学習指導案の作成②　「中学3年生英語」学習指導案モデルの検討
13. 模擬授業①　模擬授業後のグループディスカッション
14. 模擬授業②　模擬授業後のグループディスカッション
15. まとめ、振り返り

準備学習（予習・復習）・時間
毎回の内容とテーマについて、資料はもちろん、関連領域について調べておくこと。また、授業後も同様に、授業を通して生じた不明な点や用語等について調べておくこと（90 分程度）。

テキスト
原沢伊都夫 著『異文化理解入門』（研究社）テキスト ISBN 番号　978-4-327-37734-2

参考書・参考資料等
「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説（外国語編・外国語活動編）」
「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説(外国語編)」
「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説(外国語編)(英語編)」

学生に対する評価
授業への積極的参加(20%、ディスカッション及び発表 40%、レポート課題 40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価） ① 理解力 ② 参加態度
（C）英語の評価と言語テストについて、その目的と役割を理解している。
（B）第二言語習得研究に基づく、英語指導について理解している。
（A）第二言語習得研究に基づく、ICT を活用した英語科学習指導案が作成できる。
（S）英語科学習指導案に沿って模擬授業ができる。

課題に対するフィードバックの方法

その他
実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
小学校教員としての経験を活かして、大学教員として小学校現場の英語教育を行い、教員の研修会講師を担当している。

担当者名	伊藤佳世子
専門分野・研究テーマ・キーワード等	英語教育、第二言語習得、アメリカ文学（演劇）
2年間の学びの計画	小学校、中・高等学校で英語を指導するには英語の教授法だけではなく、第二言語習得のプロセスはもちろんのこと、学際的な学びが必要であり文学作品は有益なマテリアルと言える。一年目前期は受講生の関心を明らかにするために、教育学論文・文学作品の様々な英文を読み、章ごとに要旨を書く訓練をする。後期は卒業論文のテーマを中心にした内容の先行研究をできるだけ多く読む。2年目は個々の卒業論文のテーマに沿って提示する。
テキスト・参考文献等	＊使用教材：1年目前期（教育）Sandra J. Savignon, *Communicative Competence Theory and Classroom Practice.*（文学）*Famous Short Short Stories.* F. C. Platt 編。Smith and Clarkson, Student Fiction, *American Short-Short Stories.* なお以降の参考書は適宜紹介する。
備考・その他メッセージ	＊本講義は教員から指示された範囲を予習して講義に参加すること。教員の解説をノートに書き写すだけの受身の態度では参加は困難である。
参照URL	

担当者名	今西　幸蔵
専門分野・研究テーマ・キーワード等	生涯教育行財政論、学校教育制度論、生涯学習支援論 OECDの教育政策、生涯学習の本質研究、コンピテンシー
2年間の学びの計画	3年次の前半は、卒業研究の意義や目的をふまえ、各自の問題意識に基づく研究テーマを考える。また、研究を遂行するための手順を理解し、自分が何をなすべきかを検討する。つぎに、各自の研究テーマに関連する領域の研究に関わる知識やスキルを学修する。例えば先行研究などを読み解き、そこから得られた知見をゼミにおいて発表することにより、他者からのアドバイスを受け、研究を深める手掛かりとする。その際、論文に関わる基礎知識を修得するように努める。 ３年次の後半は、各自の研究テーマを少しずつ絞り込み、卒業研究の内容を明確にし、研究の基礎となる資料の収集に努める。そのためには、基礎ゼミで学修した文献研究や調査研究の方法から、各自の研究テーマに見合った方法を選択し、その意図や成果をゼミで発表する。この期間は、教育実習、教員採用試験（公務員試験）対策講座や企業インターンシップなどが予定されているので、時間活用を工夫しながら研究計画に沿った活動を続け、ゼミでの指導を受ける。 4年次の前半には、卒業論文作成に取り掛かる。既習事項である論文作成の方法をふまえ、具体的な作成計画を立案し、そのもとで研究資料の収集を図り、それを集約する。さらに分析を加え、まとめの考察に進んでいく。その際、図表の作成方法、発表方法などのスキルについての理解も深める。 4年次の後半では、卒業論文を完成させるとともに、卒業論文発表会に向けて、プレゼンテーションの準備をする。また、卒業論文の作成とともに、就職・進学等の最終準備を行う。
テキスト・参考文献等	適宜、資料を配布予定。
備考・その他メッセージ	本年度は総合テーマとして「学校・家庭・地域住民等の連携協力による学校づくり」を設定する。公立学校改革の柱とされる政策課題である。このテーマに関連するさまざまな問題や課題について調査研究し、全国各地の学校が取り組んでいるコミュニティスクールにおける学校の運営・管理の在り方・進め方を研究する。
参照URL	https://www.sakai.zaq.ne.jp/duadl905

担当者名	植田 恵理子
専門分野・研究テーマ・キーワード等	専門分野：音楽教育 主な研究テーマ ・幼児、児童の表現活動における実践的研究 ・学校における音楽科教育の在り方と指導方法についての研究 ・保育内容領域表現の研究
2年間の学びの計画	一年目 （前半）各ゼミ生が仮タイトル、仮要旨をまとめ、論文の簡易目次を作成し、必要な実践、分析方法等について話し合い、考えを共有する。 （後半）前半の活動を踏まえ、論文に必要な実践実施を目指し、データ収集を開始するとともに、卒論の構想を発展させる。 二年目 データ修正、1年目に作成したタイトル等の修正を行い、卒論の構想を練り直し、ゼミでの意見交換を踏まえ、個々の卒業論文を完成させる。
テキスト・参考文献等	学生の論文作成進度に応じ、適宜書籍及びプリントを紹介、配布する。
備考・その他メッセージ	まずは、個々に興味のあることや、取り扱ってみたい論文テーマをまとめ、気軽にご相談ください。
参照URL	学生の論文作成進度に応じ、適宜紹介する。

担当者名	上野 和久
専門分野・研究テーマ・キーワード等	臨床教育心理学（教育相談システム、いじめや虐待への教育的対応等）
2年間の学びの計画	１年目前期はゼミ生の臨床教育心理学分野での興味関心について、下記の参考文献の２冊程度を購読し、その文献での臨床の知と個人体験（自己責任で判断する）を基にした議論を行い共有する。後期において仮テーマを一つ持ち、いくつかの先行研究論文を探し、要約と論文が何を明らかにしているのか等をまとめ発表する。 ２年目は仮テーマから、仮説とその研究方法について各自が考えて卒論の構想を提出する。その後、卒論構想発表→章立て作成→個別指導→中間発表→卒論完成
テキスト・参考文献等	①子どもと学校（河合隼雄）岩波書店、②そだちの臨床（杉山登志郎）日本評論社③学校トラウマと子どもの心のケア（藤森和美）誠信書房、④ユング心理学と子ども（日本ユング心理学会）創元社、⑤発達障害のこどもたち（杉山登志郎）講談社現代新書、⑥スクールカウンセリング（東山紘久）創元社、⑦臨床教育心理学（氏原・倉戸・東山）創元社⑧身体はトラウマを記憶する（ヴァン・デア・コーク）紀伊國屋書店⑨学校現場で生かすカウンセリング（上野和久）朱鷺書房、⑩よみがえった授業（ジョウ―ジ・ブラウン）学事出版等を講読する。 　その他は、ゼミ生の興味と関心をもった資料を適宜紹介する。
備考・その他メッセージ	上野が難波サテライト、高野山サテライト、河内長野サテライトの３カ所で講義を行っているため、河内長野キャンパスでの指導時間が他の先生方より少ないと考えられる。そのため、時には、難波キャンパスや高野山キャンパスでの講義になる場合もあるので、その点を考慮して当ゼミへの参加を考えてほしい。（難波キャンパスには、箱庭療法の道具や心理テストの道具、高野山キャンパスではマインドフルネスや自然を利用した森林療法等が実施できるため）また、指定講義時間以外でも、遠隔講義も行うときがあることを覚悟してゼミに参加して欲しい。
参照URL	ゼミ生の論文作成状況に合わせて紹介する

担当者名	奥田　修一郎
専門分野・研究テーマ・キーワード等	社会科教育（特に経済教育），教材開発，授業研究,人権教育，総合的な学習の時間の指導法
2年間の学びの計画	3回生時　前半：社会科授業をつくる上での土台となる「地理」「歴史」「公民」分野に関連した本や人権教育関係の本また社会科教育関連の論文を読み，まとめ，意見交流をしていきます。後半は取材やアンケート方法などを学び，フィールドワークも必要に応じておこなっていきます。また，卒業論文の「はじめに」を書けるように自分のテーマを絞り込み，研究計画の大まかな見通しをもてるようにしていきます。4回生時は，中間発表に向けて文献を集め読みこんだり，調査をしていったりしながら，論文にまとめていきます。後半，論文発表会にむけて論文を仕上げていきます。
テキスト・参考文献等	小田中直樹，2022『歴史学のトリセツ』ちくまプリマー新書他，森茂岳雄他，2019，『社会における多文化教育』，明石書店，原田智仁2021『社会科教育のルネサンス－実践知を求めて　第2版』保育出版社，等
備考・その他メッセージ	社会科授業研究は大きく３つの部門があります。一つは理論（哲学）部門です。そもそも社会科はなぜ必要なのか，社会科ってどんな教科なのか，社会科の対象となる「社会」をとらえるためには，どんな視点が必要か，といったことを研究します，二つ目は，実証部門です。ある実践者の授業や学校の授業実践を中心に据え，どんな背景からその授業はつくられ，どんな学びがすすめられたのかなどを研究します。三つ目は実践部門です。この部門では開発した授業で学習者はどのように学びを深めたのかを，アクションリサーチとして研究していきます。この3つの部門は，人権教育や総合的な学習でも同じものがあります。はじめのうちはピンとこないかも知れませんが，ゼミの中で討論をしながら，自分がどんなテーマで研究をしたいかを徐々にはっきりさせていきましょう。
参照URL	https://researchmap.jp/s_okuda

担当者名	溝渕　淳
専門分野・研究テーマ・キーワード等	キーワード：こども家族支援、ソーシャルワーク、 対人コミュニケーション、生きづらさ
2年間の学びの計画	3年次前半：研究とは何か、研究倫理等も含めて理解した上で、文献の探し方や見つけ方、読み方、文章の書き方等についての理解を目指す。その上で各自の興味関心について報告してもらい、研究テーマを明確にしていく。 3年次後半：テーマに基づいた文献収集及びレヴュー。テーマの背景等についての調べ学修。教員・学生の対話を通した学びや気づきの蓄積。研究デザインと方法・論文の構成等の決定。 4年次前半：執筆及び研究内容の精査。データ収集や実地調査、レヴューを継続して行い、研究デザインと方法・論文の構成等に修正を加える。 4年次後半：第三者への発表・報告の機会を通して適宜修正を加えながら卒業論文を完成させていく。
テキスト・参考文献等	適宜紹介する。なお、3年次前半では担当者が用意する資料やテキストに沿って学びを進める予定。
備考・その他メッセージ	担当者の専門がソーシャルワークである以上、テーマに関する現状把握にとどまらず、何らかの解決策や実践のアイデアの提示、あるいは、実践している場の取材報告等を伴った研究及び論文執筆に取り組んでもらうことになるので心に留めておくこと。本科目での学びは、教育学科ディプロマ・ポリシー1の（2）及び（3）、2の全てにかかる学びの集大成のひとつとして位置づけられる。
参照URL	https://researchmap.jp/read0146853

担当者名	村尾　聡
専門分野・研究テーマ・キーワード等	西郷文芸学，国語教育，文学教育，民間国語教育団体，教科横断的な学力（ものの見方・思考ツール）
2年間の学びの計画	３回生・・・論文の書き方，論文講読，論文執筆のための文章表現練習（研究テーマ決定，文献収集） ４回生・・・「もくじ」の作成，中間発表，卒論執筆
テキスト・参考文献等	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書，2018年 戸田山和久『最新版 論文の教室』NHK出版，2022年 その他適宜資料を配付する
備考・その他メッセージ	卒業論文指導は，文献研究を基本とする。卒論のテーマは，国語教育，文学教育の他，教育に関する事，社会問題など（問題意識により相談に応じます）。
参照URL	https://researchmap.jp/murao-bunngei

担当者名	本山　司
専門分野・研究テーマ・キーワード等	教科教育学、初等中等教育学、学校保健、保健体育科教育、スポーツ教育学、健康・スポーツ科学、運動生理学
2年間の学びの計画	3年次の前半は、卒業論文の作成に向けて研究の進め方、実験・調査の方法など各自で進行できるように授業を進めていきます。その中で、学校（保育）における体育科教育や体育授業、運動遊びの知識・技能を身に付けていく。そして、文献研究や授業を通して関心のある研究テーマを見つける。さらに卒業後の進路についても具体的な見通しが立てられるようにする。 3年次の後半から、より実践的に学校（保育）現場に出向いて児童（幼児）の健康・体力問題を知る。また、自らが指導者となり児童（幼児）に運動指導などの実践をしていく。その中で、卒業論文作成に向けての研究テーマを絞り込んでいく。卒業後の進路先を明確にし、教員採用試験（公務員試験）対策や企業インターンシップを活用して就職活動も同時に取り組んでいく。 4年次の前半では、3年次に行なっていた実践な活動は継続しつつ、そこで身に付けたことを踏まえ、卒業論文作成に取り掛かる。講義では、調査方法や実験方法を確定し、その調査依頼方法、データ収集・分析方法、図表の作成方法、発表方法などについて理解を深める。また、卒業論文の作成のみならず、卒業後の社会人となるための準備を行う。 4年次の後半では、卒業論文を完成させ、各自の卒業論文についてのプレゼンテーションをできるようにする。講義の中で論文執筆、諸言、研究方法、結果、考察、結論についての執筆方法を学ぶ。また、卒業論文の完成のみならず、社会人となるための最終準備を行う。
テキスト・参考文献等	適宜、資料を配布予定。
備考・その他メッセージ	本研究室では「子どもの健康と体力」を大きなテーマに位置づけながら現代社会で生活する子どもたちが抱えるさまざまな問題点を発見し、 改善方法を見つけ、現場実践の効果を検証し次への対応をしていく研究を目指します。子どもの心と体が健康で生涯を通して活力ある幼児・児童を育てるための運動遊びと体育授業づくりの在り方を研究室全員で協議し、創り上げていきましょう。
参照URL	https://researchmap.jp/tmotoyama

担当者名	柳原　高文
専門分野・研究テーマ・キーワード等	森林環境教育・森のようちえん・自然保育・野外活動
2年間の学びの計画	３年ゼミ　各自の研究テーマをゼミ生が共有する。各自、興味関心のある論文を持ち寄り発表、論議する。研究調査方法を検討する。 ４年ゼミ前半　各自の研究テーマに沿った論文を研究し先行研究をまとめる、研究調査を行う。 ４年ゼミ後半　各自の研究調査の整理考察、論文を書き上げゼミ生で共有する。
テキスト・参考文献等	ゼミの関心や課題意識に合わせて指示する。
備考・その他メッセージ	・いかなる理由があっても期日を守ること ・連絡がつく体制を整えること ・困難に打ち勝つ諦めない気持ちを持ち続けること ・個性を活かした研究を楽しく出来といいですね！！
参照URL	https://researchmap.jp/salixtakafumi

担当者名	山田 正行
専門分野・研究テーマ・キーワード等	社会教育，生涯学習，平和教育
2年間の学びの計画	一年目の前期、ゼミ生が関心、課題意識を出し合い、議論し、ゼミで共有する。各自、成果をゼミ論にまとめる。後期、ゼミとして共同研究を始動する。各自、成果をゼミ論にまとめる。 二年目の前期、ゼミの共同研究を発展させる。各自、ゼミ論を踏まえて卒論の構想を提出する。後期、ゼミの共同研究を参考に、各自、卒業論文を完成させる。
テキスト・参考文献等	ゼミ生の関心や課題意識に合わせて指示する。
備考・その他メッセージ	少年少女易老学難成
参照URL	ゼミ生の関心や課題意識に合わせて指示する。